Syllabus

心理学部
子ども発達教育学科

2019～2020 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ 保健医療福祉学部以外			担当者	山本　倫子、畝　伊智朗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイッシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとしたい。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40%）、グループ・プレゼンテーション（20%）、最終レポートの成績（40%）により、総合評価をおこなう。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。

実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。
事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	2号館附属図書館内で、毎週月曜日3限目、5限目をオフィス・アワーとします。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　グローバル・スタディーズで学ぶこと	畝 山本倫子
第２回	国境とは何か？	畝 山本倫子
第３回	人はなぜ移動するのか？	畝 山本倫子
第４回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？	畝 山本倫子
第５回	国連憲章と日本国憲法	畝 山本倫子
第６回	ジェンダー、LBGT、少数民族	畝 山本倫子
第７回	グループ・プレゼンテーション	畝 山本倫子
第８回	価値、価格はどのように決まるのか？	畝 山本倫子
第９回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？	畝 山本倫子
第１０回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？	畝 山本倫子
第１１回	多国籍企業とは何だろうか？	畝 山本倫子
第１２回	高齢化社会の課題	畝 山本倫子
第１３回	世界の教育問題、日本の教育問題。	畝 山本倫子
第１４回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？	畝 山本倫子
第１５回	グループ・プレゼンテーションと総括	畝 山本倫子
第１６回	最終試験（レポート）	畝

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	国際関係論　同時代史への羅針盤	参・出版社名１	中公新書
参・著者名１	中島嶺雄	参・ＩＳＢＮ１	4-12-101106-6
参・書籍名２	経済学を味わう　東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・ＩＳＢＮ2	978-4-535-55955-4

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生(再履１・２クラス)			担当者			日笠　恵美子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-KE-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠
第４回	日本の食文化	日笠

第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠
第９回	現代の社会	日笠
第１０回	報道とマスコミ	日笠
第１１回	ITと情報社会	日笠
第１２回	科学と技術	日笠
第１３回	日本の歴史	日笠
第１４回	岡山の祭り	日笠
第１５回	異文化理解	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ 留学生（再履３・４クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１４回	１４．振り返り	井上光恵
第１５回	１５．総括	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）(再履１・２クラス)			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。
授業概要	主に、日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題、岡山、吉備、民話などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を習得して欲しい。毎回テーマをかかげ、グループディスカッションなどを行い、総合的で多角的な日本語力を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、ノートやレポート課題の提出を５０点、そして単位認定試験を３０点とし、これらを１００点満点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内にてフィードバック
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので注意すること。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。 履修上の条件・注意点：履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。本科目は、プレイスメントテストの結果で、２クラスに編成する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が修得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上予習することと、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	世界の中の日本、岡山、高梁	日笠
第３回	日本人の行動様式	日笠

第４回	日本の食文化	日笠
第５回	日本の伝統文化	日笠
第６回	健康法	日笠
第７回	教育と学び	日笠
第８回	余暇と娯楽	日笠
第９回	現代の社会	日笠
第１０回	報道とマスコミ	日笠
第１１回	ITと情報社会	日笠
第１２回	科学と技術	日笠
第１３回	日本の歴史	日笠
第１４回	岡山の祭り	日笠
第１５回	異文化理解	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じてプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	漢字マスターN2	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	アークアカデミー	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05632-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	吉備国際大から世界へ （秋入学生）(再履３・４クラス)			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう						
到達目標	留学生を対象に、日本での日常生活やキャンパスライフに必要な「読む」、「書く」、「話す」力を身につけることを到達目標とする。これから始まる専門科目の基礎となる内容をテーマとし、特に日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの文章を読み、理解する。日本と自国の文化の違いを相互に理解した上で文章を書いたり、話したり、プレゼンテーションを行える日本語力を養う。グローバル化が進展する現代社会において、互いの文化を理解し、世界で活躍できる人材を育成するために、その基礎となる知識や日本語力の向上を目指す。						
授業概要	日本語の世界、日本の文化、日本人の行動様式、言語とコミュニケーション、異文化理解、ITと情報社会、時事問題などの話題に触れ、日本語の文章を理解し、自らの考えや意見を書く力、自分以外の他者に伝える力を身につける。掲げたテーマごとにグループディスカッション行ったり、プレゼンテーションを行い、総合的で多角的な日本語力を身を養成する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業態度を平常点として２０点、プレゼンテーション・小テスト・課題の提出などを３０点、そして単位認定試験５０点とし、これらを１００点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	① テキストで新しく学習した語彙・文型の練習問題を毎回の課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ② 初中級レベルの「漢字」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストをしフィードバックを行う。 ③テーマごとにプレゼンテーションを行い、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも平常点として考慮する。単位認定試験に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	毎週の授業内容を踏まえて、事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。						

オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション　自己紹介	井上光恵
第２回	２．トピック２（食文化）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第３回	３．トピック２（食文化）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第４回	４．トピック２（食文化）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第５回	５．トピック３（観光）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第６回	６．トピック３（観光）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第７回	７．トピック３（観光）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第８回	８．トピック５（行事）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第９回	９．トピック５（行事）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１０回	１０．トピック５（行事）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１１回	１１．トピック７（歴史）-１　漢字・語彙　会話と文法１	井上光恵
第１２回	１２．トピック７（歴史）-２　会話と文法２　読解　作文	井上光恵
第１３回	１３．トピック７（歴史）-３　プレゼンテーション・フィードバック	井上光恵
第１４回	１４．振り返り	井上光恵
第１５回	１５．総括	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	まるごと　ことばと文化　初級２　A2　りかい	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	来嶋洋美　柴原智代　八田直美　今井寿枝　木谷直之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05757-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	漢字たまご 初中級	参・出版社名１	凡人社
参・著者名１	嶋田和子 有山有樹 落合知春	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-832-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	地域学概論 子ども			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜きびこく学・前半8回＞ 本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。 到達目標は以下の通り。 ①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。 ②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。 ③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。 ④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。
授業概要	＜きびこく学・前半8回＞ 順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創生に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグルー

	プに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	＜きびこく学・前半8回＞ 毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目に行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。 ＜SDGs概論・後半8回＞ グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。 詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	＜きびこく学・前半8回＞ 毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までに内容を評価し返却する。 ＜SDGs概論・後半8回＞ 振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。
履修条件・注意事項	＜きびこく学・前半8回＞ 地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。 ＜SDGs概論・後半8回＞ ①初回の授業には、必ず出席すること。 ②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。 ③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。
実務経験のある教員	該当する / 内容：＜きびこく学・前半8回＞ 授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師で
事前学習・事後学習とその時間	＜きびこく学・前半8回＞ １）事前にユニパを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 ２）授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。 ＜SDGs概論・後半8回＞ ユニパで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	＜きびこく学・前半8回＞ 個人研究室(10313)にて、水曜日5限に実施 ＜SDGs概論・後半8回＞ 個人研究室(14601号室)にて、木曜日5限に実施

授業計画		担当者
第１回	＜きびこく学・前半8回＞ オリエンテーション 地域創成と何かー「きびこく学」を学ぶ意義と授業計画について	大西正泰(経営社会学科) (各学科担当教員)
第２回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	加計美也子 順正学園副総長
第３回	高梁市の歴史と文化及び政策課題と今後の方向性について	近藤隆則 高梁市長
第４回	高梁基督教会堂(岡山県指定史跡)をめぐる歴史と人物	高梁基督教会牧師　八木橋康広
第５回	日本遺産「備中吹屋」	吹屋ふるさと村村長　戸田

		誠
第６回	「未来につなぐ図書館」としての活動	高梁市図書館統括マネージャー　宮地 康志
第７回	宇治地域住民総働のまちづくり	宇治地域市民センター長 中曽 まゆみ
第８回	学修成果確認レポート作成(学修成果の振り返り)	各学科担当教員
第９回	＜SDGs概論・後半8回＞ SDGsとは何かーなぜ学ぶのか（オリエンテーションを含む）	井勝久喜(経営社会学科) (各学科担当教員)
第１０回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１１回	SDGsが目指している世界	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１２回	SDGsの17の目標	井勝久喜 (各学科担当教員)
第１３回	グループ分けと検討課題の設定	各学科担当教員
第１４回	グループ別発表1回目	各学科担当教員
第１５回	グループ別発表2回目	各学科担当教員
第１６回	試験	各学科担当教員

教科書			
教・書籍名１	使用しない（毎回授業用資料を配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「備中高梁」に学ぶ	参・出版社名１	吉備人出版
参・著者名１	吉備国際大学「備中高梁学」研究会	参・ＩＳＢＮ１	9784860691967
参・書籍名２	SDGsとは何か	参・出版社名2	三和書籍
参・著者名2	安藤顯	参・ＩＳＢＮ2	9784862513984

授業科目名	キャリア開発Ⅰ 留学生（アニメ）	担当者	清水　光二
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2017～2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年	ナンバリング	GE-CG-1-001

必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	◎	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	卒業後の社会人としての人生に向け、４年間の大学生生活（授業、ボランティア、アルバイト、クラブ活動など全般）でいかにキャリアを積み上げるかを考え、卒業までの過ごし方を計画（自己のキャリアデザイン）し、実行を始める。社会が求める人間像を学びつつ、自己分析力を身につけ、卒業までの各節目に常に自己分析をし、その時点で何を身につけるべきか、何をすべきかを考えることができるようになる。
授業概要	社会が求める人間像を学びつつ、特に自己分析力を身につけ、キャリアデザインを考え実行出来るようになるための授業である。 合同授業と、各学科単位での授業の２形態とする。合同授業は、学生生活と卒後の就職などについての授業である。学科単位の授業は、各学科の特性を考慮し、教員の経験や実績を活かした内容とする。 全授業を、ワークシートや配布資料をファイルし、キャリアポートフォリオとして整理し、個人の成長の記録として卒業まで活用する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	評価の内訳は、毎回のレポート内容60%、ポートフォリオ整理20%、授業態度20%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートはフィードバックするので、必ず見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	合同授業は指定した教室で行う。各学科で行う授業は各学科の指示に従うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この授業では一部講義において、実務経験のある企業の方を招き、日本に暮らす留学生としてのマナーなどについて講義を行い、学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	学生のこれからのキャリアを考える場合、社会のニーズと自分の適正とのマッチングを図ることが重要で、そのためにはその両方に関する普段の省察が必要である。新聞やニュースを通じて、社会の情勢（学科の特性を考えれば、特にアニメ文化やアニメ業界のこと）に敏感になろう。と同時に、自分自身への振り返りも行おう。毎日新聞やニュースに接する時間を各自が確実に設けること、これをこの授業の普段の予習・復習とする。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室にて、月曜１限目と水曜４限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	１年生の学び　キャリアとは何か	ｃｓｃ
第２回	社会を知る：日本の法律、社会におけるルールとマナー	ｃｓｃ
第３回	社会を知る：地域での生活、日常生活の基礎知識	ｃｓｃ
第４回	日本での生活　マナー　３年後に向けて	ｃｓｃ
第５回	社会を知る・社会とつながる：日本語を使う・遊ぶ	清水光二
第６回	自分を知る・社会とつながる：日本語能力・コミュニケーション	清水光二

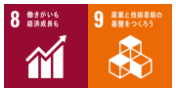
第７回	自分を知る・社会とつながる：自己紹介・短文作り	清水光二
第８回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	ｃｓｃ
第９回	社会とつながる：会話（聞く、話す）	清水光二
第１０回	社会とつながる：文章理解・問題読解	清水光二
第１１回	社会とつながる：対人関係・会話力	清水光二
第１２回	自分を知る：自分の強みと弱み	清水光二
第１３回	自分を知る・生き方を考える：興味関心や能力を活かす仕事	清水光二
第１４回	社会を知る・生き方を考える：学科の専門性を活かす仕事	清水光二
第１５回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	清水光二
第１６回	レポート試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	プリント等を適宜配布。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	大学生のためのキャリア開発入門	参・出版社名１	中央経済社
参・著者名１	渡辺 峻	参・ＩＳＢＮ１	4502397709
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	キャリア開発Ⅱ 子ども			担当者	秀　真一郎、川上　はる江、栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理3年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学3年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業3年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会3年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社3年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化3年			ナンバリング	GE-CG-3-002		
必修・選択	必修・選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう 
到達目標	【テーマ】　自分に適した職業や進路を具体的に選択し，就活のために実践的な力を発揮できる。 【到達目標】 ①自分自身を知り、社会を知ることで、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる
授業概要	就職活動や進学のノウハウを身に付け，それらが実行できるようにするための授業である。各自に適した具体的な進路選択力と就職活動実践力を身に付ける。 合同授業が主であり，最後の試験は学科単位で行う。合同授業は，外部講師などによる就職活動に向けた実践ティ講座である。学科の授業は総括として，進路に対する具体的な力を問うものである。 授業ごとのミニレポートを就職活度に活用できるように整理しておく。（ポートフォリオ）
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	レポート（30%），期末試験（50%】、授業態度（20%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業で出された，小課題レポートはコメントを付けて返却する。
履修条件・注意事項	毎回授業内容の復習をし，職業選択と就職活動の実践及び自立に向けて深く考え，自己分析，業界分析を実行する。 合同授業と学科授業の会場を間違えないよに留意する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布される資料に目を通して，事前学習を行い授業に参加する。 ２）前回の学修内容を整理，確認しておき，質疑応答に積極的に参加できるように準備しておく。 ３）単位認定試験には，毎回の質疑応答などの内容を含めるので，予習復習の学修が大切である。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

授業計画		担当者
第１回	就職活動準備情報収集　登録	CSC 情報サイト

第２回	インターンシップの必要性・申し込み方	CSC　シーズ
第３回	自分の傾向を学ぶ	CSC　リクナビ
第４回	自己分析・自己PR	CSC　ビザビ
第５回	エントリーとは・エントリーシート攻略	CSC　マイナビ・ベネッセ
第６回	乗り遅れるなWEB就活	CSC　シーズ
第７回	業界・職種を理解する	CSC　ディスコ
第８回	業界研究・職業教育	CSC　中小企業同友会
第９回	SPI(筆記試験)対策	CSC　リクナビ
第１０回	労働関係法規	CSC　岡山労働局
第１１回	社会人に必要なマナー	CSC　リクナビ
第１２回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	CSC　ベネッセ
第１３回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	CSC　学情
第１４回	面接対策・GD/集団/個人/WEB	CSC　ビザビ
第１５回	まとめ　内定お礼・内定辞退　お詫び	CSC　マイナビ
第１６回	試験	川上

教科書			
教・書籍名１	毎回プリント，資料等を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	佐藤　匡		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム ～ データ思考の涵養～ 2020年４月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。　これらの３つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第１回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日３時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日４時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日２時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日３時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	佐藤 匡
第２回	ビッグデータと社会の変化	佐藤 匡
第３回	社会で活用されているデータ	佐藤 匡
第４回	データ・AIの活用領域の広がり	佐藤 匡
第５回	データ・AIの技術	佐藤 匡
第６回	データサイエンス	佐藤 匡
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	佐藤 匡
第８回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）	佐藤 匡
第９回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）	佐藤 匡
第１０回	AIとアルゴリズム	佐藤 匡
第１１回	データの構造とプログラミング	佐藤 匡
第１２回	データの利活用方法	佐藤 匡
第１３回	時系列データと文章データの分析例	佐藤 匡
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	佐藤 匡
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	佐藤 匡
第１６回	まとめと筆記試験・評価	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社
教・著者名１	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	仮想的な事例や現実の事例を通じて、情報セキュリティと情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．情報社会において、情報セキュリティにまつわる危険やリスクを理解し、トラブルを事前に回避できるようになる。 ２．万が一トラブルに巻き込まれた場合でも、人々の力を借りたとしても合理的な社会的・個人的コストで解決できるようになる。 ３．情報倫理学の基本的な思考を身につけることで、情報社会においてどのような倫理的問題が生じえるか理解できるようになる。 なお、本講義のラーニングアウトカムズは「情報リテラシー」と「問題解決能力」である。
授業概要	現代における情報セキュリティと情報倫理にかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。情報技術だけでなく、法律や経済・ビジネス、情報倫理などにかかわる知識や考え方を身につける。 主要なキーワードは次のとおりである。 電子掲示板やtwitterなどでのトラブル、フィッシング、ワンクリック詐欺、電子メールの成りすまし、プライバシー、匿名性、著作権、など。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式ですが、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 原則として情報処理Iの単位を取得した学生を対象とします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習を十分におこなうこと。 予習：次回内容に対応する章の「重要ポイント」および「考えよう」を読み、本文を読んでくること。約2時間。 復習：授業内容に対応する章の「まとめ」をもとにノートを整理し、「練習問題」に取り組むこと。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理・法・慣習	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（１）基本的な用語と枠組み	大谷
第５回	コンピューティングの歴史　コンピュータの誕生からパソコンの登場まで	大谷
第６回	コンピューティングの歴史　インターネット出現からIoT時代まで	大谷
第７回	身近な情報セキュリティ	大谷
第８回	メールやメッセージングアプリのセキュリティ	大谷
第９回	著作権の基礎	大谷
第１０回	レポート作成の倫理問題	大谷
第１１回	「漫画サイトが見られない」	大谷
第１２回	個人情報保護法の基礎知識	大谷
第１３回	ポイントカードと個人情報	大谷
第１４回	情報時代のプライバシー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験も検討中）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	情報処理 II			担当者	今村　俊介		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	△	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	膨大なデータを適切に処理することが様々な分野で求められていることを理解し、基本的なデータに対する知識、および、データの扱い方を学習する。 ・なぜデータサイエンスを学ぶのか、社会でどのように活用されているのかを知る。 ・データの処理、集計、可視化、分析を行うためのデータサイエンスの基礎的事項を学習する。 ・社会における事象を適切に捉え、分析・説明できる力を修得する。 ・データが重要視されるようになった社会背景を理解する。 ・データとは何かを説明できる。 ・データの基本的な分析手法を理解する。 ・データサイエンティストに求められるスキルを理解する。
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。 この時代においては、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することがこれからをよりよく生きる上で求められている。 さらに、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見、および、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。 この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶことを目的とする。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。 後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。 「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」リテラシーレベルの導入・基礎・心得分野
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習・復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。 それに対する返答、 あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が「30%」の重みづけで評価される。 また、課題等の提出物「50%」、 データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を「20%」として最終的に総合評価が行われる。

	これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定(到達目標)の判断基準となる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	【受講者数】 ・学部で30人以内とする。そのため抽選となることがある。 ・抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 【持参物】 ・指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 ・ 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト【これは、学科によって実施・非実施をきめられますか？】未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがある ので十分注意すること。 【授業計画】 進捗の状況に応じて変更することがある。

実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、情報系科目の講義担当経験、ならびに、研究活動への使用経験を有している。

事前学習・事後学習とその時間	【予習】 ・各回の講義に先立ち、予習として教科書の該当箇所を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。 【復習】 ・復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 【全体】 ・授業の進度と同程度の予習量・復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 ・予習・復習の確認については、課題やタスクにおいて知識・技術の使用が求められ、その達成度ならびに積極的な参加態度が成績評価として考慮される。
オフィスアワー	・講義終了時間の直後 ・事前に学生と教員で相談して決めた時間帯

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー	今村
第２回	ビッグデータと社会の変化	今村
第３回	社会で活用されているデータ1	今村
第４回	社会で活用されているデータ2	今村
第５回	データ・AIの技術	今村
第６回	データサイエンス	今村
第７回	データ・AIを活用するときの負の側面	今村
第８回	データ・AIにまつわるセキュリティ1	今村
第９回	データ・AIにまつわるセキュリティ2	今村
第１０回	AIとアルゴリズム	今村
第１１回	データの構造とプログラミング	今村
第１２回	データの利活用方法	今村
第１３回	時系列データと文章データの分析例	今村
第１４回	教師あり学習と教師なし学習	今村
第１５回	データ・AI利活用における留意事項	今村
第１６回	まとめと試験・評価	今村

教科書			
教・書籍名１	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名１	技術評論社

教・著者名１	岡嶋裕史，吉田雅裕　著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-297-12038-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅰ 看護・子ども・アニメ			担当者			平見　勇雄	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-LE-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使うことができるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０～１５分でよいので次の週までに合計９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１５分前後でよいので毎日自分で声に出して一週あたり９０分程度になるよう英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	水曜日の３限です。研究室に来て下さい。授業が重なって都合が悪い人はあらかじめアポイントメントを取って下さい。時間の調整をします。２号館６Fの研究室です。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　春学期の授業に関しての説明と２回目の授業のさわり	平見勇雄
第２回	Profile　自分を知ろう　BE動詞	平見勇雄
第３回	Sports　多彩だね、スポーツの世界　一般動詞：自動詞・他動詞	平見勇雄
第４回	Special Occasions　特別な日は誰に何をしてあげる？　二重目的語、目的語をとる動詞	平見勇雄
第５回	Families　家族を知ろう　人称代名詞	平見勇雄

第６回	Japan Quiz　　日本クイズに挑戦　WH疑問文	平見勇雄
第７回	Love and Marriage　恋愛はいつの時代も人々の関心事？　過去形	平見勇雄
第８回	Life History　今までの自分を語ろう　現在完了形　継続	平見勇雄
第９回	Leisure　自分の経験を語ろう　現在完了形　経験・完了	平見勇雄
第１０回	College Life　学生生活を楽しもう　進行形	平見勇雄
第１１回	On Vacation　休暇の計画をたてよう　未来表現	平見勇雄
第１２回	Out and About　自分の気持ちを上手に伝えるには　助動詞　CAN,MAY	平見勇雄
第１３回	春学期の総復習（１）　BE動詞　一般動詞　人称代名詞　疑問	平見勇雄
第１４回	春学期の総復習（２）　現在完了形　進行形　助動詞	平見勇雄
第１５回	春学期の試験	平見勇雄
第１６回	春学期の総復習、フィードバック	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語Ⅱ 子ども・アニメ			担当者	平見　勇雄		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LE-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	大学生としての読解力、会話力、リスニングとバランスの取れた英語力を養うことを到達目標とします。同時に高校までの文法の復習も行いますが、コミュニケーションに必要な最低限の文法を中心に、実際に使うことを軸に文法の授業を進めます。したがってこの授業を受ければ学生は、生きた英語を、ごく基本的な文法を理解したうえで使えるようになります。また英会話に応用できるリスニングも行います。この授業を受ければ学生は、あるシチュエーションで使われる単語や言い回しを知ることができ聞き取りはもちろんのこと、簡単な意思疎通もネイティブの人とできるようになります。
授業概要	しばしば中学、高校で英語を勉強しても実際の英語は使えないという批判がこれまでもありましたが、単なる知識を積み上げるだけでは使えるようにならないことから、内容ある英語を使う練習、覚えると役に立つ意味あるやり取りを設定して、同時に文法の復習を行います。時間が限られていることから、文法の説明は行いながらも、不得意な学生のために、必要最低限の文法の解説に絞っています。ユニットごとにテーマを設定し、そのテーマに関連する知識を広げたり考えを深めたりして身近な話題や関心の持てるものを授業で行います。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	授業での発表と定期試験とを半々の５０％で査定し評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業は試験を含めて１６回行いますが、１５回目に試験を行い、最後の１６回目の授業時間に試験についての詳しい解説を行うことで学生の英語習得の定着を図ります。
履修条件・注意事項	この授業は必修です。国際大学の学生にふさわしい最低限の知識と実力をつけてもらいたいと考えていますので、是非とも予習、復習をしっかり行ってください。教科書の販売については他の講義とは異なり、最初の授業で行いますのでその指示に従って下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習、復習が大切です。できれば毎日１０～１５分でもよいので次の週までに合計９０分程度の時間になるように、声に出して教科書を読んできて下さい。予習して授業に臨むのとしないとのとでは身に付くレベルに大きな差が生まれます。復習も同じで、講義で行ったことを一日１０～１５分でよいので毎日自分で声に出して次の週までに９０分程度、英文を読む習慣をつけてください。
オフィスアワー	水曜日の３限です。研究室に来て下さい。授業が重なって都合が悪い人はあらかじめアポイントメントを取って下さい。時間の調整をします。２号館６Ｆです。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　秋学期の授業に関しての説明と２回目の授業のさわり	平見勇雄
第２回	Rules　しきたりは難しい　助動詞 must should	平見勇雄
第３回	Folk Tales　昔話に思わぬ教訓を発見　　接続詞　and but or so	平見勇雄
第４回	News & Events　ニュースに敏感になろう　受動態	平見勇雄
第５回	Amazing Animals 動物の世界は驚きでいっぱい　頻度を表す副詞	平見勇雄

第６回	Feelings 人間は感情の生き物だね　　ing edで終わる形容詞	平見勇雄
第７回	World Quiz 世界クイズに挑戦　　原級　比較級　最上級	平見勇雄
第８回	Business この大企業の創始者は？　　基本的な前置詞 at on in	平見勇雄
第９回	Environment 環境問題を解決するには？　接続詞(2) when because although if	平見勇雄
第１０回	Old Sayings ことわざは面白い　　不定詞と動名詞	平見勇雄
第１１回	Professions 将来の職業について考えよう　関係詞　who which where	平見勇雄
第１２回	What If？ 仮定の話は途方もない　　仮定法	平見勇雄
第１３回	秋学期の総復習（１）　接続詞　受動態　比較級　基本的な前置詞	平見勇雄
第１４回	秋学期の総復習（２）　不定詞と動名詞　関係詞　仮定法	平見勇雄
第１５回	秋学期の試験	平見勇雄
第１６回	秋学期の総復習、フィードバック	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	コミュニケーションのためのベーシック・グラマー　Living Grammar	教・出版社名１	成美堂　SEIBIDO
教・著者名１	Atsuko Yamamoto・Naoko Osuka・Chikako Mano・Kyoko Okamoto・Benedict Rowlett	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-7919-7227-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	英語III			担当者	平見　勇雄		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LE-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業はテキストの予習をしっかりやれば学生は高校以上の難易度の長い文章が読むことができるようになります。基本的な文法の復習や語彙に加えて読解力をつけることを目標にしています。また、全文のテキストのテープを聞く、訳を自分でしてもらうことで自分の実力を客観的に把握できるような授業を行います。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力がつくよう各自の予習も必須です。英会話の中級に近い程度の会話ができるようになります。
授業概要	教材はビートルズの物語を扱います。メンバーの生い立ちからグループの解散まで、テンポよく流れていく物語を楽しみながら次の授業が楽しみになるよう、内容を取りながら進めていきます。物語はスターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、人生における挫折が多く書かれています。自分たちと変わらない年齢の若者が、国籍、時代を問わず、同じように経験する出来事を自らの人生と重ねながら読んでもらいたいと願っています。 　時々プリントに合わせて公式に発売されているメンバーの肉声のインタビューを聞きながら、物語に幅をもたせ、いろいろな角度からその人生を眺めます。なぜビートルズが時代を問わず愛されているのか、他のグループとは一線を画す存在なのかも考えていただきたいと思います。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	１６回目に筆記試験をやり、そのあと試験問題の解説をします。大切な文法事項、読解の難しいところなどが中心です。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業前に必ず自分で訳をしてきて下さい。辞書を引いて文型を確認しながら前後の文章とのつながりも考えながら２時間程度の予習が理想です。復習としてはこれも２時間、実力に応じて授業で渡すCD-Rを使ってシャドウイングをしながら耳と会話を鍛えることをお勧めします。
オフィスアワー	水曜日の３限　研究室にて（２号館６F）

授業計画	担当者

第１回	リバプール	平見勇雄
第２回	メンバーの生い立ち　ジョンレノン	平見勇雄
第３回	ポールマッカートニーの生い立ち	平見勇雄
第４回	ジョージハリソンの生い立ちとメンバー加入	平見勇雄
第５回	メンバー交代　リンゴスター	平見勇雄
第６回	1960年デッカオーディション	平見勇雄
第７回	1962年ビートルズデビュー	平見勇雄
第８回	1964年ビートルマニア	平見勇雄
第９回	エドサリバンショー　アメリカ進出	平見勇雄
第１０回	オーストラリアや各国の状況	平見勇雄
第１１回	映画ア・ハード・ディズ・ナイト	平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　ヘルプ	平見勇雄
第１３回	世界制覇	平見勇雄
第１４回	アルバム　ラバーソール	平見勇雄
第１５回	アルバム　リボルバー　日本公演	平見勇雄
第１６回	筆記試験	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布いたします。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	英語Ⅳ			担当者	平見　勇雄		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LE-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	この授業ではしっかり予習と復習を行うことで学生は大学初級程度のテキストの長文が読めるようになります。文法の復習は英語ⅠとⅡで既に行っており、春期はそれを前提に内容把握に焦点を当てていましたが、秋期は読解のスピードが上がることを目標としています。教科書を自宅で声に出して音読することでスピーキングの力をつけてもらうことも一年を通して目標としていますが、後期はテープを聴いてもらい大意が把握できるような練習をすることで、より総合的に力をつけることを目標としています。
授業概要	教材はビートルズの物語です。秋期は中期と呼ばれている時期の傑作アルバムの創作からグループの解散までを取扱います。スターとしての側面よりは人間的な側面に焦点が当たっており、春期と違った人間関係における難しさが多く書かれています。成長していくことによってより個性が明確になり、環境の変化が人間関係を悪化させていく詳細を読み込んでいきます。英語の面ではテープを聞いていただきながら内容の把握をしてもらうことをやります。前期には行わなかった聴き取りをしてもらいますが、聴き取りに自信がない人はしっかりと事前に読み込んできてもらい、書いてもらっても構いません。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度50%、授業での発表20%、そして試験30%を総合して評価します。フィードバックは試験のあとに重要な要点をまとめたプリントを配布することで行いたいと思います。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	単位認定の筆記試験は１６回目に行い、その日の後半に試験の解説を行います。文法的な面と、読解で訳しにくい場所の解説を行います。
履修条件・注意事項	必ず予習すること、その際に配布するプリントを丹念に辞書を引き、大意をつかんでから授業に臨んで下さい。わからない文法は授業の中で自分から説明を求めるくらいの積極的態度を希望します。参考書や辞書は必ず使って授業に臨んでもらうことを前提とします。なお試験のあとに試験の解答を言います。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的な文法事項は授業ではやらないので自分で弱いところは補っていくように参考書を使って勉強してください。毎回２～３ページ進む予定ですから訳を書いてくることが最低限の予習です（２時間程度の予習です）。授業を受けたあとは毎日授業で行ったところを声に出して読んで下さい。声に出すこと、毎日行うことが重要です。一日にたくさんやるのでは長続きしませんから一日１０～２０分程度で結構です。（したがって復習も時間としてはトータルとして２時間程度）
オフィスアワー	水曜日の３限、２号館６Fの研究室

授業計画	担当者

第１回	春学期の復習	平見勇雄
第２回	日本公演続き	平見勇雄
第３回	レコーディング革命	平見勇雄
第４回	アルバム　サージェントペパーズロンリーハーツクラブバンド	平見勇雄
第５回	世界同時衛星放送　「All you need is love」	平見勇雄
第６回	マネージャー　ブライアンエプスタインの死	平見勇雄
第７回	マジカルミステリーツアー	平見勇雄
第８回	インドでの生活　修行	平見勇雄
第９回	初の２枚組アルバム　通称ホワイトアルバム	平見勇雄
第１０回	ゲットバックプロジェクト	平見勇雄
第１１回	最後のレコーディング　アビーロード	平見勇雄
第１２回	映画とサントラ　レットイットビー	平見勇雄
第１３回	解散後の４人　ジョンレノン	平見勇雄
第１４回	解散後の４人　ポールマッカートニー	平見勇雄
第１５回	解散後の４人　ジョージハリソンとリンゴスター	平見勇雄
第１６回	筆記試験	平見勇雄

教科書			
教・書籍名１	プリントを配布します。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語Ⅰ			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ①ツール・ド・フランス	加藤健次
第２回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで	加藤健次

第３回	音楽①サガンとブラームスはお好き？	加藤健次
第４回	建築①ロマネスク様式	加藤健次
第５回	食①パン	加藤健次
第６回	旅①ブルターニュとモンサンミシェル	加藤健次
第７回	歴史①マリーアントワネット	加藤健次
第８回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース	加藤健次
第９回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート	加藤健次
第１０回	音楽②ピアフとシャンソンの世界	加藤健次
第１１回	建築②ゴシック様式	加藤健次
第１２回	食②お菓子とショコラ	加藤健次
第１３回	旅②ロワール川と城	加藤健次
第１４回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次
第１５回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢN2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LF-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることか ら、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（６０％）、単位認定試験（４０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各２時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各２時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン	加藤健次
第２回	美術③マグリットとシュールレアリスム	加藤健次
第３回	音楽③サティとミニマルミュージック	加藤健次

第４回	建築③ルネサンス・バロック様式	加藤健次
第５回	食③チーズ	加藤健次
第６回	旅④プロヴァンスとアルル	加藤健次
第７回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』	加藤健次
第８回	スポーツ④ペタンク	加藤健次
第９回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート	加藤健次
第１０回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ	加藤健次
第１１回	食④ワイン	加藤健次
第１２回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次
第１３回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次
第１４回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次
第１５回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	上垣 豊（編）	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4623087786 ISBN-13 ： 978-4623087785
参・書籍名２	ゼロからスタート　フランス語　会話編	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	鈴木文恵(著)	参・ＩＳＢN2	ＩＳＢＮ１978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語III			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LF-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語会話ができるようになる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語Ⅰ・Ⅱで練習した会話表現をさらに応用して、様々な日常的な場面で運用できるようになることを到達目標とする。
授業概要	1年で習った発音や綴り字の読み方の復習をしながら、語彙や表現を増やしていく。実際の場面を想像して、会話練習をする。文法的にもより踏み込んだ説明を読んでみる。教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に発音する。暗唱する。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その暗唱した例文を発表する。他の学生と会話する。これを繰り返すことでフランス語のコミュニケーション力を身につけることを目指す。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語会話ができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習には各2時間程度を要する。そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。その成果は、各週の小テストと最終週の単位認定試験で問われる。
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	あいさつ	加藤健次
第２回	発音	加藤健次
第３回	性と数	加藤健次
第４回	前置詞	加藤健次
第５回	規則動詞	加藤健次
第６回	形容詞	加藤健次

第７回	否定形	加藤健次
第８回	命令形	加藤健次
第９回	疑問形	加藤健次
第１０回	副詞	加藤健次
第１１回	疑問副詞	加藤健次
第１２回	疑問代名詞	加藤健次
第１３回	不規則動詞	加藤健次
第１４回	所有形容詞	加藤健次
第１５回	疑問形容詞	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	フランス語IV			担当者	加藤　健次		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LF-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：「フランス語で会話を楽しむことができる」 到達目標：学生はフランス語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論を学ぶ。フランス語技能検定5級に合格するレベルを到達目標とする。
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、検定問題も念頭に置いて教科書の練習問題をていねいに解いていく。教科書にある会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことで本気で語彙力や発話力を身につけ、検定試験に合格しよう
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「フランス語で会話を楽しむことができる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。
履修条件・注意事項	フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していることが望ましい。毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習復習は各2時間程度行うこと。予習は、毎授業の終わりに「次週の暗唱例文」が課題として示されるので、これらがスムーズに発話できるようにしてくることである。復習は、そのテーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。復習の成果は、各週の小テストや最終週の単位認定試験で問われる
オフィスアワー	木曜日４限、岡山キャンパス123研究室にて。

授業計画		担当者
第１回	動詞allerとvenirの活用	加藤健次
第２回	近接未来と近接過去	加藤健次
第３回	命令形、否定表現	加藤健次
第４回	疑問代名詞	加藤健次
第５回	疑問副詞	加藤健次
第６回	指示代名詞	加藤健次

第７回	関係代名詞	加藤健次
第８回	過去分詞	加藤健次
第９回	直説法複合過去	加藤健次
第１０回	補語人称代名詞の語順	加藤健次
第１１回	比較級と最上級	加藤健次
第１２回	非人称構文	加藤健次
第１３回	直説法半過去	加藤健次
第１４回	条件法現在	加藤健次
第１５回	関係副詞と文の構造	加藤健次
第１６回	筆記試験	加藤健次

教科書			
教・書籍名１	新ゼロからスタートフランス語 文法編	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	島崎 貴則	教・ＩＳＢＮ１	ISBN-10 ： 4901429620 ISBN-13 ： 978-4901429627
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅰ			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション　ドイツおよびドイツ語とは　アルファベット　ドイツ語の発音（母音）	清水光二
第２回	ドイツ語の発音（子音）　挨拶表現	清水光二
第３回	ドイツ語の発音（まとめ）　挨拶表現の復習	清水光二
第４回	Lektion 1　Was lernst du?　動詞の現在人称変化	清水光二

第５回	Lektion 1　Was lernst du?　定動詞第2位の原則　seinの現在人称変化	清水光二
第６回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　名詞の性と格　定冠詞の格変化	清水光二
第７回	Lektion 2　Hast du Geschwister?　不定冠詞の格変化　habenの現在人称変化	清水光二
第８回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　不規則な現在人称変化	清水光二
第９回	Lektion 3　Wann fährst du nach München?　命令形	清水光二
第１０回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　定冠詞類	清水光二
第１１回	Lektion 4　Welche Uhr kaufst du?　不定冠詞類　所有冠詞	清水光二
第１２回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　複数形	清水光二
第１３回	Lektion 5　Kaufst du diese Bücher?　人称代名詞	清水光二
第１４回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　2格支配／3格支配	清水光二
第１５回	Lektion 6　Was machst du an diesem Wochenende?　前置詞の格支配　4格支配／3・4格支配	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!　はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LG-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえないことである。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 7　Was liest du gren?　形容詞の格変化	清水光二
第２回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　話法の助動詞	清水光二
第３回	Lektion 8　Wohin willst du gehen?　未来形	清水光二
第４回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　分離動詞	清水光二

第５回	Lektion 9　Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt?　接続詞と副文	清水光二
第６回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　zu不定詞	清水光二
第７回	Lektion 10　Hast du vor, München zu besuchen?　再帰代名詞	清水光二
第８回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　動詞の３基本形	清水光二
第９回	Lektion 11　Als ich das Museum besuchte, …　過去形	清水光二
第１０回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　現在完了形	清水光二
第１１回	Lektion 12　Hast du Weimar besucht?　非人称表現	清水光二
第１２回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　受動態	清水光二
第１３回	Lektion 13　Es wird gesagt, dass …　比較表現	清水光二
第１４回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　関係代名詞	清水光二
第１５回	Lektion 14　Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast?　不定関係代名詞	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	パノラマ　初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	上野成利、本田雅也	教・ＩＳＢＮ１	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	ドイツ語III			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LG-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Iとドイツ語IIを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 0　自己紹介	清水光二
第２回	Lektion 0　挨拶　動詞の現在人称変化	清水光二

第３回	Lektion 1 地理と天候	清水光二
第４回	Lektion 1 冠詞（類）の格変化	清水光二
第５回	Lektion 2　食生活	清水光二
第６回	Lektion 2　前置詞の格変化	清水光二
第７回	Lektion 3 ドイツ語という言語	清水光二
第８回	Lektion 3 名詞の複数形	清水光二
第９回	Lektion 4　ドイツの大学	清水光二
第１０回	Lektion 4　話法の助動詞	清水光二
第１１回	Lektion 5　祝日と休暇	清水光二
第１２回	Lektion 5　形容詞の格変化	清水光二
第１３回	Lektion 6　ドイツの治安事情	清水光二
第１４回	Lektion 6　比較表現	清水光二
第１５回	Lektion 0 〜 Lektion 6 までの復習	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　〜読みながらステップアップ〜	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	481635137X
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	ドイツ語IV			担当者	清水　光二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LG-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、ドイツの歴史、文化、社会を多面的に学習することで、ドイツ語の背景にあるものについての理解を深めると同時に、初歩的レベルなら一人でも読み書きすることが出来るようになる。 個別目標としては、どのような場面でどのようなドイツ語表現が使われるかを一つひとつ理解し学修することで、実際に遭遇するであろう様々な場面に応用可能な表現や基本構文を身につける。
授業概要	ドイツ語Ⅰ・Ⅱで学んだ文法事項の確認を行いながら、ドイツ語の文章を読むことによって読解力や語彙力を着実に身につけることができる。 具体的には、ドイツ語圏の社会や文化の中から私たちの生活にも関係がありそうなトピックを話題にして、易しい文章から徐々にレベルアップしたものへと読み進めることにより、ドイツ語圏に関わる知識とドイツ語の理解力を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50%）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。
履修条件・注意事項	この授業は、１年間で60時間のドイツ語学習を経験した者を対象としている。本校のカリキュラムで言えば、「ドイツ語Iとドイツ語IIを履修済みであること」（あるいは同等のレベル）が履修の前提となっている。 語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはありえない。毎回の授業では何かきっと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。 テキストの読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後における予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくること。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語の初学者には、教師が説明する文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分ついては学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業ではその準備の成果を発表することが個々に求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週２時間程度である。
オフィスアワー	個人研究室（2号館６階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。

授業計画		担当者
第１回	Lektion 7　教育制度	清水光二
第２回	Lektion 7　分離動詞と非分離動詞	清水光二

第３回	Lektion 8　政治制度	清水光二
第４回	Lektion 8　受動態	清水光二
第５回	Lektion 9　ドイツの歴史概観	清水光二
第６回	Lektion 9　過去の表現	清水光二
第７回	Lektion 10　音楽の国ドイツ	清水光二
第８回	Lektion 10　副文の語順	清水光二
第９回	Lektion 11　ドイツの宗教事情	清水光二
第１０回	Lektion 11　関係代名詞	清水光二
第１１回	Lektion 12　二つのドイツ	清水光二
第１２回	Lektion 12　分詞の用法	清水光二
第１３回	Lektion 13　EUとドイツ	清水光二
第１４回	Lektion 13　接続法第2式	清水光二
第１５回	Lektion 14　EUとドイツ	清水光二
第１６回	筆記試験	清水光二

教科書			
教・書籍名１	知りたいドイツ語　～読みながらステップアップ～	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	Siegfried Kohlhammer、斎藤太郎	教・ＩＳＢＮ１	ISBL: 978-4-255-25403-6 C1084
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	文法からマスター!はじめてのドイツ語	参・出版社名１	ナツメ社
参・著者名１	小野寺 賢一	参・ＩＳＢＮ１	978-4-560-06420-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅰ			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習	孫基然
第２回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習	孫基然
第３回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習	孫基然

	4、鼻音の発声練習	
第４回	1、発音の復習 2、そり舌音の発声練習	孫基然
第５回	1、発音の復習 2、子音の発声練習	孫基然
第６回	1、発音総合復習 2、発音小テス 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第７回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第８回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第９回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第１０回	1、「喜歓」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第１１回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第１２回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第１３回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第１４回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第１５回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語Ⅱ			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LC-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる。
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、２ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準４級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文	孫基然
第２回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文	孫基然
第３回	1、経験表現	孫基然

	2、連動文	
第４回	1、時量補語 2、存在表現	孫基然
第５回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現	孫基然
第６回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」 3、比較表現	孫基然
第７回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第１０回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第１１回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第１２回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第１３回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第１４回	1、動詞の重ね型 2、「一辺」と「一点」	孫基然
第１５回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	中国への旅	教・出版社名１	朝日出版社
教・著者名１	山下輝彦、黄漢青	教・ＩＳＢＮ１	978-4-255-45332-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語III			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LC-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・前篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	１、前置詞「对」 ２、名詞前の「的」	孫基然
第２回	１、「有的……有的」の文型 ２、「既……又」の文型	孫基然
第３回	１、「每……都」の文型 ２、動詞、形容詞の前の「地」	孫基然

第４回	「除了……」の文型	孫基然
第５回	「即使……也」の文型	孫基然
第６回	持続を表す「着」	孫基然
第７回	結果補語	孫基然
第８回	中間テスト	孫基然
第９回	中間テストをフィードバックする	孫基然
第１０回	１、「因為……所以」の文型 ２、「一辺……一辺」の文型	孫基然
第１１回	「是……的」の文型	孫基然
第１２回	現存文	孫基然
第１３回	手段・状態を表す「着」	孫基然
第１４回	「一点也不」の文型	孫基然
第１５回	疑問詞の呼応表現	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	中国語IV			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学2年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年			ナンバリング	GE-LC-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能習得のための方法と理論（検定試験対応・後篇）を修得できるようになる。 到達目標： 学生は中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。
授業概要	１年次に習った単語、基礎的文法事項、表現等を生かしつつ、新しい文法や表現等を習得し,筆記や会話の練習を通して、中国語の読解能力と基礎的会話能力を高める。また、毎回少し時間を割いて中国に関することをも講義する。さらに助動詞、比較表現、使役表現、結果補語などを中心として関連文法を紹介する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「中国語検定試験準４級に出題されている問題を解くために必要な文法事項を理解し、語彙力や会話力や読解力を身につけて実際に検定試験準４級に挑戦することができるようになる。」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、小テスト（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。なお、評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	１、「是……的」の文型 ２、様態補語	孫基然
第２回	１、「不知道……才好」の文型 ２、「好像……一様」の文型	孫基然
第３回	疑問詞の不定用法	孫基然

第４回	可能補語「動詞+得了」	孫基然
第５回	1、「無論……都」の文型 2、「要是……就」の文型	孫基然
第６回	1、動詞後の「給」 2、受身表現	孫基然
第７回	中間テスト	孫基然
第８回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第９回	1、「不是……就是」の文型 2、「再也没……過」の文型	孫基然
第１０回	1、「雖然……但是」の文型 2、「不但……而且」の文型	孫基然
第１１回	1、動量補語 2、離合詞	孫基然
第１２回	1、「有」の謙語文 2、使役表現	孫基然
第１３回	1、副詞「就」 2、副詞「都」	孫基然
第１４回	1、「有」の連動文 2、「把」の文	孫基然
第１５回	1、「対……来説」の文献 2、「只有……才」の文型	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	2冊目の中国語講読クラス	教・出版社名１	白水社
教・著者名１	劉頴、柴森、小澤正人	教・ＩＳＢＮ１	978－4－560－06927－1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ再履１クラス			担当者			日笠　恵美子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-LJ-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	日笠

第２回	ユニット１	日笠
第３回	ユニット１	日笠
第４回	ユニット2	日笠
第５回	ユニット2	日笠
第６回	ユニット3	日笠
第７回	ユニット3	日笠
第８回	中間テスト	日笠
第９回	ユニット４	日笠
第１０回	ユニット４	日笠
第１１回	ユニット５	日笠
第１２回	ユニット５	日笠
第１３回	ユニット６	日笠
第１４回	ユニット６	日笠
第１５回	総復習	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ １クラス			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容

事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面6①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面6②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面7①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面7②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面8①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面8②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面9①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面9②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等①	磯
第１５回	文法テキスト学習　敬語、副詞、接続詞等②	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ２クラス			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習

の時間	し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第３回	３．第25課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第５回	５．第28課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第７回	７．第31課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第９回	９．第34課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１ー導入・練習	井上光恵
第１１回	１１．第37課-２ 文型２ー導入・練習　　会話	井上光恵
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光恵
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光恵
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光恵
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履２クラス			担当者				福本　苗
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	「わけ・こと・もの・ところ」を使った表現	福本苗

第４回	助詞の働きをする言葉① （場面・時点・手段・原因を示す表現）		福本苗
第５回	助詞の働きをする言葉② （添加・判断・評価を示す表現）		福本苗
第６回	主に文末に使われる言葉		福本苗
第７回	文章の文法		福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法		福本苗
第１２回	基本文法の復習		福本苗
第１３回	接続の言葉		福本苗
第１４回	敬語・丁寧な言い方		福本苗
第１５回	総括		福本苗
第１６回	単位認定試験		福本苗
教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0 ☒
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履３クラス			担当者				福本　苗
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	文末に使われる表現	福本苗

第３回	傾向や様子を表す表現	福本苗
第４回	例を挙げて示す表現	福本苗
第５回	原因・理由を表す表現	福本苗
第６回	「わけ・こと」を使った表現	福本苗
第７回	「もの」を使った表現	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１１回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１２回	「ない」を含んだ表現	福本苗
第１３回	付加を表す表現	福本苗
第１４回	基本文法の復習	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＡ 再履クラス４			担当者				大下　朋子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-001	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力			
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目			
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 								
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。								
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。								
アクティブラーニングの内容									
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することはできない。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。								
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。								

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)
第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)

第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第１３回	動詞①	大下(朋)
第１４回	動詞②	大下(朋)
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)

教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（1クラス）			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにすることができる。そのうえで、より上のレベルの文法や文字・語彙を学んでいく。そうすることにより日本語能力試験N2合格をめざす。日本語力の向上が学力向上につながり、日本人学生との交流が進み、本学の様々な教育活動の理解や参加の促進につながり、実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	まずは日本語能力試験Ｎ３レベルの日本語力を確実なものにするため、Ｎ３レベルの文法や文字・語彙等を振り返る。その過程で、課題を課したり、小テストを実施し日本語力の伸長を図る。一方、Ｎ２のレベルの文法や文字・語彙を織り込んでいき、力を徐々にＮ２レベルに導いていく。また、日本での学生生活を円滑に送ることができるようにするため、授業の中で、日本人のあいだでかわされる挨拶や応答などをとりあげ、日本社会で暮らすための知恵を身につけさせていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に編成される。履修登録は教務課で一括登録する。 　登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（文法）、応用日本語ＩＡ/日本語ＩＡ（読解）、日本語研究ＩＡ/日本語ＩＡ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。		
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて		

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、初級文法演習、初級漢字演習	磯
第２回	初級文字語彙演習、文法テキスト学習　場面１①	磯
第３回	文法テキスト学習　場面１②	磯
第４回	文法テキスト学習　場面２①	磯
第５回	文法テキスト学習　場面２②	磯
第６回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習①	磯
第７回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習②	磯
第８回	Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習③	磯
第９回	第１回～第８回授業　総まとめテスト	磯
第１０回	文法テキスト学習　場面３①	磯
第１１回	文法テキスト学習　場面３②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習④	磯
第１２回	文法テキスト学習　場面４①	磯
第１３回	文法テキスト学習　場面４②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑤	磯
第１４回	文法テキスト学習　場面５①	磯
第１５回	文法テキスト学習　場面５②、Ｎ３レベル、Ｎ２レベル文字・語彙学習⑥	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ３文法　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	清水知子、大場理恵子、鈴木美希	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-036-1
教・書籍名２	ドリル＆ドリル日本語能力試験Ｎ２　文字語彙	教・出版社名2	ＵＮＩＣＯＭ
教・著者名2	星野恵子、辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-478-3

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ（２クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	充実した大学生活のためには日本語の力が必要である。また本学では在学中に日本語能力試験Ｎ２の取得を必須としている。そのようなことから、授業においては、まず初級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能の基礎力を養成し、次の中級レベルの技能確立につなげられるようにする。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、文法・文字・語彙を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①テキストで新しく学習した文型の練習問題を毎回課題とし、翌週その答えのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ３レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋Aの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容		

事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。文字の習得は絶対に必要である。「漢字」や「かな」は何度も繰り返し書いて覚えてほしい。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第25課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第３回	３．第25課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第４回	４．第28課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第５回	５．第28課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第６回	６．第31課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第７回	７．第31課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第８回	８．第34課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第９回	９．第34課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第１０回	１０．第37課-１ 漢字・語彙　　文型１―導入・練習	井上光恵
第１１回	１１．第37課-２ 文型２―導入・練習　　会話	井上光恵
第１２回	１２．まとめ７　３３課～３７課の復習	井上光恵
第１３回	１３．第40課-１ 漢字・語彙　　文型１-導入・練習	井上光恵
第１４回	１４．第40課-２ 文型２-導入・練習　会話	井上光恵
第１５回	１５．まとめ８　３８課～４２課の復習	井上光恵
第１６回	単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語初級（2）大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎佳子・石井怜子・佐々木薫・高橋美和子・町田恵子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89358-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル 日本語能力試験 N3 文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子　辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-487-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス１			担当者	日笠　恵美子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	オリエンテーション	日笠
第２回	ユニット１	日笠
第３回	ユニット１	日笠
第４回	ユニット2	日笠
第５回	ユニット2	日笠
第６回	ユニット3	日笠
第７回	ユニット3	日笠
第８回	中間テスト	日笠
第９回	ユニット４	日笠
第１０回	ユニット４	日笠
第１１回	ユニット５	日笠
第１２回	ユニット５	日笠
第１３回	ユニット６	日笠
第１４回	ユニット６	日笠
第１５回	総復習	日笠
第１６回	単位認定試験	日笠

教科書			
教・書籍名１	レベルアップトレーニング文法Ｎ２	教・出版社名１	アルク
教・著者名１	坂本勝信	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2210-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語パワードリル N2 文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子（他）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ再履クラス２			担当者	福本　苗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	いろいろな働きをする助詞	福本苗
第３回	「よう・う・まい・べき」を使った言葉	福本苗

第４回	複合語として使われる言葉	福本苗
第５回	文章の文法	福本苗
第６回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	基本文法の復習	福本苗
第１１回	決まった使い方の副詞	福本苗
第１２回	仮定・逆説の表現	福本苗
第１３回	原因・理由を表す表現	福本苗
第１４回	話者の感覚・気持ち・推量を表す表現	福本苗
第１５回	総括	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語日本語能力試験Ｎ２重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂　（他）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策Ｎ2文法総まとめ	参・出版社名１	三修社
参・著者名１	遠藤ゆう子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス３			担当者	福本　苗		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ＩＩを 履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字語彙、文法、文型を使っての課題をする。その後採点、フィードバックをする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修1～3クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの3科目ともに同クラスで受験すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・レベル確認テスト	福本苗
第２回	時を表す表現	福本苗
第３回	くり返しを表す表現	福本苗

第４回	進行状態を示す表現	福本苗
第５回	相関関係を示す表現	福本苗
第６回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第７回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第８回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第９回	JLPT　N2対策 文字・語彙・文法	福本苗
第１０回	比較を表す表現	福本苗
第１１回	対象を表す表現	福本苗
第１２回	仮定を表す表現	福本苗
第１３回	「から」が付く表現	福本苗
第１４回	評価・判断を示す表現	福本苗
第１５回	「ほど・くらい・こそ・さえ」を使った表現	福本苗
第１６回	単位認定試験	福本苗

教科書			
教・書籍名１	45日間で基礎からわかる日本語能力試験対策　N2文法　総まとめ	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	遠藤ゆう子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-384-05574-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	日本語ＩＢ 再履クラス４			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。
授業概要	この講義は「文字語彙・文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続すること。また、２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＩを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～４クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。各２時間の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下(朋)
第２回	ます形・て形に接続する表現	大下(朋)
第３回	辞書形・た形に接続する表現	大下(朋)

第４回	ない形・意向形、名詞・形容詞に接続する表現	大下(朋)
第５回	いろいろなものと接続する表現	大下(朋)
第６回	評価・比較の表現①	大下(朋)
第７回	評価・比較の表現②／時間に関する表現	大下(朋)
第８回	状態・強調の表現／条件に関する表現①	大下(朋)
第９回	条件に関する表現②	大下(朋)
第１０回	判断に関する表現①	大下(朋)
第１１回	判断に関する表現②／敬語表現	大下(朋)
第１２回	縮約形／接続詞	大下(朋)
第１３回	動詞①	大下(朋)
第１４回	動詞②	大下(朋)
第１５回	名詞・助数詞	大下(朋)
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下(朋)

教科書			
教・書籍名１	28日間で基礎から応用まで完全マスター！日本語能力試験対策　Ｎ３文法・語彙・漢字　改訂版	教・出版社名１	三修社
教・著者名１	山田光子	教・ＩＳＢＮ１	978-4384059502
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅡＡ １・２クラス			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-003		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、単位認定試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	１課 時間関係	大下 朋子
第３回	２課 範囲の始まり・限度	大下 朋子
第４回	３課 限定・非限定・付加	大下 朋子
第５回	４課 例示	大下 朋子
第６回	５課 関連・無関係	大下 朋子
第７回	６課 様子	大下 朋子
第８回	【中間テスト】１～６課／中間テストの解説	大下 朋子
第９回	７課 付随行動	大下 朋子
第１０回	８課 逆接	大下 朋子
第１１回	９課 条件	大下 朋子
第１２回	10課 逆接条件	大下 朋子
第１３回	11課 目的・手段	大下 朋子

第１４回	12課 原因・理由	大下 朋子
第１５回	13課　可能・不可能・禁止	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語ⅡB			担当者	大下　朋子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-004		
必修・選択	選択必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「文法」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「文法」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な文法能力を理解しながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの文法問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、文法力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、中間テスト（30%）、学習意欲・態度（20%）に基づく総合評価。成績評価の評価対象となるので、学期末の筆記試験と併せて中間テストも必ず受験しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	大下 朋子
第２回	14課　話題・評価の基準	大下 朋子
第３回	15課　比較対照	大下 朋子
第４回	16課　結末・最終の状態	大下 朋子
第５回	17課　強調	大下 朋子
第６回	18課　主張・断定	大下 朋子
第７回	【中間テスト】14～18課／中間テストの解説	大下 朋子
第８回	19課　評価・感想	大下 朋子
第９回	20課　心情・強制的思い	大下 朋子
第１０回	A　動詞の意味に着目-1	大下 朋子
第１１回	B　動詞の意味に着目-2	大下 朋子
第１２回	C　古い言葉を使った言い方	大下 朋子
第１３回	D「もの・こと・ところ」を使った言い方	大下 朋子

第１４回	E　二つの言葉を組にする言い方	大下 朋子
第１５回	F　助詞・複合助詞	大下 朋子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	大下 朋子

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター文法　日本語能力試験Ｎ１	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	友松悦子、福島佐知、中村かおり	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195640
教・書籍名２	日本語パワードリル N1 文字・語彙	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松浦 真理子、鈴木 健司	教・ＩＳＢＮ2	978-4872177671
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩA 再履クラス１			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ １クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	

事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報理解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報理解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書

教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4
参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＡ２クラス			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩA、応用日本語ＩA、日本語研究ＩA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(20%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。

	予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. ２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5
参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩA 再履２クラス			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＡを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～3ラスに編成される。履修登録は教務課で一括で登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
	内容理解問題：短文ー単問	

第２回	中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-058-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＡ再履クラス３			担当者				久保田　雅子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-005	
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限				
ディプロマポリシー対応項目									
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎		
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目			
ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう								
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。								
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。								
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。								
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。								
実務経験のある教員	該当する	内容	留学生の日本語教育						
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。								
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。								

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション （授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田

第２回	第２課　語彙・本文１、プリント	久保田
第３回	第２課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第４課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第４課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第６課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第６課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第８課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第８課　本文2・文法	久保田
第１３回	第１０課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第１０課　本文2・文法	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩA 再履クラス４			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩA・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ（1クラス）			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また、中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に1~3クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、

の時間	授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括、確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	ドリル＆ドリルＮ２文字・語彙	教・出版社名１	ユニコムUNICOM
教・著者名１	星野恵子・辻　和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語総まとめN3　読解	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-766-4

参・書籍名２	日本語総まとめN3　語彙	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ2	978-4-87217-731-2

授業科目名	応用日本語ＩＢ（2クラス）			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。このクラスでは、まず、基礎的な日本語の文法、初級の文章読解を中心に扱う。 目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることであるが、日本語の基礎レベルの文法知識を習得すること、文章表現を正確に理解することから行う。最終目標は、専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が、円滑に使えることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩA、応用日本語ＩA、日本語研究ＩA）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。 中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2の言語知識・文法、読解、聴解などの能力を習得するため、基礎的な文法、語彙、また読解の運用力を高めることを目指す。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２0%)で評価する。 このクラスは基礎の日本語クラスなので基本的な文法事項、語彙、文章読解を中心に扱う。ただし、単位認定については、日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当する　内容　日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、授業の中で自ら課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 ２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノー

	トへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前後に実施

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. ２３課　文法１	久保田
第２回	２．２３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	３．２７課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	４．２７課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５．３０課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	６．３０課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７．３３課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	８．３３課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９．３６課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	１０．３６課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	１１．３９課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	１２．３９課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	１３．４２課　文法１　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	１４．４２課　文法２　及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	１５．　総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-507-7
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１	ことばでおぼえるやさしい漢字ワーク　初級２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	中村　かおり他著	参・ＩＳＢＮ１	978-488-319-7828
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス１			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

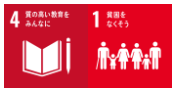
授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．６課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．６課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．７課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．７課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．８課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．８課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．９課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．９課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．１０課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．１０課−２　内容理解（中ｚ文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	ドリル＆ドリル日本語能力試験N2文字語彙	参・出版社名１	ユニコム
参・著者名１	星野恵子・辻和子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89689-478-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス２			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50%）、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修性は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	① 履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ② 日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでN2対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	授業後、休憩時間、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問	小西真弓

	文字・語彙：漢字読み、表記	
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	新完全マスター単語　日本語能力試験N2重要2200語	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N2 読解	参・出版社名１	Jリサーチ出版
参・著者名１	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	参・ＩＳＢＮ１	9784863920583
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ＩＢ再履クラス３			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマは第二言語としての日本語の「読解力の向上」である。Ｎ３～Ｎ２レベルの読解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることが目標である。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスでは主に「読解」中心に学ぶ。教科書で論理的な文章を読み、内容を理解する。プリントでＮ３～Ｎ２レベルの演習問題をやり、文章を通じて筆者の考えを理解したり、パンフレットや説明書等、さまざまな文書を読み、各文書から必要な情報を得る方法を理解する。 中級レベルの読解力が身につくことで事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につけることができる。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生の日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 事前に課題をだす。授業中にその発表を行い、みずから、自分自身の課題を見つける方法をとる。参加型学習法を行うため、予習が必須である。 2) 指示に従って必ず専用のノートを作成し、復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
	オリエンテーション	

第１回	（授業の進め方、予習、復習のやりかた　例：第１課）	久保田
第２回	第1課　語彙・本文１-2、プリント	久保田
第３回	第3課　本文２・文法、プリント	久保田
第４回	第3課　語彙・本文１、プリント	久保田
第５回	第5課　本文２・文法、プリント	久保田
第６回	第5課　語彙・本文１、プリント	久保田
第７回	第7課　本文２・文法、プリント	久保田
第８回	第7課、Ｎ２演習問題１	久保田
第９回	Ｎ２演習問題　２	久保田
第１０回	Ｎ２演習問題　３	久保田
第１１回	第9課　語彙・本文１	久保田
第１２回	第9課　本文2・文法	久保田
第１３回	第11課　語彙・本文１	久保田
第１４回	第11課　本文2・文法	久保田
第１５回	第13課、総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	留学生の日本語　読解編	教・出版社名１	株式会社アルク
教・著者名１	アカデミック・ジャパニーズ研究会	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7574-2631-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	はじめての日本語能力試験Ｎ２ 合格模試	参・出版社名１	株式会社アスク出版
参・著者名１	アスク出版編集部	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86639-315-5
参・書籍名２	新完全マスター　読解　N3	参・出版社名2	株式会社　スリーエーネットワーク
参・著者名2	田代　ひろみ・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-888319-671-5

授業科目名	応用日本語ＩＢ 再履クラス４			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	これからはじまる大学教育への円滑な導入を目的に、留学生の日本語能力の更なる向上を図る。学生は、他の日本語科目と併せ て、「話す」、「読む」、「聞く」、「書く」能力の向上に努め、日本語能力試験Ｎ２程度の実力を習得することができる。到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の 意見を述べたりできるようになる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①新しく学習する課の文章について「漢字」「語彙」「文型」については、その意味を事前に調べ問題練習をすることを課題とし、翌週そのチェックとフィードバックを行う。 ②Ｎ２レベル「文字語彙」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語ＩＡ・応用日本語Ⅰ秋A・日本語研究Ⅰ秋A]の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑥　授業では、テキストは使用せず、主教材も副教材もプリントで対応する。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めましょう。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．１課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第３回	３．１課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第４回	４．２課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第５回	５．２課-２　内容理解（中文）	井上光恵
第６回	６．JLPT対策授業−１（内容理解-短文）	井上光恵
第７回	７．JLPT対策授業−２（統合理解）	井上光恵
第８回	８．JLPT対策授業−３（情報検索１）	井上光恵
第９回	９．JLPT対策授業−４（情報検索２）	井上光恵
第１０回	１０．３課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１１回	１１．３課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１２回	１２．４課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１３回	１３．４課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１４回	１４．５課−１　内容理解（中文）	井上光恵
第１５回	１５．５課−２　内容理解（中文）	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	中級から学ぶ日本語	教・出版社名１	株式会社 研究社
教・著者名１	松田浩志 亀田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-327-38465-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 日本語能力試験N2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃・本田ゆかり・来栖里美・前坊香菜子・阿保きみ枝・宮田公治	参・ＩＳＢＮ１	9784883195749
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	応用日本語ⅡA			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけしながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓

第６回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏・他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	応用日本語ⅡB			担当者	小西　真弓		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-008		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語によるコミュニケーションスキルの習得を目指し、この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。日本語能力試験N1を受験することができるレベルを到達目標とする.。
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。日本語能力試験N1に出題されている問題の解答を導くために必要な読解力をつけながら、同時に語彙力やコミュニケーション能力の向上を目指す。実際にN1レベルの読解問題をくり返し解き、出題の傾向や内容を理解する。講義内で小テストなどを導入し、読解力のさらなる向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。 ① 学部正規生は、Ｎ２に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓
第２回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第３回	内容理解問題：短文ー単問 中文ー単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第４回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第５回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓

第６回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第７回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第８回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第９回	内容理解問題：中文ー複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１０回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１１回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１２回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１３回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１４回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓
第１５回	総括・確認テスト	小西真弓
第１６回	単位認定筆記試験	小西真弓

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　スピードマスター　N1　読解	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-075-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター単語Ｎ２重要２２００	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-762-0
参・書籍名２	速攻トレーニング読解編	参・出版社名2	アスク出版
参・著者名2	加藤早苗・沼田宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7574-1990-2

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス１			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で 　一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩA/日本語ＩA（文法）、応用日本語ＩA/日本語ＩA（読解）、日本語研究ＩA/日本語ＩA（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。

	授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習③	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　文字・語彙演習④	磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②	磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習　概要理解①	磯
第１４回	聴解テキスト学習　概要理解②　文字・語彙演習⑥	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第１回、第２回模擬試験問題	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験問題集　Ｎ２聴解　スピードマスター	教・出版社名１	Ｊリサーチ出版
教・著者名１	棚橋明美、杉山ますよ、野原ゆかり	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-057-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ ２クラス			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画	担当者

第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＡ １クラス			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ⅡⅡの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス２			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ2	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス３			担当者				雲津　英子
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング				GE-LJ-1-009
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子
第４回	課題理解１～４	雲津 英子

第５回	Ｎ２対策問題（聴解）	雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第７回	課題理解５～９	雲津 英子
第８回	課題理解10～13	雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第１１回	概要理解21～24	雲津 英子
第１２回	概要理解25～28	雲津 英子
第１３回	即時応答29～46	雲津 英子
第１４回	統合理解47～49	雲津 英子
第１５回	統合理解50～52	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩA 再履クラス４			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＡを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩA・応用日本語ＩA・日本語研究ＩAの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　内容：留学生への日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備して授業にのぞむこと。

	2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-２: 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ＩＢ（1クラス）			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、読解を中心に学ぶ。Ｎ２レベルの読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ⅡⅡを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ⅡⅡの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。		
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。		

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ（2クラス）			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することを目指す。 まずは基本的な文法・語彙・聴解の運用力を中心に身につける。最終の目標は日本語能力試験Ｎ２相当の実力を身につけることである。
授業概要	中級レベルの日本語能力を短期間で集中的に学習できるよう日本語関連科目Ｉの3科目（日本語ＩＢ、応用日本語ＩＢ、日本語研究ＩＢ）で共通の教科書を使用し、教員間が連携して授業を進める。基本的な文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。授業では、基礎的な文法・語彙の運用力、聴解の力を伸ばすことを中心に行う。N2合格への橋渡しとなる科目である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、試験（５０％）、小テスト及び課題提出(３０％)、学習意欲・態度(２０％)で評価する。この授業では、基礎の文法・語彙・聴解を中心に扱う。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～3クラスに編成される。 ②日本語Ｉ・応用日本語Ｉ・日本語研究Ｉの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。(社会情勢に応じてＪＬＰＴの試験に代わる措置の学内テストを行う場合もある。) ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 また、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することもできる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについての発表を行いながら授業を進める。参加型学習法により授業を行うので、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習も行うこと。授業で使用したプリントについても管理できるようにノートへの添付あるいはファイルが必要になる。 予習と復習に２時間以上は必要である。
オフィスアワー	授業前、終了後、休憩時間

授業計画		担当者
第１回	1.オリエンテーション（授業の進め方について） 第２４課　文法１	久保田
第２回	2. 第２４課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第３回	3. 第２７課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第４回	4. 第２７課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第５回	５. 第30課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第６回	6. 第30課　文法2 及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第７回	７. 第33課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第８回	8. 第33課　文法２及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第９回	９. 第３６課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１０回	10. 第３６課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１１回	10. 第３９課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１２回	12. 第３９課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１３回	13. 第41課　文法１及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１４回	14. 第41課　文法2及び演習（副教材ドリル＆ドリル、プリント）	久保田
第１５回	総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本語初級2・大地　メインテキスト	教・出版社名１	スリーエーネットワーク
教・著者名１	山崎桂子・佐々木薫・高橋美和子	教・ＩＳＢＮ１	978-4883195077
教・書籍名２	ドリル＆ドリル 日本語能力試験（文字・語彙）	教・出版社名2	株式会社ユニコム
教・著者名2	星野　恵子・辻和子	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89689-487-5

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス１			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、初級レベルの日本語力を確実なものにし、そのうえで、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力を身につけていく。そのことが本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解を深め、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ２レベルの聴解能力獲得を目指している。日本語を聞いて理解するには、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていく。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。 最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。 ２年生以上の再履修生は、Ｎ２の合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で 　一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更してはならない。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること ②　日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（文法）、応用日本語ＩＢ/日本語ＩＢ（読解）、日本語研究ＩＢ/日本語ＩＢ（聴解）の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 　なお、授業以外にも、様々な機会をうまく使って実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とそ	日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整

の時間	理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、プロフィール作成、文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	文法確認演習、聴解テキスト学習　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習　第１章４，５	磯
第５回	聴解テキスト学習　第２章１，２	磯
第６回	聴解テキスト学習　第２章３，４	磯
第７回	聴解テキスト学習　第２章５，６，７	磯
第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習の解説、復習演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　第３章１，２	磯
第１１回	聴解テキスト学習　第３章３，４	磯
第１２回	聴解テキスト学習　第３章５　第４章１	磯
第１３回	聴解テキスト学習　第４章２，３	磯
第１４回	聴解テキスト学習　第４章４，５	磯
第１５回	聴解テキスト学習　第５章	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験　日本語総まとめＮ２　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス２			担当者	井上　光恵		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話 す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、大学での学びが充実したものになることである。
授業概要	この講義は「聴解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。練習の過程では、基礎固めとしてN3レベルの問題も練習する。また関連する言語知識や文法などもとりあげ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。　ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試 験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。Ｎ２に合格してはじ めて日本語関連科目ＩＩを履修することができる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	①毎回「音声の聞き分け」の小テストを行い、フィードバックをする。 ②Ｎ２レベル「文法」の問題集を15回に分け毎回の課題とし、翌週小テストを行いフェードバックを行う。
履修条件・注意事項	これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベル以上の日本語能力は必須であり、N2をまだ取っていない学生は、原則として本科目履修中に、Ｎ２試験に合格しなければならない。 　Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２レベルを強化する学習を継続しなければならない。また、Ｎ２に合格し、日本語関連科目Ｉが単位認定済みになった時点で、２年次開講の日本語関連科目ＩＩを履修することができる。 履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①　履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②　日本語Ｉ春・応用日本語Ｉ春・日本語研究Ｉ春の３科目ともに同クラスで受講すること。 ③　本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④　２年次開講日本語関連科目ＩＩの履修は、日本語関連科目Ｉが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤　日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めること。

実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に２時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む２時間以上の復習に努めること。
オフィスアワー	授業が終わった後、休み時間に質問に答えます。

授業計画		担当者
第１回	1．オリエンテーション	井上光恵
第２回	２．第１章（準備）-１　発音・文法	井上光恵
第３回	３．第１章（準備）-２　会話表現	井上光恵
第４回	４．第２章（問題のパターンに慣れる）-１発話表現　２即時応答	井上光恵
第５回	５．第２章（問題のパターンに慣れる）-３課題理解　４ポイント理解	井上光恵
第６回	６．第２章（問題のパターンに慣れる）-５概要理解	井上光恵
第７回	７．第３章（いろいろな場所で聞く）-１町で	井上光恵
第８回	８．第３章（いろいろな場所で聞く）-２天気予報・交通情報	井上光恵
第９回	９．第３章（いろいろな場所で聞く）-3学校で	井上光恵
第１０回	１０．第3章（いろいろな場所で聞く）-４職場で	井上光恵
第１１回	１１．第3章（いろいろな場所で聞く）-５病院・いろいろな店で	井上光恵
第１２回	１２．第4章（いろいろな内容を聞く）-１人や物のようす	井上光恵
第１３回	１３．第4章（いろいろな内容を聞く）-２場所・方向・位置	井上光恵
第１４回	１４．第4章（いろいろな内容を聞く）-３数・方向・計算	井上光恵
第１５回	１５．第4章（いろいろな内容を聞く）-４順序・比較	井上光恵
第１６回	１６．単位認定試験	井上光恵

教科書			
教・書籍名１	日本語総まとめＮ３聴解	教・出版社名１	アスク
教・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-792-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	新完全マスター 語彙 Ｎ２	参・出版社名１	スリーエーネットワーク
参・著者名１	伊能裕晃　本田ゆかり　来栖里美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-88319-574-9
参・書籍名２		参・出版社名2	

参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ再履クラス３			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語中級レベルの文法、語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ｉと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の４技能を習得することができる。 到達目標は日本語能力試験Ｎ２の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。
授業概要	この講義は「聴解 」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。聴解と併せて、言語知識（文字・語彙・文法など）も取り上げ、総合的な日本語能力向上を目指す。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（５０％）、小テスト（３０％）、学習意欲・態度（２０％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、Ｎ２レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験Ｎ２に合格しなければならない。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。2年生以上の再履修生は、N2に合格するまで、2年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＢ・応用日本語ＩＢ・日本語研究ＩＢの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用しながら実力の涵養に努めてほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（Ｎ２対策を含む）に取り組むこと。２時間以上の予習と復習に努めること。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	基礎編１～４	雲津 英子
第３回	基礎編５～７	雲津 英子

第４回	課題理解１～４	雲津 英子
第５回	Ｎ２対策問題（聴解）	雲津 英子
第６回	Ｎ２対策問題（聴解）の解説	雲津 英子
第７回	課題理解５～９	雲津 英子
第８回	課題理解10～13	雲津 英子
第９回	ポイント理解14～16	雲津 英子
第１０回	ポイント理解17～20	雲津 英子
第１１回	概要理解21～24	雲津 英子
第１２回	概要理解25～28	雲津 英子
第１３回	即時応答29～46	雲津 英子
第１４回	統合理解47～49	雲津 英子
第１５回	統合理解50～52	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（聴解・筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験Ｎ２聴解 必修パターン	教・出版社名１	Jリサーチ出版
教・著者名１	氏原 庸子　清島 千春　佐伯 玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86392-360-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策 日本語パワードリル N2文字・語彙	参・出版社名１	アスク出版
参・著者名１	松浦 真理子　鈴木 健司	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-768-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ＩＢ 再履クラス４			担当者	久保田　雅子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／2018年度 吉備国際大学 大学院 大学院その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	◎
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	日本語能力試験Ｎ２合格を目指し、このクラスは主に「聴解」を学ぶ。Ｎ３～Ｎ２レベルの聴解問題の出題の傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。
授業概要	日本語能力試験Ｎ２合格を目指して、Ｎ２レベルの聴解問題の出題傾向を知り、練習問題を解きながら実践力を身につける。「聴解の教材」は生活の場面で、ひとりでも対応できる能力を身につけられるような内容を取り入れる。 第二、第三の言語としての日本語をより早く習得するために考察を自ら積極的に行い、他の学生と共有できるコミュニケーション能力を身につけられるよう参加型授業を行う。 また中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになることが目標である。
アクティブラーニングの内容	反転授業／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業評価は、講義内試験（４０％）、小テスト（２０％）、学習意欲・態度（４０％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験Ｎ２の合否結果を加味した上で行われる。 Ｎ２を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きＮ２の学習を継続しなければならない。２年生以上の再履修生は、Ｎ２に合格するまで、２年次開講の日本語関連科目ⅡＢを履修することはできない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	プリント・課題についてのフィードバックは、おもに次回の授業で個別あるいは全体的に行う。
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別に再履修１～３クラスに編成される。履修登録は教務課で一括登録する。登録されたクラスを勝手に変更しないこと。間違ったクラスの授業に出席しても単位取得できないので注意すること。 ②日本語ＩＡ・応用日本語ＩＡ・日本語研究ＩＡの３科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にＮ２を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、Ｎ２に合格すること。 ④日本語能力試験Ｎ１の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。 ⑤聴解の教材では、参考図書及びプリントを利用する。プリントを配布するので、初回から専用のファイル、ノートは持参すること。副教材については、３人の先生と共有して進める。これについても毎回持ってくること。 ⑥理由なく欠席が続く場合や、指示した課題を提出しない場合は受講を認めない場合があるので注意してほしい。 なお、授業以外にも、ラーニングサポートセンターでＮ２対策講座を開講しているので、活用することができる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：留学生への日本語教育
事前学習・事後学習とその時間	1) 語彙については毎回指定した範囲の小テストを行うので、その課の語彙を自主学習してくること。また定着できるような方法を考え、やってくること。授業でも取り上げるので、それぞれのアイデアを発表できるように準備し

	て授業にのぞむこと。 2) 聴解の学習方法については、授業でやり方を説明する。おもに発表する形で確認を行うが、短時間でも必ず練習してみること。 予習と復習におよそ２時間以上が望ましいが、時間が見つけて短時間でもやることが当面の目標である。授業前の時間など、活用できる時間を考えてみること。
オフィスアワー	教室・及びオープンスペースにて授業前・後に実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方について） 1. プリントの説明	久保田
第２回	1-1：イントネーションの違いを知る	久保田
第３回	1-2：はっきり言わない言い方	久保田
第４回	1-3：感謝・迷惑などの表現を知る	久保田
第５回	1-4：量や時間の印象を知る	久保田
第６回	1-5：予想・伝聞の表現を知る	久保田
第７回	1-6：意見を聞き取るときのキーワードを知る	久保田
第８回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ１	久保田
第９回	2-1：話全体から話し手の意見・意図を聴き取るコツ２	久保田
第１０回	2-2: 次に何をするべきかを聴き取るコツ１	久保田
第１１回	2-2 : 次に何をするべきかを聴き取るコツ２	久保田
第１２回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ１	久保田
第１３回	2-３：知りたいことを集中して聴くコツ２	久保田
第１４回	2-4：さまざまな情報を集めて理解するコツ１	久保田
第１５回	2-4 ：さまざまな情報を集めて理解するコツ2・総まとめ	久保田
第１６回		

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	新完全マスター語彙N2	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	伊能 裕晃	教・ＩＳＢＮ2	978-4883195749
参考書			
参・書籍名１	日本語能力試験対策　日本総まとめＮ２　聴解	参・出版社名１	978-4-87217-792-3
参・著者名１	佐々木仁子・松本紀子	参・ＩＳＢＮ１	アスク出版
参・書籍名２	短期マスター聴解ドリル２	参・出版社名2	凡人社
参・著者名2	浅野陽子・他著	参・ＩＳＢＮ2	978-4-89358-857-9

授業科目名	日本語研究ⅡＡ １・２クラス			担当者	磯　永二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／ 2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-011		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習にはそれぞれ２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法、文字・語彙確認演習	磯
第２回	聴解テキスト学習　課題理解①　練習問題１～５	磯
第３回	聴解テキスト学習　課題理解②　練習問題６～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第４回	聴解テキスト学習　ポイント理解①　練習問題１～６	磯
第５回	聴解テキスト学習　ポイント理解②　練習問題７～14　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習　概要理解①　練習問題１～６	磯
第７回	聴解テキスト学習　概要理解②　練習問題７～12　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯

第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習　即時応答①　敬語表現、文末否定、慣用表現	磯
第１１回	聴解テキスト学習　即時応答②　練習問題１～８　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④	磯
第１２回	聴解テキスト学習　即時応答③　練習問題９～20　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習　即時応答④　練習問題21～30　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑥	磯
第１４回	聴解テキスト学習　統合理解①　統合理解とは　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦	磯
第１５回	聴解テキスト学習　統合理解②　練習問題１～６	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	絶対合格！日本語能力試験　徹底トレーニングＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	松岡龍美	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-776-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本語研究ⅡB			担当者				磯　永二
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化2年／2018年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング				GE-LJ-2-012
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義、演習	
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	学生はこの科目を学修することにより、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力を身につけていく。それにとどまらず、「読む」「書く」「話す」能力の向上もめざす。総合的な日本語力の向上は、本学の授業に対する理解力の向上だけでなく、様々な教育活動への理解や参加の促進、日本人学生との交流や地域理解の推進にもつながる。そのようにして、日本に対する理解が深化し、日本における実りある学生生活を送ることができるようになる。
授業概要	本授業は聴解を中心としており、日本語能力試験Ｎ１レベルの聴解能力獲得を目指している。そのためには日本語を反復して聞いて、そのリズムやスピードに慣れることはもちろんだが、理解に必要な語彙力や文法的な知識も必要である。そこで日本語を単に聞くだけでなく、そこで使われている文字・語彙、文法について学ぶ。そのために必要に応じて課題を課したり小テストを実施する。さらには、日本語理解につながる日本の気候や風土、日常生活で使われる言葉、挨拶、応答などを折に触れて取り上げていき、充実した学生生活を送れるようにする。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	単位認定試験 (50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 単位認定試験、小テストには聴解のみならず、文法、文字・語彙の分野からも出題する。 課題に対する取り組み、授業中の態度も評価の対象となるので、1時間1時間の授業を大切にしてほしい。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題として課したものを小テストや単位認定試験で出題する。 小テストについては授業で解説し、いくつかは単位認定試験にも出題する。
履修条件・注意事項	日本語能力試験Ｎ２合格が条件である。 Ｎ２を取得していない学生は履修することはできない。 Ｎ２レベルに満足するのでなく、さらにＮ１レベルを目指して意欲的に受講してもらいたい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	高いレベルの日本語の修得には多くの時間が必要であるし、反復も必要である。授業前には授業内容を予習し、疑問点などは整理しておく。 授業後は必ず復習し知識の定着を図る。また、自分でＪＬＰＴ対策の問題演習に取り組むなど積極的な態度が必要。 予習・復習には２時間以上の学習が必要。
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間に教室、講師控室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、Ｎ３、Ｎ２レベル文法確認演習	磯
第２回	Ｎ３、Ｎ２レベル文字・語彙確認演習　　聴解テキスト学習①　第１章１	磯
第３回	聴解テキスト学習②　第１章２，３	磯
第４回	聴解テキスト学習③　第１章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習①	磯
第５回	聴解テキスト学習④　第２章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習②	磯
第６回	聴解テキスト学習⑤　第２章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習③	磯
第７回	聴解テキスト学習⑥　第２章5，６，７	磯

第８回	第２回～第７回授業内容総括演習	磯
第９回	第２回～第７回授業内容総括演習解説、補充演習	磯
第１０回	聴解テキスト学習⑦　第３章１，２　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習④	磯
第１１回	聴解テキスト学習⑧　第３章３，４　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１２回	聴解テキスト学習⑨　第３章５　第４章１　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑤	磯
第１３回	聴解テキスト学習⑩　第４章２，３　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑦	磯
第１４回	聴解テキスト学習⑪　第４章４，５　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑧	磯
第１５回	聴解テキスト学習⑫　第５章　　Ｎ２、Ｎ１レベル文字・語彙演習⑨	磯
第１６回	単位認定試験	磯

教科書			
教・書籍名１	日本語能力試験対策　日本語総まとめＮ１　聴解	教・出版社名１	アスク出版
教・著者名１	佐々木仁子、松本紀子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87217-791-6
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子

第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第１３回	コロケーション	雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義のテーマは、大学生、あるいは社会人として必要な日本語の基本的な運用能力の獲得である。 大学生活では、高度な授業内容を理解し、専門書を読み、発表資料・レポート作成を行い、それを発表する能力が必要となる。 本講義では、そのために必要な日本語力の養成をめざし、学生が、日本語の円滑な運用に必要な重点項目を毎回順番に学修することにより、確実な日本語力を身につけることを到達目標とする。また、「日本語検定」を紹介し、受検に対しての指導も行う。
授業概要	講義内容は、「敬語」、「文法」、「語彙」、「言葉の意味」、「漢字」、「表記」の６つ領域で構成している。 学生はこれらを順番に学んでいくことにより、日本語の運用能力を一歩一歩着実に高めていくことができる。 毎回の講義では、小テスト及び復習テストを実施し、学修内容の定着状況を学生自身が確認することでさらなる日本語力向上をめざす。 さらに「日本語検定」への挑戦は、学生自身の今の日本語力を振り返るきっかけになるとともに、今後の日本語学修の目標にもなる。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	単位認定試験（70%）、授業態度（15%）、小テスト・復習テスト（15%）によって総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト・復習テストは、授業でフィードバックするので、単位認定試験までに見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	留学生の受講は可能であるが、「日本語能力試験」のＮ２（２級）以上の実力がなければ、講義内容の理解は難しい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，高等学校において進路指導助手としての実務経験を持つ教員が，小論文指導（表記法、文章表現等の指導）の経験を活かし，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の講義で小テスト及び復習テストを実施するため、予習・復習をして講義に臨むことが必要である。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 日本語力の向上には、今の自分の日本語力に対しての気づきと、日々の意識的な努力が必要とされるため、講義以外での学修時間も重要である。 「日本語検定」の受検を目標にして学修に取り組むことが望ましい。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	「日本語検定３級」に挑戦	雲津 英子
第２回	はじめに	雲津 英子

第３回	敬語の種類と使い分け	雲津 英子
第４回	注意すべき敬語	雲津 英子
第５回	配慮を示す言葉	雲津 英子
第６回	品詞・活用の種類	雲津 英子
第７回	ら抜き言葉・さ入れ言葉	雲津 英子
第８回	文のねじれと言葉の係り受け・あいまい文	雲津 英子
第９回	接続後・指示語と文章	雲津 英子
第１０回	類義語・対義語	雲津 英子
第１１回	動詞の自他・視点	雲津 英子
第１２回	文体、話し言葉・書き言葉	雲津 英子
第１３回	コロケーション	雲津 英子
第１４回	部首・音訓・熟語	雲津 英子
第１５回	仮名遣い・送り仮名	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（筆記試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	スキルアップ！ 日本語力ー大学生のための日本語練習帳ー	教・出版社名１	東京書籍
教・著者名１	名古屋大学日本語研究会ＧＫ７	教・ＩＳＢＮ１	978-4-487-80364-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	文学への招待			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	本講義のテーマは、詩・俳句・短歌・小説等の文学作品を読み鑑賞することを通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、学生が自分自身の生き方を多様で豊かなものにしていくことである。 学生が、その過程において、文学に使われている語彙や巧みな言語表現、文学作品にみられる豊かな構想力を自己のものにし、自己の言語表現能力の向上をめざすとともに、文学作品の鑑賞を通して自分自身の生き方を豊かなものにしようとする態度を身につけることを到達目標とする。
授業概要	詩・俳句・短歌・小説等の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景に触れ、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶ。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表したり、討論を行う。このような学修活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。さらに、学生の図書館活用能力の向上のため、図書館の活用方法についての学修を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	レポート試験・受講態度などによって総合的に評価する。 レポート試験（70%）、発表・討論への参加（15%）、受講態度（15%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するため、ファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は，大学図書館職員としての実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，図書館の利用方法など，学生の読書活動，論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	大学図書館・県立図書館・市立図書館などで本を借りて、自宅においても積極的に読書をし、講義に臨むこと。 復習を行い、講義内容を十分に理解した上で、次回の講義を受講すること。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	文学とはなにか	雲津 英子
第２回	図書館活用方法の理解	雲津 英子
第３回	図書館活用の実践	雲津 英子

第４回	日本文学史（１）-上代文学	雲津 英子
第５回	日本文学史（２）-中古文学	雲津 英子
第６回	日本文学史（３）-中世文学	雲津 英子
第７回	日本文学史（４）-近世文学	雲津 英子
第８回	日本文学史（５）-近代文学	雲津 英子
第９回	日本文学史（６）-現代文学	雲津 英子
第１０回	夏目漱石・森鴎外・泉鏡花の作品（討論）	雲津 英子
第１１回	芥川龍之介の作品（討論）	雲津 英子
第１２回	宮沢賢治の作品（討論）	雲津 英子
第１３回	小林多喜二・太宰治の作品	雲津 英子
第１４回	詩・俳句・短歌（討論）	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回	単位認定試験（レポート試験）	雲津 英子

教科書			
教・書籍名１	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	日本文学概論	参・出版社名１	財団法人　放送大学教育振興会
参・著者名１	島内裕子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-595-31342-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	美術の見方			担当者	前嶋　英輝		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は、「自分なりの美術の見方を確立する」ことをテーマとして、美術作品について広い知識を持ち、自分の言葉で語ることができる能力を身につける。美術作品の「見方」の２つの可能性を考えてみる。１つめは、美術作品について客観的に知識として学習する見方であり、２つ目は、主観的に興味を持ち疑問を投げかけてみるような見方である。前者にはある程度の答えがあり、後者には答えは無い。この授業では、２つの見方を組み合わせて対話型鑑賞を行う。学生は、美術の見方を考えることで、自分の美術の見方ができるようになることを到達目標とする。
授業概要	毎回映像資料による対話型鑑賞を行う。毎回、先行研究として示されている各時代の作品の属性や意味、時代背景などについて学問的な検討を行う。　鑑賞の仕方を学ぶことが目的であるから、とにかく多くの美術作品にふれ、授業で紹介される作品について、自分なりに調べてみることが大切である。自分で考えた疑問などについて、授業内の対話や毎回の小レポートの中で深める事が大切である。 ※実務経験のある教員による授業 この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	この科目では、芸術について理解し自分の視点で鑑賞できる能力を身につけることを目的としていることから、発言を含む毎回のレポート（６0点）、 到達目標達成度を見る期末試験（40%）の割合によって評価を行う。詳しい評価内容については、最初の授業で説明する。課題については、評価すると同時に、結果を伝えながら指導を行い、フィードバックして学習の積み重ねの資料とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の小レポートについては、代表的なものを次回取り挙げてコメントしディスカッションの題材とすることでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前に次回の授業内容を指示するので、美術作品について興味を持ち検索などで予習を行うことが必要である。また積極的に討論に参加するためにノートなどをもとに復習を行うことが重要である。対話型鑑賞では、自分の視点で意見を述べることが重要である。できれば自主的に美術館を訪れることを薦める。期末試験では、到達目標の理解度を見るため十分な復習が必 要である。 初回の授業で芸術作品についての調べ方や授業の進め方について詳しく説明する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、美術教育に関する実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。 中学校・高等学校での美術科教員および短期大学での美術担当教員、全国公募展審査員、彫刻家
事前学習・事後学習とそ	美術に関する書籍やネットの情報を参照し、授業のテーマに沿った内容について予習復習をおこなう。美術館など

の時間	に鑑賞に出かけることも重要である。　1コマ毎の授業に予習 2 時間、復習 2 時間が必要である。
オフィスアワー	2 号館 6 階の前嶋研究室において、毎週月曜日 5 時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第 1 回	対話型鑑賞と美術の見方	前嶋英輝
第 2 回	世界の美術館散歩	前嶋英輝
第 3 回	美術教育と人間形成・現代美術	前嶋英輝
第 4 回	古代オリエント	前嶋英輝
第 5 回	ギリシャ・ローマ・中世	前嶋英輝
第 6 回	ルネサンス・バロック・ロココ	前嶋英輝
第 7 回	新古典主義・印象派	前嶋英輝
第 8 回	後期印象派以降・セザンヌとキュービズム	前嶋英輝
第 9 回	インド美術とイスラム美術・東南アジアの美術	前嶋英輝
第 1 0 回	仏教美術の誕生とシルクロードの美術	前嶋英輝
第 1 1 回	飛鳥～平安・韓国美術の影響	前嶋英輝
第 1 2 回	鎌倉～室町・仏教彫刻・絵巻物・水墨画	前嶋英輝
第 1 3 回	安土桃山・障屏画	前嶋英輝
第 1 4 回	江戸・浮世絵・町人の美術	前嶋英輝
第 1 5 回	明治以降の美術・西洋美術の影響	前嶋英輝
第 1 6 回	単位認定試験	前嶋英輝

教科書			
教・書籍名 1	適宜プリントなどを配布する。予習復習も配布プリントによって行う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ＩＳＢＮ 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名 1	テキスト名：絵画をいかに味わうか	参・出版社名 1	平凡社
参・著者名 1	著者：ヴィクトル・I・ストイキツァ	参・ＩＳＢＮ 1	978-4582206371
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生涯スポーツ論 経社・心理・子ども・アニメ			担当者	羽野　真哉		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-CH-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

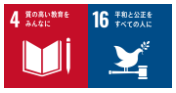
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：年齢に応じたスポーツとの関わり方について理解する。 到達目標：学生が年齢に応じた「スポーツ」に参加することの意味を理解し、グループワークやディスカッションすることによって自らの言葉で伝えられるようになる。
授業概要	少子高齢社会を生きる現代人にとって「健康」がもつ意味は多様化していることを踏まえ、「スポーツ」が果たす役割に着目し、「健康づくり」「健康増進」の視点から論ずる。具体的には、①生涯スポーツの概念や歴史、現状についての基礎的理解、②幼少年のスポーツ、新しいスポーツ、地域総合型スポーツクラブの現状と課題、スポーツと環境問題、スポーツ少年団の将来像について取り上げる。 これらを踏まえ、各年代に応じたスポーツのあり方、また生涯を通したスポーツへの親しみ方を理解した上で、生涯にわたって豊かな生活を送るための取り組みについて講義する。 なお、本演習は学校教員（保健体育）の実務経験者が担当し、学校現場の実態などを踏まえた討議などを行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験とレポートおよび授業態度にて評価する。定期試験を５０％とし、レポートの記述内容30％、授業での積極的発言など授業態度を２０％とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内に行う課題については、授業内でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業内で配布される資料は各自でファイルにまとめ予習復習を行うこと。 授業内容を自分なりの考察も含めノートにまとめること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、本学硬式野球部で監督経験を持つ教員が、その経験を活かし、指導現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の授業において問題提起と討論が可能なように、テキストの指定されたページをまとめるなど予習してくること。また、配布した資料や、講義内容を踏まえて学期末の定期試験を出題するので、授業終了後にノートをまとめ、復習しておくこと。なお、予習復習についてはそれぞれ2時間程度行うこと。
オフィスアワー	9号館4階の個人研究室において、毎週金曜日２時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	スポーツ本来の姿	羽野
第２回	スポーツ観の返還	羽野
第３回	スポーツする身体	羽野

第４回	運動・スポーツとメンタルヘルス		羽野
第５回	スポーツの技術		羽野
第６回	体力について		羽野
第７回	心とスポーツ		羽野
第８回	発育・発達とスポーツ		羽野
第９回	現代社会とスポーツ		羽野
第１０回	スポーツの上達法		羽野
第１１回	健康のためのスポーツ		羽野
第１２回	スポーツと教育		羽野
第１３回	スポーツと経済		羽野
第１４回	スポーツ動作の分析		羽野
第１５回	競技スポーツと生涯スポーツ		羽野
第１６回	試験		筆記試験
教科書			
教・書籍名１	生涯スポーツの理論と実際	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	日下 裕弘（著), 加納 弘二（著）	教・ＩＳＢＮ１	978-4469266986
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	生涯スポーツ実践論	参・出版社名１	市村出版
参・著者名１	野川春夫 (著), 川西正志 (著)	参・ＩＳＢＮ１	978-4902109290
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	哲学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

授業計画		担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	

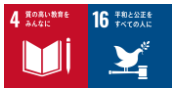
第１０回		山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	哲学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	テーマは「歴史の中の哲学」である。哲学という言葉は無造作に使われることが多い。しかし本来哲学は、古代ギリシャに端を発する一つの歴史上の、極めて重要な知的伝統である。そしてそれはある時期まで学問全体を指し、狭義の哲学は「第一哲学」と呼ばれたりした。学生は、各時代の代表的哲学者の思想を通じて、文明の中での学問と狭義の哲学のありようの歴史を知ることになる。これによって学生は、世界と自分について、根底から物事を考える能力を身につけることができる。
授業概要	古代ギリシャにおける哲学の誕生や初期の展開、プラトンやアリストテレスを通じての哲学の確立、ヘレニズム期の哲学、古代末期の哲学とキリスト教といったことを、ギリシャ世界の拡大と変容、ヘレニズム世界の成立、ローマによる政治的統合といった時代背景の中で理解する。また西欧世界の成立と発展といった文脈の中で、自由学芸、哲学、神学の関係や、諸科学の成立と哲学の変容を理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	数学や論理学、文芸や芸術に対する関心、知的好奇心。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。
オフィスアワー	月曜５限257研究室

授業計画		担当者
第１回	1.「哲学」という言葉の歴史と哲学の始まり	山本
第２回	初期の「哲学者」たち	山本
第３回	エレア派とその影響	山本
第４回	ソクラテスとその影響	山本
第５回	プラトン	山本
第６回	アリストテレスの哲学	山本
第７回	アリストテレスの第一哲学	山本
第８回	ヘレニズム世界の哲学とローマ帝国の思想状況	山本
第９回	西欧文明の成立	山本
	盛期中世の学問状況と14世紀の大変革	

第１０回		山本
第１１回	ルネサンスと科学革命	山本
第１２回	科学革命と政治哲学	山本
第１３回	19世紀における諸科学の成立と哲学	山本
第１４回	科学的心理学の成立と哲学の変容	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	西洋哲学史〈古代から中世へ〉	参・出版社名１	岩波新書
参・著者名１	熊野純彦	参・ＩＳＢＮ１	9784004310075
参・書籍名２	西洋哲学史〈近代から現代へ〉	参・出版社名2	岩波新書
参・著者名2	9784004310082	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	宗教学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは「世界宗教史」である。学生は講義を通じて、現生人類の誕生から新石器時代、文明の誕生を経て、ユーラシア西部や日本にどのような宗教が存在してきたか、そしてそれらが現代の我々にどのような影響を及ぼしているのかを知る。このことを通じ学生は、世界の多様な文化を理解することができる。これが到達目標である。
授業概要	後期旧石器時代・中石器時代・新石器時代・古代諸文明(メソポタミア、エジプト、カナアン、ギリシャなど)という段階を経て一神教(ユダヤ教、キリスト教、イスラム教)の成立までの流れを追い、そしてそれらの一神教の展開を概観する。これは主としてユーラシア大陸西半部の歴史上の諸宗教の紹介という形をとるが、文字資料のみならず画像などの視覚的情報を多用して、縁遠い時空に生きた人々の精神世界への理解を促したい。また、日本の宗教という話題にも、世界史的観点から言及する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価方法 小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については交替で発表をおこなってもらい、ほかの学生からのコメントを求め、これについて教員が論評する。試験については返却時に教員がコメントを附す。
履修条件・注意事項	地理歴史の基礎知識。毎回プリントを配布するので、ファイルブックを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	人類史と宗教：旧石器時代から新石器時代へ	山本
第２回	日本の縄文時代、弥生時代、古墳時代の宗教	山本
第３回	文明誕生：メソポタミア	山本
第４回	エジプト文明	山本
第５回	古代ギリシャ文明	山本
第６回	ユダヤ教の成立	山本
第７回	ヘレニズム期の宗教	山本
第８回	キリスト教の成立と展開	山本
第９回	ローマカトリック	山本
第１０回	初期のイスラーム	山本

第１１回	宗教改革とその後	山本
第１２回	日本宗教史：古代・中世・近世	山本
第１３回	現代日本の宗教事情	山本
第１４回	現代世界の宗教事情	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	倫理学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	主題は「暇と退屈」である。つまり、ヒトが暇であるという事態と退屈であるという事態である。我々にとって身近な「暇と退屈」を分析する。暇はあるが退屈はしないという、よき人生はどのようなものか考える。そして学生各位は暇を持て余すことのない、自分固有のよき人生への指針を獲得することができる。
授業概要	定住生活を開始して以来、人類とともにあり、個人や集団に破滅をもたらしたりすることもある「退屈」について、国分功一郎『暇と退屈の倫理学』を一緒に読みながら、注釈と批判を加え、ともに考えてゆく。その過程でパスカルやニーチェ、ラッセルやハイデッガー、ホッブズやルソー、マルクスやアーレントといった西欧思想の古典をこのテーマに関わる範囲で読むことになる。　また、定住革命論やユクスキュルの環世界論など、隣接するさまざまな領域の知見を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	小試験(25%)、課題(25%)、定期試験(50%)。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のための小試験・課題については次回授業で講評によりフィードバックするので、然るべく準備すること。
履修条件・注意事項	「気分」のようなとらえにくいものについて、具体例に即して考える思考力、言語能力、忍耐力。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に次回講義を受講するための課題を出すので、それについての予習をすること(2時間程度)。また、教科書や配布プリントと板書にもとづき復習してノートブックに要点を記入すること (2時間程度)。これを次回授業で確認する。
オフィスアワー	月曜5限257研究室

授業計画		担当者
第１回	「好きなこと」とは？	山本
第２回	パスカルとニーチェの退屈論	山本
第３回	暇と退屈の原理論	山本
第４回	定住革命について	山本
第５回	暇と退屈の系譜学	山本
第６回	暇と退屈の経済史	山本
第７回	ホッブズ、ルソー、マルクス	山本
第８回	暇と退屈の疎外論	山本
第９回	暇と退屈の哲学	山本
第１０回	環世界論	山本
第１１回	暇と退屈の人間学	山本
第１２回	ハイデッガー	山本

第１３回	暇と退屈の倫理学	山本
第１４回	スピノザ	山本
第１５回	総括	山本
第１６回	定期試験	山本

教科書			
教・書籍名１	暇と退屈の倫理学	教・出版社名１	太田出版
教・著者名１	國分功一郎	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7783-1437-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	心理学 （看護・理学・作業・子ども・アニメ）	担当者	津川　秀夫、藤原　直子、土居　正人、橋本　翠、村上　勝典、若森　孝彰、森井　康幸、宇都宮　真輝
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年	ナンバリング	GE-GA-0-004

必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目

ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	心理学とはどんな学問かを知ることがテーマである。心理学は心の働きについて科学的に研究していく学問である。学生は，人が生活している環境からいかに情報を取り入れ，蓄積し，利用するのか，あるいは，いかに人間関係のなかで適応的に生きているのかなどについての学びを通して，心理学のおもしろさに触れることができる。
授業概要	心理学は知覚、認知、発達、社会、パーソナリティーなどさまざまな領域において様々な研究が行われている。本講義では，いくつかの領域における研究対象，方法，得られた知見等の解説をオムニバス形式で行う。 ☒
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	小テスト(50%) と定期テスト(50%) の成績により評価する。 ただし、受講態度の悪い学生（私語、飲食、内職等・・・）については，この限りではない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストについては、授業中にフィードバックするので、定期試験に向けて、見直すこと。
履修条件・注意事項	テキストは使用しないので，集中して講義に参加すること。 授業担当者ごとに，2回に１回くらいの割合で小テストを行うので，特に復習には力を入れること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	基本的には、講義内で配布された資料をもとに復習すること。（2時間） テキストは使用しないが、一般的な心理学の本で該当箇所を対照させながら学ぶことが重要である（2時間）。体験的に学びを深めたい学生には、心理学実験への参加・協力をお願いする。
オフィスアワー	森井：月４　津川：月4　藤原：月2　橋本：月5　宇都宮：火4　土居：月2　村上：木3　　各教員研究室

授業計画		担当者
第１回	(1) オリエンテーション	全員
第２回	(2) 外界を探るこころの働き	橋本
第３回	(3) 感覚と知覚	橋本
第４回	(4) 記憶のふしぎ	森井
第５回	(5) 本能と学習	森井
第６回	(6) 性格とは	土居

第７回	(7) 心理検査について	土居
第８回	(8) 乳幼児期～青年期の発達	宇都宮
第９回	(9) 青年期の人間関係と心理	宇都宮
第１０回	(10) 対人認知	村上
第１１回	(11) 態度変容	村上
第１２回	(12) ストレス	藤原
第１３回	(13) ストレスと考え方	藤原
第１４回	(14) カウンセリング	津川
第１５回	(15) カウンセリングの実際	津川
第１６回	(16) 定期試験(筆記)	全員

教科書			
教・書籍名１	教科書は使用しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	心理学 (New Liberal Arts Selection)	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤・遠藤・玉瀬・森	参・ＩＳＢＮ１	978-4641053694
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	多文化理解			担当者				末吉　秀二	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-GA-0-005	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義		
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限				

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二

第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第１６回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢN2	978-412-003990-4

授業科目名	多文化理解			担当者	末吉　秀二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-GA-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本講義は「世界の文化の多様性を理解する」をテーマに、私たち日本人にはあまり馴染みのないアラブ・イスラーム社会をとりあげる。具体的には、①イスラームの理解に不可欠なアラビア語の基礎、②西アジア史、③イスラーム文化、④近・現代のアラブ社会について理解を深める。その結果、世界の文化の多様性について興味がもてるようになる。
授業概要	世界の多文化を理解するためには、まず文化相対主義（Cultural relativism）の立場、すなわち異なる文化の間には優劣はなく、それぞれの文化の価値を認めようとする視点が重要である。本講義は、世界の関心が高く、また世界の安定にとってきわめて重要な位置にある中東地域を例に、古代オリエントから現代までの中東の歴史、アラビア語の基礎、イスラームの意味するところから、アラブ・イスラーム文化を理解するとともに、世界の文化の多様性を理解するための端緒とする。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（60%）、授業態度/積極性（20%）、課題レポート（20%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートの返却時に講評する。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日ごろからアラブ社会の情勢に関心をもつこと、復習として、分からないことは授業で質問し、分からないことをそのままにしないこと。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	古代オリエント	末吉秀二
第３回	アラブ・イスラーム世界の形成	末吉秀二
第４回	オスマン帝国とアラブ	末吉秀二
第５回	近・現代のアラブ社会	末吉秀二
第６回	アラビア語の基礎（文字と発音）	末吉秀二
第７回	アラビア語の基礎（文法）	末吉秀二
第８回	預言者ムハンマド	末吉秀二
第９回	コーラン	末吉秀二
第１０回	イスラーム法（シャリーア）	末吉秀二
第１１回	イスラーム文化（衣・食・住）	末吉秀二

第１２回	イスラーム文化（スーク/メディナ）	末吉秀二
第１３回	パレスチナ問題	末吉秀二
第１４回	事例研究（ヨルダン）	末吉秀二
第１５回	多文化理解（論文輪読）	末吉秀二
第１６回	単位認定試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	イスラーム文化	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	井筒俊彦	参・ＩＳＢＮ１	4-00-331851-X
参・書籍名２	イスラーム世界の論じ方	参・出版社名2	中央公論社
参・著者名2	池内　恵	参・ＩＳＢN2	978-412-003990-4

授業科目名	日本国憲法			担当者			入江　祥子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-SI-0-001	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に 							
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。							
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。							
アクティブラーニングの内容								
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。							
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。							

	原則として、配布物の再配布は行いません。		
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	日本国憲法			担当者			入江　祥子	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-SI-0-001	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に 							
到達目標	＜到達目標＞ 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 ＜テーマ＞ 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。							
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 ＊実務経験のある教員による授業 　本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。							
アクティブラーニングの内容								
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢３０％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価３０％、定期試験４０％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。							
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。							

	原則として、配布物の再配布は行いません。		
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。		
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。		

授業計画		担当者
第１回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江　祥子
第２回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江　祥子
第３回	法源とは何か、法の種類	入江　祥子
第４回	憲法とは何か、立憲主義	入江　祥子
第５回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江　祥子
第６回	国民主権の意味、その役割	入江　祥子
第７回	戦争の放棄、日本国憲法第９条	入江　祥子
第８回	人権とは何か、その役割	入江　祥子
第９回	人権の効果	入江　祥子
第１０回	人権の限界、公共の福祉	入江　祥子
第１１回	統治制度について、権力分立	入江　祥子
第１２回	立法権、国会の役割	入江　祥子
第１３回	行政権、内閣の役割	入江　祥子
第１４回	司法権、裁判所の役割	入江　祥子
第１５回	地方自治について	入江　祥子
第１６回	筆記試験	入江　祥子

教科書			
教・書籍名１	各回ごとに配布物を配り、それに従って授業を進める。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	六法	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	民法			担当者	生駒　正文		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生は日常生活の各場面で想定される法律の動きを知り、何がただしいのかという価値判断が求められる局面において、自ら考えて選ぶリーガル・マインドを獲得できる。 具体的には法の意義と、社会における法の役割を理解、実際の事件の中で、法がいかに問題解決のために機能しているか関心を持つこと、課題を法的な観点から検討できること、自分の考えを整理して、相手に論理的に説明する能力を身に着けることが個別目標です。
授業概要	我々の日常生活は、直接的・間接的に法律と関係しています。例えば、物の購入、家・金銭の貸し借り、結婚、親子関係、相続等、法律と無関係ではありません。我々の日常生活を規律する民法の基礎の基礎くらい知っておいた方が無難でしょう。 本講義では、日常生活の場面で想定される事態について、どのように民法がかかわるか考えます。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	試験７０％　授業態度・意欲・小テスト３０％の評価
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題、小テストは、後日添削し返却します。理解が不足の場合、再提出。
履修条件・注意事項	教科書持参、ノートをとること、考えることを原則に授業にのぞむこと
実務経験のある教員	該当する　内容：大阪簡易裁判所の民事調停委員として各案件の処理を行う（２０年）
事前学習・事後学習とその時間	授業計画ごとに教科書を復習・予習しておくこと（２時間）
オフィスアワー	１２：３０から１３：２０　１４号館６階（生駒研究室）

授業計画		担当者
第１回	（１）民法学の基礎知識（総則）　①民法とは何か、権利義務関係の基本となる能力	生駒正文
第２回	（２）民法学の基礎知識（総則）②制限行為能力者制度	生駒正文
第３回	（３）民法学の基礎知識（総則）③法人とは、物とは	生駒正文
第４回	（４）民法学の基礎知識（総則）④意思表示	生駒正文
第５回	（５）民法学の基礎知識（総則）⑤代理、時効	生駒正文
第６回	（６）民法学の基礎知識（財産法）⑥物権と債権、物権の種類、物権法定主義	生駒正文
第７回	（７）民法学の基礎知識　⑦物権の効力と物権変動（動産・不動産）	生駒正文
第８回	（８）民法学の基礎知識（財産法）　⑧即時取得、担保とは何か	生駒正文
第９回	（９）民法学の基礎知識（財産法）⑨一般的な不法行為	生駒正文

第１０回	（１０）民法学の基礎知識（財産法）　⑩特殊的な不法行為　賃貸借	生駒正文
第１１回	（１１）（３）家族法の基礎知識　⑪親族、婚姻、夫婦関係、離婚	生駒正文
第１２回	（１２）家族法の基礎知識　⑫親子関係、親権、相続	生駒正文
第１３回	（１３）家族法の基礎知識　⑬遺言	生駒正文
第１４回	（１４）家族法の基礎知識　⑭遺留分	生駒正文
第１５回	（１５）その他　⑮割賦販売、訪問販売	生駒正文
第１６回	（１６）定期試験	生駒正文

教科書			
教・書籍名１	ガイドブック法学	教・出版社名１	嵯峨野書院
教・著者名１	生駒正文・高田富男編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－７８２３－０５７０－６
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学			担当者	張　秉煥		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥

第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経済学			担当者	張　秉煥		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	重要な経済問題について科学的にそして論理的に理解するための基本的スキルを修得することができる。
授業概要	すべての社会が直面する根本的な経済問題は希少性である。経済学は、社会がその希少な資源をいかに管理するのかを研究する学問である。資源の配分は、膨大な数の家計と企業の行動を総合した結果として決定される。講座の前半は、個別の家計や企業が様々な決定をどのように行うか、それらが市場でどのように相互作用しあうのかを分析する。後半では、経済全体に影響するような様々な要因や傾向を考察する。なお、所得分配や所得格差問題、所得機会の変容とそのインプリケーションについて検討する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	「定期筆記試験（70%）＋途中の形成的評価（30%）」をもとに合計100点満点で採点し、60点以上を合格とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	途中の形成的評価のために実施する「課題や試験」へのフィードバックは、授業中の総括的単位で行うことによって、個別学生に学習方法への含意や定期筆記試験への対策に資するものとする
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	本講座の独自教材（ワークブック兼用）に基づき、自主的な事前学習を行って授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	講座の概要や評価方法、教材の構成、主な内容と使い方など。科学的方法論としての経済モデル	張秉煥
第２回	経済学の主要原理（１）トレードオフ、機会費用、限界分析、インセンティブ等	張秉煥
第３回	経済学の主要原理（２）市場経済、市場の失敗、GDP、インフレなど（現実の事例を含む）	張秉煥
第４回	市場と競争（市場構造）、需要・供給の仕組み、両面市場	張秉煥
第５回	市場構造と社会的厚生、完全競争市場、現実の経済問題への応用（インセンティブ）	張秉煥
第６回	独占市場の特性と参入障壁の源泉、現実の経済問題への応用、小テスト１	張秉煥
第７回	独占的市場と寡占市場の特性、囚人のジレンマモデルと現実の経済問題への応用	張秉煥
第８回	現実における様々な価格類型、価格弾力性と価格差別モデル、現実の経済問題への応用	張秉煥
第９回	価格規制の基礎モデル、最低賃金制度による労働市場への影響分析、外部効果の諸例	張秉煥
第１０回	公共財の諸例、フリーライダー問題、共有地の悲劇モデルと現実への応用、小テスト２	張秉煥
第１１回	情報の非対称性問題、モラル・ハザード、逆選択、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１２回	経済循環図、国民所得の測定と国際比較、現実の経済問題への応用	張秉煥
第１３回	経済成長と公共政策、７２の法則とその応用、景気変動	張秉煥

第１４回	所得分布と所得格差、所得機会の変容（定量的分析を踏まえて）、小テスト３	張秉煥
第１５回	経済政策の類型と具体的手法、経済安定化政策の逆効果（ジレンマ）	張秉煥
第１６回	定期筆記試験	張秉煥

教科書			
教・書籍名１	独自教材（ワークブック兼用）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マンキュー入門経済学	参・出版社名１	東洋経済新報社
参・著者名１	N・グレゴリー・マンキュー	参・ＩＳＢＮ１	978-4492315217
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会学			担当者	黒宮　亜希子、稲元　洋輔		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	テーマ：基礎社会学を学ぶ（社会学とは何か？、労働・教育・地域・家族等の視点より） 到達目標：社会学の基本的な定義・考え方、具体的な社会問題、人口問題と環境、現代家族、教育、産業・労働の領域における現状と問題を理解し、その解決法を考えることとする。 受講生らが生きている現代社会の仕組みや出来事に関する理解を深める。 この講義を通じて、現代社会の様々な制度と問題を理解すること、また、自分の考えを文章で言語化し、記述する能力を向上することも併せて目標とする。
授業概要	この講義の目的は、社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、受講生の周囲で起こっている実際の出来事について考えることが出来るようにすることである。 具体的には、現代家族の変化、教育問題、非正規社員の増加と経済的格差、人口構造の変化などを取り上げる。 それによって学生たちは問題を理解し、社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中課題（40%）・定期試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題はコメントを入れ返却を行う。
履修条件・注意事項	・2名の教員がオムニバス形式で進行する。 ・毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。ファイル等で各自保管しておくこと。 ・日本語で自身の考えを記述する力が求められるため、日本語の力がまだ十分ではない留学生の受講に際してはやや注意を要する。 ・授業計画の内容は、進捗状況に応じて変更になることがある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	黒宮：月曜4限（14625） 稲元：火曜3限（14611）

授業計画	担当者

第１回	授業オリエンテーション	黒宮・稲元
第２回	身近な社会学（1）地位と役割	黒宮
第３回	身近な社会学（2）ラベリング・スティグマ	黒宮
第４回	教育の社会学（1）学校とはなにか	稲元
第５回	教育の社会学（2）教育をめぐる諸問題	稲元
第６回	家族の社会学（1）家族とその変化	黒宮
第７回	家族の社会学（2）家族とジェンダー	黒宮
第８回	労働の社会学（1）学校から職場へ	稲元
第９回	労働の社会学（2）働くことの社会的な位置づけ	稲元
第１０回	地域の社会学（1）地域、コミュニティとは	黒宮
第１１回	地域の社会学（2）地域社会の今	黒宮
第１２回	自己と他者の社会学（1）他者のまなざし	稲元
第１３回	自己と他者の社会学（2）コミュニケーション	稲元
第１４回	社会問題を社会学する（講義、小括）	黒宮
第１５回	社会問題を社会学する（講義、小括）	稲元
第１６回	筆記試験	黒宮・稲元

教科書			
教・書籍名１	資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業内容に応じて適宜、文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	社会学			担当者	赤坂　真人		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	△	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ 社会学入門（社会学とは何か・人口論・家族・教育・産業と労働） 到達目標 社会学の定義と考え方を学び、そのうえで現代社会の人口、現代家族、教育、産業と労働について述べる。次に、明確に意識されていない現代社会の様々な制度と問題を明確に認識させ、毎回実施する小テスト（記述式）で社会問題に対する自分自身の考えをまとめ、文章で記述・説明する能力を鍛える。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
授業概要	この講義の目的は社会学という学問がどのような学問であるかを理解し、次に講義で学習した社会学的な見方、考え方を応用し、学生の周囲で起こっている日常の出来事について考えさせることである。具体的には人口減少に伴って起こる様々な問題、人口高齢化と年金・医療保険の問題、現代家族の変化、晩婚化・非婚化、教育の社会的意義、AI 化とこれからの教育、Society5.0における産業と労働、経済的格差、日本の経済不況と対策などを取り上げる。この講義によって学生たちは現代社会の諸問題を理解し、それを社会学の分析視角から考え、自分の意見を持ち、判断することができるようになる。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業中の小テスト（50%）・定期試験（50%）によって評価する。小テストは採点し、コメントつけて返却するので必ず復習すること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義の最後20分間を使って、毎回論述式の小試験を行う。メールにより解答し教員の授業用メールボックスに返送する。教員は学生一人一人の論述に対し400～500字のコメントを書いて学生に返却する。教員からのコメントに対してさらに意見を述べた場合、それに対して再びコメント書いて返却する。
履修条件・注意事項	講義時間が減少するので学生の名前を読み上げて出席を取ることはしない。カードによる出席チェックの不正をしない。日本語が分からないと講義についてゆけないので留学生は履修の際、十分留意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎学期中、予習と復習には各2時間程度を要する。
オフィスアワー	火曜4限（15：10～16：40）に、研究室（9309）にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	1.人間が社会を作るまで。2群れ（社会）で生きる人間。3.人間社会の大変動。	赤坂
第２回	1.社会学とは何か。2.社会のわかりにくさ。3.他の人間科学との相違。4.社会学の利用法。	赤坂
第３回	1.世界の人口動向。2.人口転換理論。3.日本の人口推移。4.少子高齢化。5.晩婚化と非婚化。	赤坂

第４回	1.生涯未婚率の推移。2.世界最速の高齢化。3.少子高齢化と経済の縮小・社会保障の危機。	赤坂
第５回	1.家族とは何か。2.家族の類型。３.世帯・親族・親戚。4.社会制度としての結婚。5.国家による管理	赤坂
第６回	1.結婚の社会的規制。2.非婚社会：日本。3.非婚の経済的原因。4.非婚の生物学的原因	赤坂
第７回	1.解体する家族。２.現代家族の問題。3.下流化する中高年。4.現代家族の病理と法的問題。	赤坂
第８回	1.液状化する社会。２.避けられぬ人口減少。3.男性未婚者。4.職業と未婚。5.世代間の不平等。	赤坂
第９回	1.教育の機能。2.メリトクラシーの崩壊と階層の固定化。3.学力低下論争。4.学力の二極化	赤坂
第１０回	1.教師の多忙化と燃え尽き。２.いじめ問題。3.校内暴力。4.不登校。5.学校は魅力をうしなったか	赤坂
第１１回	1.教育と職業。2.大学教育は仕事の役に立つか？3.中間集団としての学校。4.ニートの人々	赤坂
第１２回	1.産業の分類。2.賃金と労働。3.日本人の労働時間と失業率。4.日本的経営の終わり。5.日本経済の没落	赤坂
第１３回	1.日本経済の矛盾。2.生産性の低さ。3.日本経済没落の原因。4.経済再生の課題	赤坂
第１４回	1.職業とジェンダー。2.職業と階層。3.階層間格差。4.AI化と労働の未来	赤坂
第１５回	1.AI の進化と社会変動　2.インフォテック。3.フードテック。4.画像認識。5.拡張現実・その他	赤坂
第１６回	筆記試験	赤坂

教科書			
教・書籍名１	基礎社会学	教・出版社名１	ふくろう出版
教・著者名１	赤坂真人	教・ＩＳＢＮ１	978-4861864278
教・書籍名２	毎回、教員が作成したハンドアウトを配布する。	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	講義中に役30冊の文献を紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画			担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい		秋山純一
第２回	環境における人類危機要因		秋山純一
第３回	生態系と人間		秋山純一
第４回	食物連鎖		秋山純一
第５回	物質循環		秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）		秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）		秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）		秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）		秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）		秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）		秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）		秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）		秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）		秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	環境科学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	学生は環境問題を理解するための基礎的知識である「生態系」、「生物多様性」、「物質循環」及び「食物連鎖」等の知識を習得することができる。学生はその基礎的知識をもとに、現在人類が直面している環境問題である「オゾン層の破壊」、「環境ホルモン」、「地球温暖化」およびその他の環境問題全般の現状についての知識を習得することができる。また、学生は現在の環境問題および将来に起こると予想される様々な環境問題について自身で考え、意見を発信し、行動できることを到達目標とする。
授業概要	ヒトは有形無形の環境の中で生活しており、その生命環境の持続的保全が健康保持、人類存続には不可欠である。生活の利便性や効率、経済性を追求するあまり、近年の交通手段の急激な進歩や特に情報革命を中心とする社会構造の急速な変化が先進国だけでなく開発途上国にも広く及んでいる。現在、我々人類はこの急激な変化への適応に追われ、本来、最も尊いはずの生命保持のための環境の維持や保全が後手となり、現在、地球上では近未来を危ぶむ種々の重大な問題（環境汚染、地球温暖化、オゾン層の破壊、紫外線量の増加、環境ホルモン等）が生じている。本講義では前半は生命と環境についての基本的な知識（環境、生態系、生物多様性、物質循環及び食物連鎖等）を習得し、その知識を基に我々の目前で現在起こっている種々のレベルでの環境問題の現状を把握し、また将来生じると予想される問題を予見し、これらの問題に対して先見的な問題意識を持ちどの様に対処すべきるかを学習する。本講義の後半では各環境問題の問題提示としてこれらの環境問題に関連するの現状と未来を予測したDVD映像などの鑑賞も加えて授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	マークシート形式主体の筆記試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。　試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学授業中の課題提示毎に問いかけを行い、質疑。応答での知識確認のためのフィードバックを実施する。また、試験実施後の質問を受け付け、未理解項目のフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びノートメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は国家資格の「公害防止主任管理者」取得者である教員が環境管理の実務経験を活かし、環境教育において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習（1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休み時間で可能な限り対応を実施する。

授業計画			担当者
第１回	環境と人間のかかわりあい		秋山純一
第２回	環境における人類危機要因		秋山純一
第３回	生態系と人間		秋山純一
第４回	食物連鎖		秋山純一
第５回	物質循環		秋山純一
第６回	紫外線（作用と分類）		秋山純一
第７回	紫外線と皮膚（臨床）		秋山純一
第８回	紫外線と皮膚（防御）		秋山純一
第９回	オゾン層の破壊（原因）		秋山純一
第１０回	オゾン層の破壊（対策）		秋山純一
第１１回	環境ホルモン（作用）		秋山純一
第１２回	環境ホルモン（分類）		秋山純一
第１３回	環境ホルモン（影響）		秋山純一
第１４回	地球温暖化（原因）		秋山純一
第１５回	地球温暖化（対策）		秋山純一
第１６回	単位認定試験		秋山純一
教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリントを配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	環境科学入門	参・出版社名１	化学同人
参・著者名１	川合　真一郎　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	物理学			担当者	藤原　智子		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15回	授業形態	対面
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	テーマ：物理学の１分野である天文学を中心に、簡単な実験やそれぞれテーマに沿った議論などを通じて、その歴史的背景や社会・生活で活用されている物理のエッセンスを体系的に学習する。 到達目標：「自然から学ぶ」や「論理的思考」とはどういうことかを理解する。
授業概要	太古の昔から、人類は頭上に広がる果てしない宇宙を見つめてきた。手の届かないところにある天体のふるまいを理解するには、まず身近な自然現象を観察し、そこにある物理法則に気付く必要がある。人々はどんな想いで宇宙を見つめてきたのか、宇宙を知るためにどんな挑戦をし、注意深く観察した星空から何を理解してきたのか。この授業では、太陽系天体、恒星や銀河など、宇宙に浮かぶ様々な天体の姿を紹介、そこで起こっている現象を身近な物理と結び付けて科学的に解説するだけではなく、星座や神話、人類の宇宙観など文化的内容、観測機器や宇宙開発(ロケットや人工衛星・探査機)等の技術的内容についても触れ、「宇宙」をテーマに幅広い内容を扱う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	論述試験と出席で評価します。授業を受ける姿勢として、実験や議論に参加する積極性を重視します。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や試験に対する質問は授業での回答の他、UNIPAやTeamsなどの機能を用いてフィードバックする。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画のテーマに関連するニュースやトピックスに注意を払い、事後学習として授業で学んだことに関して友人や家族と議論すること。 各１時間の学修が望ましい。
オフィスアワー	授業の前後に、教室において実施する。

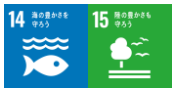
授業計画		担当者
第１回	ガイダンスー自然現象を理解するための物理学ー	藤原智子
第２回	宇宙観の変遷	藤原智子
第３回	星と文化①　星座と星物語	藤原智子
第４回	星と文化②　暦の成立	藤原智子
第５回	天体の記録と基礎データ①　天体の位置、明るさ、距離	藤原智子
第６回	天体の記録と基礎データ②　光のスペクトル	藤原智子
第７回	観測装置の発展①　光学・電波望遠鏡	藤原智子
第８回	観測装置の発展②　人工衛星・探査機	藤原智子
第９回	人工衛星・ロケットの仕組み	藤原智子

第１０回	宇宙の環境問題	藤原智子
第１１回	太陽系の素顔①　太陽系の天体	藤原智子
第１２回	太陽系の素顔②　太陽系を取り巻く環境・太陽系外惑星	藤原智子
第１３回	恒星の誕生と死	藤原智子
第１４回	私たちの起源と未来	藤原智子
第１５回	まとめ：宇宙と物理学のつながり	藤原智子
第１６回	レポート試験	藤原智子

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生物学			担当者	香田　康年		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

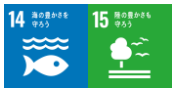
ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう 
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験

	を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	生物学			担当者			香田　康年	
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング			GE-NM-0-003	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義	
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限			
ディプロマポリシー対応項目								
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目		
ＳＤＧｓ関連項目	１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう 							
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なせそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのうような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。							
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容，範囲などは受講生の了解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は，講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば，次回の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク							
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80%）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20%）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは，論述記述式である。 講義の内容から，重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが，採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Ｑ＆Ａを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験							

	を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	【復習】 授業内容は常識と異なることが多く，授業は前回までの理解を前提に進めるので，毎回必ず復習し，理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように，充分理解し，ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。

授業計画		担当者
第１回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？	香田康年
第２回	生物のシンカと一般用語としての「進化」	香田康年
第３回	生物のシンカの起こる仕組み	香田康年
第４回	なぜたくさんの生物がいるのか？　なぜ人間がいるのか？	香田康年
第５回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？	香田康年
第６回	科学とはどのような学問か？	香田康年
第７回	生物とは？	香田康年
第８回	どんな生物、どんな動物がいるのか？	香田康年
第９回	遺伝子と遺伝子の発現	香田康年
第１０回	本能と学習と理性の関係	香田康年
第１１回	利己的行動と利他的行動	香田康年
第１２回	非血縁者間の利他行動のシンカ	香田康年
第１３回	ゲーム理論とシンカ	香田康年
第１４回	様々な対人関係心理のシンカ	香田康年
第１５回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ	香田康年
第１６回	最終試験（記述式筆記試験）	香田康年

教科書			
教・書籍名１	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	「進化と人間行動」	参・出版社名１	東京大学出版会
参・著者名１	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ＩＳＢＮ１	4－13－012032－8
参・書籍名２	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ＩＳＢＮ2	978-4-569-76860-1

授業科目名	化学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画	担当者

第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	化学			担当者	秋山　純一		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう
到達目標	本講義で学生は無機化学や有機化学全般の基礎的な知識の習得に重点をおき学習することができる。また、後半の講義で学生は生命活動に関連の深い天然物質やプラスチックの分類、生活に必要な薬品や化粧品等に関連する界面化学を学習することができる。学生は本講義を通じて将来の種々の職業や日常生活に役立つ化学的な知識を取得し、その知識を応用することができる。
授業概要	今日の科学技術の進歩は目覚しく，現代の私達の豊かな暮らしは正にこの科学の進歩に支えられていると言っても過言ではない。化学は，物質の成り立ちや変遷を究明する学問で、物質を構成する原子や分子を対象とし，それらの性質，構造，反応性などを実証的に解き明かす。１８世紀後半から学問として体系付けられ，幾多の素晴らしい知見や成果を蓄積しながら，現代化学へと発展してきた。今日では，複雑で有用な物質を簡単な物質（分子）から合成するなど，私達の身の回りには化学の力で作られた物質が溢れ，暮らしを豊かに，快適にしてくれている。一方，分子という考えの導入により，生命現象を化学的に解釈できるようになり，また生命現象を遺伝しのレベルで操作することもできるようになった。これらの知見を基に生命科学の分野では遺伝子治療なども行われるようになった。しかし他方では，地球環境問題や環境ホルモンなどの新たな種々の問題がみられるようになった。本講義では基礎的な化学の知識の確認・修得に重点におき、また特に我々の生活用品や基礎医学に関連した分野も取り上げて授業を行う。 ※実務経験がある教員による授業 この科目は香粧品メーカーの研究開発の実務経験をもつ教員がその経験を活かし、将来の仕事や日常生活に実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	問題概要を事前にプリントにて予告配布するマークシート形式主体の定期試験により約９０％を評価し、残り約１０％の評価として、授業中の態度や質疑応答に関する評価点を加算する。試験やレポート課題後に授業やオフィスアワーを利用してそのフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	学習課題の終了毎および授業の終了時に都度の問いかけし、質問を受け付けてフィードバックを実施する。試験実施実施後の質問を受け付けてフィードバックを実施する。
履修条件・注意事項	学習するテーマの毎にプリント(B4サイズ)を配布するので、第1回目授業からファイルを用意すること。授業中はプリントの空欄への記入及びメモを取ること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：担当教員の公的機関や民間企業での試験や研究開発部門での勤務経験を生かし、幅広い知識や技術を授業内容に取り入れる。
事前学習・事後学習とその時間	授業毎の事前に配布するプリントによる予習(1時間程度）を行うことで授業に臨むこと、また授業後に空欄を記入したプリント内容の復習(1時間程度）を行って学習内容の理解を深めること。
オフィスアワー	授業の前後の空き時間や昼休みを活用して実施。

授業計画	担当者

第１回	原子・分子の構造	秋山純一
第２回	化学結合	秋山純一
第３回	同位体と放射能	秋山純一
第４回	周期律表	秋山純一
第５回	化学反応、結合	秋山純一
第６回	酸化と還元（反応物質）	秋山純一
第７回	酸化と還元（燃料電池他）	秋山純一
第８回	物質の分類（金属、非金属）	秋山純一
第９回	水の化学（特性、硬度、pH）	秋山純一
第１０回	有機化合物の構造分類	秋山純一
第１１回	有機化合物の置換基分類	秋山純一
第１２回	有機合成の反応分類	秋山純一
第１３回	高分子化合物（天然）	秋山純一
第１４回	高分子化合物（合成）	秋山純一
第１５回	界面の化学（洗剤、乳化）	秋山純一
第１６回	単位認定試験	秋山純一

教科書			
教・書籍名１	使用しない（テーマ毎にプリント配布する）	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教養の現代化学	参・出版社名１	三共出版
参・著者名１	多賀　光彦／共著　他	参・ＩＳＢＮ１	9.78E+12
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	人類生態学			担当者	末吉　秀二		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	人類生態学の視点から、ヒトの環境への適応を理解することができるようになる。
授業概要	人類生態学は、個体群レベルで人間の生存をとらえ、その生業・食物・人口学的側面に関する包括的な研究から、ヒトの環境への適応を明らかにする学問分野と定義される。本講義は、①生態系のなかの人間、②人間の生存と健康、③人口からみた人間、④環境問題と人間の大テーマをブレークダウンして詳しく説明する。また、今日の環境問題や人口問題の本質について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	到達目標を計るため、試験（80%）、小テスト（10%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、授業でフィードバックするので試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	指定した教科書は必ず購入すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回講義で指定する章を通読し、不明な点を明確にすること（予習）、不明な点が理解できたかを確認すること（復習）。
オフィスアワー	月曜日・金曜日（3限、5限）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	末吉秀二
第２回	生態系と人類の特性	末吉秀二
第３回	人類の起源と進化	末吉秀二
第４回	生存様式の変化と多様性	末吉秀二
第５回	生業と社会	末吉秀二
第６回	身体とその機能	末吉秀二
第７回	行動の生態学	末吉秀二
第８回	栄養と健康	末吉秀二
第９回	病気の生態学	末吉秀二
第１０回	長期的な人口変化	末吉秀二
第１１回	人口指標と集団の適応	末吉秀二
第１２回	現代の人口問題	末吉秀二
第１３回	エネルギーと資源	末吉秀二
第１４回	ライフスタイルと環境	末吉秀二

第１５回	地球環境問題と人類	末吉秀二
第１６回	試験	末吉秀二

教科書			
教・書籍名１	人類生態学	教・出版社名１	東京大学出版会
教・著者名１	大塚柳太郎・河辺俊雄・高坂宏一ほか	教・ＩＳＢＮ１	4-13-052300-
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	数学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／2017～2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／2017～2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

授業計画		担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本

第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	数学			担当者	山本　敦之		
配当学科・研究科	2017年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2017年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	GE-NM-0-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	◎	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。
オフィスアワー	月曜5限

授業計画		担当者
第１回	数的推理：濃度	山本
第２回	数的推理：速さ・距離・時間	山本
第３回	数的推理：ものの値段と個数	山本
第４回	数的推理：定価・原価・利益	山本
第５回	数的推理：割合と値段	山本
第６回	数的推理：仕事算	山本
第７回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り	山本
第８回	数的推理：順列と組み合わせ	山本
第９回	数的推理：確率のとらえ方	山本

第１０回	判断推理：集合	山本
第１１回	判断推理：推論	山本
第１２回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス	山本
第１３回	資料解釈：グラフの領域	山本
第１４回	判断推理：論証	山本
第１５回	空間把握：立体の展開図・断面	山本
第１６回	単位認定試験	山本

教科書			
教・書籍名１	2024年度版 ドリル式 SPI問題集	教・出版社名１	永岡書店
教・著者名１	柳本新二	教・ＩＳＢＮ１	9784522460122
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	韓国地域社会			担当者	李　分一		
配当学科・研究科	2017～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2017～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2017～ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2017～ 2020年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会2年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2017～ 2021年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	SS-BU-2-305		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／８．働きがいも経済成長も／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	地域研究を学ぶ理由は、地域の安定（平和）と繁栄にある。分裂国家・韓国は、北朝鮮と並んで、日本の隣国である。そして日本は、隣国として朝鮮半島との平和的な共存・共生の関係を保つ必要がある。すなわち、様々なグローバルな課題と地域問題が交差する今日のグローバル社会では、特に日本と朝鮮半島との良好な関係を必要とするのである。この講義を受講すれば、韓国と周辺隣国に関する客観的・総合的な知識の習得とともに、国際地域問題に関する総括力・発表力が身に付けられる。
授業概要	世界の地理上には、大小の様々な国家や地域が共存・共生している。それらは自然的、人文社会的な特徴を持ちながら、歴史的な経験を経て現在の国家・地域を形成している。韓国も例外ではない。地域の自然環境や社会環境における様々な地理的事情を有機的に結合して考察することにより、その地域の特色・性格を明らかにする。また、この講義では、戦後韓国社会における産業化や民主化過程を具体的な事例を取り上げて説明する。この科目を受講することにより、地理的な見方・認識の手法を学び取り、韓国などの異文化社会の理解や国際理解を深めることができる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション
評価方法と割合	定期試験（80%）、提出物（10%）、授業態度（10%）等によって評価する。提出物などは、授業でフィードバックを行うので、その提出物などの内容を明確に学習しなければならない。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間やオフィスアワーを利用してフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	（１）授業後には、授業内容に関するミニレポートを提出しなければならない。 （２）単位認定試験を行うので、必ず受けることが必要である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	（１）参加型授業であるために、受講生には事前課題を調べた上で、参加すべきである。授業は、この課題をめぐって行う。 （２）受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、トピック別の宿題とレポートを課す。
オフィスアワー	毎週水曜日5時限目（9304研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	李　分一
第２回	韓国という国	李　分一

第３回	韓国の歴史（民族と国家）	李　分一
第４回	韓国民主主義の位相と行方	李　分一
第５回	韓国民主主義の制約	李　分一
第６回	解放前の要因	李　分一
第７回	解放後の要因	李　分一
第８回	韓国の権威主義体制	李　分一
第９回	民主化・人権擁護運動	李　分一
第１０回	1980年代の韓国	李　分一
第１１回	1980年代の政治体制	李　分一
第１２回	190年代の民主化運動	李　分一
第１３回	1990年代の民主化運動	李　分一
第１４回	韓国政治社会の新潮流	李　分一
第１５回	韓国の民主主義と市民社会	李　分一
第１６回	単位認定試験	李　分一

教科書			
教・書籍名１	プリント使用	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会スポーツ概論			担当者	高藤　順		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社4年			ナンバリング	SS-SM-4-105		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	○	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	◎	ＤＰ６．課題解決力	○	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	学生が、「社会スポーツの概念」及び「社会制度としての社会スポーツの実態」をテーマとし、それらについて地域のスポーツ指導者になるために必要な知識を習得するとともに、指導者としての能力をスポーツ指導現場において発揮できる。
授業概要	現在スポーツは、特に先進諸国においては人々の社会生活の一部となり、きわめて高度に整備され機能している。しかしながら、学校体育や企業スポーツを中心にスポーツが普及・発展してきたわが国の社会スポーツは、1993年日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）開幕以降、文部科学省や日本体育協会、スポーツ競技団体を中心にようやく発展しつつある現状である。また、バブル経済の崩壊、リーマンショック以降、企業クラブが休・廃部が増加する一方、地域・市民を中心とした総合型地域スポーツクラブも増加傾向にある。本講義では、スポーツと社会に関わる様々なしくみや課題及び今後の展望を解説する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	単位認定試験（40%）中間レポート（30%）毎回授業終了後のプレゼンテーション（20%）受講姿勢（10%）評価の詳細については、第1回目の授業において説明する。なお、評価のために実施した小レポートは、授業でフィードバックするので単位認定試験までに見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	講義終了後の小レポートを通して、次回の講義導入時にポイントをフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業終了後の小レポート内容とともに自分なりの考察を毎回授業後、ノートにまとめておくこと。授業に対する取り組みについては、厳しく指導する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業終了後、毎回2時間程度授業内容を必ず復習し、次回のテーマについて予習すること。
オフィスアワー	個人研究室（9405）にて、火曜日4限に実施。

授業計画		担当者
第１回	社会スポーツの概念	高藤
第２回	学校体育との相違点	高藤
第３回	日本における社会スポーツ発展の歴史	高藤
第４回	アメリカにおける社会スポーツ発展の歴史	高藤
第５回	ヨーロッパにおける社会スポーツ発展の歴史	高藤
第６回	日本における社会スポーツの現状	高藤
第７回	社会スポーツ発展のための行政支援	高藤
第８回	社会スポーツ発展のための企業支援	高藤
第９回	FC吉備国際大学シャルムの実践を通した地域貢献活動	高藤
第１０回	地域スポーツクラブ活動の現状と課題	高藤
第１１回	社会スポーツ発展のための地域住民とのタイアップ	高藤
第１２回	民間スポーツクラブの現状と課題	高藤
第１３回	プロスポーツの社会スポーツへの貢献と課題	高藤

第１４回	スポーツを通したまちづくり（地域スポーツクラブ）	高藤
第１５回	スポーツを通したまちづくり（トップリーグクラブ）	高藤
第１６回	単位認定試験	高藤

教科書			
教・書籍名１	スポーツのリスクマネジメント	教・出版社名１	ぎょうせい
教・著者名１	小笠原正・諏訪伸夫　編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-08838-8
教・書籍名２	スポーツ政策の現代的課題	教・出版社名2	日本評論社
教・著者名2	諏訪伸夫・井上洋一・齋藤健司・出雲輝彦　編	教・ＩＳＢＮ2	978-4-535-59514-0

参考書			
参・書籍名１	使用しない。（プリントを配布する）	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	経絡鍼灸学			担当者	孫　基然		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2022年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社2年			ナンバリング	SS-SM-2-324		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	△	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマ： １：経絡とは何かを理解できるようになる。 ２：正しい鍼灸治療を身につけることができる。 到達目標： １：経絡の意義を説明できるようになる。 ２：経絡の走行ルートを理解できるようになる。 ３：鍼の刺し方を身につけることができる。 ４：艾柱の作り方をできるようになる。
授業概要	「経絡学説」は東洋医学における最も重要な生理学の一環であると同時に、臨床各科治療の基礎でもある。本講義ではまず経絡の起源に関わる背景を紹介し、その後「十二正経」を講義する。その中で主に経絡の循行部位、生理機能、病理特徴および分布特徴、相関部位及び代表経穴の取り方を中心として行われる。更に現代医学を併せてそれに関わっている筋肉、神経及び血管などを中心としている。「鍼灸学」について主に鍼の刺し方、灸療法のすえ方、適応症、注意事項及び鍼灸治療のメカニズム、また、中国の鍼灸状況を解説する。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	「経絡の意義、走行ルート、鍼の刺し方及び艾柱の作り方をできるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（５０％）、講義ノート（３０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（２０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。
履修条件・注意事項	毎回の授業において問題提起と討論が可能なようにテキストの指定されたページを熟読してくること。また、学期末のレポート提出が定期試験受験の条件となることから授業終了後にノートを纏めておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。２）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。３）試験は必ず行うので、授業に出席していただけでは単位は取れないので、必ず予習復習を行うこと。予習及び復習にが、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	２）６号館３階の個人研究室において、水曜日３時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	肺経・大腸経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第２回	胃経・脾経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第３回	心経・小腸経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第４回	腎経・膀胱経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第５回	心包経・三焦経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第６回	胆経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然
第７回	肝経の循行ルート及び取穴基準の設定	孫基然

第８回	鍼灸概説	孫基然
第９回	片手挿管	孫基然
第１０回	鍼に関する一般知識	孫基然
第１１回	鍼治療の適応症	孫基然
第１２回	刺鍼手技法	孫基然
第１３回	灸療法概説	孫基然
第１４回	灸療法の実際	孫基然
第１５回	鍼灸理論	孫基然
第１６回	筆記試験	孫基然

教科書			
教・書籍名１	適宜プリント資料を配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	公衆衛生学Ⅰ			担当者	中瀬　克己		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	HS-NU-1-116		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	テーマは公衆衛生である。公衆衛生活動の目的は その国や地域の優先する健康問題に社会資源を配分したり、健康格差を減らしたりする事により、効率的に社会の健康課題に取り組むことである。個人よりは集団を対象とし、個々の病気の治療よりもその病気を起こりやすくしている環境や制度に注目する。現状や介入効果の評価を疫学や統計資料によって行い、学問的に精緻化されている。 到達目標：個人・家族・集団・組織を含むコミュニティ（共同体）を構成する人々の心身の健康並びに疾病・障害の予防、発生、回復及び改善の過程に関わる主要な要因について学び、健康課題を評価する基本的な能力を養う。
授業概要	人を取り巻く社会・文化的、物理・化学・生物学的環境が人のライフスタイル・行動や健康に与える影響と仕組み、それをコントロールするため設けられている公衆衛生を担う機関やその働きの基礎を学ぶ。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	期末の試験（５０％）と授業への取り組み姿勢及び提出物の内容（５０％）で評価する。授業時にアンケートや練習問題を行い、個別の評価にも反映させる。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時にアンケートや練習問題を行い、必要時にフィードバックを行うとともに次回以降の講義内容、進捗等に反映させる。
履修条件・注意事項	プリントを配布し、理解を助けるための演習も行うので、初回授業よりファイルを用意し整理して保存すること。期末試験時にはファイルを元に復習すると効率的である。
実務経験のある教員	該当する ／ 内容：この科目は、自治体の公衆衛生部門において実務経験のある教員が担当し、現状や課題とその解決に必要とされる知識や能力を含めて講義をすることによって、学生の理解を実際的なものとし又深める。
事前学習・事後学習とその時間	「記憶」より「理解」が自らの考えを形作るためには重要である。「なぜそうなのか」といった疑問を持って授業に臨むと理解が深まる。一方、教科書は体系的で簡潔に纏められ確認や整理に有用であり、授業内容の背景理解にはテキスト、参考資料などで補うことを勧める。
オフィスアワー	6号館4 6424研究室にて 毎週水曜2限 教授会がある日を除く または木曜 限を オフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	社会と健康	中瀬克己
第２回	食のイメージマッピング	中瀬克己
第３回	公衆衛生を担う機関	中瀬克己
第４回	行動経済学	中瀬克己
第５回	ソーシャルキャピタルとヘルスプロモーション	中瀬克己
第６回	環境保健	中瀬克己
第７回	医療政策	中瀬克己
第８回	レポート発表、グループワーク	中瀬克己
第９回	定期試験	中瀬克己
第１０回		

第１１回			
第１２回			
第１３回			
第１４回			
第１５回			
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	公衆衛生―健康支援と社会保 制度〈2〉14版 （ただし、新たな版が出版されたら新しいものとする）	教・出版社名１	医学書院
教・著者名１	神馬征峰ら	教・ＩＳＢＮ１	978-4-260-03574-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	公衆衛生がみえる2022-2023	参・出版社名１	メディックメディア
参・著者名１	医療情報科学研究所(編)	参・ＩＳＢＮ１	4896328582、978-4896328585
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	看護学概論			担当者	掛谷　益子、澤田　和子		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	HS-NU-1-201		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	〈テーマ〉看護とは何かを理解するための基盤となる看護の主な概念を学び、看護の対象となるその人とその生活を理解する。そして、看護を実践するための場と仕組みおよび看護専門職の役割や機能を学習する。 〈到達目標〉 1．看護の機能と役割、看護の構成要素を理解できる。 2．看護の対象とある人とその生活を理解できる。 3．看護活動を実践するために必要な法律について理解できる
授業概要	看護を志す初学者として、看護の核となる概念である人間、健康、環境について基本的捉えかたを学び、看護の対象や看護の役割について理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	筆記試験（70%）課題レポート（20%）受講態度（10%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	看護とは何かが考えられるように主体的に学習に取り組む。 日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュース報道に関心をもち、視野を広げておく。 授業終了後は課題レポートを期限厳守で提出する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、臨床での実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、医療現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習：授業において問題提起と討論が可能なように教科書の該当ページを熟読しておくこと。 復習：授業終了後に授業内容を再確認する。
オフィスアワー	研究室にて平日昼休憩(12:40～13:30)に実施する。

授業計画		担当者
第１回	看護とは　看護の概念	掛谷
第２回	看護の役割と機能	掛谷
第３回	看護の対象の理解　人間のこころ・からだ・発達	澤田
第４回	看護の対象の理解　地域での暮らし	澤田
第５回	健康とは	掛谷
第６回	ライフサイクルと健康・生活	澤田
第７回	看護の歴史	掛谷
第８回	看護職のキャリア	掛谷
第９回	看護における倫理　現代社会と職業倫理	掛谷
第１０回	看護における倫理　看護実践における倫理的問題	掛谷

第１１回	看護サービスの提供	掛谷
第１２回	国際化と看護	澤田
第１３回	看護をめぐる制度と政策	掛谷
第１４回	災害時における看護	澤田
第１５回	私の看護観	掛谷・澤田
第１６回	試験	掛谷・澤田

教科書			
教・書籍名１	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　　基礎看護学①　看護学概論　医学書院	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	発達心理学			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-PS-1-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	○	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	○

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマは、様々な視点から人間の発達過程について理解することである。そのために、身体、脳、感情、認知、人間関係の発達など、様々な観点から人間の発達を分析し、理解するための知識を身に付けられるようになることを到達目標とする。
授業概要	胎児期、乳幼児期、児童期、青年期、成人期の各時期における発達の様相や発達課題について様々な観点から学習する。また、各発達段階における臨床的問題についても学習し、心理的援助についての考察も深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	評価は、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）、期末試験（60%）とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テスト、レポートは授業時間内に答え合わせやフィードバックを行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 事前に各回の内容について伝達するので、予習を行うこと。小テストなども行うので、自身の習熟度を確認し、復習を欠かさないこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	予習として次回の内容について教科書を読んでくること。授業で学習し、ノートにまとめた内容について復習してくること。次回の授業時に口頭で質問したり、小テスト等で確認します。予習・復習には、1－2時間程度を要する。
オフィスアワー	研究室にて、火曜日4時限に実施。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	ライフサイクルについて	宇都宮
第３回	胎児期	宇都宮
第４回	新生児期	宇都宮
第５回	乳児期：愛着の形成	宇都宮
第６回	乳児期：言葉の発達	宇都宮
第７回	幼児期：表象の獲得	宇都宮
第８回	幼児期：社会性の発達	宇都宮
第９回	児童期：有能感と劣等感	宇都宮
第１０回	児童期：学校への適応・いじめ	宇都宮
第１１回	青年期前期	宇都宮
第１２回	青年期後期	宇都宮
第１３回	青年期の病理	宇都宮
第１４回	成人期	宇都宮
第１５回	まとめ	宇都宮
第１６回	期末試験（筆記試験）	宇都宮

教科書			
教・書籍名１	よくわかる発達心理学	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦（編）	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05379-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	デジタルメディアと社会			担当者	大谷　卓史		
配当学科・研究科	2018～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2018～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 理学1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年／ 2018年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 社福1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 経営社会1年／ 2018～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年／ 2018～ 2019年度 吉備国際大学 アニメ文化 アニメ文化1年			ナンバリング	AN-AN-1-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	◎	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／９．産業と技術革新の基盤をつくろう／１２．つくる責任・つかう責任／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	映像をもとに、現代の情報技術とコミュニケーションをめぐる倫理的問題について学ぶ。 現代は、情報技術が広く社会に浸透し、人びとのコミュニケーションと行為を媒介する情報社会である。また、現代の情報技術はデジタルコンピューティングをベースとしているので、現代の社会はデジタル技術とデジタルメディアを行為とコミュニケーションの基盤とする社会と見ることができる。 本講義は、デジタルメディアを媒介とする行為・コミュニケーションの性質を理解し、これらの行為･コミュニケーションにおける規範がどのようなものであるべきか構想するために必要な情報倫理学の基本的な考え方を学ぶ。 到達目標は、学生が次の３つのことができるようになることである。 １．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションの性質を理解できるようになる。 ２．倫理学の基本的な考え方とその枠組みを理解できるようになる。 ３．デジタルメディアが媒介する行為やコミュニケーションにおいて、どのような法的・倫理的問題が生じる可能性があるか理解できるようになる。 ラーニングアウトカムは、「デジタルメディアと情報社会の理解」および「デジタル社会への参加態度」である。
授業概要	現代において、デジタルメディアが媒介する私たちの行為とコミュニケーションにかかわる諸問題について、仮想的事例や現実の事例から学ぶ。これらの諸問題に対する基本的なアプローチには、1980年代以降に発展してきた情報倫理学の考え方と枠組みを活用する。 具体的実例を通して、現代の生活や社会のさまざまな局面における情報技術の働きを知るとともに、情報技術が基盤となる現代社会における情報とコミュニケーションの倫理的問題について考察する。授業では適宜映像作品やドキュメンタリー、講演・シンポジウムの映像記録などを活用して、現代的問題を考察できるようにする。 講義の最終回に全体のまとめをおこなう。 毎回簡単な課題提出を求める。内容は自分の意見であれば自由で採点には関係がないが、授業内容を理解したうえでの意見であるかどうかなどを課題で確認する。課題に対しては、次回以降授業担当者から返答を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義内における自主的な質問・発言やディスカッションへの積極的な参加態度、講義内容にかかわる教員からの質問への回答を30%の重みづけで評価する（受講態度）。また、課題等の提出物10%、試験の成績を60%として最終的に総合評価を行う。これらの３つの評価をバランスよく得ていることを単位認定（到達目標）の判断基準とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィード	授業課題に関しては、次回授業でコメントシート（シャトルカード）や、授業内での言及・コメントなどによって

バック方法	（原則課題回答者名は匿名）、フィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に積極的に取り組む姿勢が単位取得には必要です。 講義形式の場合も、授業中に受講者に対して質問をします。また、授業の最後には、授業内容に関連した課題を出しますので、解答してください。解答に対しては、次回以降の授業でコメントや解説をします。 授業計画の内容は、理解度の状況に応じて変更になることがあります。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対して、次のように予習・復習をおこなうこと。 予習：レジュメ等の資料を配布するので、指示に従って予習すること。約2時間。 復習：授業内容と資料を要約し、授業内で提示された課題について自分自身で考え回答する。約2時間。
オフィスアワー	春学期：毎週木曜日4時限目、14617研究室（大谷研究室） 秋学期：毎週水曜日3時限目、14617研究室（大谷研究室）

授業計画		担当者
第１回	イントロダクション	大谷
第２回	なぜ情報倫理が必要なのか	大谷
第３回	倫理とは何だろうか（１）倫理学と倫理・倫理学で使われる言葉	大谷
第４回	倫理とは何だろうか（２）倫理学の基本的な立場	大谷
第５回	グーグル革命（ビデオ教材）視聴と解説	大谷
第６回	サーチエンジンの倫理	大谷
第７回	ソーシャルネットワーキングサービス	大谷
第８回	フェイクニュースと情報の信頼	大谷
第９回	プライバシーの基礎	大谷
第１０回	個人情報保護制度とその思想	大谷
第１１回	監視と見守り	大谷
第１２回	著作権の法・技術・ビジネス	大谷
第１３回	AI・ロボットの倫理	大谷
第１４回	バーチャルリアリティー	大谷
第１５回	まとめ	大谷
第１６回	筆記試験（オンライン試験機能利用も）	大谷

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	改訂新版　情報倫理入門	参・出版社名１	アイ・ケイコーポレーション
参・著者名１	土屋俊監修、大谷卓史編著、江口聡、喜多千草、永崎研宣、村上祐子、坪井雅史、川口嘉奈子、吉永敦征、川口由起子著	参・ＩＳＢＮ１	4874923240
参・書籍名２	AIの倫理学	参・出版社名2	丸善出版
参・著者名2	クーケルバーグ著、直江清隆訳者代表	参・ＩＳＢN2	978-4621305881

授業科目名	心理学概論Ⅰ			担当者	橋本　翠		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-101		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【テーマ】行動(心の働き)と環境との関わり，つまりヒトが環境に「適応する」とはどういうことなのか，について，感覚，知覚，記憶，学習の観点から理解する。 【到達目標】人間の行動(心の働き)には，環境が大きな影響を与える。そのため，学生は人間がどのように外界からの情報を取り入れ，適応行動を行っていくのかについての理解を深めることができる。
授業概要	本講では，人間が自分を取り巻く環境からさまざまな情報を取り入れ，蓄積し，また多くの経験を積みながら，置かれた環境に適応していく。我々は，錯覚などを含めて外界をどのように捉えるのか，また，その情報をどのように記憶したり，忘却したりするのか，さらにそれらをもとにどのように適応行動を行っていくのかについて講義する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	学修態度（減点法），授業時に提出する理解度テスト(30%)，演習(ディスカッション含)・感想(minutes paper)(10%)，試験の得点(60%)の合計点により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	理解度テストおよびminutes paperについては，授業開始前に返却し解説を行う。
履修条件・注意事項	授業終了時に理解度テストを行うので，予習をしっかりとやってくること。大学生としての基本的所作をわきまえて講義に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習については毎回，次の講義内容について指示をするので，資料をよく読み，各回の内容について学習(2時間)すること。復習については，授業時に配布する資料を読み，内容を理解し，身近な関連トピックスにも目を向けて見聞を広げること(2時間)。
オフィスアワー	月曜5限：個人研究室

授業計画		担当者
第１回	(1) OR/心理学とは	橋本翠
第２回	(2) 心理学の課題と研究法	橋本翠
第３回	(3) 感覚と知覚(外界を捉える)	橋本翠
第４回	(4) 感覚と知覚(知覚と認知)	橋本翠
第５回	(5) さまざまな知覚(視覚の不思議)	橋本翠
第６回	(6) さまざまな知覚(感覚器官の性質)	橋本翠
第７回	(7) 記憶とは	橋本翠
第８回	(8) 記憶のしくみ(感覚記憶)	橋本翠

第９回	(9) 記憶のしくみ(短期記憶)	橋本翠
第１０回	(10) 記憶のしくみ(長期記憶)	橋本翠
第１１回	(11) 記憶術の原理	橋本翠
第１２回	(12) 学習の基本原理(古典的条件づけ)	橋本翠
第１３回	(13) 学習の基本原理(道具的条件づけ)	橋本翠
第１４回	(14) 認知学習	橋本翠
第１５回	(15) 学習原理の応用	橋本翠
第１６回	(16) 定期試験	橋本翠

教科書			
教・書籍名１	配布資料	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心理学の基礎　四訂版	参・出版社名１	培風館
参・著者名１	今田寛，宮田洋，賀集寛　共編	参・ＩＳＢＮ１	4-563-05670-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理学概論Ⅱ			担当者	三宅　俊治		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-102		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	多様な心理学分野の中で、時間の経過にともなって発達・退行していく心理過程、また、心理社会的枠組みの拡がりともなって拡充・拡散していく心理構造を理解できるようになる。適応・偽擬適応・不適応の過程を個人差の観点から捉えるのがテーマである。発達、personality 構造、適応行動の阻止事態等についての授業内容の6割以上を理解することが到達目標である。
授業概要	心理学分野は多様である。そのうち、ヒトとして生まれて、一人の人間として心理的な発達を遂げる過程を理解する。そして、人間社会の中で社会的に成長していく際の他者や社会的枠組みについても理解を深める。このように、時間軸に沿って、また心理社会的枠組みの拡大に沿って、深化・拡大していく心理過程について理解を深めることによって、教職免許履修の基礎と心理学的基礎が確立できる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション
評価方法と割合	定期試験60点。予習・復習の証拠となる課題、レポート40点。計100点で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、提出後、次回の授業で行う。
履修条件・注意事項	毎回出席するのは当然のこと。私語・飲食厳禁。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などなどから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについては返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	遺伝と環境	三宅俊治
第３回	誕生から青年へ	三宅俊治
第４回	生涯発達	三宅俊治
第５回	パーソナリティ・性格・気質	三宅俊治
第６回	パーソナリティ理論	三宅俊治
第７回	モチベーション	三宅俊治
第８回	諸種の動機	三宅俊治
第９回	知能	三宅俊治
第１０回	心理学における検査	三宅俊治
第１１回	脳と心	三宅俊治
第１２回	心の不調	三宅俊治
第１３回	適応の機制	三宅俊治
第１４回	ストレスの心理	三宅俊治
第１５回	健康心理	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	蘇りの心理学通論	教・出版社名１	中央公論事業出版
教・著者名１	三宅俊治（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBH978-89514-507-7

			C3011
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの心理発達			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

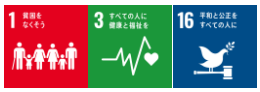
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	系統発生的な視点を取り入れながら、とくに子ども期に焦点を当てて、ヒト・人間の発達・発生をとらえることをテーマとし、動物としてのヒト発達の特殊性や共通性を知り、発達心理学の幅広い知識を習得するとともに、心理学的な考え方を理解することを到達目標とする。
授業概要	系統発生的な観点をふまえつつ、ヒトの特殊性を学ぶとともに、個体発生的な観点からは、胎児期から思春期に至る人間の行動や心的機能の発生、発達、成熟過程等の変化について学習する。また、人間のもつ諸機能の発達を相互関連的に理解し、それぞれの発達段階における発達の遅れやつまずきなどの問題についても学習する。 　生涯発達の心理学を念頭に置きつつも、ここでは子どもの時期に焦点を当て、個々の心的機能・問題について多面的に概説していく。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	小テスト（30%）、定期試験（70%）の結果に受講態度を勘案し総合的に評価する。つまり，テストで満点であっても受講態度が悪いと，不可ということもある。小テストは採点後、フィードバックとして返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストは採点後返却し、必要に応じて授業時間内に解説する。
履修条件・注意事項	人間の発達的な理解を深めるために真剣に学習に取り組むこと。 頻繁に、小テストを行うので、最低限，教科書の当該箇所は精読し，予習・復習を怠ることのないようつとめること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習：テキストの該当箇所の精読。（2時間） 復習：テキストとともに、講義中に配付する資料と返却された小テスト結果を中心に復習すること。（2時間）
オフィスアワー	月曜４限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達における生物学的基盤	森井
第３回	胎児にできること	森井
第４回	新生児の見る世界、聴く世界	森井
第５回	発達初期の不思議	森井
第６回	母子相互作用を促進する仕組み	森井
第７回	愛着形成と親子関係	森井
第８回	愛着関係に影響する要因	森井
第９回	愛着剥奪の事例	森井
第１０回	幼児期の認知発達	森井
第１１回	遊びと認知発達	森井
第１２回	遊びと仲間関係	森井
第１３回	ことばの前のことば	森井
第１４回	ことばの発達	森井
第１５回	まとめ	森井

第１６回	試験		森井
教科書			
教・書籍名１	乳幼児のこころ	教・出版社名１	有斐閣
教・著者名１	遠藤・佐久間・徳田・野田	教・ＩＳＢＮ１	978-4-641-12429-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	幼児心理学への招待　［改訂版］	参・出版社名１	サイエンス社
参・著者名１	内田伸子	参・ＩＳＢＮ１	978-4781911823
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会福祉			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-201		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	社会福祉の概要や現状と課題を理解することをテーマとし、下記を到達目標とする。 １．学生が、現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 ２．社会福祉の制度や実施体系について理解する。 ３．社会福祉の範囲や法体系について学ぶ。 ４．社会福祉の相談援助について理解する。 ５．社会福祉における利用者保護に関わる仕組みについて理解する。 ６．社会福祉の動向と課題について理解する。
授業概要	少子高齢化社会の中で、保育者は子どもの保育や子ども家庭支援の役割を担っている。それらを果たすために必要な社会福祉の知識や技術について理解する。具体的には、社会福祉の制度や実施体系、社会福祉の範囲や法体系、相談援助の方法（ソーシャルワークの技術や方法）、利用者保護に関わる仕組みなどについて学ぶ。また、社会福祉の動向と課題についても理解する。身近な事例を用いて、討論する時間なども設けていきたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験（評価基準６割）、課題（発表・提出物・レポート）（２割）、受講態度（２割）など総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題に関しては、紙面によりコメントを返却し、講義の中でもフィードバックする。単位認定試験の後は、事前に配布する講義のまとめのプリントを見て内容を確認すること。
履修条件・注意事項	欠席の場合、理由を書いた欠席届を提出してほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業計画に沿って、事前に教科書を読んで予習をしておくこと。授業中に、疑問点や気づきをメモし、受講後調べておくこと。学習したことを整理して、ノートの左側などにキーワードを書き入れ,、それを見出しとし説明ができるように復習すること。また、テレビや新聞などで報道される社会福祉に関する問題にも関連づけて考察し、ノート等にまとめておくこと。予習・復習は、毎回９０分ずつおこなうこと。
オフィスアワー	10号館3階１０３１２研究室にて、毎週火曜日２限をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	１．社会福祉の理念と概念	中野明子
第２回	２．子ども家庭福祉と社会福祉	中野明子
第３回	３．社会福祉の道すじ	中野明子
第４回	４．社会福祉の範囲と法体系	中野明子
第５回	５．社会福祉行財政と実施機関	中野明子

第６回	６．社会福祉施設と専門職	中野明子
第７回	７．社会保障制度	中野明子
第８回	８．社会福祉における利用者保護に関わる仕組み	中野明子
第９回	９．社会福祉における相談援助 (1)相談援助の意義と原則	中野明子
第１０回	10．社会福祉における相談援助 (2)相談援助の方法と技術	中野明子
第１１回	11.社会福祉の動向と課題 (1)障害のある人の福祉	中野明子
第１２回	12.社会福祉の動向と課題 (2)高齢者の福祉	中野明子
第１３回	13.社会福祉の動向と課題 (3)在宅福祉・地域福祉の推進	中野明子
第１４回	14.社会福祉の動向と課題 (4)少子高齢化社会における子育て支援	中野明子
第１５回	15.社会福祉の動向と課題 (5)諸外国の動向	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	九訂『保育士をめざす人の社会福祉』	教・出版社名１	株）みらい
教・著者名１	相澤譲治他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86015-537-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の計画と評価			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／2020年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業3年			ナンバリング	PS-CE-3-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、保育課程の編成に伴う基本的な理論と技法を理解することができる。保育における計画、実践、省察・評価、改善の過程について、全体構造とそれぞれの役割とその関係性について理解することができる。子どもにとって大切な遊びを中心とした保育カリキュラムについて、理論的な理解と子どもの発達を見通した保育のあり方、長期・短期の指導計画の意味とその実質的内容など、保育環境の構成にも考慮することで理解することができる。
授業概要	保育の計画を立てる上で大切なこととは何か。また、計画、実践、省察・評価、改善におけるそれぞれの意味と役割の理解。保育内容の充実に伴い着目すべき点とその持つ意味。これらの内容について、その基本的内容と自らの理論を構築し、将来的に自らが立案する上での基礎を構築する。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度、提出物、試験から総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	保育の計画を立てる上で、理解しておかなければならない基本的事項が多く含まれている。将来的に保育現場で必要な立案力には大切な内容となるため、予習・復習をしっかり行い、自らの計画、実践、省察・評価、改善の基礎を構築してください。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	保育の基本と計画：保育とは	秀
第２回	保育の基本と計画：保育を計画するとは	秀
第３回	指導計画の種類と役割	秀
第４回	保育における計画の考え方：0，1，2歳児を中心に	秀
第５回	保育における計画の考え方：3，4，5歳児を中心に	秀
第６回	小学校における計画との関係	秀
第７回	日案から週案の作成：幼稚園4歳児の場合	秀
第８回	日案から週案の作成：保育所3歳児の場合	秀
第９回	教育課程の見直し	秀
第１０回	全体的な計画の見直し	秀
第１１回	0，1歳児の指導計画の実際	秀
第１２回	2歳児の指導計画の実際	秀
第１３回	3歳児の指導計画の実際	秀
第１４回	4歳児の指導計画の実際	秀

第１５回	5歳児の指導計画の実際		秀
第１６回	試験		秀
教科書			
教・書籍名１	最新保育講座５　保育課程・教育課程総論	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	柴崎正行・戸田雅美・増田まゆみ　編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05733-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	子育て支援論			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-203		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	本講義は幼稚園教諭一種免許状取得のための必修科目であるが、家庭や地域社会における子どもの育ちの保障をテーマとして、次世代育成支援や子ども家庭福祉の現状や課題について学ぶことにより、各種児童福祉施設や機関における子育て支援を担う保育者の専門性について理解することができる。
授業概要	今日の子どもを取り巻く生活環境の大きな変容の中で、家庭や地域における子育て力の低下により生じている様々な子育て問題について論じるとともに、各種の制度・政策による子育て支援プランについて概説し、子育て支援の役割を担う援助者に求められる専門性について考察する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度（４０％）、課題レポート（６０％）の結果を合わせて評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートについては学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	子どもの権利保障や人権擁護、身近な自治体の取り組みなどにも関心を持ち、学びに積極的に取り組んでほしい。 授業では教材資料を多数配布するので事前に目を通し（予習）、授業後は内容を整理し、以後の学習に活用すること（復習）。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：障がい児施設・児童養護施設の主任児童指導員、副園長として児童の発達支援および保護者に対する子育て支援を実践した。このような経験を踏まえ、保育者の専門性を活かした子育て家庭に対する支援の実際について実践例を交えた授業を行い、履修学生の理解を深めさせる。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）毎回配布する資料整理や自己検索資料収集等、アクティブラーニングの学修態度が肝要である。
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	１．子ども・子育てを取り巻く環境	栗田喜勝
第２回	２．子育て支援に求められること	栗田喜勝
第３回	３．子育て支援の思想と現実	栗田喜勝
第４回	４．子育て支援の基礎	栗田喜勝
第５回	５．子ども虐待とドメスティック・バイオレンス（ＤＶ）	栗田喜勝
第６回	６．子育て支援の内容と方法	栗田喜勝
第７回	７．子育て支援ネットワークの意義	栗田喜勝
第８回	８．保育制度の改革動向	栗田喜勝
第９回	９．子育て支援の事例	栗田喜勝
第１０回	１０．要養護児への支援例	栗田喜勝
第１１回	１１．被虐待児への支援例	栗田喜勝
第１２回	１２．不登校児への支援例	栗田喜勝

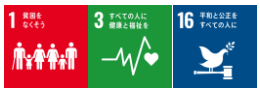
第１３回	１３．非行児への支援例	栗田喜勝
第１４回	１４．心身障害児への支援例	栗田喜勝
第１５回	１５．学習のまとめ	栗田喜勝
第１６回	１６．レポート試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	初回講義時に授業用資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	子育ち・子育て支援学	参・出版社名１	保育出版社（直販扱い）
参・著者名１	寺見陽子編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-938795-93-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	子ども家庭福祉			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-205		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	「子ども家庭福祉の概要を理解し、これからの課題や展望について学ぶ」をテーマとする。 到達目標は以下の通りとする。 1.学生が、現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。 2.子ども家庭福祉の人権擁護について理解する。 3.子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。 4.子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。 5.子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。
授業概要	児童虐待や家庭内暴力（DV)、子どもの貧困、障害児問題、社会的養護など、児童家庭福祉の現状や課題を明らかにし、それに対応した制度や法体系、専門職について理解する。また、保育・教育・医療･療育などのネットワークの中で課題の解決を考察し、地域で子育て家庭を支える一員として実践できる保育士になれるよう指導したい。身近な話題を取り上げ討議する時間なども設けていきたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	定期試験（評価基準６割）、課題（提出物・レポート）（２割）、受講態度（２割）など総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題に関しては講義の中でフィードバックする。単位認定試験後は、授業の内容をまとめたプリント（授業期間に配布）にて内容を確認すること。
履修条件・注意事項	新聞やニュース、参考文献などから、児童家庭福祉の問題に関する情報を収集しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	授業計画に沿って、事前に教科書を読んで予習をしておくこと。授業中に、疑問点や気づきをメモしておき、受講後調べておくこと。学習したことを整理して、ノートの左側などにキーワードを書き入れ、それを見出しとし、説明ができるように復習すること。また、テレビや新聞などで報道される児童･家庭に関する問題とも関連づけて考察し、ノートにまとめておくこと。予習・復習は、 毎回９０分ずつおこなうこと。
オフィスアワー	10号館3階１０３１２研究室にて、毎週火曜日２限をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	１．子ども家庭福祉の理念と概念	中野明子
第２回	２．子ども家庭福祉の歴史	中野明子
第３回	３．現代社会と子ども家庭福祉	中野明子
第４回	４．子どもの人権擁護の歴史	中野明子
第５回	５．児童の権利に関する条約と子どもの人権擁護の現状と課題	中野明子
第６回	６．子ども家庭福祉の制度と法体系	中野明子

第７回	７．児童福祉施設及び子ども庭福祉の専門職	中野明子
第８回	８．子ども虐待・DVとその防止	中野明子
第９回	９．ひとり親家庭、貧困家庭等の子どもと支援	中野明子
第１０回	10.障害のある子どもの現状と支援	中野明子
第１１回	11.母子保健と子どもの健全育成	中野明子
第１２回	12.少年非行等の現状と支援	中野明子
第１３回	13.少子化と地域子育て支援	中野明子
第１４回	14.多様な保育ニーズへの対応	中野明子
第１５回	15.子ども家庭福祉の動向と展望	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	保育士をめざす人の子ども家庭福祉	教・出版社名１	(株) みらい
教・著者名１	波田埜　英治・辰巳 隆 編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86015-468-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	相談援助の理論と方法Ⅰ			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-206		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、ソーシャルワークの観方や援助方法の基本を知ることである。到達目標は次の通りである。 １．学生が、社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの援助対象や援助観、援助方法などの基本的な知識を得ることができる。 ２．ソーシャルワーカーとしての望ましい価値、知識、技術を身につけることができる。
授業概要	相談援助の全般について講義する。援助活動の意義、専門職の援助活動、援助技術の理論、援助技術の体系、援助技術の展開過程などである。講義では、学生の理解を深めるために、具体的な事例や現在の援助技術の動向についてもふれる。また、学生による発表も実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業態度（20%）、提出物・発表（20%）、試験（６0%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に出した課題は、次の週の授業でフィードバックする。試験結果は点数と解答のコメントをフィードバックする。
履修条件・注意事項	単位の取得には3分の2以上の出席が条件。参考文献による予習と授業後の復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、授業範囲について参考文献を使い整理しておくこと。わからないところはまとめておくこと。復習として、授業で学んだことをまとめること。予習復習には９０分以上費やすこと。
オフィスアワー	毎週火曜日の２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．相談援助を学ぶ意義	中野明子
第２回	２．相談援助の理念	中野明子
第３回	３．福祉行政、民間施設・組織における相談援助の専門職	中野明子
第４回	４．相談援助の理論体系	中野明子
第５回	５．ソーシャルワークの専門性の構造	中野明子
第６回	６．ソーシャルワークの定義	中野明子
第７回	７．ソーシャルワークの価値と倫理	中野明子
第８回	８．ソーシャルワークの歴史（１）基礎確立期（～1930年代）（２）発展期（1940年代～50年代半ば）	中野明子
第９回	９．ソーシャルワークの歴史（３）展開期（1950年代半ば～60年代）（４）統合化	中野明子

第１０回	10.　ソーシャルワークの歴史（５）ジェネラリスト・ソーシャルワーク	中野明子
第１１回	11. ケースワークの原則	中野明子
第１２回	12. グループワークの原則	中野明子
第１３回	13. 相談援助と保育	中野明子
第１４回	14. 保育所における相談援助の事例	中野明子
第１５回	15. 地域の子育て家庭に対する相談援助の事例	中野明子
第１６回	16. 筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	授業では毎回レジュメを配布する。必要な文献はその都度紹介する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	相談援助の理論と方法Ⅰ	参・出版社名１	中央法規出版
参・著者名１	社会福祉士養成講座編集委員会編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-3254-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	相談援助の理論と方法Ⅱ			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-207		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、ソーシャルワークの観方や援助方法の基本を知ることである。学生が、１．社会福祉の援助技術であるソーシャルワークの援助対象や援助観、援助方法などの基本的な知識を得ることができる。２．ソーシャルワーカーとしての望ましい価値、知識、技術を身につけることを到達目標とする。
授業概要	相談援助の全般について講義する。相談援助活動の意義、相談援助の理論、相談援助の体系、相談援助の展開過程などである。講義では、学生の理解を深めるために、具体的な事例も取り上げる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業態度（20%）、提出物・発表（20%）、試験（６0%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に出した課題は、次の週の授業でフィードバックする。試験結果は点数と解答のコメントをフィードバックする。
履修条件・注意事項	単位の取得には3分の2以上の出席が条件。参考文献による予習と授業後の復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、授業範囲について参考文献を使い整理しておくこと。わからないところはまとめておくこと。復習として、授業で学んだことをまとめること。予習復習には９０分以上費やすこと。
オフィスアワー	毎週火曜日の２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．相談援助の展開過程（１）相談援助の展開過程の流れ	中野明子
第２回	２．相談援助の展開過程（２）ケースの発見（２）受理面接（インテーク）	中野明子
第３回	３．相談援助の展開過程（３）問題把握からニーズ把握まで（４）アセスメント	中野明子
第４回	４．相談援助の展開過程（４）目標設定（５）プランニング・支援実施	中野明子
第５回	５．相談援助の展開過程（６）モニタリング（７）再アセスメント（８）評価	中野明子
第６回	６．相談援助のための面接　（１）目的と展開	中野明子
第７回	７．相談援助のための面接　（２）技術とコミュニケーション	中野明子
第８回	８．相談援助のための記録の技術（１）意義と目的	中野明子
第９回	９．相談援助のための記録の技術（２）種類と活用	中野明子
第１０回	10．地域援助技術の援助原則（原則１～３）	中野明子
第１１回	11．地域援助技術の援助原則（原則４～７）	中野明子
第１２回	12．相談援助の多様な専門職との協働	中野明子
第１３回	13．相談援助の社会資源の活用・調整・開発	中野明子
第１４回	14．ケアマネジメント・スーパービジョン・コンサルテーション	中野明子
第１５回	15．　まとめ	中野明子
第１６回	16．筆記試験	中野明子

教科書

教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１	授業では毎回レジュメを配布する。必要な文献はその都度紹介する。	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	相談援助の理論と方法Ⅰ	参・出版社名１	中央法規出版
参・著者名１	社会福祉士養成講座編集委員会編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-3254-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	子ども家庭支援論			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、家庭支援の意義とその方法を学ぶことである。到達目標としては次の通りである。 １．学生が、子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解する。 ２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解する。 ３．子育て家庭に対する支援の体制について理解する。 ４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援 の現状、課題について理解する。
授業概要	家族機能の衰退や家族の病理が深刻な問題とされている一方で、家族はなお基本的な社会集団としての役割を期待されている。家族の意義やその有用性を再認識し、家族のもつ力を活用した家庭支援のあり方を講義する。とりわけ家族・家庭への援助技術について詳しく講義する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業態度（20%）、課題発表（20%）、試験（60%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に出された課題は次の週の授業時にフィードバックする。試験に関する解説をフィードバックする。
履修条件・注意事項	単位の取得には3分の2以上の出席が条件。教科書による予習や講義後の復習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習は90分以上を費やし、毎回の授業内容について、教科書や関連する文献で調べておき、わからないところはまとめておくこと。復習も90分以上を費やし、授業で学んだことを整理しておくこと。適宜、宿題を出す。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．子ども家庭支援の意義と必要性	中野明子
第２回	２．子ども家庭支援の目的と機能	中野明子
第３回	３．子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	中野明子
第４回	４．子育て家庭の福祉を図るための社会資源	中野明子
第５回	５．保育の専門性を活かした子ども家庭支援	中野明子
第６回	６．子どもの育ちの喜びの共有	中野明子
第７回	７．保護者および地域の実践に対する支援	中野明子
第８回	８．保育士に求められる基本的態度	中野明子
第９回	９．家庭の状況に応じた支援	中野明子
第１０回	10．地域資源の活用と関連機関との連携・協力	中野明子

第１１回	11.子ども家庭支援の内容と対象	中野明子
第１２回	12.保育所等を利用する子どもの家庭への支援	中野明子
第１３回	13.地域の子育て家庭への支援	中野明子
第１４回	14.要保護児童およびその家庭に対する支援	中野明子
第１５回	15.子育て支援に関する課題と展望	中野明子
第１６回	16.筆記試験	中野明子

教科書			
教・書籍名１	新基本保育シリーズ　⑤　子ども家庭支援論	教・出版社名１	中央法規出版
教・著者名１	編集：松原　康雄他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-5785-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理演習Ⅰ（面接）			担当者	宇都宮　真輝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-209		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：心理支援を要する者等に関する知識及び技能を身につけるため、心理面接についての基礎的な知識とスキルを学ぶことがこの授業のテーマである。 到達目標：心理面接の諸理論、面接技法など、心理支援に必要な知識と技能の基礎を習得できることが到達目標である。
授業概要	講義と演習を並行して行い、心理面接の基礎理論を理解した上で、面接技法を体験的に学んでいく。事例検討やロールプレイイングを通して、心理支援を要する者等に対するコミュニケーション、心理面接技法などを体験的に学んでもらう。またグループアプローチの一つである構成的グループエンカウンターも実施したいと考えている。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	取り組み姿勢（４０%）とレポートおよびポートフォリオ（６０%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポートやポートフォリオのフィードバックは授業内で取り上げ行う予定。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。各回レポートを出し、最後にポートフォリオとしてまとめたものを提出してもらう。また、「傾聴の基本」の部分については、説明と実践を切り離して行うことが難しいため、2コマ連続（1・2時限連続）で行う回を複数回含むので履修の際は注意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：臨床心理士、公認心理師の資格を有しており、心理相談室、学生相談、スクールカウンセリングにおける実務経験あり。
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習した部分について、復習すること。授業の中で口頭やレポート等で確認を行う。 次回行う部分について、事前に学習しておくこと。復習と事前学習に各1-2時間程度を要する。
オフィスアワー	宇都宮：火曜日2時限目

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	宇都宮
第２回	傾聴について	宇都宮
第３回	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ理論：ロジャーズ	宇都宮
第４回	ｶｳﾝｾﾘﾝｸﾞ理論：その他	宇都宮
第５回	傾聴：関わり行動	宇都宮
第６回	傾聴：質問の仕方（説明）	宇都宮
第７回	傾聴：質問の仕方（実践）	宇都宮
第８回	傾聴：はげまし等（説明）	宇都宮
第９回	傾聴：はげまし等（実践）	宇都宮
第１０回	傾聴：感情の反映等（説明）	宇都宮
第１１回	傾聴：感情の反映等（実践）	宇都宮
第１２回	傾聴：まとめ	宇都宮
第１３回	ロジャーズの面接（DVD）	宇都宮
第１４回	構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ（説明）	宇都宮
第１５回	構成的ｸﾞﾙｰﾌﾟｴﾝｶｳﾝﾀｰ（実践）	宇都宮

第１６回	ポートフォリオ提出およびレポート試験		宇都宮
教科書			
教・書籍名１	授業内で資料プリントを配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	マイクロカウンセリング技法ー事例場面から学ぶ	参・出版社名１	風間書房
参・著者名１	福原眞知子	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7599-1637-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	健康・医療心理学			担当者	村上　勝典		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-210		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を理解する」ことが授業のテーマである。 到達目標は、健康行動に関する基礎的な理論の理解と、生活習慣病の予防やストレスマネジメントについて理解できることである。
授業概要	健康心理学についての基礎的な内容を紹介する。健康に関連する心理学的な知見、健康心理学で用いるアセスメントや、カウンセリングなどについて紹介する。また、健康心理学で用いられる心理テストの体験を取り入れておこなう。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	テーマ「人の健康に対する意識、及び意識や行動(健康関連行動、生活習慣など)が健康に及ぼす影響・効果を検討する」の到達度について、小テストおよびレポート課題の結果や定期テストの結果により総合的に評価する。具体的には、受講態度（10%）、小テスト・レポート（30%）と試験（60%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テスト等は、授業でフィードバックをおこなう。
履修条件・注意事項	積極的かつ真摯な態度で授業に臨むこと。 予習と復習を欠かさずにおこなうこと。 プリントを用いて講義を進めるので、復習しやすいようにファイリングすること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習（2時間程度）として、次回の授業計画の内容について調べ、理解できない点をまとめて授業に臨むこと。 復習（2時間程度）として、授業の内容をノートに取り、それを読み返すこと。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週木曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	健康心理学とは	村上
第２回	健康行動に関する基礎理論	村上
第３回	動機づけ理論	村上
第４回	健康行動とその理論モデル	村上
第５回	健康問題に関する予防	村上
第６回	ストレスとは	村上
第７回	ストレスに関するモデル	村上
第８回	ストレス対処	村上
第９回	疾病とパーソナリティ	村上
第１０回	ソーシャルサポート	村上
第１１回	アセスメント	村上
第１２回	健康心理カウンセリング	村上
第１３回	チーム医療と役割	村上
第１４回	医療領域の対象疾患と支援	村上
第１５回	災害心理学	村上

第１６回	定期試験	村上	
教科書			
教・書籍名１	プリントを配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	健康・医療心理学	参・出版社名１	医歯薬出版株式会社
参・著者名１	宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫（編）	参・ＩＳＢＮ１	978-4-263-26577-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	精神疾患とその治療			担当者	森信　繁		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義・グループワーク・発表
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用	○	ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力	△	ＤＰ７．自己効力感	○	ＤＰ８．学科項目	△

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	テーマ：精神医学を理解する。 到達目標： 公認心理師として必要な精神障害についての下記の知識を、学生が身につけられる。 １．精神医学の基礎的事項・総説的事項を理解できる。 ２．代表的な精神障害について、概念、成因、疫学、症状、検査、治療などについて理解できる。 ３．精神障害特性を理解し、リハビリテーションにかかわる際の基本的態度を学べる。 ４．精神医学の歴史的な背景を理解できる。 ５．精神医療保健福祉関連の法律の概要を理解できる。
授業概要	精神医療に関わる者にとって、「人の理解」「こころの理解」は不可欠です。精神の障害をもった人を理解し、精神療法や社会福祉的支援の方法について学ぶことは、精神障害のみでなく、身体障害や知的障害など他の障害者に接する際にも必要です。具体的イメージを持ちやすいようにビデオなどを活用する他、授業中に適宜症例提示を行い診断・検査法や治療法を議論するなど、精神障害への理解を深めるようにすると同時に、成績の評価にも反映します。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	テーマ「精神医学を理解する」の到達度について、知識　および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（７０％）、ケースカンファレンスの課題発表（２０％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（１０％）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出されたグループ学習発表のレジメに、コメントや修正を記載して、学生に返却する。
履修条件・注意事項	毎回プリントを配布するので、ファイリングを工夫すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目では、精神科専門医・精神保健指定医としての実務経験をもつ教員がその経験を活かし、医療・保健・福祉等の領域において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、各事業計画について事前に1時間ほど教科書を読み、疑問点をまとめて授業を受けること。 復習としては、授業終了ごとに2時間ほど、配布資料の脚注やノートに重要事項をまとめて理解すること。
オフィスアワー	木曜２限、６号館４階6401研究室

授業計画		担当者
第１回	精神医学総論：精神症状と検査	森信　繁
第２回	統合失調症及び関連障害	森信　繁
第３回	うつ病及び関連障害	森信　繁
第４回	双極性障害 自殺の実態とその予防	森信　繁
第５回	不安障害と強迫性障害	森信　繁
第６回	外傷後ストレス障害(PTSD)と関連障害	森信　繁
第７回	身体表現性障害と解離性転換性障害	森信　繁

第８回	パーソナリティ障害	森信　繁
第９回	摂食障害 精神分析学	森信　繁
第１０回	睡眠障害	森信　繁
第１１回	認知症	森信　繁
第１２回	てんかん 器質性精神障害 症状性精神障害	森信　繁
第１３回	物質関連障害	森信　繁
第１４回	自閉性スペクトラム障害 注意欠損多動性障害 チック症	森信　繁
第１５回	緩和ケア 精神保健福祉法	森信　繁
第１６回	試験	森信　繁

教科書			
教・書籍名１	精神医学テキスト	教・出版社名１	南江堂
教・著者名１	上島　国利、立山　萬里、三村　将　　編	教・ＩＳＢＮ１	IBSN976-4-524-25942-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の心理学Ⅰ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-CE-2-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	発達は人と人の関わりのなかで生じていることを中心に、乳幼児の保育や幼児教育を行っていくうえで必須となる子どもの心身発達の基礎となる心理学的知見を学ぶことをテーマとする。 到達目標：子どもの生得的なすばらしい能力とその発達過程を理解し、子どもに対する興味・関心を高め、より多面的に理解できるようになる。
授業概要	保育実践における子どもの発達理解の意義について学ぶとともに、発達に関わる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深める。また、子どもの発達に関わる他者との関わり、社会的相互作用等についても理解する。さらに、生涯発達の観点から発達のプロセスや初期経験の重要性について理解し、保育実践との関わりについて考察する。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ほぼ隔週で行う小テストまたはミニ・レポートの得点（３０％）と定期試験の得点（７０％）に、受講態度の評価点（０～１）を乗じたもので評価する。したがって、テストで満点であっても、受講態度の評価点が 0.5 の場合は100点×0.5で50点となるので注意すること。小テストは採点後、返却するので、定期試験に向けて、しっかり見直しておくこと。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と、必要に応じて補足解説を行う。
履修条件・注意事項	上述のように、ほぼ隔週で小テストを行なうので、最低限、教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 小テストは前回の授業内容の復習テスト、あるいは当日の授業内容の理解テストを中心に行なう予定である。 保育士の資格取得には必須科目である。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、あらかじめテキストに目を通しておくこと。（2時間） 復習は、配付資料とともに、再度テキストを読むこと。（2時間） 返却された小テストも確認しておくこと。
オフィスアワー	月曜4限　　教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	発達を考える（第1章）	森井
第３回	人との関わりの基盤	森井
第４回	子ども同士の関わりの進展	森井
第５回	身体的機能と運動機能の発達－個人差と環境－	森井
第６回	運動機能の発達と心理的発達との関連	森井
第７回	ピアジェ理論とその再検討	森井
第８回	世界づくりの開始―認知発達の基盤	森井
第９回	世界づくりの展開―身の回りの世界についての理解の構成	森井

第１０回	言語発達の基礎―人との関わりから育まれる言葉	森井
第１１回	言語を使った世界の広がり	森井
第１２回	乳幼児期の学びに関わる理論	森井
第１３回	乳幼児期の学びの過程と特性	森井
第１４回	乳幼児期の学びを支える保育	森井
第１５回	まとめ	森井
第１６回	定期試験	森井

教科書			
教・書籍名１	保育の心理学	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	藤﨑 眞知代・無藤 隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7628-3152-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	エピソードで学ぶ　乳幼児の発達心理学	参・出版社名１	新曜社
参・著者名１	岡本依子・菅野幸恵・塚田-城みちる	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7885-0907-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子ども家庭支援の心理学			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-213		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限 火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：生涯発達に関する心理学理論を中核にして、家族相互の関わりの中で、親と子どもがともに発達していく視点を習得する。 到達目標：初期経験の重要性、愛着の形成、子育てと親としての育ち、多様な家庭の理解をキーとして、子どもと家族・家庭を相互関連的に包括的に捉えられるようになる。
授業概要	保育の心理学の学びをさらに深化させ，生涯発達の心理学理論を中心に、発達のプロセスの概要を理解するとともに、初期経験の重要性、発達課題などについて学習する。それらとの関連の中で、家族関係、子育て家庭の課題、子どもの心の健康について学ぶ。課題に対する調べ学習の成果発表もある。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	講義中の小テスト（20%）とレポート（20%），そして定期試験（60%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	小テストの返却と発表に対する質疑の中でコメント・フィードバックする。
履修条件・注意事項	期間中、最低でも1回は課題に対する学習成果発表が求められるので、しっかりと準備すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	テキストの該当箇所の精読を含め約2時間の予習と、ノート・配付資料をもとにした復習2時間程度を要す。
オフィスアワー	月曜日4限、教員研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	乳児期の発達	森井
第３回	幼児期の発達	森井
第４回	学童期の発達	森井
第５回	青年期の発達	森井
第６回	成人期・中年期の発達	森井
第７回	高齢期の発達	森井
第８回	家族の機能	森井
第９回	家族関係の理解	森井
第１０回	親としての育ち	森井
第１１回	子育てを取り巻く状況	森井
第１２回	ライフコース	森井
第１３回	多様な家庭の理解	森井
第１４回	特別な配慮を要する家族	森井
第１５回	生育環境とその影響	森井
第１６回	定期試験	森井

教科書			
教・書籍名１	子ども家庭支援の心理学	教・出版社名１	中央法規
教・著者名１	白川佳子・福丸由佳	教・ＩＳＢＮ１	987-4-8058-789-2

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育の心理学Ⅱ			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-214		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：子どもの発達と保育実践、生活や遊びを通した学びの課程、保育における発達援助の3つの観点から保育の心理学の理解を深める。 到達目標：①単なる座学としての知識ではなく、学んだ知識をもとに様々な現実的な問題への対応について自分で考えることができるようになる。②学んだことを要領よく他者に伝えられるようになる。
授業概要	保育の心理学Ⅰの学びをさらに深化させ、生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。また、発達課題や主体性の形成、就学への支援等、保育実践における具体的な発達援助についても学ぶ。 演習形式で行う授業なので、毎回、各自が調べてきたことを発表し、それに基づいて討議を行うことで、いろいろな意見・考え方について知り理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	演習への取り組み姿勢（討論への参加の程度、事前の準備状況など）４０％と各自の発表内容４０％、そしてレポート（授業中の小レポートと最終的なレポート）２０％で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	発表に関してはその都度、質疑応答の中で内容や取り組み姿勢等についてコメントする。 レポートは、その都度，フィードバックとして返却する。
履修条件・注意事項	授業内での討論に参加するためには、教科書を中心とした予習・復習はもとより、様々なメディアからの関連情報にもアンテナを張っておくことが必要になる。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	テキストの熟読は必須。不明語句等は当然のこと、それ以外の補足内容についても、発表の準備では、テキスト以外の資料を収集して行うこと。（2時間以上）
オフィスアワー	月曜４限、教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	森井
第２回	保育における子どもの理解の意義	森井
第３回	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり	森井
第４回	子どもの生活や遊び	森井
第５回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達	森井
第６回	子ども相互の関わりと関係づくり	森井
第７回	集団における経験と育ち	森井
第８回	葛藤やつまずき	森井
第９回	保育の環境の理解と構成	森井
第１０回	環境の変化や移行	森井
第１１回	子どもを理解する方法	森井
第１２回	省察・評価	森井
第１３回	発達の課題に応じた援助と関わり	森井
第１４回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助	森井
第１５回	まとめ・保育実践について	森井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	子どもの理解と援助	教・出版社名１	北大路書房
教・著者名１	清水益治・無藤　隆	教・ＩＳＢＮ１	978-4762831386
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	臨床心理学概論			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-215		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「こころの問題の理解と援助」を学習のテーマとするが、本講を受講することにより、保育・教育・社会福祉の実践現場における発達相談や適応相談に必要な臨床心理学の基礎知識を習得し、対人援助実践力の向上に資することができる。
授業概要	医療の現場のみならず、学校や福祉施設などの様々な相談援助場面においても、臨床心理学に関する様々な知見は必要なものとなってきている。そこで本講では臨床心理学の基礎理論、パーソナリティ論、各種心理療法の基礎について論じ、臨床心理学の援助アプローチと医学的治療アプローチ、社会福祉の援助アプローチの相違について考察する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）、課題レポート（６０％）の結果により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートについては学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	講義時に資料を多数配布するので事前に目を通し（予習）、授業後はファイル等に整理しながら学習に活用してほしい（復習）。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：障がい児施設や児童養護施設の主任児童指導員・副園長として相談援助の実践に従事した。このような経験を踏まえ、相談援助における各種の臨床心理学の援助アプローチの意義や課題、相談援助実践現場の実際についても論じ、履修学生の理解を深めさせる。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	１．対人援助とは	栗田喜勝
第２回	２．様々な援助アプローチ	栗田喜勝
第３回	３．こころの問題とは	栗田喜勝
第４回	４．適応と不適応について	栗田喜勝
第５回	５．子どもの発達障害について	栗田喜勝
第６回	６．AD/HD、LD、PDD、PTSD等について	栗田喜勝
第７回	７．臨床心理学の歴史について	栗田喜勝
第８回	８．パーソナリティの構造と機能について	栗田喜勝
第９回	９．精神分析について	栗田喜勝
第１０回	１０．コンプレックスについて	栗田喜勝
第１１回	１１．パーソナリティの発達理論について	栗田喜勝
第１２回	１２．心理アセスメントについて	栗田喜勝
第１３回	１３．各種心理検査の基礎について	栗田喜勝
第１４回	１４．各種心理療法の実際について	栗田喜勝

第１５回	１５．学習のまとめ		栗田喜勝
第１６回	試験		
教科書			
教・書籍名１	初回講義時に授業用資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	よくわかる臨床心理学	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	下山晴彦編著	参・ＩＳＢＮ１	4-623-03709-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	学習・言語心理学			担当者	土居　正人		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-216		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】学習による人の行動の科学的理論を理解することである。 【到達目標】心理学の基礎として，学習・行動理論の代表的な理論と応用方法を理解し，自らの必要性に応じて活用できる。
授業概要	代表的な学習理論である，古典的条件付け・オペラント条件付け，社会的学習の基礎理論と応用について概説する。学習とは，「活動や訓練あるいは観察の結果として生じた永続的な行動の変容」と定義される。「行動」が条件付けによって獲得されることを理解し，様々な環境要因によって行動が生じることを学ぶ。特に，古典的条件づけとオペラント条件付けについては，具体的な例をあげて理解を深めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク
評価方法と割合	単位認定試験（50%）、講義中の課題の取り組み、小レポートの提出状況（50%）により評価を行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業内で小レポートの課題を出す。また、授業の後半にグループワークを行う予定である。フィードバックは、小レポートに対して行う。
履修条件・注意事項	学習心理学は専門用語が多く、休むと分からなくなるため、全時間出席することを原則とする。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、毎回課題を出すので学習してくること。講義後には、講義で進められた箇所を復習をし、理解できなかった内容の確認をしておくこと。1コマ毎の授業に予習2時間、復習2時間すること。
オフィスアワー	月曜日の２時間目をオフィスアワーとして指定している（土居研究室にて），活用すること。

授業計画		担当者
第１回	1. オリエンテーション	土居
第２回	2. 学習とは	土居
第３回	3. 学習心理学の歴史	土居
第４回	4. 古典的条件付け	土居
第５回	5. 古典的条件付けの手続き	土居
第６回	6. ソーンダイクの試行錯誤学習	土居
第７回	7. ケーラーの洞察学習	土居
第８回	8. ワトソンの行動主義	土居
第９回	9. オペラント条件付け	土居
第１０回	10. 強化スケジュール	土居
第１１回	11. 社会的学習理論：模倣学習	土居
第１２回	12. 社会的学習理論：観察学習	土居
第１３回	13. 応用行動分析：ABC分析	土居
第１４回	14. 応用行動分析：行動記録	土居
第１５回	15. 応用行動分析：強化の原理	土居
第１６回	16. 単位認定試験	土居

教科書			
教・書籍名１	プリント配布、板書を行う。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	心理学 新版	参・出版社名１	有斐閣
参・著者名１	無藤隆、森敏昭	参・ＩＳＢＮ１	ISBN-10: 4641053863 ISBN-13: 978-4641053861
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害者・障害児心理学			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-217		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	授業テーマは、発達障害をはじめとするさまざまな障害の種類や特性を理解し、心理師として現場において支援する具体的な方法を学ぶことである。 具体的には、さまざまな障害による制約や特性、個々に対応するためのアセスメント、支援方法等について、障害ごとに理解していく。 「障害」とは何か、その種類、症状・特性、診断基準、支援方法等の知識を習得し、実際の心理臨床に生かすことを目標とする。
授業概要	主に発達障害についてDVD視聴、テキストの輪読、講義、グループ演習を通して学んでいく。 各テーマについて、適宜レポートや課題を課したり、グループ演習や討議によって理解を深めたりする。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループで行う演習やディスカッションを行うため、積極的に発言すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、心理師として障害児者に対する心理的支援の実務経験（小中高等学校におけるスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回指導・研修会講師、心理相談室における発達障害児のカウンセリング、保護者支援等）がある教員が担当する。障害児者の支援において必要な知識や技法を、実際のの事例も紹介しながら教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、障害とは	藤原直子
第２回	発達障害とは何か、発達障害の種類と概要	藤原直子
第３回	発達障害に関する法律、合理的配慮	藤原直子
第４回	自閉スペクトラム症の特性と支援	藤原直子
第５回	注意欠如・多動症の特性と支援	藤原直子
第６回	限局性学習症の特性と支援	藤原直子
第７回	発達障害のアセスメント	藤原直子
第８回	発達障害に特化した検査	藤原直子
第９回	様々な障害に対する理解と支援：視覚・聴覚障害	藤原直子
第１０回	様々な障害に対する理解と支援：肢体不自由	藤原直子
第１１回	様々な障害に対する理解と支援：病弱・身体虚弱、重度・重複障害	藤原直子
第１２回	公認心理師として実施できる支援方法	藤原直子

第１３回	事例で考えるアセスメントと支援：地域	藤原直子
第１４回	事例で考えるアセスメントと支援：学校	藤原直子
第１５回	まとめ	藤原直子
第１６回	試験	藤原直子

教科書			
教・書籍名１	公認心理師のための発達障害入門	教・出版社名１	金子書房
教・著者名１	黒田美保	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7698-2420-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育・学校心理学			担当者	津川　秀夫		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-218		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学校教育場面における問題行動とその対応法をテーマとする。 テーマに関する調査資料や論文を読み取る力を身につけるとともに、エビデンスに基づいた対応法を知ることを到達目標とする。
授業概要	学校教育場面において生じるさまざまな問題のなかでも，特に不登校に焦点をあて，未然防止や再登校援助の具体的な指針について理解する。授業では，不登校に関する調査資料や論文に実際にあたって読み進める。その作業を通して，不登校に関する最新情報を得るとともに，論文や統計データの読み取り方を習得する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート
評価方法と割合	規定の出席を前提として、授業での発言や取り組み姿勢（20%）、レポート（20%）、試験（60%）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題について授業のなかでフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	使用する資料は適宜配布する。参加型学習であるため授業の出席は必須である。もしも何らかの事情で欠席した場合には，他の受講者より内容を聞き，しっかり理解しておくことを期待する。
実務経験のある教員	該当する　内容：小・中・高におけるスクールカウンセリング、教育センターにおける教育相談、精神科クリニックでの心理臨床活動などの経験を踏まえて当該授業について講義する。
事前学習・事後学習とその時間	配布資料を読み込み授業に臨むこと。予習・復習にそれぞれ2時間を要する。
オフィスアワー	月曜日４時限、個人研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	津川秀夫
第２回	学校における問題行動	津川秀夫
第３回	不登校の現状：出現率の推移	津川秀夫
第４回	不登校の現状：不登校のきっかけ	津川秀夫
第５回	不登校の現状：長期欠席と不登校	津川秀夫
第６回	不登校の現状：地域別データから見えるもの	津川秀夫
第７回	不登校の現状：改善率	津川秀夫
第８回	学校ストレス	津川秀夫
第９回	不登校に影響する学校ストレスとは	津川秀夫
第１０回	欠席パターン	津川秀夫
第１１回	欠席パターンと不登校の未然防止	津川秀夫
第１２回	スクール・コネクテッドネス	津川秀夫
第１３回	スクール・コネクテッドネスの活用	津川秀夫
第１４回	PBISの活用	津川秀夫
第１５回	まとめと展望：教育行政の方針転換およびコロナ禍の影響	津川秀夫
第１６回	試験	津川秀夫

教科書

教・書籍名１	使用しない。 文部科学省のWEBを適宜参照する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	公認心理師の基礎と実践18巻　教育・学校心理学	参・出版社名１	遠見書房
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	4866160683
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	対人関係論			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年／2019～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 看護1年／ 2019～ 2021年度 吉備国際大学 社会科学部 スポ社1年			ナンバリング	PS-CE-3-219		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年 / 3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	「社会における人と人との相互作用」と「社会的適応」をテーマとして、人々の具体的な日常生活場面における対人行動の特徴を理解することにより、よりよい人間関係のあり方について考察を深めることができるようになる。
授業概要	心理学は一般的に「行動の科学」として認知されているが、その研究アプローチは多岐にわたる。中でも個人心理学は、環境との相互作用を行う個体（個人）に注目して知覚や感情、思考などについて科学的に究明してきたが、社会心理学は、個人と他者よの相互作用の観点から、社会の中の個人の行動を科学的に理解しようとする学問体系であるといえる。そこで本講では、個人、集団に影響を及ぼす種々の心理的要因について具体的に取り上げ考察する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	主体的、積極的に参加すること。 授業の中で使用する各種の資料や心理テスト類をファイルにより呈示するので受講の前にあらかじめよく目を通し（予習）、授業後は内容を確認し整理し（復習）、以後の学習に活用してほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	心理学と社会心理学	栗田喜勝
第２回	社会心理学の対象と研究方法について	栗田喜勝
第３回	社会的認知について	栗田喜勝
第４回	社会的相互作用について	栗田喜勝
第５回	社会的欲求と適応行動について	栗田喜勝
第６回	人間関係とストレス	栗田喜勝
第７回	人間関係とフラストレーション	栗田喜勝
第８回	人間関係と認知	栗田喜勝
第９回	印象形成について	栗田喜勝

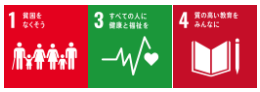
第１０回	人間関係と感情	栗田喜勝
第１１回	社会的態度と行動について	栗田喜勝
第１２回	社会的態度（1）ステレオタイプ	栗田喜勝
第１３回	社会的態度（2）偏見	栗田喜勝
第１４回	態度変容について	栗田喜勝
第１５回	学修のまとめ	栗田喜勝
第１６回	期末試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	初回講義時および毎講義時に授業用資料をファイルにより呈示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	ワークショップ人間関係の心理学	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	藤本忠明他編著	参・ＩＳＢＮ１	4-88848-833-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	社会的養護Ⅰ			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-220		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに 
到達目標	「児童の社会的養護」と「児童の自立支援」をテーマとして、施設養護における児童の権利保障や最善の利益について、その理念と実践を学ぶことを目標とするが、受講により社会的養護の現状と課題について理解できる。
授業概要	児童養護は児童本来の家庭における養護と児童福祉施設や機関などによる社会的養護の連携協力によって初めて全うされる。このことを踏まえて、社会的養護の中でも特に児童福祉施設による児童養護の考え方及びその現状を詳細に論じると共に、養護上の基本原理とその実践について考察する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	保育士養成課程の必修科目であるので注意すること。受講前の予習や受講後の復習をしっかり行い、主体的、積極的に参加してほしい。また、授業の中で各種のファイル資料を呈示するのでよく整理し、活用してほしい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：児童養護施設の主任児童指導員・副園長として児童養護の実践に従事した。このような経験を踏まえ、今日の社会的養護の意義や体制上の課題、社会的養護実践現場の実際についても論じ、履修学生の理解を深めさせる。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	児童養護とは	栗田喜勝
第２回	児童福祉の理念と児童養護	栗田喜勝
第３回	家庭の機能と家庭養護	栗田喜勝
第４回	社会的養護の意義	栗田喜勝
第５回	社会的養護の体系と機能	栗田喜勝
第６回	施設養護の意義	栗田喜勝
第７回	施設養護の展開：児童の発達段階とのかかわり	栗田喜勝
第８回	施設養護の展開：援助者の養育態度とのかかわり	栗田喜勝
第９回	施設養護の展開：被虐待児への援助	栗田喜勝
第１０回	里親養護の実際	栗田喜勝
第１１回	地域における子育て支援の実際	栗田喜勝
第１２回	施設養護の歴史：日本における施設養護の歩み	栗田喜勝
第１３回	施設養護の歴史：西欧における施設養護の歩み	栗田喜勝

第１４回	施設養護の基本原理	栗田喜勝
第１５回	学修のまとめ	栗田喜勝
第１６回	期末試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	社会的養護（第4版）	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	小池由佳他編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-07656-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育原理Ⅰ			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-301		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、保育に携わる上で基礎概念となる保育の原理を理解することができると共に、より柔軟な保育理念を身に付けるための考察力を培うことができる。保育における歴史や思想を知ることで、現在の保育に至る流れをより深く理解することができる。さらに、乳幼児期の子どもにおける発達を考察し、保育内容を考慮した上での計画の意義・重要性を知ることができる。保育者とは？この疑問に対して、自らの答えを見つけ出すことができる。
授業概要	保育の基礎を構築することから、自らの保育観、子ども観、保育士観、保護者観が磨かれていく。そのためにも、概念・理念を知ることから始まり、歴史的思想を理解することで、今の保育思想を次につなぐものへ変える力をつける。毎回の講義の中で自らの保育に対する基礎作りを求める。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度、提出物、試験から総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育の基盤作りという意識を持って取り組むこと。前述したように、保育の基礎・基盤を構築するために大切な授業です。予習・復習をしっかり行い、自らの保育観を作り上げください。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	保育とは何か	秀
第２回	保育の基盤としての子ども観	秀
第３回	子ども理解から出発する保育	秀
第４回	子どもが育つ環境の理解	秀
第５回	保育内容・方法の原理：保育の基本と保育内容・方法	秀
第６回	保育内容・方法の原理：子どものための保育内容とは	秀
第７回	保育の計画と実践の原理	秀
第８回	保育における健康・安全の原理	秀
第９回	保育の歴史に何を学ぶか：歴史を振り返る	秀
第１０回	保育の歴史に何を学ぶか：西欧における集団保育施設の誕生と発展	秀
第１１回	保育の歴史に何を学ぶか：わが国における集団保育施設の誕生と発展	秀
第１２回	保育者に求められるもの	秀
第１３回	現代の子育てと子育て支援	秀
第１４回	保育の現状と課題	秀
第１５回	「保育原理」の原理を問う	秀
第１６回	試験	秀

教科書			
教・書籍名１	新しい保育講座１　保育原理	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	渡邉英則・髙嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀　編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08027-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	現代の保育学４　保育原理【第7版】	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	待井和江　編	参・ＩＳＢＮ１	9784623053094
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育原理Ⅱ			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2020～ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年			ナンバリング	PS-CE-1-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	現在保育現場において求められているものは多様化し、細分化されてきている。当然、保育者自身に求められるものも変わってきている。学生は、今保育者として求められているものとは何か？子どもたちにとっての保育者とは？保護者にとっての保育者とは？そのような疑問に対する答えを、役割と論理・制度的位置づけ・専門性などの面から自ら見つけだすことのできる考察力と保育者観を身につけることができる。
授業概要	幼稚園・保育所における保育者の役目や求められているものをしっかり理解することが大切となる。そのためにも理論に基づいた保育者の専門性に関する知識・基礎を理解する必要がある。そうすることで、個性のある魅力ある保育者、自分が保育者としてできることを自ら見つけだすことができるようになる。ただ単なる知識の詰め込みではなく、自らが考える講義となるよう、投げかけに対する答えを見つけ出すことを求める。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度、提出物、試験から総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育者となるために必要な知識はもちろん、保育者としての心構えや保育内容を考えるために必要な基盤であることを意識し、積極的に取り組むこと。保育者として身につけておかなければならない大切な内容であることを理解し、予習復習をしっかり行うこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：幼稚園教諭1種免許、保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	「保育者になる」ということ	秀
第２回	魅力的な保育者とは	秀
第３回	保育者の一日：一日のスタート～給食	秀
第４回	保育者の一日：給食～「保育者」という仕事	秀
第５回	子どもがわかる・育つということ	秀
第６回	子どもを読み解くということ	秀
第７回	子どもと一緒に心と体を動かす仕事（幼稚園の場合）	秀
第８回	子どもと一緒に心と体を動かす（保育所の場合）	秀
第９回	絵本を通して豊かな生活を生み出す保育者	秀
第１０回	子どもと豊かに生活するための保育者の個性	秀
第１１回	保護者や家庭と一緒の歩む仕事	秀
第１２回	学び合う保育者：保育者の成長	秀
第１３回	学び合う保育者：「語り合い」・「学び合う」	秀

第１４回	保育者の専門性とは	秀
第１５回	専門性を高めるために	秀
第１６回	試験	秀

教科書			
教・書籍名１	新しい保育講座２　保育者論	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	汐見稔幸・大豆生田啓友　編	教・ＩＳＢＮ１	9784623083329
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	改訂　保育者論	参・出版社名１	建帛社
参・著者名１	民秋言　編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-3211-8
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育原理III			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-303		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	保育所における保育の基盤となる保育所保育指針は、とても重要であり十分に理解されるべきものである。この講義を通して、学生は保育所保育指針における全5章を深く理解し、保育制度の現状を学ぶことができる。さらに、現代の保育課題に対しての知識を高めることができる。
授業概要	保育所保育指針を熟読し、しっかりと理解することがこの講義の内容すべてとなる。日本における保育の中心となす保育所保育指針の理解、さらにはその理解をベースとし、今後の保育観を作り上げる内容となる。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業態度・提出物・試験の結果から総合的に評価する。 授業態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育士資格を取得する上で重要な科目となるため，資格取得希望者が履修条件となる。 保育現場との共通知識だということを忘れずに、積極的に取り組むこと。 実際の子どもの成長を知る上でも、大切な内容となる。 そのためにも、予習・復習をしっかり行い身につけること。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育所保育士
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	総則1：保育所保育に関する基本原則（保育所の役割・保育の目標・保育の方法）	秀
第２回	総則2：保育所保育に関する基本原則（保育の環境・保育所の社会的責任）・養護に関する基本的事項	秀
第３回	総則3：保育の計画及び評価	秀
第４回	総則4：幼児教育を行う施設として共有すべき事項	秀
第５回	保育の内容1：乳児保育に係るねらい及び内容	秀
第６回	保育の内容2：1歳以上3歳未満児の保育に係るねらい及び内容（基本的事項・ねらい及び内容1）	秀
第７回	保育の内容3：1歳以上3歳未満児の保育に係るねらい及び内容（ねらい及び内容2・保育の実施に係る配慮事項）	秀
第８回	保育の内容4：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（基本的事項）	秀
第９回	保育の内容5：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（ねらい及び内容）	秀
第１０回	保育の内容6：3歳以上児の保育に関するねらい及び内容（保育の実施に関わる配慮事項）	秀
第１１回	保育の内容6：保育の実施に関して留意すべき事項	秀
第１２回	健康及び安全1：子どもの健康支援・食育の推進	秀
第１３回	健康及び安全2：環境及び衛生管理並びに安全管理・災害への備え	秀
第１４回	子育て支援	秀

第１５回	職員の資質向上		秀
第１６回	試験		秀
教科書			
教・書籍名１	平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領＜原本＞	教・出版社名１	チャイルド本社
教・著者名１	文部科学省、厚生労働省、内閣府	教・ＩＳＢＮ１	978-4-8054-0258-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの保健			担当者	西田　啓子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-304		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 GW
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１２．つくる責任・つかう責任／１４．海の豊かさを守ろう
到達目標	新生児から児童までの正常な発達と発育を理解し、乳幼児期、児童期に重要な専門家のかかわりを学修する。
授業概要	教科書「子どもの保健」をテキストとし、テキストに沿って子どもの保健の意義、子どもの理解、正常な子どもの生理的変化、感染症、ワクチン接種について、アレルギー、免疫などについて、視聴覚教材やGWなどを取り入れて、学修する。毎回講義の初めには、前回の講義についての確認を行う。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業出席日数、授業態度、試験などを含め、総合的に評価判定する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業開始時に前回の復習と質疑応答を行う。
履修条件・注意事項	教科書を必ず購入する。資料が多いので、ファイリングできるように準備しておく。 授業態度は積極的且つ、真摯であること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：助産師・看護師として、保育現場や子育て支援事業を20年にわたり経験。 また、自然分娩に関わり命を取り上げる現場に携わってきた。
事前学習・事後学習とその時間	毎週、予習復習を行い、自ら質問ができるようにしておく。
オフィスアワー	毎週水曜日

授業計画		担当者
第１回		
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	子どもの保健　改定第3版	教・出版社名１	中山書店
教・著者名１	渡辺　博	教・ＩＳＢＮ１	978-4-521-74487-2
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの健康と安全 集中D			担当者			西田　啓子
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年			ナンバリング			PS-CE-2-305
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・演習 実習・DVD
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／５．ジェンダー平等を実現しよう／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	「子どもの保健ＩA」および、「子どもの保健」で学んだ基礎知識をもとに、実際の子どもたちへのかかわり方や、体調不良時への対応、応急処置など、実技や演習を中心に実際的なスキルを身につける
授業概要	子どもの健康管理、日常生活の援助方法、体調不良時や緊急時の対応など、演習を通じて実際に行う。 また、発達や応急処置に関しては動画やDVD視聴を通じてイメージできるように学修する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	授業態度を最も重視する。出席日数、実習中の態度、試験は実技試験とし、総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業開始時に前回の復習と質疑応答を行う。 講義終了前に課題として、その日の講義内容について小レポートを提出。
履修条件・注意事項	教科書を購入すること。資料が多くなるので、ファイルができるよう準備しておく。 実技j¥中心になるので、まじめな態度で臨むこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：看護師・助産師として40年以上の経験を積み、命の現場にかかわってきた。 20年間、保育所などの子育て支援事業にかかわってきた。
事前学習・事後学習とその時間	毎回の復習、予習を怠らない。質問ができるくらいの準備をして講義に臨むこと。
オフィスアワー	毎週水曜日

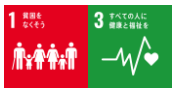
授業計画		担当者
第１回		
第２回		
第３回		
第４回		
第５回		
第６回		
第７回		
第８回		
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	これだけはおさえたい　保育者のための　子どもの健康と安全	教・出版社名１	創成社
教・著者名１	鈴木美枝子.内山有子.田中和香菜.両角理恵	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7944-8093-4

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの食と栄養Ⅰ			担当者	産本　敦子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2020年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年			ナンバリング	PS-CE-2-306		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

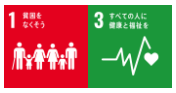
ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を 
到達目標	学生が小児期からの食の大切さを理解するとともに、自らの食生活を見直し、改善できる能力を身につけることができる。到達目標として ①学生が子どもの食と栄養を学ぶ目的を知ることができる。 ②学生が現在の子どもの食生活の現状と課題を把握することができる。 ③学生が栄養素の種類とはたらき、食品の基礎知識を身につけることができる。 ④学生が自分自身の健康管理ができる。
授業概要	現在の子どもの食生活の現状および問題点を知り、小児期からの食の大切さを理解するために、栄養素の種類とはたらき、消化、吸収、代謝の基礎知識を身につける。また、食品の機能を知り、食の安全について学び、食品表示が読み取れ、適切な食品選択ができるようにする。さらに、食事摂取基準、食事バランスガイドを参考に、自分の食事を見直し、改善する能力を身につける。
アクティブラーニングの内容	PBL
評価方法と割合	小児期の食生活の現状と課題を知り、食と健康との関りについての基礎知識の修得を目的とし、知識の習得の程度を確認するための小テスト（30%）、定期試験（50%）、自分の食生活の問題点を探り、改善方法を考えるためのレポート（20%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回実施する小テストは、採点して次回の授業で返却し、解説する。レポートは授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業時に講義内容、資料などのプリントを配布するので、ファイルまたはノートを用意しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回、前回の授業内容について小テストを行うので、必ず復習しておくこと。予習には1時間程度、復習には２時間程度を要すること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	子どもの食と栄養を学ぶ目的	産本
第２回	日本人の健康問題	産本
第３回	子どもの食生活の現状と課題	産本
第４回	子どもの栄養と食生活① 身体発育、精神運動機能発達	産本
第５回	子どもの栄養と食生活② 食べる、消化吸収機能発達	産本
第６回	栄養素の種類とはたらき① 糖質、脂質	産本
第７回	栄養素の種類とはたらき② たんぱく質、ビタミン	産本
第８回	栄養素の種類とはたらき③ ミネラル、食物繊維、水	産本
第９回	栄養素の消化・吸収・代謝	産本

第１０回	エネルギー代謝		産本
第１１回	食事摂取基準と食事バランスガイド		産本
第１２回	食品の基礎知識		産本
第１３回	食の安全と食品表示		産本
第１４回	献立と調理		産本
第１５回	食事バランスガイドによる食生活チェック		産本
第１６回	筆記試験		産本
教科書			
教・書籍名１	子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	堤ちはる・土井正子	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの食と栄養Ⅱ			担当者	産本　敦子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／ 2020年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年			ナンバリング	PS-CE-2-307		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を 
到達目標	学生が子どもの成長段階に応じた栄養の重要性と特徴を理解し、課題を知り、適切な対応ができるようにする。 到達目標として ①学生が各時期の栄養・食生活の特徴を理解することができる。 ②学生が食育の重要性を理解し、実践方法を考えることができる。 ③学生が家庭や児童福祉施設における食のあり方について考えることができる。 ④学生が特別な配慮を要する子どもへの食について学び、対応方法を修得することができる。
授業概要	小児の成長段階、障がいに応じた栄養の重要性と特徴を理解し、食生活の問題点を知り、改善方法を学ぶ。食環境も含めて環境の変化に伴い、小児の健康をめぐる問題が大きく取り上げられている。それらを正しく把握し、子どもたちに食を通しての健康づくり、人間関係とマナー等とともに、食に対しての興味を持たせ、食育を実践していく力を身につける。
アクティブラーニングの内容	PBL／プレゼンテーション
評価方法と割合	子どもの発育や障がいに応じた栄養の重要性を理解し、食育を実践する能力を身につけることを目的とし、知識の習得の程度を確認するための毎回の小テスト（30%）、定期試験（50%）、食育を実践するためのレポート（20%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回実施する小テストは、採点して次回の授業で返却し、解説する。レポートは授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業時に講義内容、資料等のプリントを配布するので、ファイルまたはノートを用意すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	毎回、前回の授業内容について小テストを行うので、必ず復習しておくこと。予習には1時間程度、復習には２時間程度を要すること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて。

授業計画		担当者
第１回	妊娠期の栄養と食生活	産本
第２回	乳児の栄養と食生活① 乳汁栄養	産本
第３回	乳児期の栄養と食生活② 離乳	産本
第４回	幼児期の栄養と食生活① 幼児期の心身の発達と食生活	産本
第５回	幼児期の栄養と食生活② 課題と対応	産本
第６回	学童・思春期の栄養と食生活	産本
第７回	成人・高齢期の栄養と食生活	産本
第８回	食育① 必要性	産本

第９回	食育② 内容・計画・評価		産本
第１０回	食育③ 食育計画の作成、発表		産本
第１１回	家庭・児童福祉施設における食事		産本
第１２回	疾病および体調不良の子どもへの対応		産本
第１３回	食物アレルギー		産本
第１４回	食物アレルギーの子どもへの対応		産本
第１５回	障がいのある子どもへの対応		産本
第１６回	定期試験		産本
教科書			
教・書籍名１	子育て・子育ちを支援する　子どもの食と栄養	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	堤ちはる・土井正子	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	乳児保育Ⅰ 講義2単位			担当者	加藤　寿美子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-308		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	３０時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	保育者として職務に就いた時、社会の動きを視野に入れ、乳児期にある一人の人間の尊厳を守り育み、自分自身を磨く。
授業概要	日本の風土や子育て文化、これまでの研究の成果を踏まえ、乳児が育つ過程で保育者の豊かな人間性、緻密な観察力と想像力、そして不断の努力に支えられた確かな判断力で一人ひとりの乳児に向き合い、乳児との相互作用の中で営まれていることをまず学び乳児が育つ姿の裏側にある育ちを支える保育者のありようを学ぶ。 乳児理解にとどまらず乳児を育てている家庭と相互理解や連携を取りながら実践者として働く力、自分の実践を内省する力、そして自分自身を育てる力が備わること。
アクティブラーニングの内容	グループワーク
評価方法と割合	授業への積極的参加度(40%)知識の修得度を確認するため試験(40%)自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポー(20%)
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	皆の前で発表をしディスカッションをする。
履修条件・注意事項	必要に応じてプリントを配布するので、初回授業よりファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：岡山市立保育所・社会福祉法人の保育園に計２５年間勤務し、その内２年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として１５年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され５年間指導を行う。現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習により授業をする。試験は、必ず行うので必ず予習復習(教科書・保育所保育指針・月刊誌も参考)を行うこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．乳児保育の意義・目的と役割	加藤
第２回	２．乳児保育の現状と課題	加藤
第３回	３．乳児保育の実際　保育所	加藤
第４回	４．乳児院・家庭保育の実際	加藤
第５回	５．３歳未満児の発育・発達をふまえた保育３歳未満児の生活と環境	加藤
第６回	６．３歳未満児の遊びと環境	加藤
第７回	７．３歳以上児保育に移行する時期の保育	加藤
第８回	８．乳児保育における計画・記録・評価	加藤
第９回	９．乳児保育における連携・協働	加藤
第１０回	１０．身体機能の発達と保育	加藤
第１１回	１１．基本的生活習慣獲得と保育(食べる)	加藤
第１２回	１２．排泄する・眠る	加藤
第１３回	１３．言葉で人とつながる	加藤
第１４回	１４．言葉の発達を支えるもの	加藤
第１５回	１５．人とかかわる	加藤
第１６回	筆記試験	加藤

教科書			
教・書籍名１	乳児の生活と保育　　ななみ書房	教・出版社名１	
教・著者名１	松本園子　編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－９０３３５５－８２－５　C3037
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	乳児保育Ⅱ			担当者	加藤　寿美子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-309		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	３０時間	授業形態	講義　演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び、豊かな人間性と諸化学の理論に裏づけられた保育実践力を身につけること。
授業概要	保育所保育指針において保育所の保育は、養護と教育を一体的に進めるものとして定義されています。児童福祉法も保育所保育を支える方向で改定され、さらに次世代育成支援計画の策定が地域に義務づけられる中で保育の児童福祉に占める位置が大きなものとなりました。虐待防止のための要保護児童対策地域協議会の大事な構成員ともなっています。保育士の業務として子どもを保育することと共に、家庭への支援がふくめられたことも大きな意味があります。 子どもの生命・命を育むこと・保育の実践力を身につける。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	授業態度２５％提出物２５％科目認定試験により評価５０％評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習の場合教員は、勿論評価するが学生も評価反省をし、又教材研究をしっかりし、次回に活かすようにする。文章表現・動きは勿論保育の流れ子どもが主体的に動けるよう研究する。
履修条件・注意事項	１)事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習により授業をする。 ２)教材研究をすること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：岡山市立保育所・社会福祉法人の保育園に合計２５年間勤務し、その内２年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として１５年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され５年間指導を行い、現在は、吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児保育に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に教科書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	加藤
第２回	２．乳児保育になぜ計画が必要か	加藤
第３回	３．乳児保育における計画の意義	加藤
第４回	４．効果的な計画に向けて	加藤
第５回	５．指導計画の作成	加藤
第６回	６．おおむね６カ月未満の計画	加藤
第７回	７．おおむね６カ月から１歳３カ月未満の計画	加藤
第８回	８．おおむね１歳の計画	加藤
第９回	９．おおむね２歳の計画	加藤
第１０回	１０．グループで計画の作成	加藤
第１１回	１１．実践発表	加藤
第１２回	１２．実践発表	加藤
第１３回	１３．実践発表	加藤
第１４回	１４．実践発表	加藤

第１５回	１５．実践発表	加藤
第１６回	１６．筆記試験	加藤

教科書			
教・書籍名１	乳児の生活と保育	教・出版社名１	
教・著者名１	ななみ書房　　松本園子　　編著	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－９０３３５５－８２－５
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	乳児保育III			担当者	加藤　寿美子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-310		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	３０時間	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	子どもの発達理解・子どもや保護者への援助のあり方、子どもの生命の尊さ、命を育むことの意義を学び温かな人間性と諸科学の理論に裏づけられた保育実践力を習得する。
授業概要	出生時にはすでに五感が進んでいること、また自ら移動したりすることはできなくとも、泣く・微笑むなどの行為が周りの人に働きかける大きな力となり、子どもと大人の相互の関わりとしての生活が展開していること、また理解されるようになってきた。 子どもが保育所、幼稚園などで保育者と出会うのは、出生からいくらかの年月を経てからのことであるが、どの子どもも、それまでの発達の過程をたどり、それぞれの個人差を含みながらではあるが、月齢、年齢に相応の段階に進んでいるものである。子どもの発達に寄り添う保育者は、子どもの発達の過程を十分理解し、育ちゆく子どもの姿に関心を寄せ、そこにふさわしい関わり方のできる人であってほしい。そのような保育者と子どもの相互の関わりこそが「乳児保育」である。その中で学びを深めることを重点に扱うことを目標にしています。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業への積極的参加態度(４０％)知識の修得度を確認するための試験(４０％）自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポート（２０％)で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	皆の前で発表をしディスカッションをする。課題についてお互い出発点に戻り再度考える。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当する　／　内容：岡山市立の保育所・社会福祉法人の保育園に２５年間勤務しその内２年間園長を経験。その後、順正短期大学へ常勤として１５年間勤務。岡山県知事より岡山県保育所巡回指導員として任命され５年間指導を行い現在吉備国際大学非常勤として勤務。乳幼児に関わってきた実務経験を活かし、実践的な内容を反映する講義を行う。
事前学習・事後学習とその時間	事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習により授業をする。試験は、必ず行うので必ず必ず予習復習を行う。
オフィスアワー	授業終了後、教室おいて実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．乳児保育とは	加藤
第２回	２．保育園における乳児保育	加藤
第３回	３．満１歳未満児の保育	加藤
第４回	４．おおむね６カ月から１歳未満児のころ	加藤
第５回	５．１歳児の保育	加藤
第６回	６.１歳歳児の保育	加藤
第７回	７．２歳児の保育	加藤
第８回	８．２歳児の保育	加藤
第９回	９．乳児保育の環境	加藤
第１０回	１０．乳児保育における保健活動	加藤
第１１回	１１．保育の計画	加藤
第１２回	１２．乳児保育と連携	加藤
第１３回	１３．保育所における子育て支援	加藤

第１４回	１４．乳児保育の使命	加藤
第１５回	１５．乳児保育の未来	加藤
第１６回	１６．筆記試験	加藤

教科書			
教・書籍名１	やさしい　乳児保育　　青踏社	教・出版社名１	
教・著者名１	神蔵　幸子　　金　允貞	教・ＩＳＢＮ１	９７８－４－９０２６３６－１７－８　C3037
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害児保育Ⅰ			担当者	池本　貞子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-311		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	障害児について、障害特性と取り巻く環境の両面から学び、保育実践の場でどのようにアプローチが必要なのか考え、実践する力を身につける。 具体的には、①障害種別と具体的な支援方法について理解する。②障害児を取り巻く環境（家族、教育、福祉等）について現状と課題を整理する。③障害児への対応につい て支援の視点から考え、判断できるようになる。
授業概要	障害の基礎知識としての種別、具体的な支援方法、保育を行う上での配慮点について学ぶ。さらに、歴史的な背景を理解したうえで、保育・教育・福祉等それぞれの視点から現状を知り、課題について考える。 具体的には、障害児をイメージし、支援の視点から子どもへの配慮の必要性を考える。また、保護者・家族に対してどのような関わりが求められるか、養護教諭の経験を基に講義し学生に理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	この科目は、障害の基礎知識と障害を取り巻く環境の重要性の面から学び、保育実践の場でのアプローチについて考えることを目標にしていることから、知識の習得状況について試験、受講態度、グループワークへの参加状態等について総合的に評価する。 成績評価は試験６０％、授業態度２０％、課題、レポート２０％で評価する。 なお、教科書の他に配布した資料等については、授業の中でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のための課題は、授業の中でフィードバックする。
履修条件・注意事項	到達目標、授業内容、評価方法等について、初回の授業で詳しく説明するので、必ず出席すること。 授業内容によっては、レポート等の課題提出を求めるため、予習・復習が必要になる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、保育士として障害を持つ子どもへの対応について考える内容である。養護教諭としての実務経験から、心身に問題を抱える子どもへの支援方法、家族支援について学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	日ごろから、子どもの健康問題に興味・関心を持ち、教科書・新聞・雑誌等をよく読み、疑問点や理解できない点をまとめて授業を受ける。授業後は講義内容を整理し振り返る。 予習および復習には、各2時間の学修時間を目安とする。
オフィスアワー	講義終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	池本
第２回	２．障害とは	池本
第３回	３．ノーマライゼーションの広がりと障害に関するWHOの分類	池本
第４回	４．障害児保育の歴史	池本
第５回	５．障害児保育の現状	池本
第６回	６．障害と発達①発達とは	池本
第７回	７．障害と発達②発達の原則	池本
第８回	８．障害と発達③脳の進化	池本
第９回	９．障害乳幼児の生活	池本
第１０回	１０．障害児保育の形態	池本
第１１回	１１．統合保育の意義	池本

第１２回	１２．統合保育の拡大		池本
第１３回	１３．幼稚園・保育所における障害児保育		池本
第１４回	１４．障害児の受け入れ		池本
第１５回	１５．障害児を知る手だてとまとめ		池本
第１６回	筆記試験		池本
教科書			
教・書籍名１	幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト	教・出版社名１	教育出版
教・著者名１	若井淳二・水野薫・酒井幸子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-316-80347-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	障害児保育Ⅱ			担当者	池本　貞子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-312		
必修・選択	必須	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	今日、多様な障害を抱える子どもたちが、幼稚園や保育所で地域の子どもたちと一緒に生活する「統合保育」浸透している。地域の中でともに生活することは、専門機関による療育・訓練とは違った意味で障害の改善に繋がることは明らかであり、その支援は「保育」の任務である。また、障害を持つ子どもとともに保育を受けることが、障害を持たない子どもたちの発達にも大きな影響を与えている。 本講義では、①障害児保育の入り口である、障害特性、障害児保育の概念について理解して上で、「統合保育」について考える。②障害別の保育方法について理解して上で 幼稚園・保育所における保育ニーズの把握、保育者間の連携、保護者との連携、関係機関との連携など保育者としての具体的援助ののあり方を検討する。
授業概要	具体的には、 １．発達の遅れと障害種別の特性 ２．「統合保育」の仕組み ３．指導計画とケースカンファレンスについて実践的に学ぶ。 ４．関係機関との連携について学ぶ。 ５．保護者との連携について考える。 などの内容を中心に、養護教諭の経験を基に講義し、学生の理解を深める。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	この科目では、障害別の特性の理解、指導計画とケースカンファレンス意義と進め方などについての理解を目標にしていることから、知識の習得状況を確認する試験、受講態度、グループワークへの参加状態等により、総合的に評価する。 評価基準は、試験６０％、受講態度２０％、グループワークへの関わり２０％で評価する。 なお、教科書の他に配布する資料については、授業の中でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題については、授業の中でフィードバックする。
履修条件・注意事項	授業に対する姿勢として、目的意識をもって積極的に取り組ことを心がける。 授業内容により、レポート等の提出を求めるために、予習・復習が必須となる。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：本科目の目標は、保育者として、障害を持つ子どもへの支援について学ぶことである。養護教諭としての実務経験から、心身に問題を抱える子どもの保育ニーズの把握と支援、専門機関および保護者との連携について、学生の理解を深める。
事前学習・事後学習とその時間	日ごろから、子どもの健康問題に興味・関心を持ち、予習として教科書・新聞・雑誌等を読んで、疑問点や質問事項をまとめておく。復習は講義内容をノートに整理し振り返りをする。予習・復習にはそれぞれ2時間程度を目安とする。
オフィスアワー	授業終了後、教室で実施する。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	池本
第２回	２．障害児と障害観	池本
第３回	３．家庭への子育て支援	池本
第４回	４．関係機関との連携	池本
第５回	５．視覚障害とその支援	池本

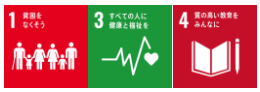
第６回	６．聴覚障害とその支援	池本
第７回	７．肢体不自由とその支援	池本
第８回	８．言語障害とその支援	池本
第９回	９．知的障害とその支援	池本１０．
第１０回	１０．発達障害とその支援	池本
第１１回	１１．統合保育の意義と仕組み	池本
第１２回	１２．インテグレーションからインクルーシブへ	池本
第１３回	１３．インクルーシブ保育の実際	池本
第１４回	１４．指導計画の重要性とその作成	池本
第１５回	１５．就学と特別支援教育	池本
第１６回	筆記試験	池本

教科書			
教・書籍名１	幼稚園・保育所の先生のための障害児保育テキスト	教・出版社名１	教育出版
教・著者名１	若井淳二・水野薫・酒井幸子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-316-80347-0
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会的養護Ⅱ			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-314		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに 
到達目標	「各種児童福祉施設における子どもたちの日常生活の理解」と「施設児童の心身の成長発達援助」の理解をテーマとするが、受講により児童ｹｱﾜｰｶｰ（保育士）に必要な児童養護の専門知識、技能、倫理を習得することができる。
授業概要	養護内容の実践の場である児童福祉施設のうち、本講では特に居住型施設を中心に、児童養護の体系や各種児童福祉施設の概要、施設生活の内容、各種専門職の役割等について、受講生自らの研究発表を通じて学ぶ。また、アドミッションｹｱ、インｹｱ、リービングケア、アフターケアの各段階での養護内容の実践について事例を通じて学ぶ。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	受講態度（２０％）、個別またはグループ発表（３０％）、課題レポート（５０％）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートについては学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	保育士養成課程履修学生のみの受講となるので注意すること。受講に際しては事前の学習（予習）と事後学習（復習）をしっかり行うこと。
実務経験のある教員	該当する ／ 内容：児童養護施設の主任児童指導員・副園長として児童養護の実践に従事した。このような経験を踏まえ、今日の社会的養護の内容や課題、社会的養護実践現場の実際についても論じ、履修学生の理解を深めさせる。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	施設養護の意義と特質	栗田喜勝
第２回	施設養護の実際	栗田喜勝
第３回	施設養護の内容（１）乳児院	栗田喜勝
第４回	施設養護の内容（２）児童養護施設	栗田喜勝
第５回	施設養護の内容（３）母子生活支援施設	栗田喜勝
第６回	施設養護の内容（４）児童自立支援施設	栗田喜勝
第７回	施設養護の内容（５）児童心理治療施設(情緒障害児短期治療施設)	栗田喜勝
第８回	施設養護の内容（６）福祉・医療型障害児入所施設(知的障害児施設)	栗田喜勝
第９回	施設養護の内容（７）福祉・医療型障害児入所施設(自閉症児施設)	栗田喜勝

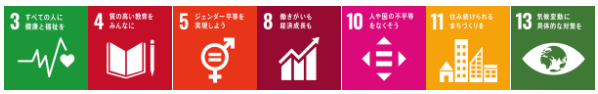
第１０回	施設養護の内容（８）福祉・医療型障害児入所施設(肢体不自由児施設)	栗田喜勝
第１１回	施設養護の内容（９）福祉・医療型障害児入所施設(重症心身障害児施設)	栗田喜勝
第１２回	施設養護の内容（１０）里親養護	栗田喜勝
第１３回	ビデオ視聴による養護内容の理解	栗田喜勝
第１４回	施設養護内容の課題	栗田喜勝
第１５回	学習のまとめ	栗田喜勝
第１６回	試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	社会的養護（春期・社会的養護で使用するテキストと同一）	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	小池由佳他編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-07656-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育内容指導（健康）			担当者	柴倉　初美		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-315		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を 
到達目標	幼稚園教育要領、保育内容「健康領域」には、生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で心と体を十分に働かせ生活することによって培われていくことが示されている。このことを踏まえて、幼児期において自分の体を十分に動かすことで、体を動かす気持ちよさを感じ、進んで体を動かそうとする意欲を育てることの大切さや自分の体を大切にしたり、身の回りを清潔で安全なものにするなどの生活に必要な習慣や態度を身に着けるようにするための内容や具体的な留意点を理解できることを目的とする。 保育内容「健康領域」に焦点を当てながら、幼稚園・保育園・こども園においては幼児が様々な環境にかかわって展開する具体的な活動を通して、[人間関係領域」「環境領域」「言葉領域」「表現領域」などと総合的に指導されるものであることを理解し、指導計画策定・指導技術の習得を目指すことを目的とする。
授業概要	幼稚園・保育園・こども園において一人一人の幼児が保育者や他の幼児などとの温かいふれあいの中で楽しい園生活を展開することや自己を十分に発揮して伸び伸びと行動し、充実感や満足感を味わうことができるような具体的な活動を通して、他の領域と総合的に指導できるよう学習する。 机上の学習だけにとどまらず、指導計画立案により実践する模擬保育、幼稚園・保育園・こども園等の見学、などにより幼児教育の理解を深める。また「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がねらい・内容に基づく幼児の活動全体を通して園生活終了時の具体的な姿であることを踏まえ、指導実践において考慮することと理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習／フィールドワーク
評価方法と割合	受講態度（40%）指導案作成（30%）指導の実践（30%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習的な内容（指導案作成・模擬保育等）については良い点を評価し、肯定的な言葉で成長を促し、自信につないでいく。また、改善すべき点については成長のために正しく指摘し、改善出来たら称賛するようにする。
履修条件・注意事項	実習的内容も含むため次回の内容を確認し、予習・復習・準備物の確認等を怠らないようにすること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：幼稚園教諭としての実務経験を活かし、教育・保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業内容に関して、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み込み理解するとともに、図書館の文献およびwebサイト等を参考にして、保育内容「健康領域」の理解を深め、適切な授業内容実施に努める。予習2時間、復習2時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室で実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方・評価の方法等）	柴倉
第２回	幼稚園教育要領について	柴倉
第３回	保育所保育指針について	柴倉
第４回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領について	柴倉
第５回	幼稚園の見学	柴倉
第６回	保育園・子ども園の見学	柴倉
第７回	健康な生活リズムを身につけるための取り組みについての指導計画立案	柴倉

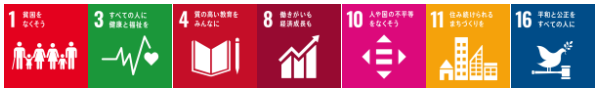
第８回	健康な生活リズムを身につけるための取り組みについての模擬保育	柴倉
第９回	運動遊び「鬼ごっこ」の指導計画立案	柴倉
第１０回	運動遊び「鬼ごっこ」の模擬保育	柴倉
第１１回	運動遊び「いろいろな小動物になって遊ぶ」の指導計画立案	柴倉
第１２回	運動遊び「いろいろな小動物になって遊ぶ」の模擬保育	柴倉
第１３回	心と体を動かす活動「夏の遊びを取り入れた行事」の指導計画立案	柴倉
第１４回	心と体を動かす活動「夏の遊びを取り入れた行事」の役割分担・準備	柴倉
第１５回	心と体を動かす活動「夏の遊びを取り入れた行事」の模擬保育	柴倉
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	幼稚園教育要領解説	教・出版社名１	フレーベル館
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
教・書籍名２	保育所保育指針解説	教・出版社名2	フレーベル館
教・著者名2	厚生労働省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-577-81448-2

参考書			
参・書籍名１	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	内閣府・文部科学省・厚生労働省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81449-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育内容指導（人間関係）			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-316		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	＜乳幼児が人と関わる力を身につけていく過程を理解するとともにそのために保育者に求められること＞ 乳幼児が他の人々と親しみ、支え合って生活できるようになる道筋が理解できている。そして、人と関わる力が育つための、保育に求められることは何かを理解する。 そのためには保育内容の領域「人間関係」について理解すると共に、乳児との応答関係が形成されるための、保育者の関わり方や環境作りの重要性について理解し、乳幼児が人と関わる力を身につけていくための現代的課題ついても理解することができる。
授業概要	１．『保育所保育指針』の保育内容「領域（人間関係）」、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』の保育内容「領域（人間関係）」、『幼稚園教育要領』の保育内容「領域（人間関係）」について解説書を読み合ったりディスカッションしたりすることから人と関わる力の育ちについて理解する。 ２　情報機器及び教材の活用を通じて保育の実践例に触れながら、話し合いやロールプレイング、模擬保育を通して、乳幼児が人と関わる力をいかに身につけていくかを探る。 ３．実践記録を見たり、ディスカッションやテキストを読み合ったりしながら、領域「人間関係」と保育実践との関係について考察する。 ４．話し合いや触れ合い遊びを体験しつつ教材研究を行い、乳幼児期の発達に寄り添った関わり方を学ぶとともに指導案の作成について理解する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	保育において人と関わる力を育成するためには、保育者自身の人との関わり方が大きく影響する。 したがって、授業においても学生自らが人間関係力を深めていこうとする姿勢で授業に参加していることが大切と考える。そのため、授業への参加態度や課題への取り組みを重視する。したがって、試験(50%)、課題提出と発表および授業への参加態度(50%)により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や発表は評価し授業でフィードバックするので、予習復習や試験に活かすこと。
履修条件・注意事項	授業以外に日常生活においても、人と関わる力を豊かにしていくよう心がけて、生活をしていただきたい。 また、生活の中で、子どもや子どもを取り巻く社会のありように関心をもって、観察したり触れたりして、子どもについての情報を収集することが授業にのぞむ事前学修となる。 保育は保育者のかもし出す雰囲気が大きく影響する。それぞれがよりよい個性的な雰囲気を創ることができるよう、一人一人が保育を学ぶ者であるという自覚と、他者への思いやりをもって学びを深めていってほしい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	・普段の生活の中で、子どもや親子、子ども用品等、子どもや子どもを取り巻く環境に関心を持ち、発達の過程のどの状況にあるかを調べたり触れたりする。そして、子どもの発達や状況について理解を深めること。 ・触れあい遊び（わらべ歌・手遊び・ゲーム等）をお互いに教え合いながら、乳幼児期の発達を促す遊びのポケットを増やすこと。 ・自分の子どもの頃のことなど家族と会話をし、家族とともに自分自身への理解を深め、いろいろな人との繋がりを改めて感じたり、自分自身の存在について大切に思えるようになること。 以上の事前・事後学修には１コマ2時間以上必要である。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室において、毎週月曜日５限、水曜日５限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	保育内容の領域「人間関係」とは	藤井
第２回	「保育所保育指針」「認定こども園教育保育要領」「幼稚園教育要領」にみる領域「人間関係」	藤井
第３回	領域「人間関係」の「ねらい・内容」と１０の姿（情報機器及び教材の活用）	藤井
第４回	乳幼児期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法	藤井
第５回	幼児期前期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法	藤井
第６回	幼児期後期の人と関わる力が育つ道筋と保育方法	藤井
第７回	保育実践記録から探る主体的な遊び	藤井
第８回	保育実践記録から探る信頼関係の形成	藤井
第９回	保育実践記録から探る道徳性・規範意識の芽生え	藤井
第１０回	わらべうたの力－わらべ歌の心地よさと触れ合いの広がり－	藤井
第１１回	昔話にみる生きる力－昔話の分析－	藤井
第１２回	伝承遊びを通して生まれる人と繋がる力　－体験を思い出し伝える力にする－	藤井
第１３回	保育における年中行事の意義－子どもの成長と伝承文化における体験－(教材研究)	藤井
第１４回	人と関わる力を育むための保育における指導案の作成と模擬保育	藤井
第１５回	人と関わる力の育成に向けて	藤井
第１６回	筆記試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	『幼稚園教育要領解説』(平成30年3月)	教・出版社名１	フレーベル館
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
教・書籍名２	『保育所保育指針解説』(平成30年３月)	教・出版社名2	フレーベル館
教・著者名2	厚生労働省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-577-81448-2

参考書			
参・書籍名１	適宜指示する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育内容指導（環境）			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-317		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１１．住み続けられるまちづくりを／１２．つくる責任・つかう責任／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に 						
到達目標	＜テーマ＞幼児期において育みたい資質・能力を理解し、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」「幼稚園教育要領」に示された「保育内容　領域(環境)」の「ねらい」及び「内容」について環境領域と関連させて理解を深め、幼児期の発達に即して、主体的・対話的な学びが実現する過程を踏まえ具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付けることを基本とする。 ＜到達目標＞ １）保育内容「領域（環境）」の「ねらい」及び「内容」並びに全体構造を理解できる。 ２）保育内容「領域（環境）」の「ねらい」及び「内容」を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。 ３）保育内容「領域（環境）」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科などとのつながりを理解できる。						
授業概要	本授業は、子どもの幼児期において身近な環境（自然環境、物的環境、人的環境、社会環境）との関わりによる人間形成の基礎を築くための意義について具体的な事例の考察により理解する。加えて保育内容（環境）の指導現場に欠かせない環境構成のあり方、指導案作成なども含めた基礎理論を学び、次の実践的な保育指導法につながる基礎力を修得する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業は、教科書、参考書、配布資料、体験、調査等で進められ、発表や質疑応答の参加型学習方式で行われ、各自またはグループでの討論における発言頻度、その内容など授業への積極的参加度（40%）を重視し、筆記試験による知識修得度（40%）並びに課題レポート発表・討論など(20%）で総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポート等は、次の授業内に取り上げたり、コメントをつけてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	配布される参考資料等をファイルにまとめたり、自習した資料を加えたりして「マイノート」として整理し、討論や演習の際に持参して授業の参加度を上げること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	1.授業では講義の他に、事前に提示された課題に対して調べたことを材料に討論したり、演習を取り入れたりして参加型学習方式で進められるので、個人、グループ発表準備などが必須である。 2.配布資料はファイルして、自習したものを加えた「マイノート」として整理し、復習を行うこと。 3.期末試験（筆記試験）が実施され、出席のみの単位取得はできない。また、予習・復習（各2時間程度）を必ず行うこと。						
オフィスアワー	10号館３階の個人研究室において、毎週水曜日５限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	

第１回	幼児教育の意味と保育内容における領域「環境」のとらえ方	藤井
第２回	保育内容の領域「環境」における指導目標と「ねらい」「内容」及び留意点	藤井
第３回	幼児の発達と環境との関わりにみる、保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」についての考察	藤井
第４回	環境の構成・再構成のあり方と保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」との関わり	藤井
第５回	保育における保育内容「環境」の視点から考察する指導案作成の「ねらい」と「内容」	藤井
第６回	幼児期における動物との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第７回	幼児期における植物との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第８回	幼児期における物的環境との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第９回	幼児期における自然事象との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１０回	幼児期における数量や図形との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１１回	幼児期における地域との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１２回	幼児期における情報機器および教材との関わりから考察する保育内容「環境」の「ねらい」と「内容」	藤井
第１３回	保育内容「環境」と他の領域や小学校教育との関わりにおける意義	藤井
第１４回	子どもの環境への関わりと保育者の役割	藤井
第１５回	保育内容「環境」についての総括	藤井
第１６回	筆記試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	基礎からまなべる保育内容（環境）ワークブック	教・出版社名１	あいり出版
教・著者名１	田中卓也・岡野聡子・藤井伊津子・橋爪けい子・木本有香・小久保圭一郎　編	教・ＩＳＢＮ１	978-4-86555-087-0
教・書籍名２	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	教・出版社名2	フレーベル館
教・著者名2	内閣府、文部科学省、厚生労働省	教・ＩＳＢＮ2	4577814498

参考書			
参・書籍名１	コンパス　保育内容　　環　境	参・出版社名１	建帛社
参・著者名１	編著：高橋貴志・目良秋子 共著：青木聡子　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-5062-4
参・書籍名２	子どもと環境（理論編）	参・出版社名2	三晃書房
参・著者名2	監修：小田　豊 編者：奥井智久、芦田　宏	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7830-8002-2

授業科目名	保育内容指導（言葉）			担当者	小坂田　佐弓		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-318		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	テーマ：子どもの言葉の発達と獲得について理解し、絵本などを教材として保育を構想する方法を身に付けることができる。 到達目標：①幼稚園教育要領の領域「言葉」のねらい及び内容について理解している。 ②子どもの言葉の発達と獲得について理解し、子どもが言葉を獲得するために、保育者として援助する能力及び言葉の発達に即した環境を構成する能力を身につけている。 ③言葉の発達を、発達していく過程にある子どもの全体像の中で評価することができる。 ④生活体験の中で培われた言葉の力が､小学校の国語科学習につながっていくことを理解している。
授業概要	まず領域「言葉」のねらいと内容を学び､子どものコミュニケーションとしての言葉について考える｡次いで子どもが発達段階において言葉をどのように獲得していくのか学習する。その上で、子どもが安心して表現したり、興味や関心をもって聞いたり、イメージ豊かに考えたりできる力を育てるために指導案を作成し、模擬保育を通じて保育者がどのように援助・指導すべきか理解する。また情報機器及び教材を活用して、言葉を育てる文化財や遊びについて討論したり実演したりして、言葉による伝え合いの楽しさ・喜びを知る。こうした中から培われた言葉の力が、国語科学習へとつながっていくことを理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習
評価方法と割合	この科目では、子どもの言葉の発達と獲得について理解し、保育者として保育を構想する方法を身に付けることを目的としていることから、知識および能力の修得状況を計るため、定期試験結果や実習、授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（50%）、絵本の読み聞かせや紙芝居の上演実習（30%）、ディスカッションにおける発言頻度・発言内容、および授業中の学びの程度を判定するため､授業への積極的な参加態度（20%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内での解説およびコメントカードに記入しての返却。
履修条件・注意事項	毎回の授業におけるディスカッションなどに主体的に参加・発表できるように、予習として授業計画に記載されていることについて調べ学習を行ってくること。絵本などを紹介することが多いので、見やすいよう教室のなるべく前の方に座ること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に参考書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また事後学習として、ディスカッションの内容、講義で取り上げた児童文化財の内容や感想についてノートをまとめ、復習を行っておくこと。絵本の読み聞かせや紙芝居の上演実習を行うので、自らの演じる物を選び練習をしておくこと。予習および復習には各1時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	概論：保育内容「言葉」に関する領域	小坂田佐弓
第２回	子どもの言葉：言葉の教育のねらい	小坂田佐弓
第３回	子どもの言葉：言葉の機能	小坂田佐弓

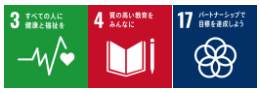
第４回	子どもの言葉：発達と獲得(出生から生後8、9か月)	小坂田佐弓
第５回	子どもの言葉：発達と獲得(生後8、9か月から2歳)	小坂田佐弓
第６回	子どもの言葉：発達と獲得(3歳から6歳)	小坂田佐弓
第７回	子どもの生活と言葉：言葉を聞くこと・わかること	小坂田佐弓
第８回	子どもの生活と言葉：言葉で表現すること	小坂田佐弓
第９回	子どもの生活と言葉：言葉で考えること	小坂田佐弓
第１０回	言葉と環境：人との関わり	小坂田佐弓
第１１回	言葉と環境：社会環境との関わり	小坂田佐弓
第１２回	言葉と環境：文化財との関わり（絵本）〔読み聞かせ〕	小坂田佐弓
第１３回	言葉と環境：文化財との関わり（童話・紙芝居）〔上演〕	小坂田佐弓
第１４回	言葉と環境：文化財との関わり（人形劇）	小坂田佐弓
第１５回	言葉遊びの楽しさ	小坂田佐弓
第１６回	単位認定試験	小坂田佐弓

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	最新保育講座　保育内容「言葉」	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	柴崎正行･戸田雅美･秋田喜代美 編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623056415
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育内容指導（表現）（オムニバス）			担当者	上田　豊、佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2020年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年			ナンバリング	PS-CE-2-319		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	「子どもの表現活動の理解および造形・音楽表現の技法と技術」をテーマとする。前半の造形表現では、環境づくりの課題として「子ども参加の空間デザイン」をテーマに壁面空間のグループ製作を通して保育内容の指導に必要な造形表現力を養い、後半の音楽表現では、音・音楽による表現方法の学習を通して、作品作りや表現ができる力を養う事を到達目標とする。
授業概要	「子どもの表現活動の理解および造形・音楽表現の技法と技術」「実際の保育現場において適切な援助および指導ができる能力」の習得を行うために、教材研究、情報機器及び教材の活用、指導案作成、模擬保育を実施する。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	模擬保育（題材の理解とねらい、指導・援助の確かさなど）（５0点）、および授業に取り組む姿勢（事前準備と自己学習、かたづけ、提出物）（５０点)によって評価する。 講義内で適宜フィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	模擬授業の後、必要なフィードバックおよび補足講義を行う。
履修条件・注意事項	必要な教材は基本的にこちらで用意する。特別に必要なものは各自手配すること。指示された準備（予習）をして授業に望むこと。また、授業内容を記録（復習）すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：佐藤尚宏：園での造形表現指導（2年）、小学生の絵画指導経験（20年）継続中。過去に美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。
事前学習・事後学習とその時間	造形表現では、 事前の学修として、普段から様々な環境整備（お店のショウウィンドウや公共施設の子ども室などの室内構成、壁面装飾）を観察し、どんな工夫や意図があるかに触れること。 事後の学修として、講義で理解できなかった知識や技能について自宅学修を行うこと。 音楽表現では、 事前の学修として、普段から身の回りの様々な音や音楽に触れ、感性を磨いておくこと。 事後の学修として、講義で理解できなかった知識や技能について自宅学修を行うこと。 いずれも2時間程度を目安として事前事後学修を行うこと。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	佐藤尚宏・上田豊
第２回	「子ども参加の空間デザイン」「情報聞き及び教材の活用」について	佐藤尚宏
第３回	グループ分けと教材研究	佐藤尚宏
第４回	指導案作成と教材準備	佐藤尚宏
第５回	続き	佐藤尚宏
第６回	模擬授業	佐藤尚宏
第７回	模擬授業	佐藤尚宏
第８回	模擬授業ふりかえり	佐藤尚宏
第９回	感性と表現	上田豊
第１０回	身体と音楽表現	上田豊

第１１回	身の回りのものと音楽表現	上田豊
第１２回	楽器と音楽表現	上田豊
第１３回	子どもと一緒にできる音遊び1-詩に音をつける	上田豊
第１４回	子どもと一緒にできる音遊び2-CDの音楽と手作り音楽によるアンサンブル	上田豊
第１５回	作品発表・模擬保育	上田豊
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２	歌う、弾く、表現する保育者になろう	教・出版社名2	音楽之友社
教・著者名2	全国大学音楽教育学会中四国地区学会編著	教・ＩＳＢＮ2	4-276-31274-4
参考書			
参・書籍名１	幼稚園教育要領解説	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
参・書籍名２	保育所保育指針解説	参・出版社名2	フレーベル館
参・著者名2	厚生労働省	参・ＩＳＢＮ2	978-4577814482

授業科目名	保育内容指導（保育内容総論）			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-320		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

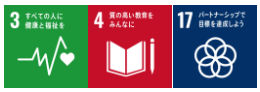
ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、保育内容を総合的に学び、保育現場において展開される園生活や保育者の位置づけを考えることができる。乳幼児期における１年の違いをしっかり理解し、発達基準として子どもの成長を理解することができる。また、実際に指導計画を立案し、グループディスカッションをすることで指導案の重要性を認識することができる。
授業概要	保育内容において様々な知識・経験を積む中で、その総合的理解を求める内容となる。絵本や手遊びといった、情報機器及び教材の活用法などを含む専門的知識をいかにして実際の保育現場に盛り込んでいくのか、発達段階にあった計画とはどういうものなのか、などのより実践的内容を認識し、得た知識を活かす方法を学んでいく。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	授業態度、提出物、課題発表から総合的に評価する。 成績評価基準：授業態度（１０％）、提出物（６０％）、課題発表（３０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物などに関しては、授業内においてフィードバックするので、参考にすること。
履修条件・注意事項	保育実習前の大切な講義であることを忘れず、意欲的に取り組みこと。 また、予習・復習をしっかり行い、乳幼児の発達段階を理解するようにしてください。
実務経験のある教員	該当する　内容：幼稚園教諭1種免許、保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	生涯発達と保育内容	秀
第２回	保育の一日と内容	秀
第３回	乳児・低年齢児の園生活と保育内容及び情報機器の活用	秀
第４回	3歳児の園生活と保育内容	秀
第５回	4歳児の園生活と保育内容	秀
第６回	5歳児の園生活と保育内容	秀
第７回	特別支援としての保育内容	秀
第８回	園生活から学ぶ生きる力	秀
第９回	環境と関わる遊びの生活	秀
第１０回	保育内容の計画と教材研究	秀
第１１回	指導案作成・計画の発表1：模擬保育1	秀
第１２回	指導案作成・計画の発表2：模擬授業2	秀
第１３回	指導案の作成・計画の発表3：模擬授業3	秀
第１４回	指導案の作成・計画の発表4：模擬授業4	秀
第１５回	指導案の作成・計画の発表5：模擬授業5 および まとめ	秀
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	MINERVA保育実践学講座4　保育内容総論	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	田中亨胤・名須川知子　編著	教・ＩＳＢＮ１	4-623-04600-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領　<原本>	参・出版社名１	チャイルド本社
参・著者名１	文部科学省、厚生労働省、内閣	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8054-0258-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎技能（音楽Ａ）			担当者	上田　豊		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-321		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する知識・技術」の習得。指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。そのために必要な音楽的な知識・技能の習得を目指す。本講座では、①歌唱表現の基礎となる呼吸法、発声法、ソルフェージュ練習により、子どもの歌が素歌で歌える、②ピアノ演奏の基本である5指を中心にした初級曲の演奏ができる、③主要三和音（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）のカデンツが正しい運指で弾ける、④簡易楽器の演奏と取り扱いができる。
授業概要	授業は個人レッスンとクラス授業の二形態で行う。個人レッスンでは、ピアノの基本的な奏法を習得する。また、クラス授業では、呼吸法、発声法、ソルフェージュ練習、鍵盤楽器によるカデンツ演奏、楽典の学習を行う。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	平素の学習態度と期末試験（実技・筆記）により、総合的に評価する。評価の割合は、期末試験（50%）、平素の課題への取り組み（30%）、授業参加態度（20%）。　平素の取り組みでは課題を実施し、結果は一人ひとり簡単な解説を付す形でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内に口頭で行う
履修条件・注意事項	初回、各自のピアノ演奏力が担当者に分かるように、一曲用意してくること。授業は、ピアノ個人レッスンと歌唱法その他グループ演習（クラス授業形態）を組み合わせる。グループ分けは初回に発表する。ピアノ、唱歌とも予習する。レッスンで〇（丸）をもらった曲はいつでも弾けるように復習を重ねること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、前回の授業で課された課題曲について、譜読みを行い、歌唱及びピアノ演奏練習を、1週間十分復習しておくことが必要不可欠である。難しい、また、分からないところはまとめておくこと。 復習として、「〇」をもらった曲は、いつでも歌える（弾ける）ように、日々練習を怠らないこと。予習及び復習は、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

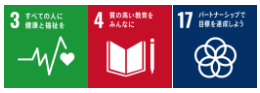
授業計画		担当者
第１回	１．ピアノ奏法、ソルフェージュ　予備知識	上田
第２回	２．ピアノ奏法、楽典	上田
第３回	３．ピアノ奏法、ソルフェージュ　４分音符他	上田
第４回	４．ピアノ奏法、ソルフェージュ　３／４拍子	上田
第５回	５．ピアノ奏法、ソルフェージュ　８八分音符	上田
第６回	６．ピアノ奏法、ソルフェージュ　16分音符	上田
第７回	７．ピアノ奏法、ソルフェージュ　付点音符	上田
第８回	８．ピアノ奏法、ソルフェージュ　３連音符	上田
第９回	９．ピアノ奏法、ソルフェージュ　６／８拍子	上田
第１０回	１０．ピアノ奏法、ソルフェージュ　短調	上田
第１１回	１１．ピアノ奏法、カデンツ　音階と音程	上田
第１２回	１２．ピアノ奏法、カデンツ　音の重なり	上田
第１３回	１３．ピアノ奏法、カデンツ　ハ長調Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ	上田
第１４回	１４．ピアノ奏法、簡易楽器奏法	上田

第１５回	１４．ピアノ奏法、簡易楽器合奏	上田
第１６回	１６．単位認定試験（実技）	上田

教科書			
教・書籍名１	基礎から学べるピアノ１，２，３	教・出版社名１	ドレミ楽譜出版社
教・著者名１	本廣明美・加藤照恵編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-285-11830-8
教・書籍名２	歌う、弾く、表現する保育者になろう	教・出版社名2	音楽之友社
教・著者名2	全国大学音楽教育学会中四国地区学会編著	教・ＩＳＢＮ2	4-276-31274-4
参考書			
参・書籍名１	日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み	参・出版社名１	音楽之友社
参・著者名１	全国大学音楽教育学会編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-276-59025-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎技能（音楽B）			担当者	上田　豊		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年／2020年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業2年			ナンバリング	PS-CE-2-322		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限 金曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう 
到達目標	テーマは「子どもの豊かな音楽活動を援助する技術」の習得。指導者は、保育や幼・小学校教育現場における子どもの音楽活動が実践できなくてはならない。本講座では、音楽Ａで習得した呼吸法、発声法、ソルフェージュ力を活かし①豊かな歌唱表現ができる、また、②読譜や演奏に欠かせない楽典を学び、音楽理論の基礎が習得する、③主要三和音（Ⅰ、Ⅳ、Ⅴ）を使った簡単な伴奏付ができる、そして、進度に合ったレベルの子どもの歌の弾き歌いができる。
授業概要	授業は個人レッスンとクラス授業の二形態で行う。個人レッスンでは、現場で必須となる弾き歌いのレパートリーを広げていく。クラス授では、教材が子どもの生活や遊びから音楽表現へ結びつくよう、子どもの目線から捉えられる自然の様子や四季の移り変わり、生き物、食べ物、行事など子どもの生活の歌から小学校共通教材へと繋げていく。そして、歌詞を考察することにより，表現遊びや劇遊びへの発展の可能性等も探り、音楽表現を高めて行く。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	平素の学習態度と期末試験（実技・筆記）により、総合的に評価する。評価の割合は、期末試験（50%）、平素の課題への取り組み（30%）、授業参加態度（20%）。　授業では、毎回次回のテーマについて予告し、そのテーマについて設問の形で課題として課す。結果は、授業で一人ひとり簡単な解説をおこなうので、見直しておくようにすること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時に口頭で行う
履修条件・注意事項	授業は、ピアノ個人レッスンと歌唱法その他グループ演習（クラス授業形態）を組み合わせる。 個人レッスンは、経験レッスン方式で行う。次回の課題曲について先生から説明と模範演奏により曲の理解を図り、それを1週間十分復習しておくことが必要不可欠である。クラス授業は主に子どもの歌の歌唱法を行うが、予習として旋律唱を行い、歌詞を記憶しておくこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、前回の授業で課された課題曲について、譜読みを行い、歌唱及びピアノ演奏練習を十分に行うこと。難しい、また、分からないところはまとめておくこと。 復習として、「〇」をもらった曲は、いつでも歌える（弾ける）ように、日々練習を怠らないこと。予習及び復習は、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．子どもの生活とうた　①季節と行事	
第２回	２．子どもの生活とうた　②生き物・動物	
第３回	３．子どもの生活とうた　③おはなしの歌	
第４回	４．子どもの生活とうた　④ミニ・オペレッタ	

第５回	５．子どもの生活とうた　⑤ミニ・オペレッタ	
第６回	６．子どもの生活とうた　⑥ミニ・オペレッタ	
第７回	７．小学校歌唱共通教材（1）低学年	
第８回	８．小学校歌唱共通教材（2）中学年	
第９回	９．小学校歌唱共通教材（3）高学年	
第１０回	１０．和音とコードネーム	
第１１回	１１．ハ長調のカデンツによる伴奏付け	
第１２回	１２．ヘ・ト長調のカデンツ	
第１３回	１３．簡単な移調：移調理論	
第１４回	１４．簡単な移調：移調の実際　Ⅰ-Ⅴ	
第１５回	．簡単な移調：移調の実際　Ⅰ-Ⅳ-Ⅴ	
第１６回	１６．単位認定試験（実技）	

教科書			
教・書籍名１	基礎から学べるピアノ１，２，３	教・出版社名１	ドレミ楽譜出版社
教・著者名１	本廣明美・加藤照恵編著	教・ＩＳＢＮ１	978-4-285-11830-8
教・書籍名２	歌う、弾く、表現する保育者になろう	教・出版社名2	音楽之友社
教・著者名2	全国大学音楽教育学会中四国地区学会	教・ＩＳＢＮ2	4-276-31274-4
参考書			
参・書籍名１	日本の子どもの歌－唱歌童謡140年の歩み	参・出版社名１	音楽之友社
参・著者名１	全国大学音楽教育学会編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-276-59025-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎技能（図画工作）			担当者	佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-CE-1-323		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「子どもの造形活動を援助するために必要な造形表現力を養うこと」をテーマに、「図画工作に関する基礎的な技能の習得」をめざす。 課題の作品制作を通して、子どもの造形表現に適した素材特性の理解，素材を活かす加工方法の理解と技能を養うことを到達目標とする。
授業概要	子どもの造形活動を援助するためには，子どもの発達段階の理解と、発達段階に適した題材設定や準備，さらに保育者自身が素材や加工・技法に習熟している必要がある。 この授業ではおもに幼児教育のための題材を中心に、演習による作品制作を通して、1）子どもの造形表現活動の援助に必要な態度や姿勢が実感できる、２）子どもの発達段階に適した素材や技法、加工方法を体得する、３）保育に活用できる教材の加工と活用方法を体得することができる、の３つの側面から学習を進める。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／実習
評価方法と割合	●課題作品（素材・技法の理解と技能，課題の理解と活用、作品の完成度等）５０％ ●取組内容（準備・かたづけ，制作プロセスにおける気づきや発見，レポートなど）５０％ ※課題作品・レポートは評価の後、フィードバックを行います。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	作品について必要なフィードバックおよび補足講義を行う。
履修条件・注意事項	授業は課題の制作などが中心になるため、自宅での制作が必要となる場合もある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：園での造形表現指導（2年）、小学生の絵画指導経験（20年）継続中。過去に美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】普段から様々なアートや子どもたちの遊びや野外活動、造形表現に触れること。事前に参考テキストを読んで素材や加工、制作プロセスなどの概略を理解しておくこと。 【復習】作品を完成させること。また実習での気づきや発見などをレポートにまとめること。 ※事前・事後の学修は、各2時間以上必要です。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス、第1章．造形表現の意義	佐藤尚宏
第２回	手の動き(1)土粘土-触覚と変形（球）、第2章．表現を育む人になる、	佐藤尚宏
第３回	手の動き（2）油粘土による変形（鳥）	佐藤尚宏
第４回	手の動き（3）ゆび絵具による色遊び－フィンガーペインティング	佐藤尚宏
第５回	操作と試行錯誤：カラーインクによる色遊び	佐藤尚宏
第６回	描く（1）紙の加工と構成－切る・破る→貼る	佐藤尚宏
第７回	描く（2）線描－クレヨンのお散歩	佐藤尚宏
第８回	描く（3）透明水彩によるぬらし絵（色彩と感情）	佐藤尚宏
第９回	描く（4）不透明水彩による色遊び（カードづくり）	佐藤尚宏
第１０回	続き	佐藤尚宏
第１１回	作る（1）紙の加工と様々な形態	佐藤尚宏
第１２回	つくる（2）紙の加工による昆虫	佐藤尚宏
第１３回	続き	佐藤尚宏

第１４回	作る（3）、紙の加工と動物	佐藤尚宏
第１５回	まとめと鑑賞	佐藤尚宏
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	基礎技能Ⅱ（図画工作）			担当者	佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／ 2021年度 吉備国際大学 保健医療福祉学部 作業1年			ナンバリング	PS-CE-1-326		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「子どもの造形活動を援助するために必要な造形表現力を養うこと」をテーマに、主に幼児期から小学生を想定し「図画工作科の授業づくりに関する基礎的な技能の習得」をめざす。 課題の作品制作を通して、子どもの造形表現に適した素材特性の理解，素材を活かす加工方法の理解と技能を養い、さらに教材研究のポイントとして課題の特徴と望ましい子どもの体験との関係を想定する力を養うことを到達目標とする。
授業概要	子どもの造形活動を援助・指導するためには，子どもの発達段階の理解と、発達段階に適した題材設定や準備，さらに保育者自身が素材や加工・技法に習熟している必要がある。 この授業では主に幼児期から小学生を想定し、特に授業づくりのための教材研究と表現技能について、実践的な演習による作品制作を通して習得する。 1）子どもの造形表現活動の援助に必要な態度や姿勢が実感できる、 ２）子どもの発達段階に適した素材や技法、加工方法を体得する、 ３）保育に活用できる教材の加工と活用方法を体得することができる、 の３つの側面から学習を進めるが、この授業では特に初等教科教育図画工作も視野に入れた実技課題を学修する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	●課題作品（素材・技法の理解，課題の理解、作品の完成度等）５０％ ※課題作品は評価したのち返却し、必要なフィードバックは授業内で行います。 ●取組姿勢（レポート、準備，製作プロセス，かたづけ，）５０％
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題作品およびレポートは必要な補足講義とディスカッション、フィードバック等を授業内で行います。
履修条件・注意事項	必要な教材はこちらで用意します。特別な準備（予習）がある場合は指示をます。また、授業の記録・復習を重視すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。また小学生の絵画指導経験20年あり。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】事前にテキストを読んで素材や加工、制作プロセスなどの概略を理解しておくこと。 【復習】作品を完成させること。また授業の内容をまとめること。 ※事前・事後の学修は、各2時間程度必要です。 ※普段から様々なアートや子どもたちの遊びや野外活動、造形表現に触れること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	ガイダンス	佐藤尚宏
第２回	指編み・あやとり	佐藤尚宏
第３回	技法と教材研究①デカルコマニー	佐藤尚宏
第４回	技法と教材研究②折り染	佐藤尚宏
第５回	技法と教材研究③スクラッチ	佐藤尚宏
第６回	技法と教材研究④ステンシル	佐藤尚宏
第７回	まとめ：様々な技法・素材特性と教材研究について	佐藤尚宏

第８回	工作①紙の加工とポップアップカード	佐藤尚宏
第９回	続き	佐藤尚宏
第１０回	工作②マカロニリース	佐藤尚宏
第１１回	造形訓練①線による表現	佐藤尚宏
第１２回	造形訓練②配置構成による表現	佐藤尚宏
第１３回	造形訓練③色彩（水彩）による表現	佐藤尚宏
第１４回	造形表現④クロッキーによる写実表現	佐藤尚宏
第１５回	続き	佐藤尚宏
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	保育をひらく造形表現	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	槇　英子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-295-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜資料を配付する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育実習指導ＩＡ（オムニバス）			担当者	秀　真一郎、藤井　伊津子、中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-327		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、保育士養成過程において修得した教科全体の知識・技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うことができる。
授業概要	授業の概要： １．保育所実習の意義・目的・内容についての理解を深め、各自の実習目的・課題を明確にする。 ２．実習記録や指導案の書き方を学び、具体的な実習準備を行う。 ３．保育者としての職業倫理、特に個人のプライバシーの保護と守秘義務、子どもの人権の尊重について理解する。 ４．実習後は、実習総括・評価を行い、新たな学習目標を明確にする。 保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度、課題発表、レポート等の提出物などから総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、課題発表（１５％）、提出物（２０％）、レポート（５０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に提出したものについては授業の中でフィードバックするので、実習までにしっかり見直しておくこと。
履修条件・注意事項	保育実習において大切な講義となるので、休まずに必ず出席すること。 毎回の講義が実習に直結しています。しっかりと予習・復習を行うようにしてください。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習復習は必ず行い、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション：実習にあたって	秀・中野
第２回	保育の理解	秀
第３回	実習の心構えについて	秀・藤井
第４回	実習の実際	秀
第５回	初めての保育実習：保育の心とマナー	秀・藤井
第６回	実習記録の意義・方法を理解する	秀
第７回	実習日誌の形式と意味	秀・藤井
第８回	実習日誌の書き方	秀
第９回	見学実習	秀
第１０回	自己課題について	秀
第１１回	自己課題の作成および実習における指導計画とは	秀
第１２回	指導計画の作成	秀・藤井
第１３回	実習の基準と留意事項および実習のまとめ	秀

第１４回	実習事前最終確認		秀
第１５回	事後指導（実習報告）		秀
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	保育所実習の手引き	教・出版社名１	
教・著者名１	岡山県保育士養成協議会編	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育実習指導ＩＢ（オムニバス）			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-328		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	保育士養成課程において習得した教科の知識・技能を基礎とし、これらを児童福祉施設等（保育所以外）で実践する能力を身につけることをテーマとし、以下のことを到達目標とする。 １．学生が、保育実習の意義・目的を理解する。 ２．実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 ３．実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について 理解する。 ４．実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 ５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や目標を明確にする。
授業概要	保育実習の意義と目標を明確に理解し、実習先施設の役割や機能を理解する。それらに基づいて実習に向けて自らの課題を明らかにし、実習計画書を作成する。課題達成に必要な事前学習を明確にし、取り組む。利用児・者理解のために必要な障害理解や児童虐待、社会的養護等について整理する。実習に際して必要な留意事項を確認する（子どもの人権の尊重、最善の利益の考慮、守秘義務、プライバシーの保護など）。実習における観察や記録について理解する。事後指導において、実習の総括と課題の明確化を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度、課題発表、レポート等の提出物などから総合的に判断する。成績評価基準：受講態度（１５％）、課題発表（１５％）、提出物（２０％）、レポート（５０％）。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	全授業過程をふりかえり、評価を含めてフィードバックする。
履修条件・注意事項	実習先への送付書類など提出物が多くあります。忘れることがないように注意して下さい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各自の実習先と施設種別について良く調べ、レポートを作成すること。その他の課題についても時間をかけておこなうこと。発表の際には、その方法についても工夫すること。予習・復習には毎回９０分ずつあてること。
オフィスアワー	毎週火曜日2限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	中野明子
第２回	２．施設実習の意義と目的	中野明子
第３回	３．実習先施設の概要理解 (1)児童養護施設・乳児院	中野明子
第４回	４．実習先施設の概要理解 (2)障害児・者施設	中野明子
第５回	５．実習先施設の概要理解 (3)児童心理治療施設	中野明子

第６回	６．利用児・者の理解 （１）障害児・者の理解（障害について、合理的配慮、インクルージョン等）	中野明子
第７回	７．利用児・者の理解 (2)子どもを取り巻く問題（社会的養護、児童虐待等）	中野明子
第８回	８．児童自立支援計画、障害児・者個別支援計画について	中野明子
第９回	９．事前訪問について 提出書類の作成について	中野明子
第１０回	１０．実習計画書の作成について	中野明子
第１１回	１１．記録の書き方について	中野明子
第１２回	１２．実習中のさまざまなことについて考えてみよう	中野明子
第１３回	１３．実習心得（プライバシーの保護、守秘義務、最善の利益の考慮等)、お礼状について、最終確認	中野明子
第１４回	１４．事後指導 (1)実習報告書の作成	中野明子
第１５回	１５．事後指導 (2)実習報告会	中野明子
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	『施設実習の手引き』	教・出版社名１	
教・著者名１	岡山県保育士養成協議会編	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	『より深く理解できる施設実習 ー施設種別の計画と記録の書き方ー』	参・出版社名１	萌文書林
参・著者名１	松本峰雄監修 藤 京子 増南太志 中島健一朗	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-221-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育実習指導Ⅱ （オムニバス）			担当者	秀　真一郎、藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-329		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	保育実習Ⅱについての実習内容の理解と準備及び実習後の振り返り 保育実習指導ⅠAを基礎として、自身の学びがどのように発展し、実習へと展開されるべきなのかを理解することができる。
授業概要	１．各自の実習目的・課題を明確にする中で、実習で活用できる技術の習得と習得した技術の活用方法について理解する。 ２．実習記録や指導案の書き方を学び、生きた保育における記録や指導案について理解する。 ３．保育者として求められる技術向上を図りながら、そこに込められる保育の心や論理の構築を図る。 ４．実習後は、実習総括・評価を行い、新たな学修目標を明確にする。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション
評価方法と割合	保育者を目指すものとしての受講態度、課題発表、レポート等の提出物などから総合的に判断する。 成績評価基準：課題発表及び受講態度（30%）、提出物（20%）、指導案の作成及びレポート（50%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出された課題・指導案は評価し、ディスカッションしたり個々にフィードバックするので、復習し次回の予習に活かすこと。 発表についても評価し、フィードバックするので予習復習につなげ実践力をつけていくこと。
履修条件・注意事項	保育実習において大切な講義となるので、休まずに必ず出席すること。毎回の講義が実習に直結しています。しっかりと予習・復習を行うようようにしてください。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	実習を実りあるものにしていくために、授業の予習復習は欠かせない。事前学修として講義内容にあわせて各自テキストを参考にして、実習日誌の整理や指導案の作成、指導実習に備えての実技の準備などが必要であり、授業後には事前学修の修正や自己課題をさらに深めていくことが求められる。 そのため予習復習に各2時間程度が必要です。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室において、毎週水曜日５限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション 保育実習指導Ⅱについての概要 SDGｓに向けて	秀・藤井
第２回	保育士の専門性と職業倫理についての理解	藤井
第３回	保育実習の実際	秀・藤井
第４回	実習記録の実際（実習日誌の記録とは・「手引」を基にして）	藤井
第５回	実習記録の実際（実際の記録による学び）	藤井

第６回	指導案の実際（指導案とは・「手引」を基に）		秀・藤井
第７回	指導案の実際（実際の指導案による学び・ディスカッション）		藤井
第８回	保育実践力の育成：指導案作成と模擬保育（絵本）		秀・藤井
第９回	保育実践力の育成：指導案作成と模擬保育（紙芝居）		藤井
第１０回	保育実践力の育成：指導案作成と模擬保育（手遊び）		秀・藤井
第１１回	保育実践力の育成（発達と季節を考慮した遊び・手作りおもちゃ）		藤井
第１２回	保育実践力の育成（発達と季節を考慮した遊び1）		藤井
第１３回	保育実践力の育成（発達と季節を考慮した遊び2）		藤井
第１４回	実習事前最終確認（指導案・準備物等）		秀・藤井
第１５回	事後指導（実習報告・まとめ）		秀・藤井
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	保育所実習の手引き	教・出版社名１	
教・著者名１	岡山県保育士養成協議会編	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	明日の保育・教育にいかす　子ども文化	参・出版社名１	渓水社
参・著者名１	田中卓也　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86327-284-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育実習指導Ⅲ （オムニバス）			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-330		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	保育実習Ⅰの内容を深め、これまで授業で学んだことも含め、総仕上げの実習をするための準備をするということをテーマに、以下のことを到達目標とする。 １．学生が、保育実習の意義と目標を理解し、保育について総合的に理解する。 ２．これまでの実習や既習の教科目の内容や関連性を踏まえ、保育の実践力を修得する。 ３．保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえたの改善について、実践や事例を通して理解する。 ４．保育士の専門性と職業倫理について理解する。 ５．実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。
授業概要	児童福祉施設等の利用児・者の理解を深め、最善の利益を考慮した保育について考察し、個々の状態に応じた課題を明らかにし、個別の支援計画を立て実施できるようにする。また保護者支援のあり方についても考察する。これまでに身につけた知識や技術をいかし、利用児・者の状態に応じた関わりを考察する。また、保育の観察、記録、自己評価に基づいて改善策を考えていけるようにする。保育士の専門性と職業倫理について確認する。事後指導において実習の総括と評価を行い、自己課題を明確にする。事例検討や支援計画立案に関する演習もおこなっていきたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	成績評価基準を受講態度（１５％）、課題発表（１５％）、提出物（２０％）、レポート（５０％）とし、総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	全授業過程をふりかえり、評価を含めてフィードバックする。
履修条件・注意事項	毎回のテーマにそった資料を配布するので熟読しておくこと。受講後は児童福祉施設や支援内容について、関連資料を確認すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	各自の実習先について良く調べ、レポートを作成すること。授業中に出された課題について、関連資料にあたり、学習すること。発表の準備も怠らないこと。予習や復習を十分におこない、毎回９０分ずつあてること。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．実習先や利用児・者の理解を深める（概要表やレポートの作成）	中野明子
第２回	２．子どもの最善の利益を考慮した保育に関する検討（事例検討も含む）	中野明子
第３回	３．保護者支援の場面に関する検討	中野明子
第４回	４．利用児・者の状態に応じた関わりについて（１）障害理解、被虐待児の対応	中野明子
第５回	５．利用児・者の状態に応じた関わりについて（２）相談援助の理論や技術の活用	中野明子

第６回	６．利用児・者の状態に応じた関わりについて（３）様々な保育場面における対応（ロールプレイ）	中野明子
第７回	７．保育の全体計画に基づく計画（１）事例を使った計画の立案（グループ検討）	中野明子
第８回	８．保育の全体計画に基づく計画（２）事例を使った計画の作成（グループ検討）	中野明子
第９回	９．保育の全体計画に基づく計画 （３）事例を使った計画の発表	中野明子
第１０回	１０．観察や記録、己評価について（エピソード記述の例を使った検討）	中野明子
第１１回	１１．保育士の専門性と職業倫理について（保育所保育指針や全国保育 士会倫理綱領に学ぶ）	中野明子
第１２回	１２．実習の心得、実習前の確認事項	中野明子
第１３回	１３．事後指導（１）実習の総括と自己評価、課題の明確化　①実習報告書の作成	中野明子
第１４回	１４．事後指導（２）実習の総括と自己評価、課の明確化　　②実習報告会の準備	中野明子
第１５回	１５．事後指導（３）実習の総括と自己評価、課題の明確化　③実習報告会の開催	中野明子
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	『施設実習の手引き』	教・出版社名１	
教・著者名１	岡山県保育士養成協議会編	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育実習ＩＡ			担当者	秀　真一郎、藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-331		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	90	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、保育現場において、今までに得た知識や技術が、いかに子ども達へと実践され、機能しているかを体験することができる。また、実際に子どもと触れ合うことにより、より深く子どもの姿を理解し、子どもと保育士との関わりを様々な視点から考察することができる。学生は、保育所における実際の保育士の役割を正しく理解し、保育所・家庭・地域社会の三角形における保育士の役割を考察することができる。
授業概要	保育所実習において、今までに得た知識を知識として留めておくのではなく、いかに実戦で役立たせるかという視点で取り組むことを求める。子どもが好きという気持ちを前面に出し、“好きだけではできない仕事”ではなく、“好きだから出来る仕事”ということを実感する。 以上の中で保育士としての職務内容、役割、職業倫理などについて理解を深める。 保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	実習先の評価(６割）と教員による評価（４割）から総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習中での経験や疑問については、実習終了後にフィードバックするので、しっかり見直して自分の将来につながるようにしておくこと。
履修条件・注意事項	毎回のテーマにそった資料を配布するので熟読し、復習もしっかりすること。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書などを読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて実習に臨むこと。実習期間中は、毎回設定する課題に対して意識して取り組み、十分振り返り、日誌を通して考察すること。 復習として、実習後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。予習・復習には９０分以上あてること。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（秀）その他各担当教員のオフィスアワーを参照のこと。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション：保育所実習について	秀・藤井
第２回	指導実習1：実習施設の理解	秀・藤井
第３回	指導実習2：保育計画の理解	秀・藤井
第４回	指導実習3：保育の一日の流れ等	秀・藤井
第５回	参加実習1：子どもの姿（養護・教育の視点から）	秀・藤井
第６回	参加実習2：指導計画の理解・保育技術（日常生活援助）・保育技術（遊びの援助）	秀・藤井
第７回	指導実習1：指導計画の実際	秀・藤井
第８回	指導実習2：職員間の役割分担・職員同士のチームワーク	秀・藤井
第９回	保育所実習全体を通して1：子どもの安全	秀・藤井
第１０回	保育所実習全体を通して2：疾病予防	秀・藤井
第１１回	保育所実習全体を通して3：子どもの家庭	秀・藤井
第１２回	保育所実習全体を通して4：地域社会の理解	秀・藤井
第１３回	保育所実習全体を通して5：保育士としての職業倫理	秀・藤井
第１４回	保育所実習全体を通して6：記録や計画の書き方	秀・藤井
第１５回	保育所実習全体を通して7：自己課題への取り組み	秀・藤井

第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	『保育所実習の手引き』	教・出版社名１	
教・著者名１	岡山県保育士養成協議会編	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	保育実習ＩＢ			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-332		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	90	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	児童福祉施設等の利用児・者を理解し、施設保育士の役割や業務内容を理解することをテーマとする。そのために以下を到達目標とする。 １．学生が、児童福祉施設の役割や機能を理解する。 ２．観察や関わりを通じて、利用児・者への理解を深める。 ３．既習の教科目の内容を踏まえ、利用児・者や家族（家庭）への支援について理解する。 ４．保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
授業概要	児童福祉施設等の利用児・者の生活を理解し、保育士の業務内容を具体的に知る。利用児・者の理解を深め、一人一人に応じた関わりや支援ができるように努める。また、利用児・者の生活に関する安全対策についても理解する。児童自立支援計画（個別支援計画）に基づいて、職種間の連携や他職種との連携が行われている様子について学ぶ。実習日誌における考察を深め、記録に基づく省察や自己評価ができるように努める。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	実習先の評価(６割）と教員による評価（４割）から総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習内容については、実習事後指導において、実習報告書の作成や実習報告会の開催を通してフィードバックする。
履修条件・注意事項	事前に設定した実習課題を意識して、積極的に実習に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	保育実習指導ＩＢの内容を整理して実習に臨むこと。事前に設定した実習課題を意識し、実習指導者のアドバイスを受けながら日々の課題を設定し、反省会や実習日誌において振り返り、考察する。施設の日課や保育士の業務を理解し、利用児・者の状態に応じた関わりなど、実践の内容を深めていけるように工夫する。予習・復習には９０分以上あてること。実習内容の振り返りについては、事後指導において、実習報告書の作成や実習報告会の準備などを通して行う。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．児児童福祉施設等における利用児・者の一日の生活を理解する	中野明子
第２回	２．実習施設の概要を理解する（利用児・者、目的、役割、機能、職員体制等について）	中野明子
第３回	３．利用児・者について理解する(1)子どもの発達について	中野明子
第４回	４．利用児・者について理解する(2)障害理解（知的障害・身体障害）	中野明子
第５回	５．利用児・者について理解する(3)障害理解（発達障害・てんかん）	中野明子
第６回	６．利用児・者について理解する(4)児童虐待	中野明子
第７回	７．子どもの心身の状態に応じた生活と対応について学ぶ	中野明子
第８回	８．子どもの活動と環境について学ぶ	中野明子
第９回	９．安全対策や環境整備について学ぶ	中野明子
第１０回	１０．支援計画に基づく活動や援助を学ぶ	中野明子
第１１回	１１．支援計画の理解と活用について理解する	中野明子
第１２回	１２．記録に基づく省察や自己評価について学ぶ	中野明子
第１３回	１３．施設保育士の役割と職業倫理や守秘義務について学ぶ	中野明子

第１４回	１４．職員間の役割分担や連携について学ぶ	中野明子
第１５回	１５．まとめ	中野明子
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	『施設実習の手引き』	教・出版社名１	岡山県保育士養成 協議会編
教・著者名１	岡山県保育士養成協議会編	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	『より深く理解できる施設実習』　ー施設種別の計画と記録の書き方ー	参・出版社名１	萌文書林
参・著者名１	松本峰雄監修　藤　京子　増南太志　中島健一朗	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-221-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育実習Ⅱ			担当者	秀　真一郎、藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-333		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	90	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、保育現場を実際に触れ、実践において必要な日々の心構え、子どもと関わる上で重要となる保育理論、そして体調管理の重要性を理解することができる。さらに、地域社会や子どもひとりひとりの持つ家庭環境の違いを考慮し、保育実践におけるニーズに対しての理解力・対応力について考えることができる。学生は、毎日の保育場面から、自己の持つ知識・経験・技術における課題を明確にし、自己解決力を身に付けることができる。
授業概要	保育実習Ⅰで得た保育現場での知識や経験を基に自らの特色を生かした保育とは何かということを、自ら構築していく。その上でも、指導案は勿論のこと日々の保育の中でも“保育の個性”を理解し、掴み取っていく。 具体的には保育現場に身を置き、保育の実務経験を有する保育者から次のことを学ぶ。 １．保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解する。 ２．子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育を理解する。 ３．学内での学びや保育実習Ⅰを基礎として保育や保護者支援について総合的に学ぶ。 ４．保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み理解を深める。 ５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ６．保育士としての自己課題を明確にする。 保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	実習先の評価(60%)と、実習日誌及び実習巡回指導等を基にした教員の評価(40%)をもとに総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習中の課題は実習終了後に反省会や、個人面談を行いフィードバックするので、事後の実習や将来につなげること。
履修条件・注意事項	健康維持に努め、意欲的に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書などを読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて実習を受けること。復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習復習には授業計画に沿って、各２時間の程度求められる。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目（秀）、水曜日５限（藤井）をオフィスアワーとする

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	藤井・秀
第２回	子どもひとりひとりへの理解	藤井・秀
第３回	ひとりひとりの子どもに即した保育方法	藤井・秀
第４回	子どもの発達の遅れなどへの配慮	藤井・秀
第５回	子どもの最善の利益への配慮	藤井・秀
第６回	子どもの家庭とのコミュニケーション方法	藤井・秀
第７回	地域社会との連携の方法	藤井・秀
第８回	保育士としての職業倫理の理解	藤井・秀
第９回	指導計画の立案と実践1	藤井・秀
第１０回	指導計画の立案と実践2	藤井・秀
第１１回	指導計画の立案と実践3	藤井・秀

第１２回	指導計画の立案と実践4	藤井・秀
第１３回	指導計画の立案と実践5	藤井・秀
第１４回	指導計画の立案と実践6	藤井・秀
第１５回	指導計画の立案と実践7	藤井・秀
第１６回	指導計画の立案と実践8	藤井・秀
第１７回	指導計画の立案と実践9	藤井・秀
第１８回	指導計画の立案と実践10	藤井・秀
第１９回	指導計画の立案と実践11	藤井・秀
第２０回	指導計画の立案と実践12	藤井・秀
第２１回	指導計画の立案と実践13	藤井・秀
第２２回	指導計画の立案と実践14	藤井・秀
第２３回	指導計画の立案と実践15	藤井・秀
第２４回	指導計画の立案と実践16	藤井・秀
第２５回	指導計画の立案と実践17	藤井・秀
第２６回	指導計画の立案と実践18	藤井・秀
第２７回	指導計画の立案と実践19	藤井・秀
第２８回	自己課題への取り組み	藤井・秀
第２９回	自己課題の評価と反省	藤井・秀
第３０回	まとめ	藤井・秀
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	保育所実習の手引き	教・出版社名１	
教・著者名１	岡山県保育士養成協議会編	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育実習III			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-334		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	90	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	保育実習Ⅰの内容を深め、これまで授業で学んだことも含め、総仕上げの実習をするということをテーマに、以下のことを到達目標とする。 １．学生が、既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等(保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 ２．家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもと　　に、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、　判断力を習得する。 ３．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ４．実習における自己の課題を理解する。
授業概要	既習の教科目や実習の体験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）がどのように役割を果たし、機能しているかを深く学ぶ。施設の利用児・者の理解を深め、個々の状態に応じた課題を明らかにし、個別の援助計画を立案することを試みる。また施設における多様な専門職との連携や協働についても学ぶ。　子ども（利用者）の家族への支援と対応について、面接場面などや生活場面において学ぶ。保育士の多様な業務を知る。保育士としての自己課題を明らかにする。施設と地域のつながりについても理解する。
アクティブラーニングの内容	実習
評価方法と割合	実習先の評価(６割）と学内講義（保育実習指導）の評価（４割）から総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習先の評価も含めて、授業過程もふりかえりながら、実習についてのフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	事前に設定した実習課題を意識して、積極的に実習に臨むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	保育実習指導IIIの内容をよく理解して実習に臨むこと。事前に設定した実習課題意識し、実習指導者のアドバイスを受けながら日々の課題を設定し、反省会や実習日誌において振り返り、考察を深める。施設の日課や保育士の業務を理解し、利用児・者の状態に応じた関わり、児童自立支援計画の立案など、実践の内容を深めていけるように工夫する。予習・復習には９０分以上あてること。実習中の内容については、事後学習において、実習報告書の作成や実習報告会の準備などを通して振り返りを行う。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	1.　実習先施設の理解を深める（１）施設の目的・役割の理解	中野明子
第２回	２．実習先施設の理解を深める（２）施設の機能・職員体制	中野明子
第３回	３．実習先施設の理解を深める（３）日課の理解	中野明子
第４回	４．保育士の業務内容の理解	中野明子
第５回	５．個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と課題の理解	中野明子

第６回	６．共感や受容する態度を身につける	中野明子
第７回	７．個別支援計画の作成	中野明子
第８回	８．個別支援計画の実施	中野明子
第９回	９．個別支援計画の評価	中野明子
第１０回	１０．子ども（利用者）の家族への支援と対応を学ぶ（生活場面）	中野明子
第１１回	１１．子ども（利用者）の家族への支援と対応を学ぶ（面接場面）	中野明子
第１２回	１２．施設における多様な専門職との連携について学ぶ	中野明子
第１３回	１３．施設における多様な専門職との協働について学ぶ	中野明子
第１４回	１４．地域社会との連携や協働のあり方を学ぶ	中野明子
第１５回	１５．まとめ	中野明子
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	『施設実習の手引き』	教・出版社名１	
教・著者名１	岡山県保育士養成協議会編	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子育て支援 ゼミ形式			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-335		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	子育ち、子育て支援の基本姿勢や実践方法を養うことをテーマとし、以下を到達目標とする。 １．学生が、保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援（保育相談支援）について、その特性と展開を具体的に理解する。 ２．保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。
授業概要	グループワークやエクササイズ、ロールプレイ、事例研究などの体験学習中心として、学生の対人行動の理解を促し、子どもと家庭の問題を知り、親面接のあり方を検討する。そして、対人援助のスキルを練習する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	授業への取り組み姿勢（30%）、知識・技術の習得度（30%）、レポート（40%）によって評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回の演習終了後にふりかえり行い、学生へのフィードバックを行う。さらに、授業日程終了後、全プログラムについてふりかえり、評価についてフィードバックする。
履修条件・注意事項	学習体験の場では感じること、考えること、言語化することを意識にて臨んでほしい。復習として、学んだことを日常の場面で練習すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習としては参考文献を通して授業のテーマについて調べておくこと。復習として、授業で学び、気づいたことを整理し、日常生活の中で実践しながら、スキルを身につける努力をすること。予習、復習にはそれぞれ90分以上を費やすこと。
オフィスアワー	毎週火曜日2限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．子どもの保育とともに行う保護者の支援	中野明子
第２回	２．保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解	中野明子
第３回	３．保育士の行う子育て支援の展開（１）子ども及び保護者の状況・状態の把握	中野明子
第４回	4．保育士の行う子育て支援の展開（２）支援の計画と環境の構成	中野明子
第５回	5．保育士の行う子育て支援の展開（３）支援の実践・記録・評価・カンファレンス	中野明子
第６回	6．保育士の行う子育て支援の展開（４）職員間の連携・協働	中野明子
第７回	7．保育士の行う子育て支援の展開（５）社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働	中野明子
第８回	8．保育士の行う子育て支援とその実際（１）保育所等における支援	中野明子
第９回	9.保育士の行う子育て支援とその実際（２）地域の子育て家庭に対する支援	中野明子

第１０回	10. 保育士の行う子育て支援とその実際（３）障害のある子ども及びその家庭に対する支援	中野明子
第１１回	11. 保育士の行う子育て支援とその実際（４）特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援	中野明子
第１２回	12. 保育士の行う子育て支援とその実際（５）子ども虐待の予防と対応	中野明子
第１３回	13. 保育士の行う子育て支援とその実際（６）要保護児童等の家庭に対する支援	中野明子
第１４回	14. 保育士の行う子育て支援とその実際（７）多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解	中野明子
第１５回	まとめ（ふりかえり・グループワークチェックリストの作成）	中野明子
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	毎回新たな学習プログラムを提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	『実践・保育相談支援』	参・出版社名１	（株）みらい
参・著者名１	青木紀久代	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86015-336-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	子どもの社会			担当者				小林　朝雄
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング				PS-CE-2-337
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習	
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限			

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】小学校教員に必要な社会科の授業における基礎的知識を取得し、授業の実践力を身に付ける。 【到達目標】 1　各学年の内容と学習指導の在り方を理解することができる。 2　学習指導案を作成し、授業の評価に関する考え方を理解することができる。 3　ＩＣＴの活用など、授業における効果的な指導・支援の在り方について考えることがきできる。 4　郷土の偉人や史跡等を教材化する視点をもつことができる。
授業概要	「小学校学習指導要領」および「小学校学習指導要領解説　社会編」を中心に、小学校における社会科の学習内容を理解する。また社会科の授業構成に必要な基礎的事項、指導方法・技術についても学ぶ。 ・学習指導案の作成と検討、模擬授業を実施し、講義の充実を目指す。 ・動画や静止画のコンテンツを有効活用し、授業づくりに生かす。 ・GIGAスクール環境を意識して、タブレット端末を活用する。 ・郷土学習（城下町高梁学習）を設け、フィールドワークを計画する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験（６０％）　レポート等提出物（２０％）　積極的な参加態度（２０％） 評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。学習指導案は個別でも行う。
履修条件・注意事項	教科書は、「小学校学習指導要領解説　社会編」を使用するので毎回持参すること。その他、必要に応じてワークシートや関係資料、参考資料を配付する。 ノート作成は必ず行い、配付資料を整理しておくこと。毎回の講義の予習復習も行ってほしい。なお、模擬授業の指導案はワープロソフトで作成し、授業の前に人数分を配付すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう、教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が２時間程度必要。
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施

授業計画		担当者
第１回	はじめに　授業計画と講義の進め方	小林
第２回	小学校社会科の目標・学力・学習指導要領の変遷	小林
第３回	第３学年の内容と学習指導	小林
第４回	第４学年の内容と学習指導	小林
第５回	第５学年の内容と学習指導	小林
第６回	第６学年の内容と学習指導	小林
第７回	郷土教材を生かした学習指導	小林
第８回	学習指導案の作成と授業実践	小林

第９回	学習指導案作成（教材選択）	小林
第１０回	学習指導案作成（教材研究）	小林
第１１回	学習指導案検討会	小林
第１２回	模擬授業と評価Ⅰ	小林
第１３回	模擬授業と評価Ⅱ	小林
第１４回	模擬授業と評価Ⅲ	小林
第１５回	授業の振り返りとまとめ	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領解説　社会編	教・出版社名１	日本文教出版
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	4536590099
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの算数			担当者	鳥居　恭治		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-338		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	幼児や児童の数量概念や図形概念の養成や基礎作りができるために必要な数学の専門性や数学的な考え方の力量を習得するため，(1)数学的な考え方に関する知見を深め，(2)算数科の授業の基本及び４領域の内容を理解し，(3)数学的な考え方を基にして問題解決を図る，ことができるようになる。
授業概要	算数科の授業づくりを行うには，その指導内容等に関する数学的な専門知識が必要である。算数科の目標，活用力の育成など基礎的な事項を理解した上で，算数の授業の基本を概観する。また，数と計算，図形，測定・変化と関係，データの活用の４領域について，その内容や指導についての理解を深める。さらに，数学的な考え方を使った問題解決を考察することなどを通して，魅力ある算数科の授業づくりができる素地を養う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	［試験］60%(授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する) ［提出物］20%(レポート課題，コメント用紙等により評価する) ［授業への参画状況］20%(発表及び発言内容，教職への意欲や態度等) を総合的に評価する。 レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフードバックを行う。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表，グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお，授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教員として実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	毎授業の前・後及び休憩時間等に実施する。

授業計画		担当者
第１回	算数課の目標	鳥居
第２回	数学的な考え方	鳥居
第３回	算数科の授業	鳥居
第４回	算数科の指導	鳥居
第５回	領域「A数と計算」の意義	鳥居
第６回	領域「A数と計算」の内容	鳥居
第７回	領域「B図形」の意義	鳥居
第８回	領域「B図形」の内容	鳥居
第９回	領域「C測定・C変化と関係」の意義	鳥居
第１０回	領域「C測定・C変化と関係」の内容	鳥居
第１１回	領域「Dデータの活用」の意義	鳥居
第１２回	領域「Dデータの活用」の内容	鳥居

第１３回	数学的な考え方を使って問題を解く①（演算）	鳥居
第１４回	数学的な考え方を使って問題を解く②（図形）	鳥居
第１５回	数学的な考え方を使って問題を解く③（測定・変化と関係）	鳥居
第１６回	試験	鳥居

教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説　算数編	教・出版社名１	日本文教出版
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-536-59010-5
教・書籍名２	算数の基本問題　小学5年	教・出版社名2	みくに出版
教・著者名2	日能研教務部	教・ＩＳＢＮ2	978-4-8403-0400-9

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子どもの生活			担当者	鳥居　恭治		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-340		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	「子どもの生活体験」をテーマとして、日常生活における文化・伝統や生活習慣、保育・教育の場における人間関係や自然、との関わりについて理解することを目標とする。また、本講義は幼稚園・小学校教諭一種免許取得のための専門科目であり、履修により保育・教育実践力を身につけることができる。
授業概要	子どもたちが日常の活動や生活体験を通して、身近な社会や自然とのかかわりに興味や関心を持ち、生活上必要な習慣や技能を身につけ、自立への基礎を培うことができるよう援助することの意義について学ぶとともに情報機器の扱いや教材の活用法についても学ぶ。 具体的には、子どもたちが家庭や地域生活において経験する各種の年中行事を題材として、グループによる研究発表・討議を行うことによって理解を深める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	受講態度（２０％）、レポート提出（２０％）、グループ発表・討議への取り組み（２０％）、期末試験（４０％）の結果を合わせて総合的に評価する。なお、課題レポートについては学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループ発表に際しては、資料調べやレジュメ作成（予習）、小道具の準備係等の役割分担を決め、全員の自発的積極的参加による責任発表を行うこと。発表後はグループで反省討議（復習）を行うこと。 子どもの生活場面や環境に関心を持ち、受講生自身の生活力・社会性の向上にも努めてもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教員として実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	毎授業の前・後及び休憩時間等に実施する。

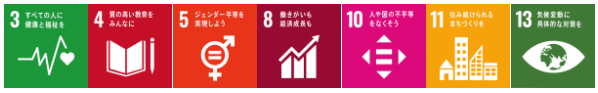
授業計画		担当者
第１回	「子どもの生活」を学ぶ目標と意義	鳥居
第２回	「子どもの生活」の内容（１）　４月	鳥居
第３回	「子どもの生活」の内容（２）　５月	鳥居
第４回	「子どもの生活」の内容（３）　６月	鳥居
第５回	「子どもの生活」の内容（４）　７月	鳥居
第６回	「子どもの生活」の内容（５）　９月	鳥居
第７回	「子どもの生活」の内容（６）　１０月	鳥居
第８回	「子どもの生活」の内容（７）　１１月	鳥居
第９回	「子どもの生活」の内容（８）　１２月	鳥居
第１０回	「子どもの生活」の内容（９）　１月	鳥居
第１１回	「子どもの生活」の内容（１０）　２月	鳥居
第１２回	「子どもの生活」の内容（１１）　３月	鳥居

第１３回	まとめ（1）　子どもの願いと気付きについて	鳥居
第１４回	まとめ（2）　子どもの育ちと保護者との連携	鳥居
第１５回	まとめ（3）情報機器の扱いと教材の活用法	鳥居
第１６回	試験	鳥居

教科書			
教・書籍名１	「生活科で子どもは何を学ぶか」	教・出版社名１	東洋館出版社
教・著者名１	須本良夫	教・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03503-1
教・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年度告示）解説　生活編	教・出版社名2	東洋館出版社
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03464-5
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育指導法（健康）			担当者	柴倉　初美		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-346		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を 
到達目標	幼稚園教育要領、保育内容「健康領域」には、生涯を通じて健康で安全な生活を営む基盤は、幼児期に愛情に支えられた安全な環境の下で心と体を十分に働かせ生活することによって培われていくことが示されている。このことを踏まえて、幼児期において自分の体を十分に動かすことで、体を動かす気持ちよさを感じ、進んで体を動かそうとする意欲を育てることの大切さや自分の体を大切にしたり、身の回りを清潔で安全なものにするなどの生活に必要な習慣や態度を身に着けるようにするための内容や具体的な留意点を理解できることを目的とする。 幼稚園・保育園・こども園において、様々な園行事を実践するために、保育内容「健康領域」に焦点を当てながら、幼児が様々な環境にかかわって展開する具体的な活動を通して、[人間関係領域」「環境領域」「言葉領域」「表現領域」などと総合的に指導されるものであることを理解し、様々な行事の企画・指導計画策定・実践する力の習得を目指すことを目的とする。
授業概要	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領により、保育内容「健康領域」に示されている事項について理解を深める。その後、子どもの発達段階に応じた秋から冬の時期に実施される園の様々な行事について、企画・指導計画立案・実践までを行う。このことにより行事を実践する力を身につける。また、幼稚園・保育園・こども園等の行事見学、などにより園行事を通して幼児教育の理解を深める。そして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」がねらい・内容に基づく行事の活動全体を通して園生活終了時の具体的な姿であることを踏まえ、行事指導において考慮することと理解する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習／フィールドワーク
評価方法と割合	受講態度（40%）指導案作成（30%）指導の実践（30%）により総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習的な内容（指導案作成・模擬保育等）については良い点を評価し、肯定的な言葉で成長を促し、自信につないでいく。また、改善すべき点については成長のために正しく指摘し、改善出来たら称賛するようにする。
履修条件・注意事項	実習的内容も含むため次回の内容を確認し、予習・復習・準備物の確認等を怠らないようにすること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：幼稚園教諭としての実務経験を活かし、教育・保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	各回の授業内容に関して、保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を読み込み理解するとともに、図書館の文献およびwebサイト等を参考にして、保育内容「健康領域」の理解を深め、適切な授業内容実施に努める。予習2時間、復習2時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室で実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（授業の進め方・評価の方法等）	柴倉
第２回	保育内容「健康領域」について	柴倉
第３回	園行事「運動会」の企画・指導計画立案	柴倉
第４回	園行事「運動会」の分担・準備	柴倉
第５回	園行事「運動会」の模擬保育	柴倉
第６回	幼稚園の見学	柴倉
第７回	保育園・こども園の見学	柴倉
第８回	秋の遊びを取り入れた行事の企画・指導計画立案	柴倉

第９回	秋の遊びを取り入れた行事の分担・準備	柴倉
第１０回	秋の遊びを取り入れた行事の模擬保育	柴倉
第１１回	冬の室内遊びを取り入れた行事の企画・指導計画立案	柴倉
第１２回	冬の室内遊びを取り入れた行事の分担・準備	柴倉
第１３回	冬の室内遊びを取り入れた行事の模擬保育	柴倉
第１４回	冬の戸外遊びを取り入れた行事の企画・指導計画立案	柴倉
第１５回	冬の戸外遊びを取り入れた行事の模擬保育	柴倉
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	幼稚園教育要領解説	教・出版社名１	フレーベル館
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
教・書籍名２	保育所保育指針解説	教・出版社名2	フレーベル館
教・著者名2	厚生労働省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-577-81448-2
参考書			
参・書籍名１	幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	内閣府・文部科学省・厚生労働省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81449-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育指導法（人間関係）			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-347		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	幼児が他の人々と親しみ､支え合って生活することができるように、幼児の自立心を育て人と関わる力の基礎を育てるための保育指導法を考察することができる。そのために幼児期の発達の特性と幼稚園教育要領「領域（人間関係）」について理解を深め、保育実践を具体的に想定し指導法を探求することができる。
授業概要	１．「保育内容（人間関係）」での学びを基礎として、さらに実践記録や「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」に示されている「領域（人間関係）」について、情報機器及び教材を活用してディスカッションを行い指導法について学びを深める。 ２．「保育内容（人間関係）」のワークブックに取り組みながら、幼児期の特性や幼児を取り巻く課題を考慮した保育実践にむけて課題をつかむ。 ３．「幼児が友達と遊びの中で関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わう」ことのできる活動の指導計画の作成と発表を通して、実践をイメージし保育について考察する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	課題の発表や積極的に授業を創造しようとする態度、ディスカッションからの学び等、授業への参加態度・課題レポート（30%）、指導案の作成（15%）指導案の発表（15%,）、筆記試験（40%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出物は評価しフィールドバックするので見直し、活かすこと。
履修条件・注意事項	保育において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及び領域「人間関係」の「ねらい」を達成するためには、保育者自身がその「ねらい」を意識し、自分自身の人と関わる力を豊かにしていく努力が求められます。 授業の中でもその思いを持って、共に充実した授業になるよう取り組んでいきましょう。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：保育士として保育現場における実務経験をもつ教員が、保育現場に役立つ実践的な授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業では課題を基にしたディスカッションや模擬授業を行うため、事前の課題作成などの予習や事後のまとめや振り返りなどの復習が必要です。１コマの学修に2時間は必要です。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室において、毎週水曜日５限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	保育の基本と保育内容（人間関係）とは	藤井
第２回	『幼稚園教育要領解説』や『保育所保育指針解説』から、幼児教育の基本について考察する	藤井
第３回	幼児期にふさわしい生活と「領域（人間関係）」	藤井
第４回	幼児期に人と関わる力が育つために保育者に求められること	藤井
第５回	『幼稚園教育要領解説』から、「保育内容（人間関係）」の「ねらい」・「内容」について考察する	藤井
第６回	『幼稚園教育要領解説』から、「保育内容（人間関係）」の「内容の取り扱い」について考察する	藤井
第７回	個と集団が育つ保育とは	藤井

第８回	幼稚園における指導計画の作成（充実した遊びが生まれるために指導計画に求められること）	藤井
第９回	指導計画の作成と考察（模擬保育）①	藤井
第１０回	指導計画の作成と考察（模擬保育）②	藤井
第１１回	指導計画の作成と考察（模擬保育）③	藤井
第１２回	指導計画の作成と考察（模擬保育）④	藤井
第１３回	指導計画の作成と考察（模擬保育）⑤	藤井
第１４回	幼児期に人と関わる力の基礎を育むために保育の全体体な計画や指導計画に求められること	藤井
第１５回	総括　人と関わる力の原点を見つめて	藤井
第１６回	筆記試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	幼稚園教育要領解説	教・出版社名１	フレーベル館
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
教・書籍名２	保育所保育指針解説	教・出版社名2	フレーベル館
教・著者名2	厚生労働省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-577-81448-2
参考書			
参・書籍名１	最新保育講座８『保育内容「人間関係」』	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	森上史朗・小林紀子・渡辺英則	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-05498-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	保育指導法（環境）			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-348		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜3限		
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１３．気候変動に具体的な対策を／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<テーマ> 「幼稚園教育要領」や「保育所保育指針」、「幼保連携認定こども園教育・保育要領」に示された「保育内容　領域（環境）」の「ねらい」及び「内容」について環境領域と関連させて理解を深め、幼児の発達に即して、具体的な指導場面を構想する方法を身に付けることができる。 ＜到達目標＞ １）「幼稚園教育要領」等における幼児教育の基本、「保育内容（環境）」の「ねらい」及び「内容」並びに全体構造を理解できる。 ２）「保育内容（環境）」の「ねらい」及び「内容」を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解できる。 ３）「保育内容（環境）」において幼児が身に付けていく内容の関連性や小学校も教科などとのつながりを理解できる。						
授業概要	「保育指導法（環境）」では、幼児が自然環境はじめ物的環境、人的環境、社会環境など様々な環境に主体的に関わることにより感性を豊かにし、人間として生きる力の基礎となる心情、意欲、態度などを身に付けていくことの基本的意義を学修し、「保育指導法（環境）」の指導に保育者として必要な知識・技能を修得することを目的とする。加えて保育者が果たすべき役割の再確認を行うと同時に、「保育指導法（環境）」に関する具体的 教材作成やをICTを活用したプレゼンテーションの手法についても「模擬保育」の演習として取り組み、実際の保育環境の中で実践的な保育指導のできる能力を修得する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	本授業内容は教科書を中心に、教材研究、模擬保育を行う中で、領域環境の理解を図る。 「環境」に関する教材をの立案・発表（２０％） 模擬保育のための指導案作成と実践（約２０％） レポートと発表（約３０％） 毎回の授業への参加態度（30％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題やレポートについては、授業中にフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	自ら学ぶ姿勢が何よりも大切です。 初回から筆記用具を必ず準備し、配布される参考資料等ファイルし、テキストや授業で得た事項および自習した資料も加えて「マイノート」として整理しましょう。						
実務経験のある教員	該当する	内容	保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	１．テキストを中心に参考書、配布資料を参照して授業に臨むこと。 ２．配布資料やレポートなど自習したものを加え、「マイノート」として整理し、必ず復習を行うこと。 ３．期末試験は授業の際に適宜示される「課題」についてのレポート模擬保育が筆記試験の代わりとなるので、理						

	解度の評価を上げるために、各事項における内容のポイントを中心に予習・復習を必ず行うこと（各2時間）。
オフィスアワー	10号館３階、個人研究室(10313)にて、水曜日５限

授業計画		担当者
第１回	幼児教育の基本と「保育内容（環境）」とは	藤井
第２回	環境を通しての教育と保育者の役割	藤井
第３回	「保育内容（環境）」の「ねらい」と「内容」及び指導案作成	藤井
第４回	植物に関わる事例と実践指導の考察	藤井
第５回	動物に関わる事例と実践指導の考察	藤井
第６回	用具・遊具に関わる事例と実践指導の考察	藤井
第７回	自然現象に関わる事例と実践指導の考察	藤井
第８回	数量や図形に関わる事例と実践指導の考察	藤井
第９回	地域に関わる事例と実践指導の考察	藤井
第１０回	春・夏の生活に関わる模擬保育	藤井
第１１回	秋・冬の生活に関わる模擬保育	藤井
第１２回	情報機器に関わる事例と実践指導の考察	藤井
第１３回	ICT活用よる実践指導教材研究（立案・作成・討論）	藤井
第１４回	小学校 教育との連携の在り方および「領域（環境）」の総括	藤井
第１５回	幼児を取り巻く環境の実際と保育における課題	藤井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	『保育内容　環境』	教・出版社名１	建帛社
教・著者名１	編著：高橋貴志・目良秋子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-5062-4
教・書籍名２	『幼稚園教育要領解説』	教・出版社名2	フレーベル館
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-577-81447-5
参考書			
参・書籍名１	『事例で学ぶ保育内容領域　環境』	参・出版社名１	萌文書林
参・著者名１	監修：無藤　隆 編集：福元真由美	参・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-258-8
参・書籍名２	子どもと環境（理論編）	参・出版社名2	三晃書房
参・著者名2	監修：小田　豊　　編者：奥井智久、芦田　浩	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7830-8003-9

授業科目名	保育指導法（言葉）			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-349		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	＜幼児に豊かな言葉環境を届け、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う＞ 幼児が自分なりの言葉で表現したり、相手の話を聞こうとしたりする意欲や態度、および豊かな言語感覚の基礎が育つための指導法を身に付けることができる。 そのために乳幼児期の言語発達の特性と幼稚園教育要領「領域（言葉）」について理解し、保育の実践場面を具体的に想定し、保育を構想する方法を身に付ける。
授業概要	１．乳幼児期の言葉の発達と特性について、情報機器及び教材を活用しながら実践例や資料を基に、ディスカッションしたりまとめたりして理解を深める。 ２．幼稚園教育の基本を確認しつつ「領域（言葉）」の「ねらい」や「内容」について理解する。 ３．絵本や紙芝居等の児童文化財を学生自身が鑑賞し、保育に向けて指導法を考察する。 ４．言葉を育む力となる保育教材の研究と制作を行い、その指導法を考察する。 ５．言葉を育む遊びについてグループで指導計画を作成し、模擬保育と振り返りを行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／フィールドワーク
評価方法と割合	授業への参加態度（20%）、課題（①絵本の調査・分析（15%）、②紙芝居の調査・分析（15%）、③指導計画の作成と模擬保育（10%）、 科目最終試験（40%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	提出課題は履修者同士共有したり、コメントを付けたりしてフィードバックする。
履修条件・注意事項	日頃から乳幼児の言葉を育むために、自分自身の言語能力を磨く努力を心がけること。 また、絵本や紙芝居、お話等、優れた児童文化財に触れることは、予習・復習として重要なことです。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は保育士として保育現場における実務経験をもつ教員が、保育現場に役立つ実践的な授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	・模擬保育に向けて各自で言葉の育ちを目的に、楽しい遊びの指導案を立案しておきましょう。 ・そして授業でさらに深めていくよう積極的に取り組みましょう。 ・幼児に語ってあげたいお話を覚え、語りましょう。 ・絵本・紙芝居は幼児の重要な文化です。しっかり教材研究しましょう。 教材研究や作品作りは授業内ではできないので、事前・事後の取り組みが必要です。 （１コマの授業に対して、予習復習各２コマ分が必要です。）
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室において、水曜日５限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	保育指導法（言葉）とは・言葉の力とは	藤井
第２回	言葉が生まれるころの大切な関わりと保育環境（0歳～1歳）	藤井
第３回	自我が芽生え・育つころの言葉の発達に大切な関わりと保育環境（幼児期前期）	藤井
第４回	他者と繋がる言葉・自分の中にひろがる言葉の世界を育む保育環境（幼児期後期）	藤井
第５回	「幼稚園教育要領」等にみる「領域（言葉）」の「ねらい」・「内容」について考える	藤井

第６回	「幼稚園教育要領」等における「領域（言葉）」の「ねらい」・「内容」と保育実践につい考える	藤井
第７回	特別な配慮の必要な子への保育について実践例を基に考える	藤井
第８回	言葉を育む手作り教材の制作と発表、保育実践に向けての指導計画の作成と評価	藤井
第９回	乳幼児の発達に添った絵本の教材研究	藤井
第１０回	乳幼児の発達に添った紙芝居の教材研究	藤井
第１１回	耳から言葉を聞く楽しみを届ける（お話を語る）	藤井
第１２回	耳から言葉を聞く楽しみ、考える楽しみを一緒に味わう（言葉遊び）	藤井
第１３回	グループによる指導計画の作成と模擬保育（お話作り・劇遊び①）	藤井
第１４回	グループによる指導計画の作成と模擬保育（お話作り・劇遊び①）	藤井
第１５回	幼児期における言葉の発達と課題	藤井
第１６回	筆記試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	『幼稚園教育要領解説(最新版)』	教・出版社名１	フレーベル館
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
教・書籍名２	『保育内容・言葉』	教・出版社名2	同文書院
教・著者名2	太田光洋／編著	教・ＩＳＢＮ2	978-4-8103-1471-7
参考書			
参・書籍名１	『明日の保育・教育にいかす子ども文化』	参・出版社名１	渓水社
参・著者名１	田中卓也・藤井伊津子・橋爪けい子・小島千恵子／編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86327-284-2
参・書籍名２	『保育所保育指針解説』	参・出版社名2	フレーベル館
参・著者名2	厚生労働省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-577-81448-2

授業科目名	保育指導法（保育内容総論）			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-351		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	遊びを通した総合的教育を目指す中で、子ども理解と環境構成はその方法を決定する上で最も大切な要因となる。しかし、子ども理解と環境構成に対する視点はいくつも存在し、それぞれの視点によっての捉え方もまた違う。ご領域の関連性からくる「方法」の捉え方とその探り方について、自らの理論を構築し、柔軟な視野を見つけることを目的とする。
授業概要	「方法」に対する視点は無数に存在する。子ども、遊び、環境、生活、人間関係などそれぞれの視点にはそれぞれの特徴を持つ。そのため、それぞれの視点を理解するだけでなく、それぞれの視点の持つ特徴をどのようにとらえるかという自らの理論を構築する必要がある。理論の伴う「方法」とは何か、保育現場において活用される教材を含む「方法」における答えを探し出してほしい。保育士としての実務経験を活かし、保育現場について実践的な授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度、提出物、試験から総合的に判断する。 成績評価基準：受講態度（１５％）、提出物（１５％）、試験（７０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に提出したものについては授業の中でフィードバックするので、試験までにしっかり見直しておくこと。
履修条件・注意事項	実習、さらには将来の現場において大切な内容も多く含まれることを意識し、積極的に取り組むこと。 指導法に対する理解を総合的な観点でとらえ、その内容を予習復習でしっかりと習得してもらいたい。
実務経験のある教員	該当する　内容：幼稚園教諭1種免許・保育士資格
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。 予習復習は必ず行い、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	「方法」を考えるときに大切なこと	秀
第２回	子どもと遊びの楽しさを共有する方法を探る	秀
第３回	子どもが育つ環境をつくる方法を探る：幼稚園教育要領が示していること	秀
第４回	子どもが育つ環境をつくる方法を探る：季節を視野に入れた環境構成	秀
第５回	子どもとの充実した遊びや活動を組み立てていく方法を探る：遊びを通して育つということ	秀
第６回	子どもとの充実した遊びや活動を組み立てていく方法を探る：保育の場において形態を考えることとは	秀
第７回	子どもとの充実した生活をつくるための方法を探る	秀
第８回	子どもの育ちに即した援助の方法を探る：子どもが育つということ	秀
第９回	子どもの育ちに即した援助の方法を探る：子どもと子どもの関係の広がり	秀
第１０回	栽培や行事を子どもとともにつくりあげる方法を探る	秀
第１１回	かかわりの難しさを感じる子どもへの援助の方法を探る：気になる子どもへの援助	秀
第１２回	かかわりの難しさを感じる子どもへの援助を探る：外国人の子どもへの援助	秀
第１３回	記録から方法を探る	秀

第１４回	連携という方法を探る	秀
第１５回	「方法」を探求していくために	秀
第１６回	試験	秀

教科書			
教・書籍名１	保育方法の実践的理解	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	久富陽子＋梅田優子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-128-4
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	平成29年告示　幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領　<原本>	参・出版社名１	チャイルド本社
参・著者名１	文部科学省、厚生労働省、内閣府	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8054-0258-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	初等教科教育法（社会）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-353		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／５．ジェンダー平等を実現しよう／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう
到達目標	【テーマ】小学校における社会科についての知識を理解し、授業実践力を身に付ける。 【到達目標】 1　教材研究の必要性について理解し、学習指導案を作成することができる。 2　授業の基礎的なスキル（発問、板書、調べ学習等）を身に付けることができる。 3　ＩＣＴを効果的に活用し、児童の学習意欲を高める授業を考えることができる。 4　郷土の偉人や史跡等を教材化する視点をもつことができる。
授業概要	「小学校学習指導要領」および「小学校学習指導要領解説　社会編」を中心に、小学校における社会科の授業構成に必要な基礎的事項、理論、指導方法、指導技術などについて学ぶとともに、体験的な授業として教材研究、学習指導案作成、模擬授業を取り入れる。 ・学習指導案の作成と検討、模擬授業を実施し、講義の充実を目指す。 ・GIGAスクール環境を意識して、タブレット端末を活用する。 ・静止画、動画コンテンツを有効活用し、社会科のもつ多面的・多角的な学習場面を扱う。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	定期試験(６０％)　　レポート等提出物(２０％)　　積極的な参加態度(２０％)
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。学習指導案は個別でも行う。
履修条件・注意事項	毎時間、参考資料を配付するのでファイルを用意すること。なお、学習指導案作成に際しては必ずワープロソフトを活用して作成し、授業前に全員に公開することとする。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター情報教育部指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	課題の予習復習、積極的授業参加態度を期待する。模擬授業が充実したものになるよう工夫していただきたい。予習復習には２時間程度は必要です。
オフィスアワー	毎時間講義終了後教室にて実施

授業計画		担当者
第１回	はじめに　講義の進め方等	小林
第２回	社会科における教材研究１	小林
第３回	社会科における教材研究２	小林
第４回	１単位時間の構成	小林
第５回	授業の基礎的スキル（発問、板書、調べ学習、ICT活用）	小林
第６回	授業の基礎的スキル（話し合い活動、表現活動等）	小林
第７回	社会科の評価、指導計画	小林
第８回	学習指導案の作成と授業の実際	小林
第９回	教材研究と学習指導案の作成	小林
第１０回	模擬授業の導入部分の実施と評価	小林
第１１回	学習指導案の作成検討会	小林
第１２回	模擬授業	小林
第１３回	模擬授業	小林

第１４回	模擬授業		小林
第１５回	模擬授業とまとめ		小林
第１６回	単位認定試験		小林
教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領解説 社会編	教・出版社名１	日本文教出版
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	4536590099
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	初等教科教育法（算数）			担当者	鳥居　恭治		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-354		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	子どもにとって魅力ある教材を開発して授業できる実践的指導力を身につけるため，（1）算数科の目標と内容について理解する，（2）デジタル教材を含めた魅力ある教材開発をする，（3）学習指導案を作成し授業実践（模擬授業）をする，（4）授業設計の計画・実践・評価の一連の考察を通して授業改善を計る，ことをねらいとしている。
授業概要	小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説　算数編の内容を熟知し、具体的な指導事例を通して算数科指導法の基礎的な事項を習得する。また，デジタル教材をはじめ子どもにとって魅力のある教材を開発して授業ができる実践的指導力を育成する。授業における効果的なICT活用方法を追究して学習指導案を作成し模擬授業を実施し，評価・改善を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習
評価方法と割合	〔試験〕60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） 〔提出物〕20%（レーポート課題，コメント用紙等により評価する） 〔授業への参加態度〕20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等） を総合的に評価する。 レポート課題は授業中で，試験は個別にフィードバックを行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については、授業の中で、試験については個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表，グループディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお，授業で配付されてプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教員として38年の実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，教育現場に実践的において役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として，受業で配付したプリントの内容を，理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお，それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	毎授業の前・後及び休憩時間等に実施する。

授業計画		担当者
第１回	算数課の目標と内容	鳥居
第２回	各学年の内容１（１，２年）	鳥居
第３回	各学年の内容２（３，４年）	鳥居
第４回	各学年の内容３（５，６年）	鳥居
第５回	指導計画の作成と内容の取り扱い	鳥居
第６回	魅力ある教材の開発	鳥居
第７回	魅力あるデジタル教材開発	鳥居
第８回	魅力あるデジタル教材開発の実際	鳥居
第９回	ICT活用による授業構成	鳥居
第１０回	ICT活用による授業構成の実際	鳥居

第１１回	学習指導案の作成	鳥居
第１２回	学習指導細案・板書計画の作成	鳥居
第１３回	模擬授業と授業分析①（第１グループ）	鳥居
第１４回	模擬授業と授業分析②（第２グループ）	鳥居
第１５回	模擬授業と授業分析③（第３グループ）	鳥居
第１６回	試験	鳥居

教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説　算数編	教・出版社名１	日本文教出版
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-536-59010-5
教・書籍名２	算数の基本問題　小学6年	教・出版社名2	みくに出版社
教・著者名2	日能研教務部	教・ＩＳＢＮ2	978-4-8403-0401-6

参考書			
参・書籍名１	問題解決にもとづく算数指導	参・出版社名１	東洋館出版社
参・著者名１	島田　和昭	参・ＩＳＢＮ１	978-4-4910-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	初等教科教育法（生活）			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-356		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本講義は小学校教諭一種免許状取得のための必修科目であるが、小学校学習指導要領に定められた「生活科」の学習指導内容の理解をテーマとして、①「生活科」の学修内容について指導上の留意点を理解している、②「生活科」の学習評価の考え方を理解している、③「生活科」と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができることを到達目標とする。
授業概要	本講では、子供の認識や思考、学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解させるとともに、「生活科」の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用方を理解させ、授業設計に活用することができる能力を涵養する。また、学習指導案の構成を理解させ、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができるよう教授する。さらに、模擬授業の実施とその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付けられるよう指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	家庭や地域における子どもたちの日常生活環境に関心を持ち、積極的に参加してほしい。 また、本講では授業前に資料ファイルを提示するので、資料調べ（予習）等意欲的に取り組んでほしい。授業後の学習内容の確認やまとめ（復習）を必ず行うこと。 なお、講義ではテキスト・参考書を使用するので各自で購入しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：児童養護施設の主任児童指導員・副園長として園内小学生の学習指導(生活科)に従事した。このような経験を踏まえ、生活科の学習指導の実践例を交えた授業を行い、履修学生の理解を深めさせる。
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	１．教科「生活科」の目標	栗田喜勝
第２回	２．小学校１年の生活科（１）年間授業計画と指導案の作成	栗田喜勝
第３回	３．小学校１年の生活科（２）自然との関わり	栗田喜勝
第４回	４．小学校１年の生活科（３）生活の知恵	栗田喜勝
第５回	５．小学校１年の生活科（４）生活体験の広がり	栗田喜勝
第６回	６．小学校１年の生活科（５）異文化理解	栗田喜勝
第７回	７．小学校１年の生活科（６）模擬授業と授業改善・情報機器及び教材活用	栗田喜勝
第８回	８．小学校２年の生活科（１）年間授業計画と指導案の作成	栗田喜勝
第９回	９．小学校２年の生活科（２）自然とのかかわり	栗田喜勝
第１０回	１０．小学校２年の生活科（３）家庭・地域生活	栗田喜勝

第１１回	１１．小学校２年の生活科（４）自己成長の認識	栗田喜勝
第１２回	１２．小学校２年の生活科（５）生活体験の広がり	栗田喜勝
第１３回	１３．小学校２年の生活科（６）労働の理解	栗田喜勝
第１４回	１４．小学校２年の生活科（７）模擬授業と授業改善・情報機器及び教材活用	栗田喜勝
第１５回	１５．学修のまとめ	栗田喜勝
第１６回	１６．期末試験	

教科書			
教・書籍名１	文部科学省編「小学校学習指導要領解説(生活編)」(最新版)	教・出版社名１	東洋館出版社
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03464-5
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	こうすればできる！授業の技術と実践 生活科１・２年	参・出版社名１	株式会社ルック
参・著者名１	小川修一	参・ＩＳＢＮ１	4-86121-091-4
参・書籍名２	子どもを育む心理学	参・出版社名2	保育出版社
参・著者名2	小林芳郎他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-938795-61-0

授業科目名	初等教科教育法（音楽）			担当者	上田　豊		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-357		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「子どもの保育内容・教育内容に関わる音楽の専門知識・技術の習得」をテーマに、 子どもの音楽表現を援助するために必要な知識や技術を学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針の精読及びわらべうた遊びや子どもの歌の歌唱を通して、子どもの音楽活動の意味が理解できるようになる。 音楽の専門知識・技術の点では、簡単な楽譜が読める、子どもの歌が歌える。鍵盤楽器で簡単な曲が弾けるようになる。
授業概要	テキストは、子どもの音楽表現について、序章と14の章で構成されています。授業は、各章のテーマについて、ディスッカッションし、グループで表現活動を実践し、それらを通してまとめをするという形で進めます。また、テーマによっては、調査やフィールドワーク等も行います。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	平素の課題（レポート、設問回答等）と期末試験（実技・筆記）及び授業参加態度により総合的に評価する。評価の割合は、期末試験（40%）、平素の課題への取り組み（40%）、授業参加態度（20%）。 授業では、毎回次回のテーマについて予告し、そのテーマについて設問の形で課題として課す。結果は、授業で一人ひとりに返却し、簡単な解説をおこなうので、見直しておくようにすること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間に口頭で行う。
履修条件・注意事項	授業は、テキストに沿って行うので、テキストを忘れないこと。また、課された課題は提出できるようにまとめ、期限の日に持参すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	幼児期は未分化なので、日常生活の音の中に潜む音楽の芽に注意を働かせ、感性を磨くこと。前回の復習は勿論のこと、次回の予告された章について予習し、主旨の把握、疑問点などを把握しておくこと。予習及び復習は2時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．呼吸法、発声法	上田
第２回	２．歌唱表現①　明るい声・暗い声	上田
第３回	３．歌唱表現②　かたい声・柔らかい声	上田
第４回	４．音楽表現①　フレーズと表現	上田
第５回	５．音楽表現②　テンポと表現	上田
第６回	６．音楽表現③　強弱と表現	上田
第７回	７．音楽表現④　形式と表現	上田
第８回	８．表現に関する言葉	上田
第９回	９．ピアノ・ハ長調の旋律と運指	上田
第１０回	１０．ピアノ・ヘ長調の旋律と運指	上田
第１１回	１１．ピアノ・ト長調の旋律と運指	上田
第１２回	１２．ピアノ・ニ長調の旋律と運指	上田
第１３回	１３．ピアノ・ワン・コードの曲	上田
第１４回	１３．ピアノ・ツー・コードの曲	上田

第１５回	１５．ピアノ・スリー・コードの曲	上田
第１６回	１６．試験（演奏発表弾き歌い）	上田

教科書			
教・書籍名１	実践しながら学ぶ　子どもの音楽表現	教・出版社名１	保育出版社
教・著者名１	石井玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-938795-78-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	幼稚園教育指導書　増補版	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	文部省	参・ＩＳＢＮ１	4-577-82016-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	初等教科教育法（図画工作）			担当者	佐藤　尚宏		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-358		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	「図画工作科教育に関する基礎的な知識及び授業運営の実際」をテーマとして、児童の発達段階と育成を目指す資質・能力や、図画工作の特質や意義について理解した上で、学習指導の計画方法を学び、より良い授業づくりのための教育技能を獲得することを到達目標とする。
授業概要	初等教育における図画工作の意義や役割、目標と内容、歴史などの理論及び学習指導計画と評価、情報機器の活用について学ぶ。さらに学習指導の実践に向けて〈造形あそび〉〈絵（版）〉〈立体〉〈工作〉〈鑑賞〉において児童の発達に沿ったふさわしい教材研究を行った上で、指導案の作成と模擬授業を行う。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	節目のレポート課題、模擬授業の演習などの評価：70% 授業に取り組む姿勢（予習・復習課題、参加の態度や意見など）：30% ※毎回の予習・復習課題は評価したのち、必要なフィードバックはコメントか授業内で行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	模擬授業の後必要なフィードバックと補足講義を行う。
履修条件・注意事項	予習・復習（教科書）、および模擬授業の準備などの自宅学習が必要です。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：園での造形表現指導（2年）、小学生の絵画指導経験（20年）継続中。過去に美術系進学予備校において15年間の指導経験あり（デッサン、色彩構成・表現、立体構成・表現、構想表現）。
事前学習・事後学習とその時間	【予習】事前にテキストを読んで、疑問点やわかりにくい点などを書き出しておくこと。 【復習】授業内容をふまえ、内容の理解を深めること。 ※事前・事後の学修は、各2時間以上必要です。 ※普段から様々なアートや子どもたちの遊びや野外活動、造形表現に触れること。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、第1章.図画工作科における学び	佐藤尚宏
第２回	学習指導要領（目標および内容）	佐藤尚宏
第３回	第2章.図画工作科の内容	佐藤尚宏
第４回	第3章.図画工作科の指導法、学習指導計画と評価	佐藤尚宏
第５回	第2章.図画工作科の内容1.2.3、教材研究の意味	佐藤尚宏
第６回	模擬授業（A表現-造形遊び）	佐藤尚宏
第７回	模擬授業（A表現-造形遊び）	佐藤尚宏
第８回	第2章.図画工作科の内容4.5.6.7.8.9	佐藤尚宏
第９回	模擬授業（A表現-絵に表す）	佐藤尚宏
第１０回	模擬授業（A表現-立体に表す）	佐藤尚宏
第１１回	第2章,図画工作科の内容10.11.12.13.14.15	佐藤尚宏
第１２回	模擬授業（工作に表す）	佐藤尚宏
第１３回	模擬授業（工作に表す）	佐藤尚宏
第１４回	模擬授業（B鑑賞）	佐藤尚宏
第１５回	第5章.図画工作科の学びの広がり	佐藤尚宏
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	明日の小学校教諭を目指して 子どもの資質・能力を育む 図画工作科教育法	教・出版社名１	萌文書林
教・著者名１	新野貴則・福岡知子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-89347-287-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 図画工作編	参・出版社名１	日本文教出版
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4536590112
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	初等教科教育法（家庭）			担当者				幸坂　寛子	
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング				PS-CE-3-359	
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習		
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	水曜5限				

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１２．つくる責任・つかう責任
到達目標	小学校家庭科を指導する上で必要な基礎的かつ基本的な知識と技術を習得する。学習指導案の作成や、評価計画の作成を通して授業の組み立てについての基礎的な知識及び技術を身につけるとともに模擬授業を通して小学校教師として必要なコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、情報機器や教材を効果的に活用する能力および教材研究能力を養い、家庭科の授業を創造する指導力を養う。
授業概要	小学校学習指導要領に示された小学校家庭科の目標・内容・方法・評価とそれに基づく授業構成の検討を行う。また、授業を行う上での指導計画、評価計画の作成を行い、模擬授業を行う。 実務経験のある教員による授業科目 この科目は教諭としての実務経験を持つ教員がその経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習
評価方法と割合	小学校家庭科を指導する上で必要な知識及び技術の習得を測るため授業への取り組み、模擬授業、小テスト等の試験を用いて総合的に評価する。 具体的には、授業への積極的参加態度（４５％）、課題及びレポート等の提出物（３５％）、最終試験（２０％）を合計する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために行った課題及びレポートについては、授業でフィードバックをするので最終試験までに見直しておくこと。
履修条件・注意事項	「子どもの家庭」の履修を履修条件とする。 教職を目指す者としての自覚を持って授業に臨むことを強く希望するため、授業への参加態度や積極的な取り組みを大きく評価へ反映させる。 模擬授業に関するレポートの提出を重視するため指導案、本事案、指導細案、板書計画、ワークシートの作成をしっかりと行い、必ず期日厳守で提出すること。また受講に際して、毎回予習・復習を十分行うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：教諭として学校現場において実務経験を持っており、その経験を生かして教育現場において実践的に役立つ授業について指導を行う。
事前学習・事後学習とその時間	各授業計画にある内容について事前に予習し授業に臨むこと。模擬授業に関して、授業担当者以外も必ず指導案を作成し、授業後自己評価と改善を行うこと。 予習および復習には２時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施する。

授業計画		担当者
第１回	学習指導要領の変遷と家庭科の特徴	幸坂
第２回	小学校家庭科の内容研究①（家族・家庭生活）	幸坂
第３回	小学校家庭科の内容研究②（食生活）	幸坂
第４回	小学校家庭科の内容研究③（衣生活）	幸坂
第５回	小学校家庭科の内容研究④（住生活）	幸坂
第６回	小学校家庭科の内容研究⑤（消費生活と環境）	幸坂
第７回	カリキュラムマネージメントについて	幸坂

第８回	ICT（情報機器）活用による授業構成と教材研究について	幸坂
第９回	実験・実習を用いた授業設計について	幸坂
第１０回	学習指導案の作成について	幸坂
第１１回	評価方法について	幸坂
第１２回	模擬授業①（家族・家庭生活）	幸坂
第１３回	模擬授業②（衣生活）	幸坂
第１４回	模擬授業③（食生活）	幸坂
第１５回	模擬授業④（消費生活・環境）	幸坂
第１６回	単位認定試験	幸坂

教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領(平成29年度告示）解説　家庭編	教・出版社名１	東洋館出版社
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03466-9
教・書籍名２	わたしたちの家庭科　小学校５・６年　　２０２０版	教・出版社名2	開隆堂
教・著者名2	鳴海　多恵子他	教・ＩＳＢＮ2	978-4-304-08086-9

参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	初等教科教育法（体育）			担当者	関　孝之		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-360		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	実技・演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	５．ジェンダー平等を実現しよう
到達目標	子どもの体力低下が叫ばれるなか、小学校体育科の役割は今後ますます重要視される。授業では、体育科の目的・目標を概観し、現在求められている体力・運動能力、および健康感を理解することから、実際の授業で取り扱われる内容とその授業の構成及び指導法について探求するとともに、良い体育授業や体育科で何を教えるべきかについて理解できる。
授業概要	小学校教育現場で円滑に体育科の授業が実施できるように、単元構想や学習指導案の作成法およびICTを活用した授業づくりおよび評価について学習し、その学習事項を取り入れた模擬授業を実施することで、実践的な能力を育成する。 この教科では、小学校教員として実務経験を持つ教員が、その経験を未来ある受講生に伝えるとともに、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／実習
評価方法と割合	出欠及び受講態度(40%)　課題レポート(30%)　模擬授業(20%)　振り返り(10%)
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題については、各講義の時間内でフィードバックを行ったり、必要に応じて次の講義の時間行う。 試験については、実技を伴う教科なので一括しての試験は行わない。体育科の指導案の作成を行い、 模擬授業をする中で評価し試験とする。
履修条件・注意事項	実技を伴うので、実技ができる服装
実務経験のある教員	該当する　内容　小学校勤務３８年(内３３年間小学校体育連盟に活動に参加)
事前学習・事後学習とその時間	各授業計画に記載のある内容について、学習指導要領などを参考として事前に予習を行うこと事後の復習に関しては、実技・理論ともに講義内容を自分なりにまとめ、必要に応じて不足した部分についての自習を行い、習得・理解を定着させること。
オフィスアワー	授業後

授業計画		担当者
第１回	第１回：オリエンテーション(授業の進め方・評価等)と教育実習に向けて体育科の指導において気を付けること	関　孝之
第２回	第２回　体育科の目的と教授方法　その１（体つくり運動：体ほぐしの運動）	関　孝之
第３回	第３回　体育科の目的と教授方法　その２（体つくり運動：体力を高める運動　多様な動きをつくる運動）	関　孝之
第４回	第４回　体育科の目的と教授方法　その３（陸上運動：短距離走　リレー）	関　孝之
第５回	第５回　体育科の目的と教授方法　その４（陸上運動：ハードル走）	関　孝之
第６回	第５回　体育科の目的と教授方法　その４（陸上運動：走り幅跳び　走り高跳び）	関　孝之
第７回	第６回　体育科の目的と教授方法　そ５５（器械運動：鉄棒運動）	関　孝之
第８回	第７回　体育科の目的と教授方法　その６（器械運動：マット運動　跳び箱運動）	関　孝之
第９回	第８回　体育科の目的と教授方法　その６（ボール運動：ボール運動の分類　ゲームのバリエーション）	関　孝之
第１０回	第１０回　学習指導案の作成　教材研究	関　孝之
第１１回	第１１回　模擬授業１	関　孝之
第１２回	第１２回　模擬授２	関　孝之
第１３回	第１３回　模擬３	関　孝之
第１４回	第１４回　模擬授業の振り返りと良い体育科の授業について	関　孝之

第１５回	第１５回　総括（体育科の発展に向けて若手教員ができること）	関　孝之	
第１６回			
教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	初等教科教育法（英語）			担当者	池上　真由美		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-361		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマ：小学校英語教授法と授業計画案の作成 到達目標：小学校英語教育に関する基礎理論を理解し、その指導法，教材作成，評価等に関する実施方法を習得する。
授業概要	小学校外国語活動及び外国語科において、英語を教えるため必要な基礎理論（教育法･教材･指導案等）を学び、模擬授業（別途実施）を行って実践的な指導力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	［試験］40%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） ［提出物］30%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） ［授業への参画状況］30%（発表及び発言内容，模擬授業への取組、演習への意欲や態度等を総合的に評価する。）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。また、模擬授業の指導案や教材作成の課題については、各個人に改善点をフィードバックするので、提案を受けて可能な限りの改訂を行い再提出すること。
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。また、クラスルームイングリッシュについては、各自で繰り返し練習し、自信をもって使えるようにすること。なお、それぞれ約２時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日２時限目

授業計画		担当者
第１回	小学校外国語教育の変遷と諸外国の初等外国語教育	池上
第２回	小学校学習指導要領及び小・中・高の連携と小学校の役割	池上
第３回	言語習得論―母語の習得と第二言語習得	池上
第４回	基本的な外国語教授法と国語教育との連携	池上

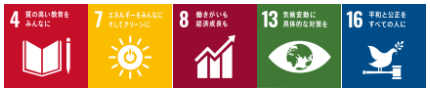
第５回	音声によるインプットの在り方	池上
第６回	コミュニケーションの目的や場面、状況に応じた意味のあるやり取り	池上
第７回	受信から発信，音声から文字へ	池上
第８回	文字指導と読む・書く活動の導入	池上
第９回	児童の発話を引出し，やり取りを活性化する言語活動	池上
第１０回	英語での語りかけ方・クラスルームイングリッシュ	池上
第１１回	題材の選定と教材研究（ICT等の活用を含む）	池上
第１２回	指導計画と1時間の授業づくり，学習指導案の立案	池上
第１３回	ALT等とのティーム・ティーチングと学習評価（パフォーマンス評価を含む）	池上
第１４回	模擬授業と振り返り（1）	池上
第１５回	模擬授業と振り返り（2）、児童や学校の多様性への対応	池上
第１６回	筆記試験	池上

教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領解説（外国語）、（外国語活動）（最新版）	教・出版社名１	
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	小学校英語はじめる教科書	教・出版社名2	mpi
教・著者名2	吉田　研作（監修）小川　隆夫・東　仁美	教・ＩＳＢＮ2	978-4-89643-584-9

参考書			
参・書籍名１	小学校外国語教材「We Can!1,2 指導編」（最新版）	参・出版社名１	
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	小学校外国語活動教材「Let's Try 1,2 指導編」（最新版）	参・出版社名2	
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育原論（初等教育）（子ども）			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	TC-CE-2-301		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	【テーマ】教育の基本的概念や教育の理念などについての理解を深める。 【到達目標】 １　教育の基本的概念 (1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解することができる。 (2)子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解することができる。 ２　教育に関する歴史 (1)家族と社会による教育の歴史を理解することができる。 (2)近代教育制度の成立と展開を理解することができる。 (3)現代社会における教育課程を歴史的な視点から理解することができる。 ３　教育に関する思想 (1)家庭や子どもに関わる教育の思想を理解することができる。 (2)学校や学習に関わる教育の思想を理解することができる。 (3)代表的な教育家の思想を理解することができる。
授業概要	教師には教科指導力、生徒指導力などの力量が求められる。しかしそれらの力量は教育の基本的概念や教育の理念などの理解に支えられてこそ発揮できるのである。授業では、これら教育の基本的概念や教育の理念に加え、教育の歴史や思想、そしてこれまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、教育行政及び中学校校長の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	教育学の諸概念	藤井
第２回	教育の本質及び目標並びに代表的な教育家の思想	藤井

第３回	教育を成り立たせる諸要因と相互の関係	藤井
第４回	近代教育制度の成立と展開並びに代表的な教育家の思想	藤井
第５回	学校教育制度の変遷	藤井
第６回	現代社会における教育課題①（日本国憲法下の教育施策）	藤井
第７回	現代社会における教育課題②（幼稚園教育）	藤井
第８回	現代社会における教育課題③（小学校教育）	藤井
第９回	現代社会における教育課題④（特別支援教育）	藤井
第１０回	学習に関わる教育の思想	藤井
第１１回	学校と社会による教育の歴史	藤井
第１２回	家庭や子供に関わる教育の思想	藤井
第１３回	生涯学習社会と教育	藤井
第１４回	歴史的視点から見た教育課題	藤井
第１５回	学校に関わる教育の思想	藤井
第１６回	試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	なぜからはじめる教育原理［第2版］	教・出版社名１	建帛社
教・著者名１	池田隆英、楠本恭之、中原朋生	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-5072-3
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育原理	参・出版社名１	中央法規
参・著者名１	矢藤誠慈郎・北野幸子編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8058-5202-6
参・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名2	東洋館出版社
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03460-7

授業科目名	教職論（初等教育）			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	TC-CE-1-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】教職の実際やその社会的使命などについて学ぶことを通して、教職への意欲を高め、教員としての自らの適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解することができる。 【到達目標】 １　教職の意義 (1)公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解することができる。 (2)進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解することができる。 ２　教員の役割 (1)教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解することができる。 (2)今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解することができる。 ３　教員の職務内容 (1)幼児・児童への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解することができる。 (2)教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解することができる。 (3)教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解することができる。 ４　チーム学校運営への対応 (1)校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解することができる。
授業概要	教職は、人を教え育てるという重要な仕事である。教員として身に付けている知識や技能だけでなく、その人間性も子どもたちの人生に大きな影響を与える。授業では、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について学ぶ。また、「チームとしての学校」を推進する上で、一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力も求められる。この授業を通して、自らを振り返り、自分には求められる資質・能力があるか、自分は教職に向いているか、真剣に考えることが必要である。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。

実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、教育行政及び中学校校長の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。		

	なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	教職論とは何か	藤井
第２回	教師を目指す	藤井
第３回	初等教育の教師	藤井
第４回	中等教育の教師	藤井
第５回	日本の教職の特徴	藤井
第６回	教師像の史的展開	藤井
第７回	教員の服務	藤井
第８回	教員の権利と身分保障	藤井
第９回	学び続ける教師	藤井
第１０回	学校を構成する様々な専門職	藤井
第１１回	専門家としての教師	藤井
第１２回	子どもが＜いのち＞に見える教師	藤井
第１３回	いじめに向き合う	藤井
第１４回	性の多様性をめぐる学校・教師の課題	藤井
第１５回	ピア・サポート活動	藤井
第１６回	試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	現代の教師論（アクティベート教育学０２）	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	佐久間亜紀・佐伯 胖	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08536-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編	参・出版社名１	東洋館出版社
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03461-4
参・書籍名２	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)	参・出版社名2	フレーベル館
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-577-81447-5

授業科目名	教育行政学（初等教育）（子ども）			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	TC-CE-2-303		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１３．気候変動に具体的な対策を／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】教育行政の仕組みや関連する教育法規について学ぶとともに、教育行政を進める上で不可欠である保護者・地域との連携や学校安全に関する理解を深める。 【到達目標】 １　教育に関する制度的事項 (1)公教育の原理及び理念を理解することができる。 (2)公教育制度を構成している教育関係法規を理解することができる。 (3)教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解することができる。 (4)教育制度をめぐる諸課題について理解することができる。 ２　学校と地域との連携 (1)地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解することができる。 (2)地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解することができる。 ３　学校安全への対応 (1)学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解することができる。 (2)生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取組を理解することができる。
授業概要	教育行政とは、国や地方公共団体が教育政策を実現するため、教育法規に基づいて教育制度を運用し教育条件の整備と教育活動の規制・助成を行うことをいう。また、教育行政を進める上で、学校と保護者、地域との連携は不可欠な時代となっている。学校評議員、学校評価、学校運営協議会などの制度を知ることも必要である。さらに、震災をはじめとした自然災害や学校管理下における事件・事故災害が繰り返し発生している現状から、災害発生時に対応できる素養や、災害の予防、あるいは被害を最小限に抑える方策等、学校安全に関する知識・技能等を身に付けておく必要がある。この授業では、テキストをもとに、これらの内容を学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、教育行政及び中学校校長の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。

	なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	教育行政とは何か	藤井
第２回	教員行政	藤井
第３回	就学前教育行政と幼稚園・保育所・認定こども園	藤井
第４回	初等中等教育行政と学校	藤井
第５回	高等教育・私立学校行政と学校、特別支援教育と学校・学校外教育	藤井
第６回	教育課程行政	藤井
第７回	教育委員会と学校	藤井
第８回	学校と外部環境	藤井
第９回	学校安全	藤井
第１０回	学校施設・学校統廃合	藤井
第１１回	地方教育政治・地方教育行政	藤井
第１２回	教育財政	藤井
第１３回	中央政府	藤井
第１４回	文部科学省の仕事	藤井
第１５回	教育制度の法体系と原理	藤井
第１６回	試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	教育制度を支える教育行政（アクティベート教育学０５）	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	青木栄一	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08539-2
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	2022年版　ポケット教育小六法	参・出版社名１	晃洋書房
参・著者名１	伊藤良高	参・ＩＳＢＮ１	（2022年4月出版予定）
参・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名2	東洋館出版社
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03460-7

授業科目名	教育心理学（初等教育）（子ども）			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	TC-CE-2-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	授業のテーマとしては、教育心理学の学問的知見に基づき、幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、学生が基礎的知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。到達目標としては、学生が幼児、児童及び生徒の心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育における発達理解の意義を理解でき、さらに乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、具体的な内容を理解できる。また、学生が様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解し、主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解するとともに、幼児、児童及び生徒の発達を踏まえ、主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解できる。
授業概要	この講義は、幼児、児童及び生徒の心身の発達過程や特徴について講じるとともに、学習に関する基礎的知識や発達を踏まえた学習を支える指導について論じる。具体的には、幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する代表的理論について概説し、発達の概念及び教育における発達理解の意義、運動・言語・認知・社会性の発達等に関する具体的な内容について講じる。また、幼児、児童及び生徒の主体的学習を支える動機づけ・集団作り・学習評価のあり方等について、主体的な学習活動を支える指導の実際についても教授する。また、幼児、児童及び生徒の学習支援に役立つ臨床心理学的視点についても論じる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・期末試験（６０%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き学ぶ意志のあること。受講態度の不適切な者には退出を求めることがある。また、多くの講義資料をファイルデータとして提示するので、整理し学習に活用すること。なお、受講に際しては必ず復習を行うとともに、次回の予告に対して予習を行うこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	木個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	教育心理学とは何か	栗田
第２回	幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する基礎理論	栗田
第３回	幼児期の心身の発達過程と特徴－運動・感情・認知・言語・社会性の発達	栗田
第４回	児童期の心身の発達過程と特徴－身体運動能力・認知・社会性・仲間関係・自己概念の発達	栗田
第５回	青年期の心身の発達と特徴－身体・認知能力・アイデンティティ・自己意識・人間関係の発達	栗田

第６回	学習のメカニズム(1)－学習理論の系譜	栗田
第７回	学習のメカニズム(2)－認知的情報処理と記憶	栗田
第８回	学習のメカニズム(3)－動機づけと学習意欲	栗田
第９回	学級集団と学習行動・学校生活	栗田
第１０回	学級集団づくりにおける教師の役割と友人関係の影響	栗田
第１１回	教育測定と評価の意義	栗田
第１２回	教育測定と評価の実際	栗田
第１３回	幼児、児童及び生徒の情緒問題・行動的問題と学習支援	栗田
第１４回	障害をもつ幼児、児童及び生徒への学習支援	栗田
第１５回	学修のまとめ	栗田
第１６回	試験	栗田

教科書			
教・書籍名１	初回講義時にファイル資料データを提示するとともに、毎講義時にも新たなファイル資料データ呈示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	やさしい教育心理学	参・出版社名１	有斐閣アルマ
参・著者名１	鎌原雅彦	参・ＩＳＢＮ１	978-641-12458-5
参・書籍名２	子どもを育む心理学	参・出版社名2	保育出版社
参・著者名2	小林芳郎他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-938795-61-0

授業科目名	教育課程論（初等教育）（子ども）			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	TC-CE-2-306		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】教育課程編成の意義や方法及びカリキュラム・マネジメントの意義に関する理解を深める。 【到達目標】 １　教育課程の意義 (1)学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解することができる。 (2)学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解することができる。 (3)教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解することができる。 ２　教育課程編成の方法 (1)教育課程編成の基本原理を理解することができる。 (2)教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を理解することができる。 (3)単元・学期・学年をまたいだ長期的な視点から、また幼児、児童や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解することができる。 ３　カリキュラム・マネジメント (1)学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解することができる。 (2)カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解することができる。
授業概要	教育の目的や目標を達成するために適切な教育課程を編成し、児童生徒の教育に当たることが学校には課せられている。そのために授業では、教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて考察する。また、カリキュラム・マネジメントについての基礎知識を身に付ける。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、教育行政及び中学校校長の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画	担当者

第１回	教育課程とカリキュラム	藤井
第２回	教育課程とは何か	藤井
第３回	教育の目的と教育課程の編成	藤井
第４回	現代日本の教育課程の変遷	藤井
第５回	幼児教育・小学校教育における教育課程	藤井
第６回	教育課程の法と行政	藤井
第７回	諸外国における教育課程の現状	藤井
第８回	近年の教育改革の動向および今後の課題	藤井
第９回	教育課程が登場するまで	藤井
第１０回	教育課程上の諸課題と展望	藤井
第１１回	新学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂のポイント	藤井
第１２回	「社会に開かれた教育課程」とカリキュラム・マネジメント	藤井
第１３回	カリキュラムマネジメントのポイントと組織体制	藤井
第１４回	カリキュラムマネジメントの具体例	藤井
第１５回	実践・カリキュラムマネジメント	藤井
第１６回	試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	広岡義之	教・ＩＳＢＮ１	978-4-623-07559-1
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編	参・出版社名１	東洋館出版社
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03461-4
参・書籍名２	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)	参・出版社名2	フレーベル館
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-577-81447-5

授業科目名	道徳教育の理論と方法（初等教育）（子ども）			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	TC-CE-3-307		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】道徳教育について基礎理論を理解し，併せて実践的指導力(道徳科の授業力）を身に付けることができる。 【到達目標】 １）基礎的知識として，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳教育の役割と意義を理解する。 ２）道徳の読み物資料の分析の仕方，指導案の書き方を学修し，指導案を作成することができる。 ３）作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 ４）道徳科の評価について考え方を理解することができる。
授業概要	道徳教育の基礎知識である，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳の授業理論について，各自で課題を決めて学修し，パワーポイント資料にまとめ発表する。また，実践力育成という視点から，グループで，道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い，道徳的価値について学びを深める。その後，学習指導案を作成し，模擬授業の実施，相互評価，改善点の話合いという一連の過程を通して，質の高い授業力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント，レポート）については点数，コメントを付けて返す。模擬授業については，評価の視点を示し，授業後コメントを付けて返却する。
履修条件・注意事項	テキストを必ず持参する。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをしておくこと。 復習　2時間　学習した内容の要点をまとめておくこと。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

授業計画		担当者
第１回	15回の授業予定，道徳教育を学ぶ視点，道徳教育で培う道徳性。	川上
第２回	道徳教育の目標，学校における道徳教育の実際，全体計画，年間計画	川上
第３回	道徳資料の読み方　授業構成の仕方　資料１（視点A）	川上
第４回	学習指導案の書き方　資料を基に作成	川上
第５回	道徳教育の歴史　戦前，戦後の道徳教育の比較	川上
第６回	道徳性の発達理論　フロイト，ピアジェ	川上
第７回	道徳性の発達理論　コールバーグ，ブル	川上
第８回	総合単元的な道徳学習，統合的な道徳学習	川上
第９回	教材研究　学習指導案作成　資料２（視点B）	川上
第１０回	模擬授業１（演習）相互評価　授業後の検討・①②グループ	川上
第１１回	模擬授業２（演習）　相互評価　授業後の検討　③④グループ	川上
第１２回	教材研究　学習指導案作成　資料３（視点D）	川上
第１３回	模擬授業３　相互評価　授業後の検討　⑤⑥グループ	川上

第１４回	道徳科の評価　評価の基本的な考え方　具体例	川上
第１５回	道徳教育の理論と方法　学習のまとめ	川上
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上

教科書			
教・書籍名１	道徳教育を学ぶ人のために（四訂版）	教・出版社名１	世界思想社
教・著者名１	小寺正一・藤永芳純　他	教・ＩＳＢＮ１	978-4-7907-0
教・書籍名２	小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編	教・出版社名2	廣済堂あかつき
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30084-9
参考書			
参・書籍名１	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	横山利弘　牧崎幸夫　他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-08085-4
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法（初等教育）			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	TC-CE-2-308		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	３０	授業形態	講義　演習　AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	△
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力	◎	ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	◎

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／６．安全な水とトイレを世界中に／１１．住み続けられるまちづくりを
到達目標	【テーマ】特別活動，総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し，実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 １．特別活動・総合的な学習の時間の意義，目標，教育課程上の位置づけ，内容を理解する。 ２．特別活動の内容の種類と関連性を理解し，学級活動の年間計画，学習指導案を作成することができる。 ３．総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し，その強みと探求の過程について説明することができる。 ４．特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら，下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標，教育課程上の位置づけ，学級活動，クラブ活動，生徒会活動等の内容については，事前にプリントで予習しておく。そして，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については，実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標，教育課程上の位置づけ，特徴については，予習プリントで事前に学修しておき，講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ④全体計画，年間計画，単元計画，思考ツール等は作成，活用することを通して，学修する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク
評価方法と割合	最終試験（50%） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物　（20%）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30%）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート，小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画，年間計画，学習指導案はコメントを付けて説明する。
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習　2時間　事前に出された予習プリントをする。 復習　2時間　学習したことの要点をまとめる。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館 個人研究室 10309）

授業計画		担当者
第１回	授業予定　特別活動の目標　特質	川上
第２回	特別活動の内容（学級活動　学校行事　生徒会活動）と全体計画	川上
第３回	学級活動の目標，内容，年間計画	川上
第４回	学級活動の年間計画作成（演習）	川上
第５回	学校行事、生徒会活動の目標，内容，具体的活動	川上
第６回	学級活動の指導案の書き方　指導案作成	川上
第７回	模擬授業　　代表グループ①②	川上

第８回	学級活動とSEL	川上/GT（中学校教諭）
第９回	総合的な学習の時間の意義，目標	川上
第１０回	総合的な学習の時間の歴史　教育課程上の位置づけ	川上
第１１回	総合的な学習の時間　全体計画　単元計画	川上
第１２回	単元計画の考え方　作成の仕方	川上
第１３回	作成した単元計画の発表　（グループ内で情報交換）	川上
第１４回	思考ツールと活用例（演習）	川上
第１５回	総合的な学習の時間の評価	川上
第１６回	定期試験（筆記試験）	川上

教科書			
教・書籍名１	新しい教職教育講座９　特別活動	教・出版社名１	ミネルヴァ書房
教・著者名１	中村　豊/ 原　清治	教・ＩＳＢＮ１	978-623-08192-9
教・書籍名２	新しい教職教育講座８　総合的な学習の時間	教・出版社名2	ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹　/　篠原正典	教・ＩＳＢＮ2	978-4-623-08191-2
参考書			
参・書籍名１	中学校学習指導要領　解説　総合的な学習の時間	参・出版社名１	東山書房
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-8278-1561-０
参・書籍名２	中学校学習指導要領　解説　特別活動	参・出版社名2	978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	東山書房

授業科目名	教育の方法と技術（初等教育）（子ども・オムニバス）			担当者	小林　朝雄		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	TC-CE-2-309		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	教育の方法と技術について、諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術を学ぶとともに、情報通信技術を効果的に活用した学習指導や児童生徒に情報活用能力を育成する基礎的な知識や技能を身に付ける。具体的には次のとおりである。 1　教育の方法と技術について、諸概念や理論を学び基礎的な指導法を身に付けるとともに、学習評価の基礎的な考え方を理解している。 2　個別最適な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 3　情報通信技術を活用した指導法を身に付けている。 4　特別な支援を必要とする児童生徒への、情報通信技術活用の必要性と留意点を理解している。 5　学校における情報セキュリティの重要性について理解している。
授業概要	本講義では、教育の方法と技術にかかわる諸概念や理論、授業における教師の役割や指導技術について学ぶとともに、情報通信技術の効果的な活用法を理解し、基礎的な指導法を身に付ける。また、各教科におけるＩＣＴ活用や情報モラルに関する授業について、受講者が具体的な授業を構想（指導案作成）し分担して模擬授業を行うとともに、タブレット端末等を活用した模擬授業を体験する。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／実習
評価方法と割合	模擬授業、指導案（30%）、授業への参加態度（20%）、単位認定試験（50%）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業中のフィードバックや指導案等は個別にも行う。
履修条件・注意事項	「小学校学習指導要領」と「教育の方法と技術」を使用するので毎回持参する。その他については、必要に応じて関係資料を配付する。ノートは必ず作成し、配付資料も整理しておくこと。毎回の講義の予習、復習を行ってほしい。なお、模擬授業の際は作成した指導案を印刷し、全員分、配付すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この教科は、中学校教員、岡山県総合教育センター情報教育部指導主事としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	情報機器を活用した学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が２時間程度必要。
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施

授業計画		担当者
第１回	教育の方法と技術とは	小林
第２回	教育方法の理論と歴史（GIGAスクール構想を含む）	小林
第３回	カリキュラムの位置付け（教科等の目標、指導内容、授業時数、年間指導計画の概要）	小林
第４回	授業における教師の役割と指導技術①（教材研究と授業での教師の役割）	小林
第５回	授業における教師の役割と指導技術②（児童生徒の主体性を引き出す指導）	小林
第６回	情報通信技術を効果的に活用したオンライン教育や校務の推進の在り方	小林

第７回	情報通信技術を活用した学習指導（デジタル教材の作成・利用及び特別な支援を必要とする児童生徒への支援）	小林
第８回	各教科におけるＩＣＴを活用した模擬授業の構想（指導案作成、実物投影機、PCの活用）	小林
第９回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の発表と評価（前半グループ）	小林
第１０回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の発表と評価（後半グループ）	小林
第１１回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の実施	小林
第１２回	情報モラルに関する授業構成（情報モラルの目標、指導法、教材等）	小林
第１３回	教育における評価（授業評価と学習評価について）	小林
第１４回	学校における情報セキュリティの重要性について	小林
第１５回	授業の振り返りとまとめ	小林
第１６回	単位認定試験	小林

教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領	教・出版社名１	東洋館出版社
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	10 4491034605
教・書籍名２	三訂版　教育の方法と技術	教・出版社名2	図書文化社
教・著者名2	平沢　茂	教・ＩＳＢＮ2	978-4-8100-8701-7
参考書			
参・書籍名１	教育の情報化に関する手引き	参・出版社名１	製本版はなし。下記ページに公開 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	幼児理解			担当者	小坂田　佐弓		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	TC-CE-1-310		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう
到達目標	テーマ：保育者の専門性の中核である幼児理解についての知識を身につけ、幼児理解の方法を具体的に理解する。 到達目標：①一人一人の幼児の内面を理解し、信頼関係を築き、発達に必要な経験を幼児自ら獲得していけるように援助する力を身につけている。 ②遊びの中から「学び」の可能性をとらえることができる。 ③幼児理解を深める観察と記録の方法と意味を理解している。 ④子ども・家庭支援の必要性と、保護者とのかかわりの基本を理解している。
授業概要	まず、子どもはどのようなものか、ディスカッションや絵本から考え、子どもを見るまなざしを理解する。次いで、保育場面の観察と記録を、グループディスカッションにより分析・考察して、子どもの内面を捉える。＜気になる＞子どもの対応について、その背景や要因を理解し、基本的な対応を学ぶ。共感的・受容的理解のカウンセリングマインドについて学び、子ども・家庭支援及び家庭連携の必要性とかかわりの基本を身につける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	この科目では、一人一人の子どもを理解し、援助できる能力を身に付けることを目的としていることから、知識および能力の修得状況を計るため、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況および自ら考えまとめる能力を確認するためのレポート試験（50%）、ディスカッションにおける発言頻度・発言内容（30%）、授業中の学びの程度を判定するため､授業への積極的な参加態度（20%）を合計して総合評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間内での解説およびコメントカードに記入しての返却。
履修条件・注意事項	毎回の授業におけるディスカッションなどに主体的に参加・発表できるように、予習として授業計画に記載されていることについて調べ学習を行ってくること。絵本などを紹介することが多いので、見やすいよう教室のなるべく前の方に座ること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に参考書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。 また事後学習として、ディスカッションの内容、講義で取り上げた児童文化財の内容や感想についてノートをまとめ、復習を行っておくこと。予習および復習には各1時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて実施。

授業計画		担当者
第１回	保育のはじまりとしての「幼児理解」	小坂田佐弓
第２回	個々の子どもの「思い」への気づき	小坂田佐弓
第３回	絵本から学ぶ子どもの姿	小坂田佐弓
第４回	子どもを見る「目」：個別的・共感的まなざし	小坂田佐弓
第５回	子どもを見る「目」：概念的理解と個別的理解	小坂田佐弓
第６回	幼児理解と発達の理解	小坂田佐弓
第７回	幼児理解の基本としてのカウンセリングマインド	小坂田佐弓

第８回	観察と記録：共感的に見る	小坂田佐弓
第９回	観察と記録：記録をとることの意味	小坂田佐弓
第１０回	理解と援助：個と集団の関係	小坂田佐弓
第１１回	＜気になる＞子ども	小坂田佐弓
第１２回	子ども・家庭支援及び家庭連携：子ども・家庭支援の必要性	小坂田佐弓
第１３回	子ども・家庭支援及び家庭連携：保護者とのかかわりの基本	小坂田佐弓
第１４回	子ども・家庭支援及び家庭連携：地域の子育て支援	小坂田佐弓
第１５回	子ども理解と歴史	小坂田佐弓
第１６回	定期試験	小坂田佐弓

教科書			
教・書籍名１		教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	最新保育講座 子ども理解と援助	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	高嶋景子･砂上史子･森上史朗 編	参・ＩＳＢＮ１	978-4623059621
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	生徒・進路指導論（初等教育）（子ども）集中			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	TC-CE-3-311		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】生徒指導、キャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、キャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 【到達目標】 1　生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2　すべての児童を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3　児童の抱える主な生徒指導上の課題の様態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4　進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5　すべての児童を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6　児童が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。
授業概要	生徒指導は、一人一人の児童の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	生徒指導の意義と原理	藤井
第２回	学校における生徒指導体制、教育相談	藤井
第３回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携	藤井

第４回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）	藤井
第５回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）	藤井
第６回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）	藤井
第７回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）	藤井
第８回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）	藤井
第９回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）	藤井
第１０回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）	藤井
第１１回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）	藤井
第１２回	キャリア教育とは何か	藤井
第１３回	キャリア教育推進のために	藤井
第１４回	小学校におけるキャリア教育	藤井
第１５回	生徒指導の今後の方向性	藤井
第１６回	試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	生徒指導提要	教・出版社名１	教育図書
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-87730-274-0
教・書籍名２	小学校キャリア教育の手引き＜改訂版＞	教・出版社名2	教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-316-30025-2

参考書			
参・書籍名１	小学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名１	東洋館出版社
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-491-03460-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育相談の基礎（初等教育）（子ども）			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	TC-CE-4-312		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	火曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】学校教育相談を進める際の基礎的知識を学ぶとともに、カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。 【到達目標】 １　教育相談の意義と理論 (1)学校における教育相談の意義と課題を理解することができる。 (2)教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解することができる。 ２　教育相談の方法 (1)生徒の不適応や問題行動の意味並びに生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解することができる。 (2)学校におけるカウンセリングマインドの必要性を理解することができる。 (3)受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解することができる。 ３　教育相談の展開 (1)職種の校務分掌に応じて，生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができることができる。 (2)いじめ，不登校，虐待，非行等の課題に対する，生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解することができる。 (3)教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など，組織的な取組の必要性を理解することができる。 (4)地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解することができる。
授業概要	教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。授業では，予防・開発的教育相談について理解し、さらに不適応や問題行動等の課題への支援のための基礎的知識を学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習１→グループ学習→全体学習→個人学習２」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク
評価方法と割合	［試験］50％（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） ［提出物］20％（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） ［授業への参画状況］30％（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目

	10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	学校教育相談とは	藤井
第２回	学校教育相談の定義と歴史	藤井
第３回	子どもの理解と指導	藤井
第４回	子どもの発達と発達課題	藤井
第５回	生徒指導と学校教育相談	藤井
第６回	カウンセリングの理論と実際	藤井
第７回	豊かな授業を創造する教育相談的アプローチ	藤井
第８回	学級経営と学校教育相談	藤井
第９回	来談者中心カウンセリング	藤井
第１０回	ブリーフカウンセリング	藤井
第１１回	社会性と情動の学習(SEL)	藤井
第１２回	学級担任が行う学校教育相談	藤井
第１３回	子どもの話の聴き方	藤井
第１４回	事例検討	藤井
第１５回	保護者との連携	藤井
第１６回	試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	生徒指導提要	参・出版社名１	教育図書
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87730-274-0
参・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名2	東洋館出版社
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03460-7

授業科目名	教育実習指導（初等教育） 集中			担当者	雲津　英子、藤井　和郎、川上　はる江、鳥居　恭治		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	TC-CE-3-313		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】教育実習を行うために必要な基本的な知識や技能を身に付ける。 【到達目標】 1　教育実習に対して、明確な目的意識や課題意識を持つ。 2　教材研究、幼児・児童の理解など、教育実習生として必要な知識、技術を習得する。 3　教育実習生として必要な授業・保育等の実践的な指導力を身に付ける。 4　教育実習生として遵守すべき義務等について理解し、その責任を自覚したうえで教育実習に参加する意欲を高める。
授業概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることが求められる。 この授業は、教育実習を行うための事前指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、教育実習の目的と心得などの講義だけでなく指導案を作成して模擬授業・模擬保育を行うなど教育実習に向けての実践的な内容を取り扱う。必要に応じて幼稚園実習組と小学校実習組に分かれて講義・演習を行う。なお、指導案作成や模擬授業・模擬保育の準備は、正規の授業時間外に行うことになる。 この授業の目的は、受講生にとって幼稚園や小学校における教育実習が有意義なものとなるよう事前及び事後の学修をすることにある。したがって、教育実習終了後にも、教師としての実践力向上のための努力を継続することが望まれる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	模擬授業・模擬保育（６０％）、レポート（２０％）、受講態度（２０％）により評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	模擬授業・模擬保育、レポートの評価のフィードバックはその都度行う。
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外にも小グループに分かれて模擬授業・模擬保育を行うこともある。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に資料を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習復習は必ず行い、各２時間程度を要する。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	教育実習の目的と心得	全員
第２回	実習に向けた準備と実習日誌の書き方	全員
第３回	模擬授業・模擬保育のための基礎知識	全員

第４回	指導案の構成	全員
第５回	指導案の書き方	全員
第６回	指導案の作成の基礎	全員
第７回	指導案の作成①（指導案の下書きをする）	全員
第８回	指導案の作成②（指導案の清書をする）	全員
第９回	指導案の診断	全員
第１０回	指導案の修正	全員
第１１回	模擬授業・模擬保育および講評Ⅰ（グループ１）	全員・外部講師
第１２回	模擬授業・模擬保育および講評Ⅱ（グループ２）	全員・外部講師
第１３回	模擬授業・模擬保育および講評Ⅲ（グループ３）	全員
第１４回	模擬授業・模擬保育および講評Ⅳ（グループ４）	全員
第１５回	模擬授業・模擬保育および講評Ⅴ（グループ５）	全員
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)	教・出版社名１	フレーベル館
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
教・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編	教・出版社名2	東洋館出版社
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03461-4
参考書			
参・書籍名１	小学校教育実習ガイド	参・出版社名１	萌文書林
参・著者名１	石橋裕子他編	参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	幼稚園・保育園・養護教育実習ハンドブック	参・出版社名2	明治図書
参・著者名2	菊地明子	参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	教育実習Ⅰ（初等教育）（子ども）			担当者	雲津　英子、藤井　和郎、川上　はる江、鳥居　恭治		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	TC-CE-3-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。 【到達目標】 1　幼児、児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。 2　指導教員等の実施する授業を視点を持って観察し、事実に即して記録することができる。 3　教育実習校（園）の学校経営方針及び特色ある教育活動並びにそれらを実施するための組織体制について理解することができる。 4　学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。
授業概要	教育実習は、観察、参加、実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。学校教育の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付けることが求められる。 教育実習においては、幼児・児童や学習環境等に対して適切な観察を行うとともに、学校実務に対する補助的な役割を担うことを通して、教育実習校（園）の幼児、児童の実態と、これを踏まえた学校経営及び教育活動の特色を理解するとともに、大学で学んだ教科・領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、各教科や教科外活動の指導場面・保育で実践するための基礎を身に付けることが必要である。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習
評価方法と割合	実習園・実習校からの成績評価（50%）、実習日誌・指導案作成およびレポート提出（40%）、事前説明会、教員採用試験への積極的な取り組みなど（10%）による総合的評価で行う。また普段からの講義での予習・復習を忘れないようにする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習中での経験や疑問については、実習終了後にフィードバックするので、しっかり見直して自分の将来につながるようにしておくこと。
履修条件・注意事項	「教育実習指導」の単位修得ができていない学生、教職志望意識が目立って低い学生については、実習を行うことはできない。実習前に各実習園・校における事前打ち合わせがあるため、実習学生は日程や事前準備などをしっかり把握・確認しておくことが必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、学外実習で、実践的教育から構成された科目である。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に資料などを読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて実習に臨むこと。 復習として、実習後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	幼稚園・小学校の役割や１日の流れを理解する	全員
第２回	子ども達の実際の様子を観察する	全員
第３回	観察実習をもとに、実際に子ども達の学びに関わる（参加実習）	全員
第４回	参加実習を重ね、子ども理解を深める	全員

第５回	一人一人に対する子ども理解をもとに、学級全体に対する理解をする	全員
第６回	参加実習の中で教師の実際について理解する	全員
第７回	部分実習や研究授業を経験し、教師の役割を理解する	全員
第８回	部分実習や研究授業から子ども達との関わりについて理解する	全員
第９回	学校運営について理解する	全員
第１０回	学年運営について理解する	全員
第１１回	学級運営について理解する	全員
第１２回	学習指導について理解する	全員
第１３回	生徒指導について理解する	全員
第１４回	教員研修について理解する	全員
第１５回	教育者の任務について理解する	全員
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	実習日誌・指導案は大学専用の実習簿を使用。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
参・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編	参・出版社名2	東洋館出版社
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03461-4

授業科目名	教育実習Ⅱ（初等教育）（子ども）			担当者	雲津　英子、藤井　和郎、川上　はる江、鳥居　恭治		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	TC-CE-3-315		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	実習		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】教育者としての実践的力量の形成を図る。 【到達目標】 1　学習指導要領・幼稚園教育要領及び児童・幼児の実態等を踏まえた適切な学習指導案・指導案を作成し、授業・保育を実践することができる。 2　学習指導・保育に必要な基礎的技術（話法、板書、学習・保育形態、授業・保育展開、環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、適切な場面で情報機器を活用することができる。 3　学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。 4　教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童・幼児と関わることができる。
授業概要	教育実習Ⅱは、教育実習Ⅰの経験を踏まえた上で、教育者としての実践的力量の形成を図ることを企図している。すなわち幼稚園・小学校に身を置き、幼児・児童と向き合うことで発達の実際や接し方について理解を深める。 幼稚園実習では、指導教員の指導を受けながら、見学・観察・部分保育、全日保育、研究保育などを順次体験することになる。また小学校実習は、見学・模擬授業・研究授業などから構成される。 見学・観察実習においては、指導教員の授業・保育を観察の視点をもって見させていただかなければならない。ただ漠然と授業・保育を観察しているということがあってはならない。また、授業実習・保育実習に当たっては、幼児や児童に対し、彼らの大切な時間の一部を提供してもらっているのだという感謝の念をもち、幼児や児童に楽しくかつ充実した授業・保育が展開できるように周到に準備をする必要がある。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／実習
評価方法と割合	実習園・実習校からの成績評価（50%）、実習日誌・指導案作成およびレポート提出（40%）、事前説明会、教員採用試験への積極的な取り組みなど（10%）による総合的評価で行う。また普段からの講義での予習・復習を忘れないようにする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	実習中での経験や疑問については、実習終了後にフィードバックするので、しっかり見直して自分の将来につながるようにしておくこと。
履修条件・注意事項	「教育実習指導」の単位修得ができていない学生、教職志望意識が目立って低い学生については、実習を行うことはできない。実習前に各実習園・校における事前打ち合わせがあるため、実習学生は日程や事前準備などをしっかり把握・確認しておくことが必要である。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、学外実習で、実践的教育から構成された科目である。
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に資料などを読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて実習に臨むこと。 復習として、実習後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	幼稚園・小学校の役割や１日の流れを理解する	全員
第２回	子ども達の実際の様子を観察する	全員
第３回	観察実習をもとに、実際に子ども達の学びに関わる（参加実習）	全員

第４回	参加実習を重ね、子ども理解を深める	全員
第５回	一人一人に対する子ども理解をもとに、学級全体に対する理解をする	全員
第６回	参加実習の中で教師の実際について理解する	全員
第７回	部分実習や研究授業を経験し、教師の役割を理解する	全員
第８回	部分実習や研究授業から子ども達との関わりについて理解する	全員
第９回	学校運営について理解する	全員
第１０回	学年運営について理解する	全員
第１１回	学級運営について理解する	全員
第１２回	学習指導について理解する	全員
第１３回	生徒指導について理解する	全員
第１４回	教員研修について理解する	全員
第１５回	教育者の任務について理解する	全員
第１６回		
第１７回		
第１８回		
第１９回		
第２０回		
第２１回		
第２２回		
第２３回		
第２４回		
第２５回		
第２６回		
第２７回		
第２８回		
第２９回		
第３０回		
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	実習日誌・指導案は大学専用の実習簿を使用。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
参・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編	参・出版社名2	東洋館出版社
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03461-4

授業科目名	教職実践演習（幼・小）（子ども）集中			担当者	雲津　英子、藤井　和郎、川上　はる江、鳥居　恭治		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	TC-CE-4-316		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	【テーマ】子ども一人一人の個性を尊重し、子どもたちに生きる力を付けることができる教師になるため、自ら考え、自ら学ぼうとする態度を培う。 【到達目標】 1　教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身に付いている。 2　挨拶や服装、言葉遣い、他の教職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本が身に付いている。 3　子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。 4　子どもの反応や学習の定着状況に応じて、授業計画や学習形態等を工夫することができる。
授業概要	教職実践演習は、教職課程の他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、学生が身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて最終的に確認するものであり、いわば全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。学生はこの科目の履修を通じて、将来、教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることにより、教職生活をより円滑にスタートできるようになることが期待される。このような科目の趣旨を踏まえ、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科、保育内容等の指導力に関する事項を学修する。なお、第６～10回授業は、幼稚園・小学校の各グループに分かれて演習を行う。幼稚園グループは、保育場面で気になる子どもへの関わりや幼児教育の課題を考えるなどの演習を通して、具体的な指導法を身に付ける。小学校グループは、高梁市教育委員会の協力により、小学校での実務実習を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 小学校　授業への参加態度（20%）　インターンシップへの取り組み（30%） 幼稚園　授業への参加態度（20%）　グループ活動への取り組み（30%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	演習や実務実習はその都度、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	幼稚園及び小学校教員志望学生を対象とし、教育実習を履修済みであること。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、小学校教員、小学校校長、指導主事等の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	教職実践演習は、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置付けられるものである。そのため、受講者は「教師になるために必要な資質能力」について、各自、探求していく必要がある。講義外においても自身の問題意識に応じた現代的な課題の文献やニュースなどの情報を積極的に得るようにし、自己の知識を深めること。 なお、毎回の授業において内容は指示するが、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	「教職履修カルテ」による学習の振り返り	雲津

第２回	教師として必要なコミュニケーション能力―話し方	雲津
第３回	教師として必要なコミュニケーション能力―聴き方	雲津
第４回	教師に必要な規範意識、倫理観	藤井・外部講師
第５回	関係機関との連携	藤井
第６回	幼小別グループ演習・実務実習①	全員
第７回	幼小別グループ演習・実務実習②	全員
第８回	幼小別グループ演習・実務実習③	全員
第９回	幼小別グループ演習・実務実習④	全員
第１０回	幼小別グループ演習・実務実習⑤	全員
第１１回	特別支援教育	藤井
第１２回	学級経営と保護者対応	川上
第１３回	保・幼・小連携の現状と課題	川上
第１４回	求められる資質、能力（教員育成指標から）	川上
第１５回	電子黒板を使ったデジタル教科書の使い方	鳥居
第１６回	レポート試験	鳥居

教科書			
教・書籍名１	使用しない。適宜、資料を配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	幼稚園教育要領解説(平成30年3月)	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-577-81447-5
参・書籍名２	小学校学習指導要領(平成29年告示)解説　総則編	参・出版社名2	東洋館出版社
参・著者名2	文部科学省	参・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03461-4

授業科目名	介護等体験の研究 （子ども）前半8回			担当者	森井　康幸		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-362		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	水曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義してをいただく。
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（４０％）と毎回課されるレポート（６０％）により評価する。レポートは内容確認後返却する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許状取得希望者には必修科目である。 教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。 講義予定回数は８回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。
事前学習・事後学習とその時間	予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間） 復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間） 日頃から、自分の教師適正について考えておくように。
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。

授業計画		担当者
第１回	介護等体験の意義・目的（第１部１～３章）	
第２回	介護等体験の実際（第２部２章，３章）	
第３回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）	
第４回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）	
第５回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）	
第６回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）	
第７回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）	
第８回	まとめ・試験（第１部４章）	
第９回		
第１０回		
第１１回		
第１２回		
第１３回		
第１４回		
第１５回		
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック　五訂版	教・出版社名１	大修館書店
教・著者名１	現代教師養成研究会（編）	教・ＩＳＢＮ１	9.78447E+12

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	外国語活動			担当者	山本　泰弘		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-363		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜5限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「外国語活動の授業の基礎基本を学ぶ」をテーマとして、子どもたちが主体的・対話的に深く学び、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することのできる外国語活動の授業の在り方を考え、教員として指導観を持つことのできる能力を身につける。小学校外国語活動の目標や内容を確実に理解し、外国語活動の授業を行う基礎的・基本的な知識や技能を獲得するとともに、外国語活動の学習計画や指導案の作成方法を理解し、授業づくりに生かすことができるようになる。
授業概要	「小学校学習指導要領解説（外国語活動編）」を確実に理解し、外国語活動の授業で子どもたちが使用している教材を使って授業を実際に体験しながら、自信を持って外国語活動の授業ができるようにしていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業では事前にテキストや配布資料を熟読していることを前提とする。実際に活動しながら授業を進めていくので、主体的・対話的な授業態度（発言回数や内容・活動意欲）や模擬授業などを重視する。 主体的・対話的な授業態度（２０％）・模擬授業（３０％）・単位認定試験（５０％）
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業でフィードバックする。
履修条件・注意事項	予習と復習は必須である。小学校の子どもたちが外国語活動の授業で取り組んでいる活動（歌・チャンツ・クイズ・ゲームなど）を実際に体験しながら授業を進めていくので、積極的に参加すること。また、学習計画や指導案を作成し模擬授業をするので、自分なりの工夫を模擬授業に加えること。なお、必要に応じて印刷物を配布するので、初回授業よりファイルを用意すること。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、小学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	テキストや事前配布資料で予習し、授業に臨むこと。また、前回の学修事項を基に質疑応答形式で授業を進めるので、復習し理解を深めること。予習および復習には、各２時間程度を要する。文部科学省のホームページには、学習指導要領や学習指導要領解説、外国語活動の補助教材などの資料が数多く掲載されている。また、書店にも、外国語活動に関する本や資料がたくさん並んでいる。これらを、予習や復習に役立てるようにしたい。
オフィスアワー	授業終了後、教室において実施する。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	山本泰弘
第２回	「外国語活動」の基本理念	山本泰弘
第３回	小学校学習指導要領（外国語活動）解説	山本泰弘
第４回	教材の構成	山本泰弘
第５回	教材の内容	山本泰弘
第６回	第二言語習得と指導の留意点	山本泰弘
第７回	指導者の役割・指導方法・指導技術	山本泰弘
第８回	指導者の英語表現	山本泰弘
第９回	授業研究（映像視聴・討論）	山本泰弘

第１０回	指導目標や学習計画の立て方・評価方法・学習指導案の作成方法	山本泰弘
第１１回	学習計画・指導案作成	山本泰弘
第１２回	模擬授業の準備	山本泰弘
第１３回	模擬授業	山本泰弘
第１４回	模擬授業の振り返り	山本泰弘
第１５回	講義のまとめ・振り返り	山本泰弘
第１６回	筆記試験	山本泰弘

教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　外国語活動・外国語編	教・出版社名１	開隆堂
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-304-05168-5
教・書籍名２	Let's Try! 1（市販版指導編）	教・出版社名2	東京書籍
教・著者名2	文部科学省	教・ＩＳＢＮ2	978-4-487-25970-0
参考書			
参・書籍名１	Let's Try! 2（市販版指導編）	参・出版社名１	東京書籍
参・著者名１	文部科学省	参・ＩＳＢＮ１	978-4-487-25971-7
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子ども総合演習Ⅰ（オムニバス）			担当者	栗田　喜勝、中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年／2018～ 2019年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	PS-CE-1-401		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	金曜1限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	本演習は、学生が大学における学びの意義を理解し、自主的に学ぶ態度と能力を涵養することをテーマとする。受講により、学生が「授業を聴く・ノートをとる力を養い、学習の基礎的リテラシーを修得できる」ことを到達目標とする。
授業概要	学生の主体性を尊重し、学生の持てる力を最大限引き出すという教授法をとりながら、大学生として専門教育を学ぶ上で必要な基礎知識、学力を身につけることができるよう指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	評価の視点としては、以下の3点があげられる。①授業のねらいと内容を理解したうえで、要点をつかむことができる、②一読すれば、授業内容が想起できるようなノートづくりができる、③ノートを読み返して、いくつかの疑問や質問を提起することができる。 評価方法は、毎回の授業への取り組み姿勢（４０％）、授業ノート評価・課題（６０％）で行う。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	毎授業時の課題については、評価をフィードバックするので次受講の参考にしてほしい。
履修条件・注意事項	受講生の主体的な参加が基本であり、事前の予習や授業後の復習等も含め、受講態度が重視される。履修学生は必ず「授業ノート」を用意すること。授業は学科の教員がオムニバス形式で担当する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、毎回の授業テーマについて調べ、不明な点はまとめておくこと。復習として、授業での学びや気づきを整理しておくこと。適宜宿題を出す。予習・復習にはそれぞれ毎回2時間ずつあてること。
オフィスアワー	各教員のオフィスアワーを参照してください。急ぎの場合は昼休みを利用してください。

授業計画		担当者
第１回	1.大学における学び：これまでに「学び」と、これからの「学び」	栗田喜勝
第２回	2.大学でのノートのとり方の基本：講義を聴いてノートをとる	栗田喜勝
第３回	3.文章を読む力をつける：例文を読んで文章構造を分析する	栗田喜勝
第４回	4.良い文章を書く基本（間違いやすい表現を中心に考える）	栗田喜勝
第５回	5.エピソードやプロセスレコードの記述	栗田喜勝
第６回	6.絵本を通して、共感や受容について表現する	栗田喜勝
第７回	7. 障害のある人のライフヒストリーを聴きとる（ビデオ教材から）	栗田喜勝
第８回	8.大学図書館の役割・機能・利用方法について学び、大学生活の中で有効に活用する意義について学ぶ。	栗田喜勝

第９回	9.大学における学修技術・効果的な学修方法について学ぶ。	中野明子
第１０回	10.新聞記事を教材として、内容の要約・読解を行う。	中野明子
第１１回	11.新聞記事を参考にしながら意見文(論述)を作成する。	中野明子
第１２回	12.講義内容を正しく聞き取る。	中野明子
第１３回	13.どうしたら正確に受け取れるのか。	中野明子
第１４回	14.要点を読み取る。受け取った内容を要約する。	中野明子
第１５回	15.学修のまとめ	中野明子
第１６回	試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	授業時に資料を配付する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	『大学生　学びのハンドブック』	参・出版社名１	世界思想社
参・著者名１	世界思想社編集部 編	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7907-1647-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子ども総合演習Ⅲ			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-403		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	火曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】児童等を指導するための方法及び技術を身に付ける。 【到達目標】子ども総合演習Ⅲは教職全般に関する科目であり、教育場面における諸課題に対する理解力と対応能力を身に付ける。
授業概要	本演習では、上述のとおり教職を目指す学生が児童等に対する理解を深めるとともに、教育実践力を養成・向上することを目的としている。したがって、受講生が主体的、積極的に学修に取り組み、自らの課題を探り、真摯に受け止めて克服する努力が求められる。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	演習の取り組み（30%）、レポート試験(70%) をもとに、授業への参画状況等を含め総合的に評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	演習はその都度、試験は個別にフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	教員をめざす強い意志を持って学修に臨むことを期待する。毎回授業資料を配付するので授業後はファイリングし、必ず事後学修を行うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業内容に関する自己学修(事前・事後学修) を行うことにより、本演習の学修効果を高めることができるので、関心を持ったことを自発的にしっかり調べ、多面的に理解を深めていくこと。なお、それぞれ約2時間の事前・事後学修が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション(保育者・教員の資質)	藤井
第２回	学習指導要領改訂の背景	藤井
第３回	生徒指導提要	藤井
第４回	いじめ防止対策推進法	藤井
第５回	不登校	藤井
第６回	学校教育相談	藤井
第７回	教育心理	藤井
第８回	キャリア教育	藤井
第９回	人権教育	藤井
第１０回	特別支援教育	藤井
第１１回	学校教育に関する教育法規	藤井
第１２回	子どもに関する教育法規	藤井
第１３回	教員に関する教育法規	藤井
第１４回	日本教育史	藤井
第１５回	西洋教育史	藤井
第１６回	レポート試験	藤井

教科書			
教・書籍名１	使用しない。適宜、資料を配付する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	子ども総合演習Ⅳ			担当者	上田　豊		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-404		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	「子どもの保育内容・教育内容に関わる音楽の専門知識・技術の習得」をテーマに、 子どもの音楽表現を援助するために必要な知識や技術を学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針の精読及びわらべうた遊びや子どもの歌の歌唱を通して、子どもの音楽活動の意味が理解できるようになる。 音楽の専門知識・技術の点では、簡単な楽譜が読める、子どもの歌が歌える。鍵盤楽器で簡単な曲が弾けるようになる。
授業概要	テキストは、子どもの音楽表現について、序章と14の章で構成されています。授業は、各章のテーマについて、ディスッカッションし、グループで表現活動を実践し、それらを通してまとめをするという形で進めます。また、テーマによっては、調査やフィールドワーク等も行います。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	平素の課題（レポート、設問回答等）と期末試験（実技・筆記）及び授業参加態度により総合的に評価する。評価の割合は、期末試験（40%）、平素の課題への取り組み（40%）、授業参加態度（20%）。 授業では、毎回次回のテーマについて予告し、そのテーマについて設問の形で課題として課す。結果は、授業で一人ひとりに返却し、簡単な解説をおこなうので、見直しておくようにすること。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業時間に口頭で行う。
履修条件・注意事項	授業は、テキストに沿って行うので、テキストを忘れないこと。また、課された課題は提出できるようにまとめ、期限の日に持参すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	幼児期は未分化なので、日常生活の音の中に潜む音楽の芽に注意を働かせ、感性を磨くこと。前回の復習は勿論のこと、次回の予告された章について予習し、主旨の把握、疑問点などを把握しておくこと。予習及び復習は2時間程度を要する。
オフィスアワー	授業終了後、教室にて

授業計画		担当者
第１回	１．呼吸法、発声法	上田
第２回	２．歌唱表現①　明るい声・暗い声	上田
第３回	３．歌唱表現②　かたい声・柔らかい声	上田
第４回	４．音楽表現①　フレーズと表現	上田
第５回	５．音楽表現②　テンポと表現	上田
第６回	６．音楽表現③　強弱と表現	上田
第７回	７．音楽表現④　形式と表現	上田
第８回	８．表現に関する言葉	上田
第９回	９．ピアノ・ハ長調の旋律と運指	上田
第１０回	１０．ピアノ・ヘ長調の旋律と運指	上田
第１１回	１１．ピアノ・ト長調の旋律と運指	上田
第１２回	１２．ピアノ・ニ長調の旋律と運指	上田
第１３回	１３．ピアノ・ワン・コードの曲	上田
第１４回	１３．ピアノ・ツー・コードの曲	上田

第１５回	１５．ピアノ・スリー・コードの曲	上田
第１６回	１６．試験（演奏発表弾き歌い）	上田

教科書			
教・書籍名１	実践しながら学ぶ　子どもの音楽表現	教・出版社名１	保育出版社
教・著者名１	石井玲子	教・ＩＳＢＮ１	978-4-938795-78-8
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	幼稚園教育指導書　増補版	参・出版社名１	フレーベル館
参・著者名１	文部省	参・ＩＳＢＮ１	4-577-82016-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	里山総合演習Ⅳ （オムニバス）			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-CE-2-409		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	木曜3限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	里山というフィールドでの様々な体験学習を通して、人や自然に対する柔らかな感性を身につけること、また、社会や教育・保育現場での様々な課題に対して、創造力を発揮して確実に解決していくことが出来る実践力の養成を目的とする。本演習を受講することにより、１.状況対応能力の修得　２.感性・創造力の養成　３.体力・運動能力の向上　４.相互関係力の育成を行うことができる。
授業概要	里山という自然環境の中で子どもたちと行動を共にしながら、彼らが動植物などに関心を抱き、種々の活動の中での発見や工夫、成功の喜びなどの感動体験を経験したり、熱中し没頭する様子を観察させ、「子どもの世界」に触れさせることにより、子どもにとって自然と直接かかわる活動体験の意義を理解させる。 具体的には、①子どもたちの里山活動の援助、支援体験学習を通して、里山での遊びや学習を、教育・保育へと接続させる理論と方法を学ぶ、②四季の里山の変化に相応する活動体験（生産・制作活動、自然観察等）を行う。
アクティブラーニングの内容	フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	定期試験は実施せず、授業ポートフォリオ（50%）、活動への取り組み姿勢（50%）で評価する。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	ポートフォリオについては毎授業後に教員のコメント付してフィードバックするので次回受講の参考にしてほしい。
履修条件・注意事項	授業計画書で授業内容を確認して、服装、注意事項など準備をしっかりして授業に臨むこと。また、授業後、ふりかえりシートによるポートフォリオ作成を必ず行う必要がある。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。なお、予習・復習については各2時間以上の取り組みが必要である。
オフィスアワー	各担当教員のオフィスアワーを確認のこと。

授業計画		担当者
第１回	1.交流①「さつまいもほり」事前指導	栗田喜勝
第２回	2.交流①「さつまいもほり」	栗田喜勝
第３回	3.交流①「さつまいもほり」事後指導	栗田喜勝
第４回	4.山作業・フィールド整備「竹採取・広場の整備」	栗田喜勝
第５回	5.山作業・フィールド整備「竹採取・広場の整備」	栗田喜勝
第６回	6.収穫祭準備	栗田喜勝
第７回	7.収穫祭１　まきわり	栗田喜勝
第８回	8.収穫祭２　火起こし	栗田喜勝
第９回	9.交流②「やきいもと山あそび」事前指導	栗田喜勝
第１０回	10.交流②「やきいもと山あそび」	栗田喜勝
第１１回	11.交流③「やきいもと山あそび」事後指導	栗田喜勝
第１２回	12.プレーワーカー養成講座１　講演	栗田喜勝
第１３回	13.プレーワーカー養成講座２　プレーパーク実践	栗田喜勝
第１４回	14.　ネイチャーゲーム	栗田喜勝

第１５回	15.ポートフォリオ発表会・まとめ	栗田喜勝
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	特に指定しない。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	授業の中で適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-410		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本演習は卒業必修科目であるが、対人援助の基礎と実際をテーマとして、様々な環境で生活する子どもの成長発達への援助について学ぶことにより、子育ち・子育て支援の理解を深め、実践力の基礎を養うことができる。
授業概要	人間の社会的行動のうち、援助行動に代表される「向社会的行動」の心理的・社会的背景について学び、サポーティブな人間関係について理解を深める。さらに、子どもの向社会的行動の発達特徴について学び、形成促進のための諸条件について考察する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（２０％）、課題レポート発表（３０％）、期末試験（５０％）の結果を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートについては学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	関連文献の輪読を行うとともに、個別にレポート作成や課題発表を課すので積極的な参加が必要。 なお、事前に関連文献に目を通して参加し（予習）、授業後のまとめをしっかり行うこと（復習）。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	栗田喜勝
第２回	２．資料の配付と解説	栗田喜勝
第３回	３．援助行動について（１）理論的背景	栗田喜勝
第４回	４．援助行動について（２）実際の行動	栗田喜勝
第５回	５．援助行動の動機づけについて（１）個人的動機	栗田喜勝
第６回	６．援助行動の動機づけについて（２）社会的動機	栗田喜勝
第７回	７．援助行動の規定要因について（１）個人的要因	栗田喜勝
第８回	８．援助行動に規定要因について（２）社会的要因	栗田喜勝
第９回	９．援助行動の促進要因	栗田喜勝
第１０回	１０．向社会的行動について（１）幼少期	栗田喜勝
第１１回	１１．向社会的行動について（２）児童期	栗田喜勝
第１２回	１２．子どもの向社会的行動	栗田喜勝
第１３回	１３．子どもの向社会的行動の発達について	栗田喜勝
第１４回	１４．子どもに向社会的行動の促進要因	栗田喜勝
第１５回	１５．授業のまとめ	栗田喜勝
第１６回	１６．期末試験	栗田喜勝

教科書			
教・書籍名１	初回講義時に授業用資料を配布する。	教・出版社名１	

教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	社会心理学の新しいかたち	参・出版社名１	誠信書房
参・著者名１	竹村和久編著	参・ＩＳＢＮ１	4-414-30159-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-410		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	３０	授業形態	演習　グループワーク
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】　道徳教育に関する基本的な書物を読み，道徳教育の基礎力をつける。 【到達目標】 １）道徳教育とは何かについて，根拠文献を基に自分なりの考えを持つことができる。 ２）読み物資料を使って資料分析をする活動を通して，道徳的価値について理解を深める。 ３）グループワークを通して積極的に対話し，思考を深め，コミュニケーション力を身に付ける。
授業概要	道徳教育の基本的な書物を選択し，道徳教育の基礎力をつける。この段階では，教師が紹介した書物から興味あるものを選び，理解したことを協議する。また，書物を読み進める活動と並行して，道徳の読み物資料を読み，資料分析を通して道徳的価値に対する考えを深める。数名で対話することを通して，学修を深めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価表による評価（50%），授業への参加態度（30%），提出物（20%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートへは，指導助言を記述し，推敲を重ねる。
履修条件・注意事項	
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	道徳教育も含め，興味関心のある書物を選び，目標を決めて読み進める。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　１０３０９）

授業計画		担当者
第１回	教育の改善に求められること	川上
第２回	道徳教育とは何だろうか	川上
第３回	道徳教育で子どもの何を育てるか	川上
第４回	子どもが育つ土壌の変化	川上
第５回	子どもの育つ場所	川上
第６回	目標の明確な理解	川上
第７回	内容の理解とその活用	川上
第８回	道徳の時間の特質	川上
第９回	道徳の授業改善	川上
第１０回	教育の2つの定義	川上
第１１回	教育の段階的区分	川上
第１２回	読み物資料　山寺のびわの実	川上
第１３回	読み物資料　卒業文集最後の2行	川上
第１４回	読み物資料　月明りで見送った夜汽車	川上
第１５回	読み物資料　ある元旦のこと	川上
第１６回	テーマを決めて自分の考えをまとめる。（レポート作成）	川上

教科書

教・書籍名１	道徳教育とは何だろうか	教・出版社名１	廣済堂あかつき株式会社
教・著者名１	横山利弘	教・ＩＳＢＮ１	978-4-331-75008-7
教・書籍名２	道徳教育，画餅からの脱却	教・出版社名2	廣済堂あかつき株式会社
教・著者名2	横山利弘	教・ＩＳＢＮ2	978-4-331-75009-4
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-410		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】教育にかかわる各種教育技術を身に付け、積極的に子どもや保護者と向き合い、専門家としての責任を自覚した行動がとれる。 【到達目標】生徒指導及び学校教育相談の理論と実際について、子どもたちの人格のよりよい発達をめざす立場から学校内外での様々な現象を考察することにより、教師として必要な知識と実践力の基礎を養うことができる。
授業概要	生徒指導の意義と学校教育相談との関連を整理し、生徒指導上の問題行動等への対応について理解する。また、学校現場においては、消極的生徒指導はもとより、積極的生徒指導及び包括的教育相談の重要性が指摘されていることから、これを推進するための諸条件について考察する。さらに、関係学会または学校現場での教員研修会に参加し、実践力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（20%）　学外における体験活動への取り組み（20%）　ICTの活用（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題等の評価は授業の中でその都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループ・ディスカッションや演習、個別に課されたレポート作成等に積極的に参加する態度が望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理に基づく責任ある研究活動	藤井
第２回	消極的生徒指導とは	藤井
第３回	個人発表・グループ討議①（課題設定と検討）	藤井
第４回	個人発表・グループ討議②（発表）	藤井
第５回	学会または学校現場における研修会への参加①	藤井
第６回	学会または学校現場における研修会への参加②	藤井
第７回	学会または学校現場における研修会への参加③	藤井
第８回	積極的生徒指導、包括的教育相談とは	藤井
第９回	個人発表・グループ討議③(課題設定と検討)	藤井
第１０回	個人発表・グループ討議④（1グループ発表）	藤井
第１１回	個人発表・グループ討議⑤(2グループ発表)	藤井
第１２回	ワークショップ体験①（ＳＥＬ）	藤井
第１３回	ワークショップ体験②（感受性訓練）	藤井

第１４回	ワークショップ体験③（エンカウンターグループ）	藤井
第１５回	まとめ	藤井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-410		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	学生が、障害のある子どもやおとなを取り巻く問題について理解を深めることをテーマとし、そのために、学生が、様々な障壁（制度上、物理的なもの、情報面、意識など）について理解し、障害児・者のQOLの向上のためにどのような合理的配慮が必要か考察できるようになることを到達目標とする。
授業概要	社会福祉は実践を伴わなければ意味のない学問であるが、その実践がどのような考え（思想）で突き動かされているかを見つめることも大切なことだろう。考え（思想）とは、言いかえればどのような障害理解（人間理解）をもっているかということになるのだろう。この障害理解（人間理解）を重視しながら、障害のある子どもやおとなを取り巻く問題について、障害のある子どもの登場する絵本や新聞記事、文献などを活用して考察したい。あわせて、みなさんの関心を持ったテーマについても掘り下げ、発表していく機会を持ちたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%）※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） ・課題（レポート・提出物）（２０%） ・発表（20%） ・討議参加（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題や発表、討議参加に関して、ディスカッションや教員によるコメントによってフィードバックする。
履修条件・注意事項	前向きで積極的な姿勢を持って出席してほしい。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前配布の資料によく目を通しておくこと。予習や復習に際して調べたことなどノートにメモしておくこと。新聞記事やテレビの報道など、障害児・者についての情報に常に関心をはらうこと。発表者は事前に十分な準備をすること。予習・復習には毎回９０分ずつあてること。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にておこなう。

授業計画		担当者
第１回	１．研究倫理に基づく責任ある研究活動	中野明子
第２回	２．理解することと知ることの違い	中野明子
第３回	３．障害がある人のライフヒストリー（『土の宿物語』）	中野明子
第４回	４．前回の内容についてのグループ討論	中野明子
第５回	５．障害がある人のライフヒストリー	中野明子

第６回	６．前回の内容についてグループ討論	中野明子
第７回	７．レポートの書き方について（テーマの設定、資料収集）	中野明子
第８回	８．レポートの書き方について（論文構成、引用の方法、参考文献の書き方）	中野明子
第９回	９．トレーニング用紙作成（障害児問題）	中野明子
第１０回	１０.トレーニング用紙の作成(障害者問題)	中野明子
第１１回	１１.トレーニング用紙の発表と検討	中野明子
第１２回	１２.トレーニング用紙の発表と検討	中野明子
第１３回	１３.レポート作成(各自のテーマ)	中野明子
第１４回	１４.レポート作成(各自のテーマ)	中野明子
第１５回	１５.卒業論文作成に向けて	中野明子
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	ノリさんの楽々レポート作成術	参・出版社名１	大揚社
参・著者名１	久田則夫	参・ＩＳＢＮ１	4-7952-4360-3
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-410		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	現在の子どもが持つ生活環境や抱える問題は多様化し、複雑化してきている。ひとりひとりのニーズに対応するためには、個別の状況を把握することが求められる。学生は、現在の保育の場における諸問題を認識し、理解することができる。さらに、学生は、子どもの成長を援助する視聴覚文化財を理解し、それぞれの文化財のもつ特徴・有効性を知ることができる。
授業概要	提示された様々なテーマにそって自ら取り組んだり、また自らが見つけ出したテーマを全体で取り組むことを中心に行う。さらに、実際に保育現場に行き、全員で取り組んだ視聴覚文化財を発表する取り組みも行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（25%） 学外における体験活動への取り組み（15%） フィールドワーク（実演や子育て支援活動等）（10%） 活動参加態度、課題発表、発表レジュメ等からの結果を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx /kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題発表や発表レジュメなどについてはフィードバックを行うので、必ず参考にすること。
履修条件・注意事項	個人、またはグループ単位で、子どもに関するテーマについて調べ、まとめ、発表し、討議を行う。 さらに、それぞれの取り組みに対し、常に子どもたちのことを頭に入れながら取り組むこと（復習）。 ねらい・目的意識・子どもの発達に対して、繰り返し考えることで身に付けるようにしてほしい（予習）。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	秀
第２回	子どもにとっての“いい環境”とは？	秀
第３回	現在の子どもが抱える問題	秀
第４回	個人発表・グループ討議1	秀
第５回	個人発表・グループ討議2	秀
第６回	個人発表・グループ討議3	秀
第７回	施設見学	秀
第８回	個人発表・グループ討議4	秀
第９回	子どもの成長を援助する視聴覚文化財1	秀
第１０回	子どもの成長を援助する視聴覚文化財2	秀

第１１回	施設見学	秀
第１２回	グループで深めたいテーマの検討	秀
第１３回	グループ内での検討1	秀
第１４回	グループ内での検討2	秀
第１５回	まとめ	秀
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-410		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／６．安全な水とトイレを世界中に／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	＜保育内容への理解を深め保育の実践力を身に付けることができる＞ 乳幼児の生活や乳幼児を取り巻く環境、及び保育実践を手がかりに、保育内容の視点から保育や幼児期の育ちについて考察し、自らの研究テーマを明確にすることができる。そして、演習Ⅱに向けて、自らの研究・実践計画を立てることができる。
授業概要	・保育の情報に触れたり地域の乳幼児親子に触れたりしながら、保育の現状について理解を深める。 ・自分自身についての振り返りや、体験を通して子どもや保育への理解を深める。 ・自分の研究テーマ決定に向けて、関心のある情報を収集しレポートしたり、保育教材の制作を行う。 ・SDGｓを学び保育にどのようにつなげていくかを考察する。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	保育の実践記録や先行研究・SDGｓにふれ、自己課題を明確にしていこうとする取り組みを評価のポイントとする。したがって、評価は授業への取り組み、作品やレポートの発表等(50%)、課題レポート（50%）とする。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業の中や提出物にコメントしてフィードバックするので、予習復習に活かすこと。
履修条件・注意事項	時間をかけてこつこつと取り組み、積み重ねを大切にすること。 主体的に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当する ／ 内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	学生自身が自分で関心の高い分野の関係資料を収集したり、保育教材を制作したりしながら、自らの課題をつかむこと。授業時間以外に事前事後の調査やまとめ、作品制作など各自で十分時間をかけて取り組むことが求められる。予習復習には、各2時間程度を要する。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10313）にて、毎週水曜日５限

授業計画		担当者
第１回	保育学生の学びと地域社会とのつながり	藤井
第２回	SDGｓと保育とのつながり	藤井
第３回	我が国における保育の力とは何か	藤井
第４回	保育実践記録や研究物から保育について学ぶ① 保育学研究における倫理とは	藤井
第５回	保育実践記録や研究物から保育について学ぶ②	藤井
第６回	保育実践記録や研究物から保育について学ぶ③	藤井
第７回	保育者に求められる「質の高い保育」とは	藤井
第８回	保育教材の制作①	藤井

第９回	保育教材の制作②	藤井
第１０回	保育教材の制作③	藤井
第１１回	保育教材の制作④	藤井
第１２回	保育教材の制作⑤	藤井
第１３回	地域における子育て支援活動の実践①	藤井
第１４回	地域における子育て支援活動の実践②	藤井
第１５回	総括（作品・レポートの発表とディスカッション）	藤井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	日本が誇る！ていねいな保育	教・出版社名１	小学館
教・著者名１	大豆生田 啓友・,おおえだ けいこ	教・ＩＳＢＮ１	4091050832
教・書籍名２	明日の保育・教育にいかす子ども文化	教・出版社名2	渓水社
教・著者名2	田中卓也・藤井伊津子・橋爪けい子・小島千恵子／編	教・ＩＳＢＮ2	978-4-86327-284-2

参考書			
参・書籍名１	保育者への扉	参・出版社名１	建帛社
参・著者名１	澤津まり子 他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7679-5048-8
参・書籍名２	育ての心	参・出版社名2	フレーベル館
参・著者名2	倉橋惣三	参・ＩＳＢＮ2	978-4577803172

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-410		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、教育（国語教育を含む）に関する理論的考察や実践方法について学ぶことである。 到達目標は、次のとおりである。 (1)　日本の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景を捉え、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶことを通して、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。 (2)　文学作品・絵本・修身教科書・教育雑誌などから教育と子どもの歴史について理解するとともに、現代の教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得する。
授業概要	（１）文学作品を鑑賞することの意義について理解する。 　小学校国語科教育において、先人がはぐくんできた古典などの言語文化に親しむ態度の育成が求められている。保育士、幼稚園・小学校教員をめざす上で、文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景を捉え、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶことは、重要である。また、文学作品を読み、印象に残った作家や作品について調べ発表し、討論を行う。このような活動を通して、作者が描いた人間の生き方を間接的に経験し、自分自身の生き方を豊かなものにするとともに、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。 （２）文学作品・絵本・修身教科書・教育雑誌などから教育と子どもの歴史について理解する。 　「教育」とはなにか、「子ども」とはどのような存在か。文学・絵本・修身教科書・教育雑誌などから子どもの世界と多様な子ども観を時代背景とともに考察する。過去の日本社会のあり方や昔の教育・子どもの実態を学ぶことで、現代の教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） 　「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 　　授業への参加態度（30%） 　　ICTの活用（20%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	関連文献の輪読を行うとともに、課題（レポート・提出物）や発表を課すため、積極的な参加が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、大学図書館職員および高等学校における進路指導助手（小論文指導）としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として事前に関連文献に目を通して講義に参加し、復習として講義後のまとめをしっかり行うこと。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	雲津 英子
第２回	文学を創作するということ－J.K.ローリングとハリーポッターの誕生	雲津 英子

第３回	文学作品を鑑賞することの意義と国語教育における今日的課題	雲津 英子
第４回	日本文学史（１）ー上代文学・中古文学	雲津 英子
第５回	日本文学史（２）ー中世文学・近世文学	雲津 英子
第６回	日本文学史（３）― 近代文学	雲津 英子
第７回	日本文学史（４）ー現代文学	雲津 英子
第８回	作品分析（１）ー 夏目漱石	雲津 英子
第９回	作品分析（２）ー森鴎外『舞姫』『高瀬舟』（討議）	雲津 英子
第１０回	作品分析（３）ー芥川龍之介『羅生門』『鼻』『蜘蛛の糸』『杜子春』（討議）	雲津 英子
第１１回	作品分析（４）ー 絵本『おおきな木』（村上春樹 訳）（討議）	雲津 英子
第１２回	作品分析（５）ー『THE GIVING TREE』と『おおきな木』（村上春樹 訳）の比較（討議）	雲津 英子
第１３回	作品分析（６）ー『THE GIVING TREE』と『おおきな木』を活用した授業実践（討議）	雲津 英子
第１４回	発表・討議 ー 各自が行った作品分析を発表・討議する	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	THE GIVING TREE	参・出版社名１	Harper Collins
参・著者名１	Shel Silverstein	参・ＩＳＢＮ１	978-0-06-025665-4
参・書籍名２	おおきな木	参・出版社名2	あすなろ書房
参・著者名2	シェル・シルヴァスタイン 村上　春樹　訳	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7515-2540-1

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-411		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本演習は卒業必修科目であるが、対人援助の基礎と実際をテーマとして、様々な環境で生活する子どもの成長発達への援助について学ぶことにより、子育ち・子育て支援の理解を深め、実践力の基礎を養うことができる。
授業概要	人間の社会的行動のうち、援助行動に代表される「向社会的行動」の心理的・社会的背景について学び、サポーティブな人間関係について理解を深める。さらに、子どもの向社会的行動の発達特徴について学び、形成促進のための諸条件について考察する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（２０％）、課題発表（３０％）、課題レポート（５０％）の結果を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートについては学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	関連文献の輪読を行うとともに、個別にレポート作成や課題発表を課すので積極的な参加が必要。 なお、事前に関連文献に目を通して参加し（予習）、授業後のまとめをしっかり行うこと（復習）。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。 ３）単位認定試験には、毎回の質疑応答内容を含めるので、予習復習の学修成果が大切である。
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	１．オリエンテーション	栗田喜勝
第２回	２．個別課題A発表（１）	栗田喜勝
第３回	３．個別課題A発表に基づくグループ討議（１）	栗田喜勝
第４回	４．個別課題B発表（２）	栗田喜勝
第５回	５．個別課題B発表に基づくグループ討議（２）	栗田喜勝
第６回	６．個別課題C発表（３）	栗田喜勝
第７回	７．個別課題C発表に基づくグループ討議（３）	栗田喜勝
第８回	８．個別課題D発表（４）	栗田喜勝
第９回	９．個別課題D発表に基づくグループ討議（４）	栗田喜勝
第１０回	１０．個別課題E発表（５）	栗田喜勝
第１１回	１１．個別課題E発表に基づくグループ討議（５）	栗田喜勝
第１２回	１２．個別課題F発表（６）	栗田喜勝
第１３回	１３．個別課題F発表に基づくグループ討議（６）	栗田喜勝
第１４回	１４．発表・討議のまとめ（質疑応答）	栗田喜勝
第１５回	１５．発表・討議のまとめ（課題の整理）	栗田喜勝
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	初回授業時に資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	

教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	対人援助の心理学	参・出版社名１	朝倉書店
参・著者名１	望月昭編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-254-52677-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-411		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】　ペスタロッチーの著書を読み，道徳教育の基礎力をつける。 【到達目標】 １）教育の在り方，教育の意味について，ペスタロッチーの著書を基に自分なりの考えを持つことができる。 ２）読み物資料を使って資料分析をする活動を通して，道徳的価値について理解を深める。 ３）グループワークを通して積極的に対話し，思考を深め，コミュニケーション力を身に付ける。
授業概要	道徳教育の基本的な書物を選択し，道徳教育の基礎力をつける。この段階では，教師が紹介した書物から興味あるものを選び，理解したことを協議する。また，書物を読み進める活動と並行して，道徳の読み物資料を読み，資料分析を通して道徳的価値に対する考えを深める。数名で対話することを通して，学修を深めていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価表による評価（50%），授業への参加態度（30%），調査活動（20%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	提出されたレポートへs同助言を記述し，推敲を重ねる。 グループワークで適宜助言する。
履修条件・注意事項	必要な参考文献は事前に熟読しておき，疑問点や課題を整理しておく。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	道徳教育も含め，興味関心のある書物を選び，目標を決めて読み進める。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み（10号館　個人研究室　10309）

授業計画		担当者
第１回	シュタンツだより１－１０	川上
第２回	シュタンツだより１１－２０	川上
第３回	シュタンツだより２１－３０	川上
第４回	シュタンツだより３１－４０	川上
第５回	シュタンツだより４１－５０	川上
第６回	シュタンツだより５１－６０	川上
第７回	シュタンツだより６１－７０	川上
第８回	シュタンツだより７１－８０	川上
第９回	ペスタロッチー小伝	川上
第１０回	まとめレポート「シュタンツだよりとペスタロッチー」	川上
第１１回	燃え盛る炎	川上
第１２回	ネパールのビール	川上
第１３回	尊い玉子	川上
第１４回	明かりの下の燭台	川上
第１５回	看取りの医者	川上
第１６回	テーマを決めて自分の考えをまとめる。	川上

教科書			
教・書籍名１	隠者の夕暮れ，シュタンツだより	教・出版社名１	岩波文庫
教・著者名１	ペスタロッチー　長田　新訳	教・ＩＳＢＮ１	00-337031-7

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	フレーベル自伝	参・出版社名１	岩波文庫
参・著者名１	フレーベル　長田　新訳	参・ＩＳＢＮ１	00-337043-0
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者				藤井　和郎	
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング				PS-CE-3-411	
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習		
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義				

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】教育にかかわる各種教育技術を身に付け、積極的に子どもや保護者と向き合い、専門家としての責任を自覚した行動がとれる。 【到達目標】生徒指導及び学校教育相談の理論と実際について、子どもたちの人格のよりよい発達をめざす立場から学校内外での様々な現象を考察することにより、教師として必要な知識と実践力の基礎を養うことができる。
授業概要	生徒指導の意義と学校教育相談との関連を整理し、生徒指導上の問題行動等への対応について理解する。また、学校現場においては、消極的生徒指導はもとより、積極的生徒指導及び包括的教育相談の重要性が指摘されていることから、これを推進するための諸条件について考察する。さらに、関係学会または学校現場での教員研修会に参加し、実践力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（20%）　学外における体験活動への取り組み（20%）　ICTの活用（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題等の評価は授業の中でその都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループ・ディスカッションや演習、個別に課されたレポート作成等に積極的に参加する態度が望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理に基づく責任ある研究活動	藤井
第２回	研究の進め方	藤井
第３回	個別課題の設定	藤井
第４回	個別課題の追究①（追究の実際）	藤井
第５回	個別課題の追究②（追究の実際と発表準備）	藤井
第６回	個別課題の発表及びグループ討議①（1グループ発表）	藤井
第７回	個別課題の発表及びグループ討議②（2グループ発表）	藤井
第８回	個別課題の発表及びグループ討議③（3グループ発表）	藤井
第９回	学会または学校現場における研修会への参加①	藤井
第１０回	学会または学校現場における研修会への参加②	藤井
第１１回	学会または学校現場における研修会への参加③	藤井
第１２回	包括的教育相談に関するグループ討議①（効果検討）	藤井
第１３回	包括的教育相談に関するグループ討議②（プログラム開発）	藤井

第１４回	発表・討議のまとめ	藤井
第１５回	まとめ	藤井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-411		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	演習Ⅰに引き続き、学生が、障害のある子どもやおとなを取り巻く問題について理解を深めることをテーマとし、そのために、様々な障壁（制度上、物理的なもの、情報面、意識など）について理解し、障害児・者のQOLの向上のためにどのような合理的配慮が必要か考察できるようになることを到達目標とする。
授業概要	社会福祉は実践を伴わなければ意味のない学問であるが、その実践がどのような考え（思想）で突き動かされているかを見つめることも大切なことだろう。考え（思想）とは、言いかえればどのような障害理解（人間理解）をもっているかということになるのだろう。この障害理解（人間理解）を重視しながら、障害のある子どもやおとなを取り巻く問題について、障害のある子どもの登場する絵本や新聞記事、文献などを活用して考察したい。あわせて、みなさんの関心を持ったテーマについても掘り下げ、発表していく機会を持ちたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%）※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） ・課題（レポート・提出物）（２０%） ・発表（20%） ・討議参加（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題や発表、討議参加に関しては、ディスカッションや教員によるコメントによってフィードバックする。
履修条件・注意事項	発表者はレジュメを作成すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前配布の資料によく目を通しておくこと。予習や復習に際して調べたことなどノートにメモしておくこと。新聞記事やテレビの報道など、障害児・者についての情報に常に関心をはらうこと。発表者は事前に十分な準備をすること。予習・復習には毎回９０分ずつあてること。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．研究倫理に基づく責任ある研究活動	中野明子
第２回	２．障害理解（発達障害ついて）	中野明子
第３回	３．障害理解（聴覚障害、視覚障害について）	中野明子
第４回	４．障害理解（肢体不自由、重症心身障害について）	中野明子
第５回	５．障害理解（知的障害について）	中野明子
第６回	６．障害をテーマにした絵本『あつおのぼうけん』	中野明子
第７回	７．障害テーマのの絵本を読む『だれもしらない』	中野明子
第８回	８．個人発表・討議（自由テーマ）	中野明子

第９回	９．個人発表・討議（自由テーマ）	中野明子
第１０回	１０.個人発表・討議（自由テーマ）	中野明子
第１１回	１１.個人発表・討議（自由テーマ）	中野明子
第１２回	１２.卒業論文作成に向けて	中野明子
第１３回	１３.卒業論文テーマについて	中野明子
第１４回	１４.卒業論文テーマ提出	中野明子
第１５回	１５．4年生との交流（就職活動・卒論作成のアドバイスを受ける）	中野明子
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	

参考書			
参・書籍名１	改訂新版 障害児者の理解と教育・支援ー特別支援教育/障害者支援のガイドー	参・出版社名１	金子書房
参・著者名１	橋本創一、菅野 敦他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7608-2639-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-411		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	現在の子どもが持つ生活環境や抱える問題は多様化し、複雑化してきている。ひとりひとりのニーズに対応するためには、個別の状況を把握することが求められる。学生は、現在の保育の場における諸問題を認識し、理解することができる。さらに、学生は子どもの成長を援助する視聴覚文化財を理解し、それぞれの文化財のもつ特徴・有効性を知ることができる。
授業概要	提示された様々なテーマにそって自ら取り組んだり、また自らが見つけ出したテーマを全体で取り組むことを中心に行う。さらに、実際に保育現場に行き、全員で取り組んだ視聴覚文化財を発表する取り組みも行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（25%） 学外における体験活動への取り組み（15%） フィールドワーク（実演や子育て支援活動等）（10%） 活動参加態度、課題発表、発表レジュメ等からの結果を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx /kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題発表や発表レジュメなどについては、フィードバックを行うので必ず参考にすること。
履修条件・注意事項	個人、またはグループ単位で、子どもに関するテーマについて調べ、まとめ、発表し、討議を行う。 さらに、それぞれの取り組みに対し、常に子どもたちのことを頭に入れながら取り組むこと（復習）。 ねらい・目的意識・子どもの発達に対して、繰り返し考えることで身に付けるようにしてほしい（予習）。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	秀
第２回	グループ発表1	秀
第３回	グループ発表2	秀
第４回	グループ発表3	秀
第５回	グループ発表4	秀
第６回	現在の保育現場の抱える問題	秀
第７回	個人発表・グループ討議1	秀
第８回	個人発表・グループ討議2	秀
第９回	個人発表・グループ討議3	秀
第１０回	個人発表・グループ討議3	秀

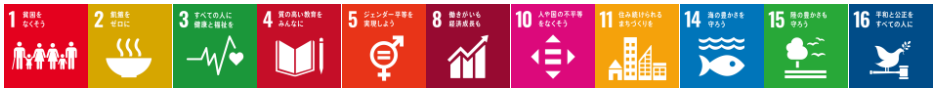
第１１回	個人発表・グループ討議4	秀
第１２回	個人発表・グループ討議5	秀
第１３回	個人発表・グループ討議6	秀
第１４回	グループによる保育現場での取り組み内容発表	秀
第１５回	まとめ	秀
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜資料を配布する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-411		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	＜演習Ⅰでの取り組みを基に自己のテーマに主体的に取り組み調査内容をまとめることができる。＞ ・演習Ⅰを振り返り、Ⅱについて具体的な取り組みが主体的に計画できる。 ・研究計画に基づき調査し、レポートすることができる。 ・取り組んできた成果をまとめることができる。
授業概要	・毎回調査内容を報告し合い、ディスカッションを行いながら、次への課題を探る。 ・自分のテーマについて先行研究を調査し、レポートする。 ・文献調査やフィールドワークをとおして、調査・研究を行う。 ・プレゼンテーション、全体発表を行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	本演習は演習Ⅰでの取り組みを基に、自己のテーマに主体的に取り組むことが目的である。そのため、評価については 授業への主体的参加態度（40%）、　レポートの提出と発表または作品の提出（60%）とする。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポートや作品についての評価を授業の中でフィードバックする。また、最終回の授業には全体の評価をフィードバックするので、演習Ⅲにつなげて欲しい。
履修条件・注意事項	演習Ⅰから引き続き、テーマを大切にして、挑戦していきましょう。 いつも自分の課題についてアンテナを張り、情報を収集したり、文章にしたりしていくことを心がけてまとめていきましょう。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	保育に関わる自己の研究テーマについて関係資料を収集したり、保育教材を制作することは授業の事前事後に行われなければ、授業は進まない。こつこつと自らの課題に取り組むことが求められる。 したがって１コマにつき２時間程度の予習復習を要する。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10313）にて、毎週水曜日５限

授業計画		担当者
第１回	「演習Ⅰ」の振り返りから自己課題を明確化する	藤井
第２回	「演習Ⅱ」における活動計画の立案と発表	藤井
第３回	先行研究調査	藤井
第４回	先行研究のレポート発表①	藤井
第５回	先行研究のレポート発表②	藤井
第６回	先行研究のレポート発表③	藤井
第７回	フィールドワークの計画と準備①	藤井
第８回	フィールドワークの計画と準備②	藤井
第９回	フィールドワークの計画と準備③	藤井
第１０回	フィールドワーク 地域における子育て支援活動の実践①	藤井

第１１回	フィールドワーク 地域における子育て支援活動の実践②	藤井
第１２回	フィールドワーク 地域における子育て支援活動の実践③	藤井
第１３回	研究レポートの作成 「日本保育学会倫理綱領」について	藤井
第１４回	研究レポートの作成	藤井
第１５回	「演習Ⅱ」総括 研究レポートの発表と「演習Ⅲ」に向けて	藤井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指導する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	センス･オブ･ワンダー	参・出版社名１	新潮社
参・著者名１	レイチェル･カーソン	参・ＩＳＢＮ１	4-10-519702-9
参・書籍名２	幼児教育へのいざない	参・出版社名2	東京大学出版会
参・著者名2	佐伯胖	参・ＩＳＢＮ2	4-13-002080-3

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども3年			ナンバリング	PS-CE-3-411		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	演習Ⅱは、演習Ⅰの学修内容をさらに深めるとともに、4年次の卒業論文作成に向けて、研究情報の収集、研究テーマの設定、研究計画の立案をするために必要な知識・技術の修得をテーマとする。 到達目標は、次のとおりである。 (1)　日本の文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景を捉え、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶことを通して、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解することができる。 (2)　文学作品・絵本・修身教科書・教育雑誌などから教育と子どもの歴史について理解するとともに、現代の教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得することができる。 (3)　卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを見つけ、研究情報の収集、研究テーマの設定を行うことができる。
授業概要	（１）文学作品を鑑賞することの意義について理解する。 　小学校国語科教育において、先人がはぐくんできた古典などの言語文化に親しむ態度の育成が求められている。保育士、幼稚園・小学校教員をめざす上で、文学作品について、それぞれの作者や作品を生み出した歴史的背景、あるいは文化的背景を捉え、文学の発達のあらましやそれぞれの時代における文学の特質を学ぶことは、重要である。演習Ⅱでは、演習Ⅰの学びをさらに深め、文学作品を読み、鑑賞することの意義を理解する。 （２）文学作品・絵本・修身教科書・教育雑誌などから教育と子どもの歴史について理解する。 　「教育」とはなにか、「子ども」とはどのような存在か。文学・絵本・修身教科書・教育雑誌などから子どもの世界と多様な子ども観を時代背景とともに考察する。過去の日本社会のあり方や昔の教育・子どもの実態を学ぶことで、現代の教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得する。 （３）演習Ⅰ・Ⅱの学びをもとに、関心のあるテーマを見つけ、研究情報の収集、研究テーマの設定を行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） 　「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 　　授業への参加態度（30%） 　　ICTの活用（20%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	関連文献の輪読を行うとともに、課題（レポート・提出物）や発表を課すため、積極的な参加が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、大学図書館職員および高等学校における進路指導助手（小論文指導）としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として事前に関連文献に目を通して講義に参加し、復習として講義後のまとめをしっかり行うこと。予習および復習は、各2時間程度行うこと。 「子ども総合演習Ⅰ」で学修した図書館の利用の仕方、文献・資料の探し方など、研究に必要な学修内容を復習しておくこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（教育とは何か、子どもとはどのような存在か）	雲津 英子
第２回	文学作品からみる教育と子ども（討議）	雲津 英子
第３回	絵本からみる教育と子ども（討議）	雲津 英子
第４回	修身教科書からみる教育と子ども（討議）	雲津 英子
第５回	教育雑誌からみる教育と子ども（討議）	雲津 英子
第６回	実際に使用された「モノ」からみる教育と子ども（討議）	雲津 英子
第７回	現代社会の子どもと教育のゆくえ（討議）	雲津 英子
第８回	文献・資料の探し方・論文の書き方	雲津 英子
第９回	研究情報の収集・精査	雲津 英子
第１０回	研究テーマの着想・検討	雲津 英子
第１１回	研究テーマの設定（発表）	雲津 英子
第１２回	関連研究論文に基づく討議	雲津 英子
第１３回	関連研究論文に基づく討議	雲津 英子
第１４回	関連研究論文に基づく討議	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	教育と子どもの社会史	参・出版社名１	梓出版社
参・著者名１	小針　誠	参・ＩＳＢＮ１	978-4-87262-626-1
参・書籍名２	最新版 大学生のためのレポート・論文術	参・出版社名2	講談社
参・著者名2	小笠原　喜康	参・ＩＳＢＮ2	978-4-06-513502-0

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-412		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本演習は卒業必修科目であるが、対人援助に関する種々の理論について学ぶと共に、子ども福祉現場における援助の実際を理解することをテーマとする。受講により具体的な援助方法を修得し、成長発達の援助者としての専門性や実践力を身につけることができる。
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱの学習内容をさらに深め発展させるために、受講学生各自の個別演習テーマを定め、そのテーマに基づく資料収集・研究発表・集団討議を中心に演習を進める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度(質疑・意見表明等の有無）（４０%）・課題レポート（６０%）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業中に呈示する自主学修課題については、学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	課題発表担当者は事前にレジュメを作成し（予習）、責任を持って発表すること。やむを得ず欠席する場合には必ず欠席理由を届けること。 また、発表後は内容について再確認し、次回の発表に向け課題を整理しておくこと（復習）。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	１．春期オリエンテーション・研究倫理に関する理解	栗田喜勝
第２回	２．各自の研究テーマ設定指導（文献検索の方法）	栗田喜勝
第３回	３．各自の研究テーマ設定指導（文献の解釈法）	栗田喜勝
第４回	４．各自の研究テーマ設定指導（文献のまとめ方）	栗田喜勝
第５回	５．個別研究発表の準備（参考資料の収集）	栗田喜勝
第６回	６．個別研究発表の準備（参考資料の選別・整理）	栗田喜勝
第７回	７．個別研究発表の準備（発表資料作成）	栗田喜勝
第８回	８．個別発表とグループ討議（問題のとらえ方）	栗田喜勝
第９回	９．個別発表とグループ討議（テーマの設定）	栗田喜勝
第１０回	１０．個別発表とグループ討議（研究目的の妥当性）	栗田喜勝
第１１回	１１．個別発表とグループ討議（研究方法の妥当性）	栗田喜勝
第１２回	１２．個別発表とグループ討議（研究方法の信頼性）	栗田喜勝
第１３回	１３．個別発表とグループ討議（考察方法）	栗田喜勝
第１４回	１４．前期のまとめ	栗田喜勝
第１５回	１５．課題レポート	栗田喜勝
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	初回講義時および毎授業時に授業用資料ファイルを提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	吉田健正	参・ＩＳＢＮ１	4-88848-868-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習III			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-412		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	３０	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】理科教育，道徳教育の分野において，各自で課題を設定し，情報収集，整理・分析，まとめという探究的な学修を進める。 【到達目標】 １）テーマを設定し，情報を収集したのち，資料分析・整理，まとめという一連の探究活動を進めることができる。 ２）自分のテーマに沿って，文章を構成する力を身に付けることができる。 ３）論文を基に，分かりやすいパワポ資料を作成し，効果的に発表することができる。
授業概要	理科教育や道徳教育について，先行文献を研究し，残されている課題や明らかにされていない課題を把握する。研究したいテーマを決めたのち研究計画を立て，必要な調査研究に取りかかる。調査結果（収集した情報）を分析，整理しテーマに沿った単元計画，指導案などを作成する。指導案を基に授業を実践し，検証したことを論文にまとめる。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／フィールドワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価表による評価（50%）, 学外における調査活動（30%） 授業への参加態度（２0%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポート，論文については授業の中で常にフィードバックする。
履修条件・注意事項	関連文献の輪読を行うとともに，課題や発表を課すため，積極的な参加が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習2時間　テキスト，文献を読み，各自研究を進め課題をもつ。 復習2時間　要点を整理しておく。
オフィスアワー	月５限　木3限　昼休み（10号館　個人研究室　10309）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	川上
第２回	各自の研究テーマ検討	川上
第３回	各自の研究テーマ検討	川上
第４回	研究テーマの相互検討	川上
第５回	研究テーマ，研究計画の修正	川上
第６回	テーマに沿った個別研究	川上
第７回	個別研究（資料収集，分析，整理）	川上
第８回	個別研究（発表資料作成）	川上
第９回	グループ討議（問題のとらえ方）	川上
第１０回	個別発表（テーマの設定）	川上
第１１回	研究目的の妥当性	川上
第１２回	個別発表，グループ討議	川上
第１３回	個別発表（考察方法）	川上
第１４回	グループ討議・発表・まとめ	川上
第１５回	まとめ，振り返り	川上
第１６回	研究レポート作成	川上

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習III			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-412		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】教育にかかわる各種教育技術を身に付け、積極的に子どもや保護者と向き合い、専門家としての責任を自覚した行動がとれる。 【到達目標】積極的生徒指導及び包括的相談についての理解を深め、学校現場における具体的な実践例を知る。さらに、各自が研究テーマを定め、そのテーマに見合った学習を進めることができる。
授業概要	学校現場においては、生徒指導上の問題行動等への対応に追われている実態もあるが、それにとどまらず積極的生徒指導及び包括的教育相談の実践がなされている例も多い。これらの実践例をもとに、その方向性や課題等について分析し各自の研究テーマに沿った研究を推進する。また、関係学会または学校現場での教員研修会に参加し、実践力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（20%）　学外における体験活動への取り組み（20%）　ICTの活用（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題等の評価は授業の中でその都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループ・ディスカッションや演習、個別に課されたレポート作成等に積極的に参加する態度が望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理に基づく責任ある研究活動	藤井
第２回	研究テーマの設定①（文献検討）	藤井
第３回	研究テーマの設定②（研究の柱）	藤井
第４回	研究テーマの相互検討	藤井
第５回	学会または学校現場における研修会への参加①	藤井
第６回	学会または学校現場における研修会への参加②	藤井
第７回	学会または学校現場における研修会への参加③	藤井
第８回	個別発表及びグループ討議①（1グループ発表）	藤井
第９回	個別発表及びグループ討議②（2グループ発表）	藤井
第１０回	個別発表及びグループ討議③（3グループ発表）	藤井
第１１回	個別発表及びグループ討議④（4グループ発表）	藤井
第１２回	ワークショップ体験①（ＳＥＬ）	藤井
第１３回	ワークショップ体験②（感受性訓練）	藤井

第１４回	ワークショップ体験③（エンカウンターグループ）	藤井
第１５回	まとめ	藤井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習III			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-412		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	演習Ⅰ、Ⅱ での学習を踏まえ、障害児・者を取り巻く問題の理解を深めることをテーマとし、そのために学生が文献を読み解き、様々な視点から問題を考え、解決の方向を見い出すことができることを到達目標とする。
授業概要	障害児・者の問題に関する課題について、資料の収集、文献の読み合わせなど、グループによる共同作業の中から深めていきたい。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%）※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） ・課題（レポート・提出物）（２０%） ・発表（20%） ・討議参加（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題や発表、討議参加に関しては、ディスカッションや教員によるコメントによってフィードバックする。
履修条件・注意事項	発表者はレジュメを作成すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前に配布した資料によく目を通しておくこと。予習や復習に際して調べたことなどノートにメモしておくこと。発表者は事前に十分な準備をすること。予習・復習には毎回９０分ずつあてること。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．研究倫理に基づく責任ある研究活動	中野明子
第２回	２．グループ討議・発表（障害児・者差別 について　戦後～現代）	中野明子
第３回	３．グループ討議・発表（障害児・者差別 について　戦後～現代）	中野明子
第４回	４．グループ討議・発表（糸賀一雄の実践について・前半）	中野明子
第５回	５．グループ討議・発表（糸賀一雄の実践について・後半）	中野明子
第６回	６．グループ討議・発表（田村一二の実践について・前半）	中野明子
第７回	７．グループ討議・発表（田村一二の実践について・後半）	中野明子
第８回	８．グループ討議・発表（宮城まり子の実践について・前半）	中野明子
第９回	９．グループ討議・発表（宮城まり子の実践について・後半）	中野明子
第１０回	１０．グループ討議・発表（福井達雨の実践について・前半）	中野明子
第１１回	１１．グループ討議・発表（福井達雨の実践について・後半）	中野明子
第１２回	１２．グループ討議・発表（田村一二『茗荷村見聞記』前半）	中野明子
第１３回	１３．グループ討議・発表（田村一二『茗荷村見聞記』後半）	中野明子
第１４回	１４．グループ討議・発表（糸賀一雄『福祉の思想』前半）	中野明子
第１５回	１５．グループ討議・発表（糸賀一雄『福祉の思想』後半）、まとめ	中野明子

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	適宜提示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	室田保夫	参・ＩＳＢＮ１	4-623-04519-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習III			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-412		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、演習ⅠおよびⅡから得た研究課題に対する学習内容をより深め、発展させることができる。研究課題に基づく資料収集や発表を通じて、課題に対しての理解を深め、グループ討議を通して、より客観的な視点を獲得することができる。
授業概要	演習ⅠおよびⅡで得た経験や知識から、自己のテーマをしっかりと見つけ出し、深めていく取り組みを行う。発表とグループ討議を繰り返し行うことで、さまざまな方向性を見つけ出し、確固たる理論構築を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（25%） 学外における体験活動への取り組み（15%） フィールドワーク（実演や子育て支援活動等）（10%） 活動参加態度、課題発表、発表レジュメ等からの結果を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx /kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容に関しては、フィードバックを行うので必ず参考にすること。
履修条件・注意事項	計画的に自らの意思で取り組むこと。 自らのテーマに対する他の意見を熟考すること（復習）。 自らの問題意識がいかなる結論に達するのか、また期待する結論とは何かをしっかりと作り上げること（予習）。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	論文作成に対してのオリエンテーション（研究倫理教育）	秀
第２回	自己のテーマに関する資料収集	秀
第３回	発表とグループ討議1	秀
第４回	発表とグループ討議2	秀
第５回	発表とグループ討議3	秀
第６回	発表とグループ討議4	秀
第７回	発表とグループ討議5	秀
第８回	発表とグループ討議6	秀
第９回	発表とグループ討議7	秀
第１０回	発表とグループ討議8	秀

第１１回	発表とグループ討議9		秀
第１２回	発表とグループ討議10		秀
第１３回	中間発表1		秀
第１４回	中間発表2		秀
第１５回	後期に向けて課題設定		秀
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	特に指定しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-412		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	子どもを取り巻く状況や保育の今日的課題について調査し、保育の専門性を深めることができる。 ・各自のテーマに沿った現地調査や先行研究から子どもや保育についての課題をつかむことができる。 ・乳幼児を取り巻く今日の環境について課題をもち、よりよい保育環境を創造しようとする。 ・自己の課題に向けて、研究的態度で臨むことができる。
授業概要	・保育についての先行研究や保育現場に出向いての保育観察や参加をとおして、現在の乳幼児がどのような人的・物的、また自然や文化環境のなかで育っているのかを把握し、自己の課題を深める。 ・学生同士お互いの課題についてコメントし合い、共に学び合うとともに課題を深める。 ・保育技術を磨くとともに、幼児の発達を促す保育教材の制作を行う。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／フィールドワーク
評価方法と割合	この演習では、子どもを取り巻く環境について関心をもち、各自が演習Ⅱを通して課題を見いだし、主体的に研究的視点をもって取り組むことが求められる。したがって評価については、ゼミへの取り組みの状況（30%）、レポート及び保育教材の制作（30%）、成果の発表内容（40%）とする。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の中で学生個々の課題についてフィードバックする。
履修条件・注意事項	1回1回のゼミを丁寧にお互い学び合う姿勢を大切にして、積み上げていきましょう。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	自分の課題について、常に意識し情報の収集やレポート作成など各自で取り組むことが求められる。ゼミではその成果を発表し合いさらに発展するよう努めましょう。授業は各自の予習復習を基に進めるので、各２時間程度必要である。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室(10313)にて、毎週水曜日５限

授業計画		担当者
第１回	論文作成にあたって 「演習Ⅰ・Ⅱ」を振り返って	藤井
第２回	先行研究調査 「演習Ⅲ」活動計画	藤井
第３回	自己のテーマへの仮説	藤井
第４回	自己の研究テーマと研究方法の検討	藤井
第５回	調査・資料収集	藤井
第６回	調査・資料収集	藤井
第７回	調査内容・作品制作の検討①	藤井
第８回	調査内容・作品制作の検討②	藤井
第９回	フィールドワーク、作品制作①	藤井
第１０回	フィールドワーク、作品制作②	藤井

第１１回	地域子育て支援活動①	藤井
第１２回	地域子育て支援活動②	藤井
第１３回	地域子育て支援活動③	藤井
第１４回	「演習Ⅲ」自己課題の振り返り、まとめ	藤井
第１５回	「演習Ⅲ」総括 まとめ発表、ディスカッション、演習Ⅳに向けて	藤井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指導する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	明日の保育・教育にいかす子ども文化	参・出版社名１	渓水社
参・著者名１	田中卓也 他	参・ＩＳＢＮ１	978-4-86327-284-2
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習III			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-412		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、教育（国語教育を含む）に関する分野から、各自で研究テーマを選定し、研究テーマに基づく資料収集・研究発表・討議を行うことにより、理論的考察や実践方法について学ぶことである。 到達目標は、次のとおりである。 （１）　卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを見つけ、研究情報の収集、研究テーマの設定を行う。 （２）　研究テーマに基づく、教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得する。
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱの学習内容をさらに深め発展させるために、受講学生各自の個別演習テーマを定め、そのテーマに基づく資料収集・研究発表・集団討議を中心に演習を進める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） 「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（30%） ICTの活用（20%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	関連文献の輪読を行うとともに、課題（レポート・提出物）や発表を課すため、積極的な参加が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、大学図書館職員および高等学校における進路指導助手（小論文指導）としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として事前に関連文献に目を通して講義に参加し、復習として講義後のまとめをしっかり行うこと。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）	雲津 英子
第２回	各自の研究テーマ設定指導（文献検索の方法）	雲津 英子
第３回	各自の研究テーマ設定指導（文献の解釈法）	雲津 英子
第４回	各自の研究テーマ設定指導（文献のまとめ方）	雲津 英子
第５回	個別研究発表の準備（参考資料の収集）	雲津 英子
第６回	個別研究発表の準備（参考資料の選別・整理）	雲津 英子
第７回	個別研究発表の準備（発表資料作成）	雲津 英子
第８回	個別発表とグループ討議（問題のとらえ方）	雲津 英子
第９回	個別発表とグループ討議（テーマの設定）	雲津 英子
第１０回	個別発表とグループ討議（研究目的の妥当性）	雲津 英子
第１１回	個別発表とグループ討議（研究方法の妥当性）	雲津 英子
第１２回	個別発表とグループ討議（研究方法の信頼性）	雲津 英子
第１３回	個別発表とグループ討議（考察方法）	雲津 英子
第１４回	グループ討議・発表まとめ	雲津 英子

第１５回	まとめ		雲津 英子
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢN2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢN2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-413		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本演習は卒業必修科目であるが、対人援助に関する種々の理論について学ぶと共に、子ども福祉現場における援助の実際を理解することをテーマとする。受講により具体的な援助方法を修得し、成長発達の援助者としての専門性や実践力を身につけることができる。
授業概要	演習Ⅰ～Ⅲの学習内容をさらに深め発展させるために、受講学生各自の個別演習テーマを定め、そのテーマに基づく資料収集・研究発表・集団討議を中心に演習を進める。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	受講態度（２０％）、発表への取り組み（４０％）、課題レポート（４０％）で総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートについては学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	課題発表担当者は事前にレジュメを作成し（予習）、責任を持って発表すること。やむを得ず欠席する場合には必ず欠席理由を届けること。 また、発表後は内容について再確認し、次回の発表に向け課題を整理しておくこと（復習）。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前に配布する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。
オフィスアワー	個人研究室にて、木曜日4限、金曜日5限に実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	１．秋期オリエンテーション	栗田喜勝
第２回	２．各自の研究課題指導（文献検索の方法）	栗田喜勝
第３回	３．各自の研究課題指導（文献の解釈法）	栗田喜勝
第４回	４．各自の研究課題指導（文献のまとめ方）	栗田喜勝
第５回	５．個別研究発表の準備（参考資料の収集）	栗田喜勝
第６回	６．個別研究発表の準備（参考資料の選別・整理）	栗田喜勝
第７回	７．個別研究発表の準備（発表資料作成）	栗田喜勝
第８回	８．個別発表とグループ討議（問題のとらえ方）	栗田喜勝
第９回	９．個別発表とグループ討議（テーマの設定）	栗田喜勝
第１０回	１０．個別発表とグループ討議（研究目的の妥当性）	栗田喜勝
第１１回	１１．個別発表とグループ討議（研究方法の妥当性）	栗田喜勝
第１２回	１２．個別発表とグループ討議（研究方法の信頼性）	栗田喜勝
第１３回	１３．個別発表とグループ討議（考察方法）	栗田喜勝
第１４回	１４．グループ討議・発表まとめ	栗田喜勝
第１５回	１５．学習のまとめ	栗田喜勝
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	初回授業時に資料を配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	心の理論	参・出版社名１	新曜社
参・著者名１	子安増生他編著	参・ＩＳＢＮ１	978-4-7885-1467-6
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-413		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】理科教育，道徳教育の分野において，各自で課題を設定し，情報収集，整理・分析，まとめという探究的な学修を進める。 【到達目標】 １）テーマを設定し，情報を収集したのち，資料分析・整理，まとめという一連の探究活動を進めることができる。 ２）自分のテーマに沿って，文章を構成する力を身に付けることができる。 ３）論文を基に，分かりやすいパワポ資料を作成し，効果的に発表することができる。
授業概要	理科教育や道徳教育について，先行文献を研究し，残されている課題や明らかにされていない課題を把握する。研究したいテーマを決めたのち研究計画を立て，必要な調査研究に取りかかる。調査結果（収集した情報）を分析，整理し，テーマに沿った単元計画，指導案などを作成する。指導案を基に授業を実践し，検証したことを論文にまとめる。
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／フィールドワーク
評価方法と割合	ルーブリック評価表による評価（50%）, 学外における調査活動（30%） 授業への参加態度（２0%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポート，論文については授業の中で常にフィードバックする。
履修条件・注意事項	関連文献の輪読を行うとともに，課題や発表を課すため，積極的な参加が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習2時間　文献，書物を読み，計画的に進められるよう課題を明らかにしておく。 復習2時間　要点を整理しておく。
オフィスアワー	月5限　木３限　昼休み（10号館　個人研究室　10309）

授業計画		担当者
第１回	研究倫理と責任	川上
第２回	研究の中間発表及び討議１	川上
第３回	研究の中間発表及び討議２	川上
第４回	研究の意中間発表及び討議３	川上
第５回	研究の見直し，修正	川上
第６回	研究の見直し，修正，追究	川上
第７回	研究の修正（発表資料修正）	川上
第８回	研究修正（発表資料作成）	川上
第９回	個別研究発表，グループ討議１	川上
第１０回	個別発表，グループ討議２	川上
第１１回	個別発表，グループ討議３	川上
第１２回	発表後の修正	川上
第１３回	添付資料の整分析，整理	川上
第１４回	研究発表の準備（パワポ資料作成）	川上
第１５回	研究発表の準備（パワポ資料の修正）	川上

第１６回	研究発表会		川上
教科書			
教・書籍名１	適宜指示する	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２	適宜指示する	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２	適宜指示する	参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-413		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】教育にかかわる各種教育技術を身に付け、積極的に子どもや保護者と向き合い、専門家としての責任を自覚した行動がとれる。 【到達目標】積極的生徒指導及び包括的相談についての理解を深め、学校現場における具体的な実践例を知る。さらに、各自が研究テーマを定め、そのテーマに見合った学習を進めることができる。
授業概要	学校現場においては、生徒指導上の問題行動等への対応に追われている実態もあるが、それにとどまらず積極的生徒指導及び包括的教育相談の実践がなされている例も多い。これらの実践例をもとに、その方向性や課題等について分析し各自の研究テーマに沿った研究を推進する。また、関係学会または学校現場での教員研修会に参加し、実践力を身に付ける。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（20%）　学外における体験活動への取り組み（20%）　ICTの活用（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題等の評価は授業の中でその都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループ・ディスカッションや演習、個別に課されたレポート作成等に積極的に参加する態度が望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

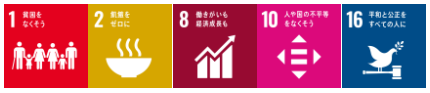
授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション・研究倫理に基づく責任ある研究活動	藤井
第２回	研究の中間発表及びグループ討議①（1グループ発表）	藤井
第３回	研究の中間発表及びグループ討議②（2グループ発表）	藤井
第４回	研究の中間発表及びグループ討議③（3グループ発表）	藤井
第５回	研究発表の方法	藤井
第６回	研究の修正と追究①（発表方法の選択）	藤井
第７回	研究の修正と追究②（発表資料の計画）	藤井
第８回	研究の修正と追究③（発表資料の作成）	藤井
第９回	学会または学校現場における研修会への参加①	藤井
第１０回	学会または学校現場における研修会への参加②	藤井
第１１回	学会または学校現場における研修会への参加③	藤井
第１２回	研究発表の準備①（個別作業）	藤井
第１３回	研究発表の準備②（個別指導）	藤井

第１４回	研究発表会	藤井
第１５回	まとめ	藤井
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-413		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に 
到達目標	演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの学習を踏まえ、学生が障害児・者を取り巻く問題を理解することをテーマとし、そのために学生が、関連文献を読み解き、制度や法体系、相談援助技術、障害理解など様々な角度から考察し、解決の方向を見い出すことができることを到達目標とする。
授業概要	演習Ⅲでのグループ学習の経験を踏まえ、演習Ⅳではそれぞれのテーマを設定し、個々で研究した内容の発表を行う。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%）※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） ・課題（レポート・提出物）（２０%） ・発表（20%） ・討議参加（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題や発表、討議参加に関しては、ディスカッションや教員によるコメントによってフィードバックする。
履修条件・注意事項	発表者はレジュメを作成すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	事前配布の資料によく目を通しておくこと。毎回の発表や討論の内容について、関連資料を探すなど学習を深めること。発表者は事前に十分な準備をすること。予習・復習には,毎回９０分ずつあてること。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．個人発表・討議(インクルージョン)	中野明子
第２回	２．個人発表・討議（自己決定）	中野明子
第３回	３．個人発表・討議（合理的配慮）	中野明子
第４回	４．個人発表・討議（障害者総合支援法・介護給付）	中野明子
第５回	５．個人発表・討議 （障害者総合支援法・訓練等給付）	中野明子
第６回	６．個人発表・討議（地域生活支援）	中野明子
第７回	７．個人発表・討議（障害者の雇用）	中野明子
第８回	８．個人発表・討議（障害者の所得保障）	中野明子
第９回	９.個人発表・討議（障害理解の実際、保育園）	中野明子
第１０回	１０.個人発表・討議（障害理解の実際、幼稚園・小学校）	中野明子
第１１回	１１.個人発表・討議（特別支援教育の歴史）	中野明子
第１２回	１２.個人発表・討議（特別支援教育の現状・課題）	中野明子
第１３回	１３．発表・討議（ノーマライゼーションの実現に向けて）	中野明子
第１４回	１４．発表・討議（障害者の権利に関する条約）	中野明子
第１５回	１５．３年生との交流（就職活動、卒論作成のアドバイス）及びまとめ	中野明子

第１６回			
教科書			
教・書籍名１	適宜提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	「障害者白書（最新版）」	参・出版社名１	
参・著者名１	内閣府	参・ＩＳＢＮ１	978-4-906955-54-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-413		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、演習ⅠおよびⅡそしてⅢから得た研究課題に対する学習内容をより深め、発展させることができる。研究課題に基づく資料収集や発表を通じて、課題に対しての理解を深め、グループ討議を通して、より客観的な視点を獲得することができる。
授業概要	演習ⅠおよびⅡそしてⅢで得た経験や知識から、自己のテーマをしっかりと見つけ出し、深めていく取り組みを行う。発表とグループ討議を繰り返し行うことで、さまざまな方向性を見つけ出し、確固たる理論構築を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（25%） 学外における体験活動への取り組み（15%） フィールドワーク（実演や子育て支援活動等）（10%） 活動参加態度、課題発表、発表レジュメ等からの結果を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx /kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	発表内容に関しては、フィードバックを行うので必ず参考にすること。
履修条件・注意事項	計画的に自らの意思で取り組むこと。 自らのテーマに対する他の意見を熟考すること（復習）。 自らの問題意識がいかなる結論に達するのか、また期待する結論とは何かをしっかりと作り上げること（予習）。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高まること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション（研究倫理教育）・中間発表1	秀
第２回	中間発表2	秀
第３回	発表とグループ討議1	秀
第４回	発表とグループ討議2	秀
第５回	発表とグループ討議3	秀
第６回	発表とグループ討議4	秀
第７回	発表とグループ討議5	秀
第８回	発表とグループ討議6	秀
第９回	発表とグループ討議7	秀

第１０回	発表とグループ討議8		秀
第１１回	発表とグループ討議9		秀
第１２回	発表とグループ討議10		秀
第１３回	卒論発表会1		秀
第１４回	卒論発表会2		秀
第１５回	総括		秀
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	特に指定しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-413		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に／１７．パートナーシップで目標を達成しよう
到達目標	演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、を基礎として、さらに自己の研究課題を深める。そして本演習を通して、子どもを取り巻く文化について現状と課題を理解し、子どもの成長に自分なりの文化の課題や文化財を提案をすることができる。 ・自分の研究テーマについて、情報を収集し、学修を深めることができる。 ・他者の発表に関心を持ち、的確なコメントをすることができる。
授業概要	・演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲをさらに深めていこうという意欲を持って自己の課題に挑戦する。 ・収集した情報、資料を整理しながら研究的な視点をもつ。 ・発表したり、コメントしたりしながら共同で、育ち合う。 ・保育を取り巻く環境について課題を探り、分析する。 ・親子の信頼関係形成について考察する。 ・児童文化財についての考察と提案等
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	毎回の授業においての調査レポートや保育教材作品についての制作過程の発表とコメント等行う。そのため、主体的な授業への参加態度（50%)。課題レポートおよび保育教材作品(50%)で評価する。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	毎回のレポート等についてはその都度評価し、授業でフィードバックする。最終発表における評価は発表後に評価しフィールドバックする。
履修条件・注意事項	自分のテーマにこだわりながら、資料収集や先行研究の調査を基にレポート作成に取り組みましょう。ディスカッションやコメントは役割を意識して、共に深めていきましょう。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし、保育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	自分の課題をいつも意識し、各自で取り組むことが求めらる。レポートや保育教材の制作には授業時間以外の事前・事後の学修が重要である。１コマの授業には各２時間程度を要する。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室(10313)にて、毎週水曜日５限

授業計画		担当者
第１回	「演習Ⅲ」の課題から「演習Ⅳ」に向けての活動計画	藤井
第２回	自己の研究テーマに関わる先行研究の調査	藤井
第３回	研究課題への取り組みと発表、他者へのコメント	藤井
第４回	研究課題への取り組みと発表、他者へのコメント	藤井
第５回	調査内容・作品の制作の検討	藤井
第６回	調査内容・作品の制作の検討	藤井
第７回	調査内容・作品の制作の検討	藤井
第８回	地域貢献・子育て支援活動①	藤井
第９回	地域貢献・子育て支援活動②	藤井
第１０回	地域貢献・子育て支援活動③	藤井

第１１回	地域貢献・子育て支援活動④		藤井
第１２回	地域貢献・子育て支援活動の振り返り		藤井
第１３回	振り返りからの課題への取り組み①		藤井
第１４回	振り返りからの課題への取り組み②		藤井
第１５回	総括 「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の成果発表とディスカッション		藤井
第１６回			
教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	保育者の地平	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	津守真	参・ＩＳＢＮ１	4623027422
参・書籍名２	子どもたちのミーティング　－りんごの木の保育実践から－	参・出版社名2	りんごの木
参・著者名2	柴田愛子・青木誠	参・ＩＳＢＮ2	4947693088

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-413		
必修・選択	必修	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	テーマは、教育（国語教育を含む）に関する分野から、各自で研究テーマを選定し、研究テーマに基づく資料収集・研究発表・討議を行うことにより、理論的考察や実践方法について学ぶことである。 到達目標は、次のとおりである。 （１）　卒業論文作成に向けて、関心のあるテーマを見つけ、研究情報の収集、研究テーマの設定を行うことができる。 （２）　研究テーマに基づく、教育問題や子ども問題の反省的な見方や捉え方を習得することができる。
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの学習内容をさらに深め発展させるために、受講学生各自の個別演習テーマを定め、そのテーマに基づく資料収集・研究発表・集団討議を中心に演習を進める。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） 「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（30%） ICTの活用（20%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	関連文献の輪読を行うとともに、課題（レポート・提出物）や発表を課すため、積極的な参加が必要である。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、大学図書館職員および高等学校における進路指導助手（小論文指導）としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として事前に関連文献に目を通して講義に参加し、復習として講義後のまとめをしっかり行うこと。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	雲津 英子
第２回	各自の研究テーマ設定指導（文献検索の方法）	雲津 英子
第３回	各自の研究テーマ設定指導（文献の解釈法）	雲津 英子
第４回	各自の研究テーマ設定指導（文献のまとめ方）	雲津 英子
第５回	個別研究発表の準備（参考資料の収集）	雲津 英子
第６回	個別研究発表の準備（参考資料の選別・整理）	雲津 英子
第７回	個別研究発表の準備（発表資料作成）	雲津 英子
第８回	個別発表とグループ討議（問題のとらえ方）	雲津 英子

第９回	個別発表とグループ討議（テーマの設定）	雲津 英子
第１０回	個別発表とグループ討議（研究目的の妥当性）	雲津 英子
第１１回	個別発表とグループ討議（研究方法の妥当性）	雲津 英子
第１２回	個別発表とグループ討議（研究方法の信頼性）	雲津 英子
第１３回	個別発表とグループ討議（考察方法）	雲津 英子
第１４回	グループ討議・発表まとめ	雲津 英子
第１５回	まとめ	雲津 英子
第１６回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	適宜指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	栗田　喜勝		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-414		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	本科目は卒業必修科目であるが、社会福祉・子ども福祉・心理学等の分野から、受講生が各自で研究テーマを選定し、文献調査やアンケート調査、討議等を行うことにより、卒業論文としてまとめることができる。
授業概要	演習Ⅰや演習ⅠⅠを通じて設定した個別研究テーマについて、先行研究のレヴューとその検証、研究方法と論文構成等について指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	取り組み態度（２０％）、資料収集力（２０％）、論文構成・執筆力（４０％）、プレゼンテーション・応答力（２０％）、および課題レポートで総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートについては学修の進展に資するために、見極め評価結果をフィードバックするので参考にすること。
履修条件・注意事項	先行研究に関する文献資料の収集に努力すること（予習）。授業後の資料確認・整理を行うこと（復習）。ゼミ独自の「卒業論文執筆の手引き資料」をファイル資料により呈示するので活用すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	１）事前にファイル呈示する資料に十分目を通して、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すこと。 ２）毎回授業時には前回の学修内容を確認し、資料中の事項について質疑応答形式で進めるので、積極的な　参加と事前の準備、授業後 の振り返り(2時間以上の事後学修)が必要である。
オフィスアワー	個人研究室にて、基本的には木曜日4限、金曜日5限にPCオンライン・電話・メール等で実施するが、必要に応じて他の曜日時間帯にも随時対応する。

授業計画		担当者
第１回	(春学期) １．研究倫理に関する理解・論文執筆のオリエンテーション（基本的事項）	栗田喜勝
第２回	２．論文執筆のオリエンテーション（専門的事項）	栗田喜勝
第３回	３．各自のテーマ確認（妥当性の検討）	栗田喜勝
第４回	４．各自のテーマ確認（信頼性の検討）	栗田喜勝
第５回	５．各自のテーマ確認（総合的検討）	栗田喜勝
第６回	６．各自のテーマ確認と研究方法の検討（オリジナリティ）	栗田喜勝
第７回	７．各自のテーマ確認と研究方法の検討（エビデンス）	栗田喜勝
第８回	８．個別研究指導（研究の導入法）	栗田喜勝
第９回	９．個別研究指導（過去の研究検索法）	栗田喜勝
第１０回	１０．個別研究指導（研究目的の設定）	栗田喜勝
第１１回	１１．個別研究指導（研究方法の設定）	栗田喜勝
第１２回	１２．個別研究指導（分析方法）	栗田喜勝
第１３回	１３．個別研究指導（結果のまとめ方と考察方法）	栗田喜勝
第１４回	１４．個別研究指導（引用参考文献の扱い方）	栗田喜勝
第１５回	１５．課題レポート作成	栗田喜勝
第１６回	(秋学期) １．論文作成の計画発表	栗田喜勝
第１７回	２．グループ討議（計画の妥当性）	栗田喜勝
第１８回	３．論文作成の進行経過発表	栗田喜勝

第１９回	４．グループ討議（計画の信頼性）	栗田喜勝
第２０回	５．論文作成の中間発表	栗田喜勝
第２１回	６．グループ討議（オリジナリティ）	栗田喜勝
第２２回	７．論文作成上の課題整理	栗田喜勝
第２３回	８．グループ討議（エビデンス）	栗田喜勝
第２４回	９．論文のまとめ（問題の提起）	栗田喜勝
第２５回	１０．論文のまとめ（過去の研究成果）	栗田喜勝
第２６回	１１．論文のまとめ（テーマの妥当性）	栗田喜勝
第２７回	１２．論文のまとめ(妥当性と信頼性)	栗田喜勝
第２８回	１３．論文のまとめと総括	栗田喜勝
第２９回	１４．論文の評価（構成）	栗田喜勝
第３０回	１５．論文の評価（内容）	栗田喜勝
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	初回授業時に論文執筆資料等をファイルにより呈示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方	参・出版社名１	ナカニシヤ出版
参・著者名１	吉田健正	参・ＩＳＢＮ１	4-88848-868-1
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	川上　はる江		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-414		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】理科教育，道徳教育の分野において，各自で課題を設定し，情報収集，整理・分析，まとめという探究的な学修を進める。 【到達目標】 １）テーマを設定し，情報を収集したのち，資料分析・整理，まとめという一連の探究活動を進めることができる。 ２）自分のテーマに沿って，文章を構成する力を身に付けることができる。 ３）論文を基に，分かりやすいパワポ資料を作成し，効果的に発表することができる。
授業概要	理科教育や道徳教育について，先行文献を研究し，残されている課題や明らかにされていない課題を把握する。研究したいテーマを決めたのち，研究計画を立て，必要な調査研究に取りかかる。調査結果（収集した情報）を分析，整理し，テーマに沿った単元計画、指導案などを作成する。指導案を基に授業を実践し、検証したことを論文にまとめる。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	ルーブリック評価表による評価（50%）, 学外における調査活動（30%） 授業への参加態度（２0%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポート，論文については授業の中で常にフィードバックする。
履修条件・注意事項	必要な参考文献，書籍は熟読して，質問事項を整理しておくこと。 必要に応じて資料収集を進めること。
実務経験のある教員	該当する　内容：小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習2時間　各自のテーマに沿ってまとめておき，疑問点や課題を整理しておく。 復習2時間　指導されたことを基に修正する。
オフィスアワー	月5限　木3限　昼休み　（１０号館　個人研究室　10309）

授業計画		担当者
第１回	研究倫理に基づく研究活動の在り方	川上
第２回	論文の書き方	川上
第３回	先行研究論文の分析（テーマと仮設の設定）	川上
第４回	先行研究論文の分析（分析の視点）	川上
第５回	各自の研究テーマの検討	川上
第６回	研究計画作成	川上
第７回	研究テーマ中間発表会	川上
第８回	研究テーマ，研究計画の見直し	川上
第９回	個別研究，フィールドワーク，資料分析・整理	川上
第１０回	個別研究　情報分析・整理・教材開発	川上
第１１回	個別研究，情報ツールの活用，整理，まとめ	川上
第１２回	個別研究，単元計画，評価	川上
第１３回	個別研究　学習指導案作成	川上
第１４回	検証授業１	川上
第１５回	授業記録分析，考察	川上

第１６回	中間発表Ⅰ	川上
第１７回	発表を基に修正	川上
第１８回	検証授業２	川上
第１９回	検証授業２について考察	川上
第２０回	事後調査１	川上
第２１回	事後調査２	川上
第２２回	調査結果分析	川上
第２３回	結果分析を基に教材研究，教材開発	川上
第２４回	単元計画の見直し、指導案修正	川上
第２５回	検証授業，評価	川上
第２６回	中間発表２（授業実践も含めて）	川上
第２７回	中間発表を基に，修正	川上
第２８回	個別研究，論文作成	川上
第２９回	個別研究，論文作成	川上
第３０回	パワポ資料作成	川上
第３１回	パワポ資料検討	川上
第３２回	論文発表会	川上

教科書			
教・書籍名１	小学校学習指導要領解説　理科編	教・出版社名１	大日本図書
教・著者名１	文部科学省	教・ＩＳＢＮ１	978-4-477-01949-9
教・書籍名２	筑波発「わかった」をめざす理科授業	教・出版社名2	東洋館出版社
教・著者名2	筑波大学附属小学校　理科教育研究部	教・ＩＳＢＮ2	978-4-491-03175-0
参考書			
参・書籍名１	新しい学びを拓く理科　授業の理論と実践	参・出版社名１	ミネルヴァ書房
参・著者名１	角屋重樹　編集	参・ＩＳＢＮ１	978-4-623-046042-9
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	藤井　和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-414		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	【テーマ】教育にかかわる各種教育技術を身に付け、積極的に子どもや保護者と向き合い、専門家としての責任を自覚した行動がとれる。 【到達目標】生徒指導及び学校教育相談の分野から、各自が研究テーマを設定し、文献調査、アンケート調査、体験学習、実地見学、聞き取り調査等々の方法によりテーマに沿った追究を行う。それらをもとに、研究論文としてまとめることができる。
授業概要	学校現場における生徒指導、教育相談について深く知るためには、学校現場における体験や調査が必要である。演習Ⅰや演習Ⅱで体験したことをもとに、さらに先行研究の検討や文献調査を進めていく。各自の研究テーマに沿った研究を進めることができるよう、個別指導や中間発表を通して指導する。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） ※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（20%）　学外における体験活動への取り組み（20%）　ICTの活用（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題等の評価は授業の中でその都度フィードバックを行う。
履修条件・注意事項	授業時間内だけで卒業論文を作成することは不可能である。授業で学習したこと、体験したこと、指摘されたことなどをもとに、各自の時間を十分に活用して研究を進めることが必要である。
実務経験のある教員	該当する　内容：この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	授業で学習したこと、体験したこと、指摘されたことなどをもとに、各自の時間を十分に活用して研究を進める。そして、疑問点や課題をもって次の授業に臨むこと。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。
オフィスアワー	月曜日３限目 10号館10303　藤井(和)研究室

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	藤井
第２回	問題意識の明確化	藤井
第３回	各自の研究テーマの検討①（妥当性・独自性）	藤井
第４回	各自の研究テーマの検討②（総合的検討）	藤井
第５回	各自の研究テーマの決定	藤井
第６回	各自の研究方法の検討①（研究計画）	藤井
第７回	各自の研究方法の検討②（エビデンス）	藤井
第８回	個別研究指導①（先行研究）	藤井
第９回	個別研究指導②（研究主題）	藤井
第１０回	個別研究指導③（研究の目的）	藤井
第１１回	個別研究指導④（研究の方法）	藤井
第１２回	個別研究指導⑤（分析）	藤井
第１３回	個別研究指導⑥（研究の結果）	藤井

第１４回	個別研究指導⑥（研究の考察）	藤井
第１５回	個別研究指導⑦（文献）	藤井
第１６回	研究の中間発表（1班）及びグループ討議①	藤井
第１７回	研究の中間発表（2班）及びグループ討議②	藤井
第１８回	研究の中間発表（3班）及びグループ討議③	藤井
第１９回	個別研究指導①（研究の妥当性）	藤井
第２０回	個別研究指導②（研究の独自性）	藤井
第２１回	個別研究指導③（エビデンス）	藤井
第２２回	個別研究指導④（論文執筆）	藤井
第２３回	個別研究指導⑤（論文の添削）	藤井
第２４回	個別研究指導⑥（論文の修正）	藤井
第２５回	個別研究指導⑦（発表原稿の作成）	藤井
第２６回	個別研究指導⑧（発表資料の作成）	藤井
第２７回	個別研究指導⑨（発表練習）	藤井
第２８回	個別研究指導⑩（総合指導）	藤井
第２９回	研究発表会	藤井
第３０回	まとめと振り返り	藤井
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜指示する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	中野　明子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-414		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／３．すべての人に健康と福祉を／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	卒業論文を作成することをテーマとし、そのために学生が、関心のあるテーマを選択し、問題を提起し、それについての文献を収集し、読み解き、これからの課題を明らかにできることを到達目標とする。
授業概要	演習Ⅰ.Ⅱ．Ⅲ．Ⅳを通して、各自最も関心をもったテーマを掲げ、資料の収集し、精読する。章立てや研究方法を考え、研究計画書を作成する。中間発表を経て、完成時にはゼミにおいて卒論発表会を開催する。卒論テーマの報告書、研究計画書、中間発表及び卒論発表用レジュメなどの提出を求める。個別面接も随時行っていく。
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%）※「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） ・課題・論文（３０％） ・発表（10%） ・討議参加（10%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	授業時の教員によるコメントや卒業論文発表会にてフィードバックする。
履修条件・注意事項	担当教員との連絡を頻繁に行い、進捗状況を報告すること。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	インターネットだけに頼らず、文献をきちんと読むこと。研究計画に沿って、テーマ設定、章立て、草稿などそれぞれの課題を着実におこない、提出すること。課題に対して、教員のコメントをよく確認し、執筆を進めること。中間発表などの際には十分準備し、ディスカッションにも積極的に参加すること。毎回、予習・復習に90分以上あてること。
オフィスアワー	毎週火曜日２限をオフィスアワーとし、研究室にて行う。

授業計画		担当者
第１回	１．研究倫理に基づく責任ある研究活動	中野明子
第２回	２．卒業論文のテーマとキーワードについて	中野明子
第３回	３．各自の研究テーマについての発表	中野明子
第４回	４．同じテーマ（関心）をもつ学生同士の話し合い	中野明子
第５回	５．共通重要事項についての発表	中野明子

第６回	６．文献収集	中野明子
第７回	７．研究計画書の作成　(1)テーマ・課題	中野明子
第８回	８．研究計画書の作成　(2)章立て	中野明子
第９回	９．研究計画書の作成　（３）論文の概要	中野明子
第１０回	１０．研究計画書の作成　（４）参考文献	中野明子
第１１回	１１．個別指導（下書きの準備）	中野明子
第１２回	１２．個別指導（下書きの作成）	中野明子
第１３回	１３．中間報告会の準備	中野明子
第１４回	１４．中間報告会	中野明子
第１５回	１５．まとめ	中野明子
第１６回	１．秋学期授業についてのオリエンテーション	中野明子
第１７回	２．個別指導（１）下書きの添削	中野明子
第１８回	３．個別指導（２）下書きの添削	中野明子
第１９回	４．個別指導（３）下書きの添削	中野明子
第２０回	５．個別指導（４）下書きの添削	中野明子
第２１回	６．中間報告会のためのレジュメの作成	中野明子
第２２回	７．中間報告会	中野明子
第２３回	８．個別指導（５）下書きの添削	中野明子
第２４回	９．個別指導（６）下書きの添削	中野明子
第２５回	１０．個別指導（７）下書きの添削	中野明子
第２６回	１１．個別指導（８）下書きの添削	中野明子
第２７回	１２．個別指導（９）清書	中野明子
第２８回	１３．個別指導(10）清書	中野明子
第２９回	１４．卒業論文発表会の準備	中野明子
第３０回	１５．卒業論文発表会、まとめ	中野明子
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	適宜提示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	

教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１	『新版　論文の教室』	参・出版社名１	NHK出版
参・著者名１	戸田山　和久	参・ＩＳＢＮ１	978-4-14-091194-5
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	秀　真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-414		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに
到達目標	学生は、文献収集と読解を行うことで、自らの論理を構築することができる。そして、自らの研究課題を熟考し、論文を作成することができる。
授業概要	卒業論文を作り上げる上でのステップを理解し、計画的に進む。テーマ決定・アウトライン製作の重要性を理解する。その過程を経て、しっかりと計画に沿った卒業論文を進めていく。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	文献の収集と読解力、論文作成への取り組み状況や姿勢、完成した論文の構成、独自の視点からの考察力を総合的に評価する。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	卒業論文の内容に関しては、その都度フィードバックを行うので、必ず参考にすること。
履修条件・注意事項	計画的に自らの意思で取り組むこと。 毎時における指導箇所に関して、熟考（復習）の後に再度執筆に取り組むこと。 さらに、書き進めた内容やこれからの展開をよく考えて（予習）、さらに執筆に取り組むこと。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、自らの理解を高めた上で、疑問をまとめて授業を受けること。 復習として、受講後に内容を振り返り、内容に対する理解度を高めること。また、課題に対して積極的に取り組み、発表などを通してその成果を自らの力に変えること。 予習・復習においては２時間程度を要する。
オフィスアワー	毎週月曜日２限目をオフィスアワーとする。（１０号館３階研究室）

授業計画		担当者
第１回	卒業論文ガイダンス（研究倫理教育）	秀
第２回	テーマ決定1	秀
第３回	テーマ決定2	秀
第４回	テーマ決定3	秀
第５回	アウトライン作成1	秀
第６回	アウトライン作成2	秀
第７回	アウトライン作成3	秀
第８回	アウトライン作成4	秀
第９回	アウトライン作成5	秀
第１０回	資料収集1	秀
第１１回	資料収集2	秀
第１２回	グループ指導1	秀
第１３回	グループ指導2	秀
第１４回	グループ指導3	秀
第１５回	中間発表	秀
第１６回	後期ガイダンス（研究倫理教育）	秀
第１７回	個別指導1	秀

第１８回	個別指導2	秀
第１９回	秀	個別指導3
第２０回	個別指導4	秀
第２１回	個別指導5	秀
第２２回	個別指導6	秀
第２３回	個別指導6	秀
第２４回	個別指導7	秀
第２５回	個別指導8	秀
第２６回	個別指導9	秀
第２７回	個別指導10	秀
第２８回	個別指導11	秀
第２９回	個別指導12	秀
第３０回	卒業論文発表会	秀
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	特に指定しない	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	卒業論文			担当者	藤井　伊津子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-414		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	１．貧困をなくそう／２．飢餓をゼロに／３．すべての人に健康と福祉を／４．質の高い教育をみんなに／５．ジェンダー平等を実現しよう／７．エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／８．働きがいも経済成長も／１０．人や国の不平等をなくそう／１１．住み続けられるまちづくりを／１４．海の豊かさを守ろう／１５．陸の豊かさも守ろう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	保育について、受講生が各自の研究テーマを設定し、文献や資料調査、また、実態調査等を行い、卒業論文としてまとめることができる。 または、保育教材の研究のため、実際に作品を制作し、検証することができる。
授業概要	演習Ⅰ～Ⅳを通して取り組んでいる個別研究テーマについて、関連の文献や先行研究の調査を行う。 研究方法や保育教材についてさらに考察を深め、保育の専門性・実践力を深め身につける。
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク
評価方法と割合	４年間の集大成として卒業論文の提出をもって評価する。評価は卒業論文への取り組みの(20%)、提出(50%)、発表(30%)とする。
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	毎回の授業の中で口頭やディスカッションを通して、また提出物にコメントを添えるなどしてフィードバックする。
履修条件・注意事項	各自のテーマを大切にするとともに、ゼミでの学び合いを謙虚にそしてくじけず取り組みましょう。
実務経験のある教員	該当する　内容：保育士としての実務経験をもつ教員が、その経験を活かし指導する。
事前学習・事後学習とその時間	自分の研究テーマを常に意識して、先行研究や資料収集を行い、研究を深めていくことが必要である。 こつこつと自分のテーマにこだわって論文を書き上げていかなければならない。 そのためにも、毎回の授業において予習復習が各２時間以上は必要である。
オフィスアワー	10号館3階の個人研究室(10313)にて、毎週水曜日５限

授業計画		担当者
第１回	卒業論文の執筆にあたって 研究方法と実践・発表における倫理	藤井
第２回	研究テーマと先行研究の調査について	藤井
第３回	先行研究の調査と論文作成のポイント	藤井
第４回	先行研究の調査とレポート作成	藤井
第５回	論文の構想計画・発表に向けて	藤井
第６回	研究・調査、レポート作成、または作品制作	藤井
第７回	研究・調査、レポート作成、または作品制作	藤井
第８回	研究・調査、レポート作成、または作品制作	藤井
第９回	研究・調査、レポート作成、または作品制作	藤井

第１０回	研究・調査、レポート作成、または作品制作	藤井
第１１回	研究・調査、レポート作成、または作品制作	藤井
第１２回	研究・調査、レポート作成、または作品制作	藤井
第１３回	卒業論文中間発表会	藤井
第１４回	中間発表を終えて（今後の課題）	藤井
第１５回	今後の課題	藤井
第１６回	卒業論文中間発表会	藤井
第１７回	論文の再構成	藤井
第１８回	論文の検討とディスカッション	藤井
第１９回	論文の検討とディスカッション	藤井
第２０回	論文の検討とディスカッション	藤井
第２１回	中間発表	藤井
第２２回	論文の検討とディスカッション	藤井
第２３回	論文の検討とディスカッション	藤井
第２４回	論文の検討とディスカッション	藤井
第２５回	論文の検討とディスカッション	藤井
第２６回	論文の検討とディスカッション	藤井
第２７回	論文のまとめ	藤井
第２８回	卒業論文成果発表会に向けて	藤井
第２９回	卒業論文成果発表会	藤井
第３０回	今後の課題	藤井
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指導する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	大学生のためのレポート・論文術	参・出版社名１	講談社
参・著者名１	小笠原喜康	参・ＩＳＢＮ１	4-06-149603-4
参・書籍名２	乳幼児のための脳科学	参・出版社名2	かもがわ出版
参・著者名2	小泉英明 他	参・ＩＳＢＮ2	978-4-7803-0407-7

授業科目名	卒業論文			担当者	雲津　英子		
配当学科・研究科	2019～ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども4年			ナンバリング	PS-CE-4-414		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	60	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	集中講義		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに／１０．人や国の不平等をなくそう／１６．平和と公正をすべての人に
到達目標	教育（国語教育を含む）に関する分野から、各自で研究テーマを選定し、研究テーマに基づく資料収集・研究発表・討議を行うことにより、卒業論文としてまとめることができる。
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて設定した個別研究テーマについて、先行研究のレヴューとその検証、研究方法と論文構成等について指導する。
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション
評価方法と割合	■「ルーブリック評価表」による評価（50%） 「ルーブリック評価表」は、下記のリンク先に示すとおりである。 ■担当教員による評価（50%） 授業への参加態度（30%） ICTの活用（20%）
ルーブリック評価	/uprx/kodomo.pdf
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題（提出物・レポート）は、授業でフィードバックするので見直しをしておくこと。
履修条件・注意事項	先行研究に関する文献資料の収集に努力すること。 授業後は、資料確認・整理を行うこと。
実務経験のある教員	該当する　／　内容：この科目は、大学図書館職員および高等学校における進路指導助手（小論文指導）としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、図書館の利用方法など、論文・レポート作成に役立つ授業を実施する。
事前学習・事後学習とその時間	予習として事前に関連文献に目を通して講義に参加し、復習として講義後のまとめをしっかり行うこと。予習および復習は、各2時間程度行うこと。
オフィスアワー	春学期は、10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週火曜日3限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。 秋学期は、10号館3階の個人研究室（10306）において、毎週水曜日5限、金曜2限をオフィスアワーの時間とする。

授業計画		担当者
第１回	論文執筆のオリエンテーション（基本的事項）／研究倫理教育	雲津 英子
第２回	論文執筆のオリエンテーション（専門的事項）	雲津 英子
第３回	各自のテーマ確認（妥当性の検討）	雲津 英子
第４回	各自のテーマ確認（信頼性の検討）	雲津 英子
第５回	各自のテーマ確認（総合的検討）	雲津 英子
第６回	各自のテーマ確認と研究方法の検討（オリジナリティ）	雲津 英子
第７回	各自のテーマ確認と研究方法の検討（エビデンス）	雲津 英子
第８回	個別研究指導（研究の導入法）	雲津 英子
第９回	個別研究指導（過去の研究検索法）	雲津 英子
第１０回	個別研究指導（研究目的の設定）	雲津 英子
第１１回	個別研究指導（研究方法の設定）	雲津 英子
第１２回	個別研究指導（分析方法）	雲津 英子
第１３回	個別研究指導（結果のまとめ方）	雲津 英子

第１４回	個別研究指導（考察方法）	雲津 英子
第１５回	個別研究指導（引用参考文献の扱い方）	雲津 英子
第１６回	論文作成の計画発表	雲津 英子
第１７回	グループ討議（計画の妥当性）	雲津 英子
第１８回	論文作成の進行経過発表	雲津 英子
第１９回	グループ討議（計画の信頼性）	雲津 英子
第２０回	論文作成の中間発表	雲津 英子
第２１回	グループ討議（オリジナリティ）	雲津 英子
第２２回	論文作成上の課題整理	雲津 英子
第２３回	グループ討議（エビデンス）	雲津 英子
第２４回	論文のまとめ（問題の提起）	雲津 英子
第２５回	論文のまとめ（過去の研究成果）	雲津 英子
第２６回	論文のまとめ（テーマの妥当性）	雲津 英子
第２７回	論文のまとめ（研究方法の妥当性と信頼性）	雲津 英子
第２８回	論文のまとめと総括	雲津 英子
第２９回	論文の評価（構成）	雲津 英子
第３０回	論文の評価（内容）	雲津 英子
第３１回		
第３２回		

教科書			
教・書籍名１	適宜指示する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	

参考書			
参・書籍名１	個別テーマに関連する文献資料を適宜紹介する。	参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	心理的アセスメント			担当者	藤原　直子		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理2年／ 2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども2年			ナンバリング	PS-PS-2-210		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期	曜日・時限	月曜4限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	○
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動	△	ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感	△	ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	３．すべての人に健康と福祉を
到達目標	【公認心理師必須科目】 授業のテーマは、クライエントの見立てや適切な援助方法の選択・援助過程の評価等に用いる「心理的アセスメント」の基礎知識と方法を学ぶことである。 アセスメントのための面接、行動観察、種々の心理検査について、知識だけでなく、実際の体験を通して理解することを到達目標とする。
授業概要	アセスメントとして用いる面接・心理検査について、それぞれの基盤となる理論や技法、その応用方法を学ぶ。 講義だけでなく、グループ演習や、実際の心理検査を自身が体験する演習も行いながら、各検査の概要や実施方法を理解していく。
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）
評価方法と割合	授業への取り組みを重視し、授業内の演習や課題、小テストおよび最終試験を総合的に評価する。 成績評価は、おおむね、授業内の演習・課題20%、小テスト20%、最終試験60%とする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	授業内の課題や小テストについて、授業内でフィードバックを行う。
履修条件・注意事項	グループやペアで行う演習が入るため、積極的に人とかかわりをもつこと。 演習において知り得た個人情報や聴取した内容は、記録に残さず口外しないことを履修条件とする。 以上が厳守できない学生には、退室や履修中止を宣告する場合がある。
実務経験のある教員	該当する ／ 内容：この科目は、臨床心理士・公認心理師として各種心理検査の実務経験（小中高等学校・心理相談室・公的機関での知能検査・心理検査・発達検査等の実務）がある教員が担当する。 実際の心理臨床実践における心理アセスメント必要な知識や検査方法を、演習を通して教授する。
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを読み予習する。 ③授業内に実施する小テストの結果をふまえ、未習得部分を復習する。 ②授業内で配布するプリントや追加資料を用いて復習を行う。 以上のような予習復習に、毎回2時間以上を要する。
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日5限目をオフィスアワーとする。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション、心理検査とは	藤原直子
第２回	臨床心理アセスメントの基本	藤原直子
第３回	アセスメントとしての心理面接	藤原直子
第４回	アセスメント面接の種類と方法	藤原直子
第５回	心理検査の歴史と概要	藤原直子
第６回	知能検査	藤原直子
第７回	乳幼児の発達に関する検査	藤原直子
第８回	高齢者の認知機能に関する検査	藤原直子
第９回	アセスメントとしての行動観察	藤原直子
第１０回	人格検査（質問紙法）	藤原直子

第１１回	症状や状態のアセスメント		藤原直子
第１２回	投影法とは、描画法		藤原直子
第１３回	代表的な投影法検査		藤原直子
第１４回	心理的アセスメントの実際		藤原直子
第１５回	事例から理解する心理検査		藤原直子
第１６回	試験		藤原直子
教科書			
教・書籍名１	臨床心理アセスメントの基礎[第2版]	教・出版社名１	ナカニシヤ出版
教・著者名１	沼　初枝	教・ＩＳＢＮ１	978-4779514920
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	

授業科目名	社会・集団・家族心理学Ⅰ			担当者	三宅　俊治		
配当学科・研究科	2019～ 2022年度 吉備国際大学 心理学部 心理1年／2020年度 吉備国際大学 心理学部 子ども1年			ナンバリング	PS-PS-1-305		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期	曜日・時限	月曜2限		

ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能	◎	ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３.主体的な学びと論理的な思考	○	ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	

ＳＤＧｓ関連項目	４．質の高い教育をみんなに
到達目標	人と人の関係に基づく意識・行動について、社会的・文化的枠組みから理解することをテーマとする。社会心理学の理論や術語について理解できる。「中学校・社会・教員免許」、「高等学校・公民・教員免許」の取得の基礎となる社会心理学的所見を理解することができる。授業で扱う社会・集団に関する知識の理解度が、授業内容の６割以上に達することが、到達目標である。
授業概要	人間の生活は、一人では成り立たない。家庭、学校、職場、地域社会などの場面で、他者に影響を与える一方、他者からの影響も受けている。他者との現実の関わりのほか、記憶や想像なども含めて、心理的実在を通して、我々の意識や行動が変化することはよく知られている。社会的動機、社会的認知、社会的態度、集団、コミュニケーション等を通して人と人の相互関係を理解する。
アクティブラーニングの内容	
評価方法と割合	定期試験（60%）、課題及びレポート（40%）により総合評価する。予習・復習の証拠として、使用テキストもしくは教材の指定箇所についてのレポートを毎回、授業の開始前に提出してもらう。提出物については、翌週もしくは翌々週までに返却・フィード・バックする。
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	課題や小テストについては、次回の授業時に行う。
履修条件・注意事項	授業への出席は、教材理解の前提である。私語厳禁。スマホ・携帯電話などの電源は切っておくこと。講義中の飲食はもちろんのこと、机の上の飲食物が目についた場合は、予習・復習点はあたえず、さらに減点する。
実務経験のある教員	該当しない　内容
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習（各々約2時間程度、計約4時間程度）については、テキストあるいは配布資料などから毎回、ポイントを適宜指示する。自己学習の証左をレポートとして、授業開始前に提出すること（提出されたレポートについてはチェックして返却する）。
オフィスアワー	毎週火曜日の3限目（13:30-15:00）。場所：個人研究室（10号館2階10209）。

授業計画		担当者
第１回	オリエンテーション	三宅俊治
第２回	社会心理学とは何か	三宅俊治
第３回	現代社会心理学の対象と流れ	三宅俊治
第４回	社会的動機	三宅俊治
第５回	社会的環境の認知	三宅俊治
第６回	自己と対人行動	三宅俊治
第７回	対人関係の認知	三宅俊治
第８回	対人魅力	三宅俊治
第９回	社会的態度	三宅俊治
第１０回	集団	三宅俊治
第１１回	同調	三宅俊治
第１２回	リーダーシップ	三宅俊治
第１３回	コミュニケーション	三宅俊治
第１４回	非言語的コミュニケーション	三宅俊治
第１５回	組織論	三宅俊治
第１６回	定期試験	三宅俊治

教科書			
教・書籍名１	蘇りの心理学通論	教・出版社名１	中央公論事業出版
教・著者名１	三宅俊治（著）	教・ＩＳＢＮ１	ISBN978-4-89514-507-7
教・書籍名２		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ＩＳＢＮ2	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ＩＳＢＮ2	